

国立国語研究所学術情報リポジトリ

類義語の研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001239

国立国語研究所報告 28

類義語の研究

松 尾 拾

西 尾 寅 彌

田 中 章 夫

国 立 国 語 研 究 所

1965

国立国語研究所報告 28

類義語の研究

松 尾 拾

西 尾 寅 彌

田 中 章 夫

国 立 国 語 研 究 所

1 9 6 5

刊行のことば

同じ意味を表わすのにいくつか違った語のある場合がある。しかし、それらは厳密に言えば、使用場面の違いやニュアンスの違いなどがあって、全く同じ意味の語ではないかもしれない。また、意味がかなり近似しているが、少しずれているという場合もある。このようなものを普通、類義語と呼んでいる。

現在の社会では、老年層と若年層とで使用語の違っている場合がある。「活動(写真)」は老年には見られるが、一般には「映画」である。このように、個人個人ではなく社会全体をとらえて見ると、類義関係の成り立つ語が少なくない。ことに新しくはいつて来る外来語は、このような類義語を、ますますふやすはたらきをしているのではないと思われる。

このような類義語について一往の見渡しをつけようとしたのが本書である。語の意味の研究に役立つところが少なくないと思うが、さらに一般の社会生活上の問題点を明らかにするものとして、大方の御批判を賜わりたいと思う。

この調査研究は、昭和36年度から昭和38年度にわたって第四研究部第一資料研究室で行なったものである。なお、この調査研究に御協力いただいた次の方々に、心からお礼を申しあげる。

佐藤幹二氏・森岡健二氏・田中新一氏・仁平英夫氏・曾根修氏・磯貝市右衛門氏・梅田三七氏・北越製紙株式会社社長岡工場・株式会社津上製作所長岡工場

昭和39年12月

国立国語研究所長 岩淵悦太郎

目 次

刊行のことば

I 調査研究のあらまし

1. 目 的	1
2. 調査の方針	1
3. 資 料	2
4. 調査の方法・経過	3
5. 調査の担当	14

II 基礎的問題の概観調査

1. 類義語の種々相	16
1. 1. 前提的な二・三の問題	16
1. 2. 意味の方面	18
1. 3. 語感の方面	22
1. 4. 語の形態の方面	26
1. 5. 語の文法機能・品詞性に関する方面	27
1. 6. 語の存在様式に関する方面	28
1. 7. おわりに	31
2. 意味・用法の使い分けからみた類義語の様相	32
2. 1. 調査の目的	32
2. 2. 意味の違いについての意識——アンケート調査による	32
2. 3. 使い分けの実態調査——実験テストによる	51
2. 4. 調査のまとめ	68
3. 語感等からみた類義語の様相	84
3. 1. 語感的な差異についての調査	84
3. 2. 言語使用者の好み・選択についての調査	99
3. 3. 類義語の使用意識の調査と語感	128

Ⅲ 類義語の問題点

1. 問題の所在とその要因——事例研究	151
1. 1. きらわれることばとその言い換え	151
1. 2. 語の類義的対応と言い換えの問題	171
1. 3. 類義語の使い分けと整理	176
2. 外来語をめぐる類義語の問題点	182
2. 1. 意味のあいまいさがもたらす類義関係の様相	182
2. 2. 語のはいりかたに基づく類義関係の多様性	189
2. 3. 類義的な外来語のふえる理由	195
3. 同音類義語をめぐる問題	204
3. 1. 同音類義語の問題	204
3. 2. 同音類義語とは	205
3. 3. 使い分けの種々相	206
3. 4. 使い分けの実態	209
3. 5. 同語意識と別語意識	219
付 「おもな同音類義語の語彙表」	221

Ⅳ む す び

Ⅴ 実験テスト集計表他

テスト 1 類義語の使い分け等についての調査	282
テスト 2 長岡市会社調査	306
テスト 3 語感と語の好みについての調査	313
テスト 4 語の選択とその要因の調査	318
テスト 5 語の使用意識についての調査	323
テスト 6 外来語をめぐる類義語についての調査	327
テスト 7 同音類義語の調査	329
週刊誌からの採集用例	334

I 調査研究のあらまし

1. 目 的

われわれは、日常の生活で、同じ意味を表わすいくつかの語を、場面に応じていろいろに使い分けることが多い。たとえば、目上や未知の人には「お食事でございます」というが、親しい間柄ならば、「ごはんですよ」となり、ことに男性どうしならば「おい、めしだ」でも事足りる。また、「かんらん(甘藍)、たまな(球菜)、キャベツ」のように、場面の違いではなく、学術上の名称と一般的に用いられる名称とが区別されている場合もある。このような語は類義語と認められる。類義語は、ものごとを詳しく、細かに区別して表現するのに役だから、国語の表現力を豊かにするという点では、類義語が多いことは好ましいことであろう。しかし、この場合、多くの類義語があるということには、それだけの理由があるはずである。どういう場合に、ものごとをより詳しく細かに区別して説明する必要があるが生じるか、これを考えてみるのが類義語研究の出発点であろう。もし、そういう区別が社会的にはきわめて狭い領域だけで必要とされる専門的なものであるのに、その語を不用意に社会一般の通用語にもちこんだり、あるいは、社会生活を営む上からは、必ずしも必要でないような微細な区別にこだわったりするならば、類義語の多さが、国語の表現力を豊かにすることに役だたず、かえって、理解を妨げる原因となり、われわれの社会生活をなめらかにすすめるための障害ともなりかねない。このことは、もし、将来国語の語彙をより能率的にするために、ある程度の整理を加える必要があるとしたならば、同音語の問題などとあいまって、当然あらかじめその方法を考えておかねばならない問題であろう。したがって、われわれの類義語研究は、類義語が存在する必然性を考察する反面に、どういう条件の場合に類義語を整理する可能性があるかを考えてゆこうとする。

2. 調査の方針

この研究を始めるにあたって、類義語とはどういうものかということ、あらかじめ考えておかずに出発するわけにはゆかない。しかし、類義語の研究が実証的な研究にまで進んでいないで、解説的な定義とでもいうべき域を出ない

現状では、われわれも、しばらく、類義語というものの範囲をわれわれなりにくぎり、これを作業仮説として発足せざるを得ない。また、研究の態度として演繹的に意味の体系を考え、それに基づいて相近い意味をもつ語を類義語としてとらえるという方向をとらず、われわれが類義語と判定したそれぞれの語につき、実際の用例・用法に即してその類義性を追究することに努めた。この作業仮説および実際の用例・用法に即した具体的な研究態度の概略については、「Ⅱ.1.1.前提的な二・三の問題」に述べてある。この態度をとる以上、理想的にはできるだけ多くの事例から帰納すべきである。しかし、研究の対象は、とらえどころもなく広般であり、その上、用例を網率的に収集することもほとんど不可能なことである。いきおい、われわれの集め得た資料の範囲で、類義語の問題を考えるに相当と思われる語を選択し、これについて考察する方法を採ることになった。

3. 資 料

この研究に客観的な資料を提供し得るものとしては、次のものがある。

- (1) 総合雑誌の用語（国研報告12・13）
- (2) 婦人雑誌の用語（国研報告4）
- (3) 同音語資料カード（国研報告20「同音語の研究」のための資料）
- (4) 新聞放送関係の用語集・言いかえ集

このうち、(1)(2)は全般的にどういう類義語があるか、それぞれの語の使用度の大小を検索するに役だち、(3)は特に、同音類義語のための根本資料となるものである。(4)は現在マスコミにおける用語の問題に類義語が関与する範囲で、参考にすべきものである。このような既存の資料を活用する一方、われわれは各種週刊誌の用語を資料とした。これは、週刊誌が、新しい社会事象の発生・社会各層の好みなどを、敏感に反映していると思われ、したがって各種辞書類に登録されていない語、あるいは新奇な表現が現われる可能性が多いと予想されるからである。週刊誌は、もちろん全般的に類義語を求めるための資料であるが、特に、そこに現われる外来語については、やや組織的に集めてみた。これは、外来語をめぐる類義語の問題が重要な課題であると思われるので、新しい外来語の資料を作る必要を認めたからである。週刊誌の採り方は次のように

した。

昭和36年6月より38年3月までの間、各種週刊誌を毎月1冊ずつ採った。週刊誌の種類により、現われる語彙にかたよりの出てくることを考慮し、(1)新聞社から出版されているもの、(2)雑誌社からのもの、(3)女性もの、(4)スポーツ・娯楽もの等に分けて、以下の13種を選んだ。

- (1) 朝日ジャーナル・週刊朝日・週刊読売・週刊サンケイ・サンデー毎日
- (2) 週刊文春・週刊新潮・週刊現代
- (3) 週刊女性
- (4) 週刊実話・アサヒ芸能・週刊明星・読売スポーツ

このほか「女性自身」「週刊公論」「週刊平凡」「週刊ベースボール」の4誌を若干採ってみたが、内容的に上記13種と重複するので、参考程度にとどめた。外来語については、その異なり語をすべてカード化した。

その他の資料については、それを使用した項目のところで述べる。

4. 調査の方法・経過

類義語は、同音語のような外見上のめじるしをもたないから、いろいろな面に気を配って観察しなければならない。まず、類義ということばの示すとおり、意味の方面が中心の課題にすえられるが、意味といっても、その語の内容を形づくる中核となる概念のほかに、ことばはすべてその語の周辺にただよう気分的なものを必ず伴っている。通常語感とよばれるものであるが、これがコミュニケーションで果たす役割は、中核的な概念に劣らず大きい、というよりもこの両者はわかちがたく結びついているものなのである。類義語の考察が、意味・語感の様相を明らかにすることに向けられるのは、当然のなりゆきであろう。したがって、この報告書は、そういう点を主眼として記述しているが、広く類義語の研究という名のもとに、このほかにどういう問題があるかをひとわたり見わたしておくことも、研究を始めるにあたって必要なことであろう。意味・語感が類義語そのものの問題だとするならば、これに対して、ことばの使い方の面で類義語が関与する問題が考えられる。それは、コミュニケーションで、どうしても類義語が必要になってくる場合のことである。同音語を避けるためとか、長たらしい表現をきらうとか、一方の語がサ変動詞形をも

たないとか、あるいは複合語を作りにくいとかの種々の原因がそこに認められる場合であるが、総じていえば、語の形態の方面、語の文法機能・品詞性に関する方面、語の存在様式に関する方面の三つにくられるであろう。類義語に関する種々相として、われわれは以上述べたようなことを考えた。次に、この種々相について考察すべきことがらとして、どんなものがあるかを調べてみよう。第一に、意味の方面に関しては、意味の重なり方が当然考察の対象になる。類義語は、意味の重なり方のさまざまな違いによってうみ出されるものといえる。そこで、意味の重なり方にはどのような種類があり、そのうちのどれが基本的なものであるかを考えてみた。また、意味の範囲が包摂関係にある類義語を用いて意志を伝えようとする場合、誤りなく伝えようとするならば、包摂される語を選ぶか、あるいは、包摂する語の意味の範囲を包摂される語の意味の範囲に限定して使用するであろう。この場合、包摂する語の限定されない部分の意味が、これに作用すると、誤解をうむことになる。このことは、語の言いかえに関連する問題である。今日、難語あるいは当用漢字外の漢字を含む語の言いかえ・書きかえには、一般にその語と類義関係にある語をあてる方法をとっているので、その面からも、意味の重なり方は、十分な関心をはらうべき問題となる。また、比喩的な転義をもつ語ともたない語が類義語になる場合、それを不用意に言いかえに使用すると、両者の原義は近くても、転義の部分を一方向の語がおおえないから、言いかえ語としては不適當になることもある。「Ⅱ 1. 2. 意味の方面」は、このような問題につき、いわば、原理的に概観した。

次に、語感の方面には、どのようなことが考えられるか。われわれは、語の意味の知的な側面を意味とよび、情意的側面を語感とよぶことにする。語感といわれるものの内容は、きわめて広く、そこには主観的要因が著しくはたらくので、研究の対象として、これを全般的に観察することは、ほとんど不可能であると思われる。しかし、その中にもおのずから、その語感が、個人の主観に著しく左右されるものと、微細な点では違いはあるにしても、社会的通念として、ある程度固定した語感が認められるものがある。後者を認定するためには個々の語のもつ個性的な語感を明らかにしなければならない。語感の方面から、類義語を考えようとする場合には、おおよそ以上のような事柄を考えてお

かなければならないであろう。しかし、個人的・主観的語感は、語の意味を原理的に考察するためには、立ちいつて検討すべき課題であろうが、この調査の目的に照らせば、社会的通念としてある程度固定した語感をもつ語に限定すべきである。そのような語が類義語となると、ある範囲の語にわたって共通的な語感が認められることになる。それには、どのようなものが考えられるか。

「Ⅱ.1.3. 語感の方面」は、この概観にあてた。われわれは、これに、1. 古い感じ、2. 新しい感じ、3. 改まった感じ、4. 優雅な感じ、5. 悪いことばという感じ、6. いやしめる感じ、7. 呼ばれた本人たちがきらう語感、8. 忌まれる語感の8種を考えた。これは、語感として考えられるもののうち、だれでも指摘し得るような著しいものをあげて類型としたのである。この8種のうち、優雅な感じ、悪いことばという感じ、いやしめる感じ、忌まれる感じの4種は、自明のこととしてだれにも受け取れるのであるが、古い感じ、新しい感じ、改まった感じ、呼ばれた本人たちがきらう感じに属する語については、あるいは、人によって感じ方が違うかもしれないので、アンケート・テストによって、著しい語例につき調査し、また事例を求めてこれを確かめた。古い感じ以下4種の記述の終りに、該当するアンケート・テストの結果を参照事項として示しておいた。

このような語感が、類義語の併存を必要とする可能性、あるいは新しく類義語をうみ出す可能性をつくると考えられる。また「Ⅱ.1.4. 語の形態の方面」「Ⅱ.1.5. 語の文法機能・品詞性に関する方面」にも、いくつかの可能性をもつ場合がある。それは、コミュニケーションで、類義語がどうしても使われることになる場面での問題で、同音語を避けるためとか長たらしい表記をきらうためとか、種々の場合が考えられることは先に述べたとおりであるが、そのほかにも、話しことばとしては使われるが、書きことばとしては使われないためとか、文体の違いや使用される分野が違うためとか、使用者の性・年齢の違いとか、あるいは「女：女性・婦人」のように、共に普通使われる語ではあるが、その使用度がかなり違うというようなことも、類義語の併存を許す可能性をもつと考えられる。これらを「Ⅱ.1.6. 語の存在様式に関する方面」という名目で一括して概観してみた。

類義語は、このような種々の観点から考察されるが、その中心をなすのは、やはり意味と語感に関する面であろう。

類義語が存在するということは、そこに使い分けをしたいという何らかの要求があるからである。なぜ使い分けをするか、類義関係にある二つの語の間にその意味や語感に何らかの違いがあると意識し、その意識に従って、自分の考えを的確に表現するためには、Aの語ではなく、Bの語でなければならないと判断するからである。ところが、ここに、類義語におけるめんどろな問題がある。しかも、それは、本質的な問題のようである。というのは、類義語に違いがあるという意識は、かならずしも社会共通の意識とはならない。なるほど、ひとりひとりにとっては、類義語の違いは明白な違いとして意識されている。しかしまた、他の人にとっては、その違いは、違いとして意識されず、かえって、別の点に違いを意識することがある。こうして、社会全体としてみれば、類義語の意味・語感の異同の意識は、少しずつずれていることが考えられる。このようなずれが、類義語にはつきまとう。それでは、そういうずれは、どういう部面に起こるか、また、社会共通の違いの意識は、どの部面にあるか、こういう問題の究明をおろそかにしておくと、類義語を整理しようという場合に、むりなことをしている結果をうむことにもなりかねない。こういう考えから、まず意味・用法の使い分けの実態を調査した。

このような調査は、一般になじみ深い語であること、また、だれでも、その意味・用法の違いを指摘することができる語でなければ、その効果を期待することはできない。この条件に合うと思われる54組の類義語を選び、アンケートによって、その意味・用法の違いを記入してもらった(Ⅱ.2.2. 意味の違いについての意識参照)。この結果を検討すると、人それぞれの観点が少しずつ違うので、微細な点では、個人差がかなりあるようである。そこで、アンケートの解答の差異が、どの程度、多くの人々に支持されるかを調べるために、実験テストを行なった(Ⅱ.2.3. 使い分けの実態調査参照)。テストは、アンケートの結果に基づき、一対の類義語を種々の観点からみて、その観点ごとに、使い分けの意識があるかないかを調べたのであるが、全般的にいえば、テストの結果は、アンケートの解答と主要な点では一致している。しかし、どの観点でも、被調査

者の大半が一致した反応を示したものは、意外に少ない。使い分けの有無は、人によってかなりゆれていることがわかった。個々の観点に即していえばこういうことになるが、テスト全体については、その答えに一往の傾向がみられる。したがって、これを、社会共通の使い分けの意識と考えることができるであろうが、それにしても、使い分けの意識のずれが、どの観点についても、1，2割程度あるということは、類義語の本質的な問題といえよう。

以上は、大学生を対象としたテストである。このような使い分けの意識は、性や年齢や学歴とどういう関係があるものであろうか、この点も調べてみた。たまたま、昭和37年新潟県長岡市で、当研究所が、「国民各層の言語生活の実態調査」を行なうことになったので、これに参加した。この調査は、社会人を主たる対象としたので、社会人の類義語の違いに関する意識を、面接調査により、また会社（北越製紙・津上製作所）におけるアンケート調査によって知ることができた。調査規模・調査人員の制約があるので、多くの課題を課することはできなかったが、それでも一往の目的は果たしたと思っている（Ⅱ.2.4.1.長岡市面接調査について参照）。

また一般に使われている類義語を特に定義して、ある専門分野・ある職業分野では使い分けしていることがある。この場合、その定義が一般に知れ渡っていないならば、十分コミュニケーションができないことにもなる。こういう種類のものを組織的に調査することは必要だと思うが、現段階ではそこまで手をのばすことができない。ただ、社会一般の人々の使い分けの意識が、専門（職業）分野における定義や使い分けと一致しているかないかを知るための試みとして、二・三の語につき、大学生に調査した（類義語の特別な使い分けと一般の意識参照）。

一方、語感の面では、次のような種々の調査を試みた。

語感的な差異についての調査（Ⅲ.3.1.）

語感では意味の使い分けよりも一層個人的な差異が大きいと思われるが、それにしても多くの人々に共通する部分がないはずはない。それが社会全般に共通であるとはいえないかもしれないが、教養・年齢などが似かよった集団に属する人々の間には、共通した語感があるのではないか。これを知るために、大学生とコピーライター講習会の受講生を対象にした調査を行なった。時間の制

約があるため、4組の語につき語感の差異が出そうな点を予想して、質問したにとどまるが、結果は、ほとんどすべての質問で一致した傾向を示し、傾向がつかめなかった質問は一つしかなかった。

この調査では、質問がかなり抽象的な形で出されているので、被験者がこれに対して、どういう具体例を頭にえがきつつ自己の判断を下したかを知るために、一部の質問には、質問から連想される事物や状態を具体的に書いてもらったが、その結果にも、かなり著しい共通性が認められた。このように、語感の差異というものも、微細な点にまで立ち至らないならば、共通する面が大きいことを、この調査は示しているといえるだろう（Ⅱ.3.1.参照）。

言語使用者の好み・選択について調査（Ⅲ.3.2.）

好きなことば・きらいなことばがあつて、自分が使おうとするときは、この好ききらいの気持がはたらいて、ことばえらびをする。こういうことは、われわれが日常経験することである。こういう好みや選択意識は、もとより主観的なもので、ことばに特殊の関心をもつ職業の人とそれほどの注意を必要としない職業の人とでは、かなり違ったものがあるであろう。もちろん教養の違いも大きくひびいてくるであろう。しかし、それは全く個人の主観によってまちまちになるものではなく、ある世代、ある職業、または教養がある程度似ているグループでは、共通したものがあるのであらうと思われる。この点をテストしてみた。調査は好みの調査、選択とその要因の調査に分けられる。デパートの売り場の掲示文、駅のアナウンス等で、実際に見聞する表現を素材として質問を作った。また、漢語・和語・外来語という違いが、ことばの好みや選択に関係が深いだろうと予想されるので、質問を作るにあたっては、その面にも注意をはらった。調査対象は、前述した調査と全く同じである。対象が青年層なので、その好みの傾向がはっきりと一方にかたよった結果を示した。しかし、「お買物：ショッピング」「おとうさん・おかあさん：パパ・ママ」については、大学生と若い社会人（コピーライター講習会受講生）の間に、有意差があることは興味深い。なお、和語・漢語・外来語に対する好みの傾向がうかがえる二・三の例があるが、この問題は具体的な質問の語に大きく左右されるので、たしかなことはいえない。なお、好み・選択には年代差が大きくはたらくと思

われるので、長岡の会社調査にも「エチケット：礼儀作法」のセットを課して、社会人の動向を察するいとぐちとした(Ⅱ.3.2.参照)。

以上のような好みの調査では、好む理由、好まない理由まではたずねていない。そこで、被験者にある実生活上の立場に立ち、公衆を相手にしてことばを使う場面を想定させ、その場面に一對の語のいずれを選ぶか、また選ぶ理由は何かを問うた(Ⅱ.3.2.3.選択とその要因の調査)。このような調査のしかたには、被験者を自然な心理状態におけない点で、多少のむりがある。しかし、日常のことばをそのまま公的な場面に使うべきではない、公的場面にはつとめて改まったことばづかいをすべきだという意識が一般的にあり、この意識が類義語をうむ原因になっているように思われるので、被験者に注文をつけたのである。質問は公的場面のことばを選んだが、すべて実際に見聞したもののばかりである。5問の設問のうち3問は「好みの調査」とほとんど同じ表現のものにした。テスト時間の制約で選択の理由を限定して、選択肢として課したが、自分のあげる理由が、それにあてはまらない場合は、自由に記入させる配慮もしておいた。対象は大学生であるが、前述の調査とは違った大学で実施した。調査の結果、予想したように公的場面では改まった言い方の方が選ばれること、また若い人々には在来の和語、漢語よりは外来語の方が魅力あるものとして好まれることがわかった。もちろんこの調査は、わずかな語についてしか調べられないし、調査対象が大学生に限られるから、この結果から一般的な結論を引き出すことはできないが、社会一般の傾向を調べるに適した方法が考えられるならば、このような選択意識を調べることは、重要な試みであると考えられる。この小調査はそのためのさぐりとして試みたものである。

類義語の使用意識の調査と語感(Ⅲ.3.3.)

同義的な語がいくつもある場合、日常普通の生活ではその中のどれかを使って、決してそのすべてを使ってはいない。これもわれわれの経験するところである。こういうかたよりは個人にもあるだろうし、またある層の人々にもあるだろう。この類義語の使用意識は、またその語にまつわる語感と切りはなせないことはいうまでもない。そして、この問題には恐らく年齢差が大きく影響しているであろうから、老人と青年とについて調査してみれば、かなりはっきり

した結果が出るのではないかと予想される。このように考えて調査対象に浴風園（東京高井戸）在籍の老人と、大学生をあてた。ただしこの調査は使用意識の調査にとどまり、その使用者の使用意識と使用の実態との関係を調査するところまでは至らなかった。調査の主眼を次の a, b において、問題を作った。

a 老人が使っていることばは古い感じのことば、青年が使っていることばは新しい感じのことばという傾向が認められるか。（問題の A 類）

b 青年は外来語をそれと類義関係にある和語・漢語より親しみのあるものとして感じているか、老人の場合にはどうか。（問題の B 類）

c 日常的なやさしい語とそれと類義関係にある堅い感じの語がある場合、青年・老人はそれぞれどちらを採る傾向があるか。（問題の C 類）

c は、a, b の出題意図を被験者の目からそらすために加えたものである。調査の結果は、a については、老人が予想以上に新しいことばの方に反応を示している。これは、被験者が閉鎖された家庭内の老人ではなく、集団生活をしている老人であることと関係しているかもしれないから、この結果で老人一般の傾向を推測することはできないであろう。b については、予想どおり老人は青年ほどは外来語に反応を示さない。しかしその反面、外来語に敏感な青年でも、在来の「台所」「買物」をふりすてて「キッチン」「ショッピング」のような、新来の外来語にとびつくものは非常に少ないことがわかった。c については、老人の方が堅い感じのことばに反応する傾向があるが、青年との差はどの質問語でも著しくはない。このような結果は、年齢差だけがその原因ではないであろう。当然教養差が関係していることが予想される。しかし、老人グループは、年齢がまちまちである上に学歴もまたまちまちで、年齢と学歴との相関を出しても意味がないと思われたので、そこまで分析することができなかった。

この調査に欠けているのは、中年年齢層である。これについては、長岡の面接調査に「カメラと写真機」「ボクシングと拳闘」のセットにつき、それぞれ写真をみせて、どちらを答えるかを調べたものがある。ここでは年齢が高くなるにつれ、外来語より在来の語をとる者が段階的に多くなっている。中年年齢層の示す傾向の一端を、これによって補足推察することができる（Ⅱ.3.3.参照）。

以上3種の調査によって、年齢層・教養等が違えば、語感にも違いがあることがうかがえる。こういう語感の違いが、現在多様な類義語の存在を必要としているのである。

これまで意味・語感の両面から類義語というものの性格を考察してみた。これに対して、現在マスコミにおいて、類義語のどういう点が問題となっているか、そこにはたらく要因はどんなものであるか、こういう面の考察もまた、類義語の本質を明らかにするために役だつだろうし、また問題点の解決の方向をさぐるためにも必要であろう。「Ⅲ・類義語の問題点」をこれにあてた。この章は大きくいて、現在マスコミで類義語が問題としてとりあげられている事例について観察し、その要因を考察した部分「1.問題の所在とその要因」と、テスト・アンケートの結果に基づいて考察した部分「2.外来語をめぐる類義語の問題」「3.同音類義語をめぐる問題」とに分かれる。「1.問題の所在とその要因」の項では、次の問題にふれている。

きらわれることばとその言いかえ（Ⅲ・1.1.）

ここでは、きらわれることばとその言いかえとの間に生じる種々な類義関係を、事例によって考察した。特にその中で、現在社会一般に問題となっている特定の職業名に関するものと、敬称を含めて人を呼ぶ場合の呼称について、社会一般がどのようにうけとっているかを新聞記事（投書・コラム）によって調べてみた。このような場合、言いかえた名称が、社会一般になじまない間は、類義的な名称が併存することになり、類義語として一つの問題を投げかけている。

語の類義的対応と言いかえの問題（Ⅲ・1.2.）

ここでは、専門用語と一般用語、言いかえに伴う種々の問題を考察した。専門用語と一般用語が類義関係にある場合、ことがらを正確に厳密に伝えようとする要求からは、専門用語を主張し、わかりやすさを重くみる立場からは、一般用語を主張することになる。マスコミにおける使用には、この立場の違いが反映してくる。このような事例を、放送用語について調査した。

漢字制限に伴って、制限漢字を含む語を、在来の語で言いかえたり、あるいは代用字を用いて言えかえたりする処置がとられてきた。この処置が成功

した場合は問題はないが、もとの語と言いかえた語との間に意味上の差異や語感の違いが起り、別々の語と意識される場合には、そこに新しく類義語が発生することになり、漢字制限が意図した語彙整理の方向に反した結果をもたらしている。このほか言いかえには、同音語・類音語を避けるためのものもある。このような事例についても一覧しておいた。

類義語の使い分けと整理（Ⅲ．1.3.）

一般の人々にとっては、その意味の違いがほとんど問題にされないような類義語でも、マスコミでは、その使い分けが問題になることがある。それは多くは専門語かあるいは専門的な意味の違いをもつ語の場合である。また、「首相」と「総裁」のように本来類義語ではないのに、たまたまそれが同じ人であるために、同一対象を表わす二つの呼称のように受けとられ、類義語と同じようにその使い分けが問題になる場合もある。このような事例を集め、どういう理由で使い分けが問題になっているかを考察した。

使い分けが問題になる反面に、放送では、用語の統一整理が問題になることが多い。この場合、統一のための基準をどこに求めるかが肝要な問題となるが、まだはっきりしたものが見出せない現状である。

「Ⅲ.2. 外来語をめぐる類義語の問題点」の項では、次のような問題がある。

意味のあいまいさがもたらす類義関係の様相（Ⅲ．2.1.）

外来語の意味は、一般に不正確にうけとられているようであるが、その原因を、(i)語の意味そのものの理解の深さに個人差があること、(ii)語の意味内容や用法に個人差があること、(iii)類義語間の意味的關係が明確ではないことの3点に求めて考察した。ことに(iii)は、在来の語と外来語との間ばかりでなく、外来語どうしの類義語の間に著しい。このような意味のはっきりしない外来語が際限なく社会に送り出されるところに、現在の外来語の問題が起こってくるのである。

語のはいり方に基づく類義関係の多様性（Ⅲ．2.2.）

外来語のもたらす混乱の他の原因は、社会の各分野で、在来の外来語をかえりみず、その分野独自の外来語を次々にとり入れることにあると思われる。また種々の職業分野・専門領域で、その専門用語の使い分けや定義の必要に迫ら

れたとき、これを外来語によって手軽に解決しようとする風潮が著しい。その結果、既存の外来語との間に、また新しい類義語を発生させてしまう。さらにこれにその訳語が介入するときは、その意味的關係のもつれは一層はなはだしくなる。これもまた類義的な外来語をうみ出す一因になっているといえよう。それでも、この風潮が専門領域内にとどまっている間は、問題は少ないが、マスコミの力で、こういう専門用語がそのまま、しかもきわめて短時間に、一般家庭にまで、遠慮なくもち込まれるのが現代の著しい特徴である。こうして外来語をめぐる類義語間の混乱は、社会一般の問題となるのである。

以上の各項は外来語に関する類義語の問題を、主としてアンケートの結果に基づいて記述した。最後に「Ⅲ．2.3.類義的な外来語がふえる理由」について考察して、この項のしめくくりとした。類義的な外来語がある場合、抽象的に考えれば、外来語は在来の語と重なり合いそうに思われるが、実際には外来語の適用される範囲が局限されていたり、また、外来語が原義から離れて転用あるいは誤用される範囲内の意味でしか通用しないようなことがある。この場合は、外来語が別の類義語として新たに加わったのと同じことになる。この問題については、大学生に対するテストの結果に基づいて記述した。また、外来語に対する好みは外来語をふやす原因になるであろうことは、すでに述べた。大学生のテスト結果（テスト4）からも容易に推測できる。その好みとしては、新鮮さ、明るさ、実感の強さ、高級な感じなどが数えられる反面に、不快な語感・連想を避けるという心理がはたらく場合もある。このようなものは、外来語がふえる理由として考えられるおもなもので、まだこのほかにも種々の理由があるかもしれない。しかしこれを確かめるための質問を、限られたテスト問題の中に、もり込むことができなかった。

外来語とならんで社会一般で問題となっているのは、同音類義語の使い分けである（Ⅲ.3.同音類義語をめぐる問題参照）。これには、「暑い」と「熱い」のような一般的で単純なもの、「生育」と「成育」のように専門部門のもの、「輿論」と「世論」のように漢字制限による代用語のために起こったものなどのほかに、「干拓」「乾拓」のように漢字の意味が似ているために同音類義と考えられるようになったものなど、種々のものがある。こういう語の使い分け

が、社会一般にどの程度まで意識的に行なわれているものかを調べるために、高校生・大学生にテストを実施した。使い分けが問題になりそうな語を選んで、高校生にテストし、その結果、高校生にはっきりした使い分けが意識されないと思われるもの、および一般社会で行なわれていると推測される使い分けとは異なる傾向を示したもの8組について、吟味調査の意味で、大学生調査と長岡市の会社調査に組み入れ、使い分けが年齢差とどういう関係にあるかを調べた。テスト結果のあらましはⅢ.3.4.2.に記述してあるが、ここで明らかになったことは、同音類義語は、その差異・使い分けがきわめて明らかに意識されている面と、ほとんど意識されていない面との二つの面を合わせもっているものということである。したがって、同音類義語のある一面（ある用法・ある意味）だけをとりあげて、それが同じと意識されるとか違うと意識されるとかいうことを根拠にして、これを同語あるいは別語と判定することはできない。このことは、同音類義語の整理を考える場合に無視することのできない重要な点になるであろう。また、長岡市の会社調査の結果によると、若い年齢層が高年齢層に比べて使い分けの意識が弱いという傾向を示している。これは、興味深いことであった。

以上は同音類義語をテストに基づいて考察したものであるが、このテスト全般を通じて、使い分けが明らかに出てくる語についても、この傾向に一致しない少数意見が、常に1割から2割程度出るとは、注目すべきであろう。これは、使い分けが個々人によってずれているということであり、類義語の本質的な性格だと思われる。なお、「おもな同音類義語の語彙表」を掲げておいた。これは「同音語の研究」（報告20）を作成する際用いた資料から収集したもので、同書所収の「同音語集」には収録しなかった部分である。およそ1,400組の同音類義語をおさめ、おもな使用例を示した。使用例は、「総合雑誌の用語」の資料、辞書類（明解国語辞典・広辞苑・広辞林等）に求めたが、担当者が考案したものもある。

5. 調査の担当

この調査研究は、昭和36年から38年までの3年にわたって実施した。調査研究ならびに執筆の担当は、次のとおりである。

I 調査研究のあらまし 松尾 拾

II 基礎的問題の概観調査

1 類義語の種々相 西尾 寅弥

2 意味・用法の使い分けからみた類義語の種々相 田中 章夫

3 語感等からみた類義語の様相 西尾

III 類義語の問題点

1 問題の所在とその要因 西尾・田中

2 外来語をめぐる類義語の問題点 西尾・田中

3 同音類義語をめぐる問題 田中

IV むすび 松尾

なお、研究補助員露峰裕子・河東はるみ（昭和37年5月以降）が、作業を助けた。

Ⅱ 基礎的問題の概観的調査

1. 類義語の種々相

現代共通語における類義語について、ここで大まかな概観をしておくことが望ましいことであろう。しかし、日本語について、類義語を正面に取り上げた研究は、まだ絶無といっていい今の段階において、これはとても望めないところである。そこでこの節の目的を、次のように限定することにした。

類義語を考えるにあたって、この語とあの語は同じだとか違うとかいっても、いろいろな方面がある。客観的な意味において、わずかな違いがあるとか、客観の意味の上ではよく似ているが、語の与える感じは非常に違うとか、その語が用いられる文体が違うとか、いろいろな違いかたがある。人と人とが、前からみるとよく似ているが、横顔は違うとか、後姿はそっくりだが顔は少しも似ていないとか、いろいろな似かた、違いかたが考えられるのにたとえることができようか。類義語間の異同を考える場合のさまざまな視点をあげ、その視点からみて問題になり得るような類義語を少しずつあげて、今後類義語の種々相をより詳しく考えていくための、手がかりとしたい。

1. 1. 前提的な二・三の問題

1.1.1. 類義語の認定

どういう範囲の語を類義語と認めるかについては、意味研究の未開拓な現状では、客観的な基準を立てにくい。ここでは、作業仮説として、

(イ) 二つ（以上）の語のさしているものと同一（に近い）か。

(ロ) それらのさし方・とらえ方において、明らかな違いはないか。

の2条件を立て、二つをとともにパスすると判定したものを、ここで扱う類義語の範囲とした。この2条件の適用のありさまを例示すれば、

甘藍／キャベツ／球菜 去年／昨年 買入れる／購入する

のごときは2条件ともパスするものと考え、

顔／つら おいしい／うまい うがい薬／含嗽剤

のごときも、(イ)をパスし、(ロ)においても客観的に明らかなとらえ方の違いはないと見て、扱う範囲内とした。一方、

等辺三角形／等角三角形／正三角形 明けの明星／宵の明星

のごときは、それぞれの語が、結局さし示すところのものは同一であるにしても、それぞれは、まず客観的に明らかに異なった概念（例、等辺と等角）に分析された上で総合されており、条件(イ)はパスしても、条件(ロ)はパスしないものと判定した。

語というものの範囲をどう考えるかについても、単語というものの厳密な概念規定は容易でない。ここでは、それは当面の主目的ではない。一般人の意識において、およそ語（複合語なども含めて）と思われているであろう範囲内のものは、対象とする。したがって、

おもちゃ／玩具 買い物／ショッピング

のごときはいうまでもなく、

流行性感冒／インフルエンザ ウィーク・エンド／週末

のごときも範囲内とみなした。ただし、

邸内／やしきのなか 熟考する／深く考える

のように、一方が明らかに連語であるものは、語どうしの間の類義関係ではないから、範囲外とした。（類義という現象を考える上で、こういうものが重要でないと考えたわけではないが。）

1.1.1. 類義関係を調べていく態度・方法

類義関係を調べていく上で、語の意味を、観念的・抽象的に定立して比較するという方法・態度はとらなかった。それぞれの語の実際の用例・用法に即して、意味等の異同を追究するというせまり方をした。（しかし、実際に利用し得る用例の資料は不十分なものであり、主観的な推定にたよって用法を検討した部分は少ない。）たとえば「きれいだ／美しい」の２語の関係については、次のように、それぞれの用法・用例をあげて対照してみるわけである。

表 1

(1)	きれいな花（紅葉・山・景色）	美しい花（紅葉・山・景色）
(2)	若くてきれいな夫人	若く美しい夫人
(3)	きれいな顔（姿・唇・声）	美しい顔（姿・唇・声）
(4)	きれいに装う（咲いている）	美しく装う（咲いている）
(5)	きれいな天然色の映画	美しい天然色の映画
(6)	きれいな詩（音楽）	美しい詩（音楽）

(7)		古城の美しい日
(8)		美しい感銘(話)
(9)		美しい友情(師弟愛・人情)
(10)	きれいな水	
(11)	きれいに洗う(ぬぐう・そうじする)	
(12)	きれいに食べてしまう(払う)	
(13)	きれいに忘れる(身を引く)	
(a)	きれいどころ	
(b)	きれいずき・きれいさっぱり	

表1の対照表から、「きれいだ」「美しい」が共に一往ははまり得るような場合と、いずれか一方しかはまり得ない場合とがあることがわかる。(表1の末尾の(a)(b)にあげたような複合語においては、類義語によるおきかえは成立しないのがむしろ常態であって、これらは考慮の外におく。)概略的に言って、beautifulの意は2語が共有するが、cleanの意(さらには、すっかり・残りなく、の意)は「きれい(だ)」にしかない。beautifulの意においても、(1)~(5)のような外観的な美から、(7)~(9)のような内面的・精神的な美に及ぶと、「美しい」しかはまり得ない場合も出てくるようである。2語の間には、およそ上のような異同関係がある。(「うるわしい」「清潔だ」などとの関係も、このような対照表を作り得るが、煩を避けて、ここでは2語の関係の表示にとどめる。)概していえば、用法の重なる部分において意味も重なり、用法の重ならない部分において意味も重ならないというふうに、用法に即して意味というものも考えていく態度をとる。用法・意味がどのように重なり合い、または重なり合わないかは、「Ⅱ.2.意味・用法の使い分けからみた類義語の様相」の主たる対象となる。用法・意味の重なる部分においては、いわゆる語感などの微妙な差が主として問題になる。これは、「Ⅱ.3.語感等からみた類義語の様相」の主たる対象となる。

1. 2. 意味の方面

1.2.1. 意味の重なり合いかたの基本型

厳密に言えば、部分的にせよ、2語の意味は重なり合うことはあり得ないとも言える。しかし、語の微妙なニュアンスなどを無視して、知的・概念的な意味だけに関して言えば、2語(以上)が重なり合う場合は、しばしば存在す

る。多義的な語の意味に番号がつけられると仮定して、1番の意味では他の語と共通するが、2番の意味では共通しないというようなことがある。類義語における、知的な意味の重なり合いかたは、2語の間の関係について言えば、次の3類が考えられる。

(1)ほとんど重なり合う関係(意味の広さが大体一致する関係)

くさる／腐敗する 来年／明年 投手／ピッチャー ふたご／双生児

(2)一方が他方を包摂する関係(意味の広さがかなり違う関係)

はば／幅員 うまい／おいしい 時間／時刻 木／樹木 木／材木

(3)両方の語がそれぞれの1部分において重なり合う関係

きれいだ／美しい 勉強する／まける

第(1)(2)類の関係を1例ずつ、簡単な用例の対比によって表2・表3に例示しておこう。第(3)類については、表1の「きれいだ／美しい」の用例の対比を参照されたい。

表2

(1) くさる／腐敗する	
さかながくさる	さかなが腐敗する
みかんがくさる	みかんが腐敗する
牛乳がくさる	牛乳が腐敗する
木材がくさる	木材が腐敗する
社会がくさる	社会が腐敗する
気分がくさる	

表3

(2) はば／幅員	
はば3mの道路	幅員3mの道路
布のはばが足りない	
はばの広い帯	
はばのある考え方	
はばがきく	

以上の三つの基本的な関係のほかに、「意味分野」の上で2語が非常に近いところに位置するが、重なる部分はないという関係が考えられる。これを、かりに

(4)隣接的な関係

とする。たとえば、

(大雨)注意報／(大雨)警報 軽震／弱震 烈震／激震

のように、専門的に明らかな定義づけがなされている、同種であるが段階の差がある語どうしの間では、たとえば「注意報」であり、かつ「警報」であるという対象は存在しないはずである。意味上、隣接的ではあるが、重なる部分は

ない関係である。しかし、このような関係・区別は、しばしば一般の人々の間に正しくわきまえられてはおらず、ばく然と意味が重なり合っているように受け取られている場合が少なくない。ここにはやはり類義語的な現象が生ずるわけである（「軽震／弱震」については、2.4.2.の(2)を参照）。

戦略／戦術 政策／政綱 アルチスト／アルチザン

というような、類似点はあるが重要な差別を含む語を中心として、議論が進められることがある。これらは厳密には重なり合わない隣接的な語でありながら、混同されやすい点をも含んでいるからこそ、そのけじめがやかましく論じられるのであろう。

1.2.2. 包摂関係をめぐる二・三の問題

前節で考えた、類義語間の意味上における重なり方の基本的な型に関連して、いろいろな問題を導き出すことができるであろうが、ここでは(2)包摂関係についてのみ、二・三の問題を提起しておく。

包摂される方の語が意味が狭く限定されているのに対して、包摂する方の語は意味が広く、この差異のために、表現の明確さへの要求から、類義語間の選択において、前者の語が選ばれるという傾向は著しいであろうか。

ひと／他人 あたま／頭脳 木／樹木

のような、包摂関係と見られる2語間において、

ひとの心／他人の心 あたまの問題／頭脳の問題 木と方言／樹木と方言（書名）
のような場合には、左側より右側の言いかたの方が、意義のまぎれる恐れなく、一義的に理解されることもあるかも知れない。しかし、多くの場合には、前後の文脈や場面の助けによって、包摂する方の語も、包摂される方の語とほぼ同じ範囲に意味が限定されて、意味の混乱する場合は少なく、上に述べた要因から類義語間の選択がなされることは、日常の言語活動においてさほど多くはないように推察される。

次に、いわゆる難語の言いかえといわれるものの中の一類型として、

収攬する一つかむ 抵触する一ふれる 峻嶮な一けわしい

（NHK「難語言いかえ集」より）

のように、難語を、それを包摂する関係の類義語でおきかえたと見られるもの

が多く存在する。このように、意味のより広い語におきかえても、前後の文脈によって、もとの語とほぼ同じ意味に範囲が限定されて理解されるところから、このような言いかえの方法が成立し得るわけである。たとえば、

人心を収斂する／人心をつかむ 法律に抵触する／法律にふれる
 のような場合には、一往言いかえが可能になる。

以上、包摂関係や言いかえの具体例としてあげたものの大部分も、語種からみれば、和語と漢語(以下すべて日本製の漢語も含めて、字音語という意味で「漢語」という語を使う)との対であったが、一般に和語と漢語とで同義的な関係をなすものの中には、著しい事実として、

なおす／修理する つく／到着する のぼす／延期する
 休み／休暇 とし／年齢 つや／光沢 さき／先端

のように、意味上和語が漢語を包摂する関係のものが数多く見出される。そして、和語の漢語より広い、はみ出した部分も他の漢語にほぼ相当して、

な お す	—修理する(自動車を～) —訂正する(誤りを～) —治療する(病気を～)	など	休 み	—休暇・休業…… —欠席・欠勤・欠場… —休息・休憩……	など
-------	--	----	-----	------------------------------------	----

のような関係とみられるものもしばしば見出される。なお、こういう場合に、和語と、漢語のいずれか一つとは類義語であっても、漢語どうしは類義語であるとは限らないわけである。たとえば「助ける／援助する」も「助ける／救助する」も類義語であるとしても、そのことからただちに「援助する／救助する」も類義語であるという帰結は得られないわけである。

1.2.3. 比喩的な転義の有無など

語の意味は、具体的・感性的な原義から、抽象的・非感性的な意味を派生することがしばしばある。

ゆりかご／搖籃 遊星／惑星

において、具体的な事物をさす限りでは、左右の語は同義的であるが、「搖籃の地・搖籃時代」「政界の惑星・惑星的存在」のような、比喩的な意味・用法は「ゆりかご」「遊星」には存在しない。当用漢字の制約からでもあろうが、

「ゆりかご時代」というような表現も、現在では時として見受けられるようになったが、不自然に感じられる。これは、「ゆりかご」が今までそのような比喩的な意味・用法を発展させてきていないためであろう。このような点に関して、和語と漢語の同義的な対を調べてみると、

(具) さかながくさる／さかなが腐敗する

(抽) 人心がくさる / 人心が腐敗する

のように、双方が原義的にも転義的にもほぼ並行して使われる場合もあるが、上の「ゆりかご／揺籃」の例や、

(具) 食物のくさがり早い／食物の腐敗が早い

(抽) *(人心のくさり) / 人心の腐敗

のように、和語の方が抽象的な転義用法を欠いたり、

(具) こどもを失う / *(こどもを喪失する)

(抽) 戦意(権利・資格)を失う／戦意(権利・資格)を喪失する

のように、漢語の方が具体的な意味には使われなかったりする場合が多く見出され、和語の方が具体的・可感的な意味において、漢語の方が抽象的・非感性的な意味において有力であるという傾向が認められる。したがって、ある漢語が難語であるとされ、これと同義的な和語が存在して、これにおきかえることが可能らしくみえる場合でも、もし漢語の方が比喩的な転義を持ち、和語の方がそれを欠くような場合には、全面的な代用は不可能または困難となる場合が出てくるわけである。

1. 3. 語感の方面

語の意味には、知的な側面とともに情意的な側面がある。普通に意味と言う場合、知的な側面が主として考えられているようであり、それを中心の核として、捕えがたい微妙なふんい気のようなものが漂っており、これは普通、意味に含めないで、「語感」などと呼ばれている。(「語感」には他の意味もある。)しかし、言語形式によって喚起される言語内容の全体を意味と呼ぶならば、語感もまた意味の一部分をなすものであり、知的な意味との間も一線を引きがたく連続しているものと考えられる。しかし、ここでは便宜的に、意味の比較的知的な側面を「意味」と呼んだのに対して、比較的情意的な側面を「語感」と

呼ぶことにしよう。

言語は単に知的な概念内容を表わし伝えるものではなく、程度の差こそあれ必ず情動的な色彩を帯びており、それが重要な役割を果たしていることはいうまでもない。特に日本語の場合、感情的・心理的な面で微妙な発達をしていることは定評になっている。日本語の類義語の問題点も、おそらく語感とのからみ合いが深いであろう。一例をあげると、女の配偶者を表わす「妻／家内／おかみさん／奥さん／奥さま／女房／フラウ／かかあ」などの多彩な類義語は、かつては身分的な上下関係の反映が、大きな要因であったろうが、現代ではさまざまな語感とのからみ合いをも重要な要素として、それぞれが独自の存在を保っているのではなかろうか。

語の意味は具体的な文脈においてはじめて現実化される。このことは語感に関して、おそらく同等ないしそれ以上に真実であろう。しかし、具体的な多くの文脈から抽象された「語の意味」が考えられるように、語そのものに社会習慣的に随伴するラング的な語感も存在するものと考えられる。ある特定の文脈だけにおける、ある語の語感とか、きわめて個人的な語感も存在するだろうが、それらについてはここでは触れない。また、一つ一つの語独自の個性的な語感を明らかにすることが、論理的には先行すべきであると考えられる。この点については、この章の「3.1. 語感的な差異についての調査」で触れることにし、ここではある範囲の語にわたって見られる、共通的な語感をいくつか例示して、語感からみた類義語の種々相を考える糸口としたい。

1.3.1. 古い感じ

結婚式／婚礼 財産／身代 家庭／所帯 未亡人／後家
帽子／シャッポ せっけん／シャボン バス／乗合自動車

上にあげた各組の左側の語は、現代の普通の語という感じをになっているが、右側の語は、(やや)古くさい感じを伴っている。同一ないし類似の事物に対する呼びかたにも、しばしば隆替がある。時代から取り残された語が、全くすたれてしまえば古語となるが、すたれきってしまわずに新しい語と併存すれば、古い語感の語として存在することになるのであろう。「3.3. 類義語の使用意識の調査と語感」の中のAの類は、この点と関連する調査である。

1.3.2. 新しい感じ

台所／キッチン 買い物／ショッピング 女給仕／ウェイトレス

上にあげた各組の左側の語よりも、右側の外来語の方が、新しいモダンな感じを伴う。このような語感の違いのために、日本在来の語でも十分間に合いそうな場合でも、欧米語からの外来語が取り入れられ、好み用いられる傾向がある。新鮮な感じは外来語でしか表わせないわけではないが、現代の大勢としては外来語によって耳新しさ・目新しさを出そうとする傾向が強い。この点については「3. 2. 言語使用者の好み・選択についての調査」および「Ⅲ.2.3. 類義的な外来語のふえる理由」で考察した。

1.3.3. 改まった感じ

決める／定める まかせる／ゆだねる きもちよい／ころよい
すぐに／ただちに まえもって／あらかじめ ○○から／○○より

上にあげた各組の、左側の語は普通の日常的な語として使われているのに対して、右側の語はやや改まった、堅い感じを伴っている。これは、それらの語が堅い文体に用いられる伝統・習慣があるところから来る語感であろう。

つや／光沢 いのち／生命 ねうち／価値 てがみ／書簡
あさって／明後日 つかれる／疲労する 買い入れる／購入する

上にあげたような、数多くの和語と漢語の組においても、和語の方が日常的な、くだけた感じであるのに対して、漢語の方が堅い感じを伴っている。もっとも、「美しい／きれいだ」「もっとも／一番」のように、和語の方が、漢語よりも改まった感じを伴う場合もないわけではない。

誕生／生誕 火事／火災 掃除／清掃 有名／知名・著名
来年／明年 去年／昨年 征伐／征服 降参／降服

上のような各組は、いずれも字音語どうしであるが、左側は熟して日常的になった語であるのに対して、右側は多少とも改まり、堅さを伴った語である。

以上のような語感上の対立は、ケ（葵）に対してハレ（晴）をきびしく区別しようとする傾向のことばにおける現われではなかろうか。言いかえれば、日常卑近のものは、公的な晴れ晴れしい場面にそのままの形では出せないという意識である。この語感とは、日本語の語彙体系を、二重三重ならしめる要因として重要

な問題をはらんでいるものと考えられる。この点について、「3. 2. 言語使用者の好み・選択についての調査」で触れるところがある。

1.3.4. 優雅な感じ

目／まなこ どこ／いずこ 集まり／つどい 歩く／あゆむ
休む／いこう

上のような組において、左側は現代普通の語と感じられるのに対して、右側は文語的であるとともに、優雅な感じを伴った語だといえよう。後者は、詩歌などによく用いられて、美的感情の表現に役割を果たしている。

1.3.5. わるいことばという感じ

ごはん／めし たべる／くう おいしい／うまい

上のような組において、左側は普通の（やや上品な）語と感じられているのに対して、右側は（やや）わるいことば、乱暴なことばという感じを伴っている。もっとも、こういう語感、現代共通語では認められるものの、けっして全国的なものではあるまい。右側の語しか普通は使わない地方も多いであろう。

1.3.6. いやしめる感じ

男／野郎 女／あま 言う／ほざく 死ぬ／くたばる

上の各組の右側の語は、上品な語でないと同時に、その語の表わす内容の主体をなす人間をいやしめる感じ、時にはののしる感じさえ含み持っている。もちろん、これを逆用して、非常に親密な感情を表わす場合もある。

1.3.7. 呼ばれる本人たちがきらいな語感

めくら／盲人 かたわ／身体障害者

上のような身体的欠陥を表わす語の組において、左側は従来の一般的な語である。社会一般の人は、「めくら」「かたわ」にさげすみの語感が伴っていると必ずしも受け取らないだろうが、そう呼ばれる本人たちにとっては、きわめて不快な響きを持っているのだ。自分の不幸に対する過敏な心が、一般人のふとした心ないさげすみにも深く傷つき、そうした痛みが、語自身に伴う語感として沈殿するのであろう。「盲人」「身体障害者」は、そういう語感をかわすための言い換え語で、NHKはそれらを用いて放送している。しかし、もしそれら不

幸な人々のおかれた条件自身が改善されないならば、これらの言いかえ語が普及して時を経れば、同様な語感を沈殿させるに至る可能性がある。

消防夫／消防士　漁夫／漁民　女中／お手伝い　産婆／助産婦

上のような職業・身分などを表わす語に関しても、やや似た現象が見られる。左側は従来の語であるが、本来貴賤のないはずの職業でありながら、社会的にあまり高く位置づけられない傾向があることから、少なくとも呼ばれる本人たちにとっては、軽視の感じを伴った、不快な語になってしまっている。右側の語は、この点を配慮して使われる言いかえ語であるが、左側の従来の語を完全に制圧することは困難で、双方が類義語として共存している現状である。

この問題については、「Ⅳ.1.1.1. 問題になる職業名」を参照されたい。

1.3.8. 忌まれる語感

月経／生理・メンス　強姦／暴行・乱暴

上の各組の左側の語のような、あからさまに言うことがはばかれるような事物を表わす語の語感を避けて、右側のような遠まわしな語の使われることがある。「便所」「手洗い」「洗面所」「はばかり」「トイレ」など、はじめはみな遠まわしな言いかたの語として使い始められたものだろう。

1. 4. 語の形態の方面

1.4.1. 語の音形式

この方面で類義語にからむ事項として、たとえば同音語の問題がある。一・二の例をあげてみよう。

くに／国家（国花・国歌・刻下など）　川口／河口（火口・河港・河江など）
のような組において、右側の語は、（ ）内に示したような同音語をもっている。話しことばにおいても、実際は文脈などによってかなり判別のつくものではあろうが、時には同音語とのまぎれを避けるために、左側の語が選択されるという言語行動も存在するのではなかろうか。

語の音形式の長短が、選択の要因になる場合も皆無とはいえない。たとえば、ラジオのある語学講座で、「きのう学んだところ……」「こういう方法で学べば」など、「学ぶ」を連発する講師があった。より口語的な「べんきょうする」を使えば、3モーラほど長くなる。その講師の意図はわからないが、時間を

極度に節約したい場面において、たびたび出る語であるだけに、結果としては多少時間のセーブをすることにはなっていただろう。

1.4.2. 語の表記形式

語の表記形式の長さにおける異同が、書きことばにおいて、類義語の選択にはたらく条件になることがある。

オリンピック（6字）／五輪（2字） ヘアスタイル（6字）／髪型（2字）
ピッチャー（5字）／投手（2字） ファインプレー（7字）／美技（2字）
センターフライ（7字）／中飛（2字）

のような組について、新聞・週刊誌などの本文では左側の外来語を使い、同じ記事の見出しには、右側の語を使っていることがある。1字でも字数を少なくしたい見出しの語では、語の字数による類義語間の選択ということは、当然考えられるところである。「美技」「中飛」などの語は、話しことばでは使われず、字数をとらないように造語された書きことば用語であろう。

1. 5. 語の文法機能・品詞性に関する方面

1.5.1. 品詞性の異同

ある類義語の組において、一つの語はいくつかの品詞性を持つとか、他の品詞の語を派生し得るのに対して、他の語はそういうことがないというような違いの見られることがある。たとえば、「未来／将来」は、ともに名詞であるが、副詞としての用法は、「将来」にのみある。「未来」は「未来に（おいて）」などの形ではじめて副詞的なはたらきをする。「健康だ／丈夫だ」は、ともにいわゆる形容動詞でもあるが、「健康が大切だ」「健康を保つ」のような名詞としての用法は、「丈夫」にはない。しいて名詞形を求めれば、「丈夫さ」であろうが、これは熟した語ではない。「あぶない／危険だ」は、形容詞と形容動詞という違いがあるが、「～からやめなさい」のような文脈では、一往相互におきかえ得る。しかし、「危険をおかす」のような名詞用法は、「あぶない」にはおきかえることができない。また、「とくだね／スクープ」「象徴／シンボル」は、ともに名詞どうしの組であるが、「スクープする」「象徴する」というサ変動詞を、「とくだね」「シンボル」の方は作り得ないという違いがある。

1.5.2. 動詞の組において、その名詞形の存否・強弱

つまずく／蹉跌する くいちがう／齟齬する くさる／腐敗する
うしない／喪失する えらぶ／選択する つかれる／疲労する

上のような和語と漢語の動詞の組は、数多くあり、文体的な違いを無視すれば、相互におきかえ得る文脈も少なくない。ところが、その名詞形が必要となった場合、漢語の方は「する」をはずした形がすぐに使えるが、和語の方はその連用形の名詞化、いわゆる居体言によるほかはない。そして「つまずき」「くいちがい」「つかれ」のように現に使われていて、「蹉跌」「齟齬」「疲労」と同じようにはたらき得る場合もある。「くさり」も「魚のくさがりが早い」のような場合は使えるが、「精神の腐敗」のような場合には、「くさり」におきかえることができない。「えらび」はある文脈の中では使われるが、現代語としては熟した名詞として存在しているとは言えない。「うしない」という名詞形はなく、「権利を喪失した」「権利を失った」と置きかえられても、「権利の喪失」は「権利を失うこと（失ったこと）」などとしか置きかえられない。このように、動詞においては、和語で言うことができても、その名詞形が存在しなかったり、弱かったりするために、一単語の名詞としては、字音語の方にたよらざるを得ないという場合は、かなり存在する。

1. 6. 語の存在様式に関する方面

以上の「意味」「語感」「形態」「品詞性」など以外の、語の存在のしかたに関するさまざまな事項を、かりに「存在様式」と名づけて、以下に例示してみよう。

1.6.1. 造語成分となって複合語を作り出している上での異同

くに（～がら・～ぐに・とつ～、等）／国家（近代～・福祉～・～主義、等）
ねうち／価値（～意識・貨幣～・剰余～・～論、等）

上のような組において、一方は単独で使われることが多いのに対して、他方は単独で使われるほかに、（ ）内に示したような複合語をさかんに作り出しているという違いの見られることが多い。和語と字音語の組では、概して字音語の方が造語成分となって一層活発に【複合語を作り出している場合が多い。字音語は造語力が強いといわれている事実】にほかならない。上の「くに／国家」の例のように、双方ともいろいろな複合語の成分となっている場合で

も、近代的・現代的な概念は、字音語を中心とする複合語によってまかなわれている場合が多い。このような差異は、和語と字音語の組以外にも認められる場合がある。

火事（大～・～場どろぼう,等）／火災（～警報・～保険・～報知器,等）

値段（～表・卸～,等）／価格（～表・生産者～・消費者～・～差補給金,等）

以上のような傾向があるために、語の単独用法においては、和語その他の日常的な語を使うことができても、その語を成分として含む複合用法においては、堅い字音語の方を選択せざるを得ないという場合が、しばしば存在する。

1.6.2. その語が使われる表現様式・文体の上の異同

舌／べろ 葉／はっぱ 疲れる／くたびれる 作る／こさえる

たびたび／ちょいちょい 尾／おっぱ 根／ねっこ ほほ／ほった

上のような組において、左側の語は、話しことばにも書きことばにも使われるが、右側の語は主として話しことばに使われ、会話の引用などを除けば、書きことばにはあまり用いられないのではなかろうか。話しことば的な語だとか書きことば的な語だとか言われる差異が、これらの組では、一つの弁別の特徴をなしているといえよう。右側の語はやや卑俗な感じを伴う一方、日常卑近の生活と密着した強い実感を持つ場合もあるようだ。「根っ子の会」という命名などは、そういう実感を出し得ているのだろう。

すぐに／ただちに いちばん／もっとも むりに／しいて

同じだ／等しい きめる／さだめる つかう／もちいる

火事／火災 つや／光沢 使い道／使途 ○○だけ／○○のみ

上のような組において、左側は、普通の文体・くだけた文体向きの語であり、右側は、やや堅い文体向きの語であるという傾向の違いを、指摘することができよう。文体と用語とが密接な相関関係にあることは、いうまでもない。なお、ここに指摘したことは、「1.3. 語感の方面」の「3. 改まった感じ」に述べたことと表裏をなす、一体の事実だと考えられる。

1.6.3. その語の使用分野・出自などの上の異同

美人／美女／シャン／べっぴん 幸福／しあわせ／さいわい／さち

上のような組の語は、いずれも一般語であろう。ところが、

はば／幅員　　ずい虫／蟻虫　　むしば／齧歯　　うがい薬／含嗽剤

かいがら骨／肩甲骨　　かきまぜる／攪拌する

のような組では、左側は一般的な語であるのに対して、右側は専門的な語である。本来は使われる分野が異なっていただろう。しかし専門語は、しばしば一般語にも流入する。そして一般語という領域でも、類義語として本来の一般語と共存する結果になる場合がある。そして専門語に由来する方の語は、いかめしく物々しい印象を与える語という性格は、なかなか抜けない場合が多い。

「しゃば」は一般語化して久しいが、「俗世間」などと比べて、仏語出身という性格は残っているようだ。「員数」は「かず」などと比べて、軍隊用語臭を残している。外来語が一般に、種々の点で日本語化されながらも、類義的な在来語と比べると、異国的な気分を伴う場合が多いのは、外国語出身という性格が容易には失われないためであろう。

1.6.4. その語を使う言語主体の上の異同

ぼく／わたくし・わたし／あたし　　ごはん／めし　　おなか／はら

「ぼく」は、男だけ、「わたくし・わたし」は男女とも、「あたし」は女だけが使うという違いがある。「ごはん」「おなか」は男女とも使うが、「めし」「はら」は、男しか使わないという傾向もあるだろう。男が「あたし」と言ったり、女が「めし」と言ったりすれば、強い抵抗感、こっけい感などをよび起こす。

結婚式／婚礼　　未亡人／後家　　フィアンセ／いいなずけ

上のような組で、左側の方の語は、老人よりも若い人の方が多く使っている傾向があるようだ。そのことは、左側の語が若い人が使うにふさわしい語・新しい現代風の語、右側の語が老人らしい語・やや現代的でない語だという印象を作り上げる要因となるだろう。この点については「3.3.類義語の使用意識の調査と語感」で調べてみた。

以上にあげた使用主体の性別・年齢層による異同のほかに、「わりあい／わりかし」のような組において、流行語的な方を使う人々・使わない人々などの区別も考えられる。

1.6.5. 語が使用される度合いの上の異同

これは、以上にあげた項目とはかなり性質が違うが、語の存在のしかたの様相の一つとして重要であり、類義語間の異同を考える一つの視点として、逸すべきではなからう。

女／女性・婦人 男／男性・男子

上の2組のそれぞれの語の使用率を、国語研究所の婦人雑誌・総合雑誌・雑誌九十種の用語調査について調べると、三つの調査のいずれにおいても、2組とも左側の語の方が右側の語よりも使用率がかなり高い（国研報告 4・13・21のそれぞれの語彙表を参照）。こういう傾向は、おそらく書きことば一般、さらに話しことばにおいても変わらないだろう。「女性」「婦人」「男性」などもかなり耳目にふれる語ではあるが、使用度の上で、「女」「男」ほど基本的な語にはなっていないようだ。

滝／瀑布 馬／馬匹 トンネル／隧道

などの組において、左側はよく使われるのに対して、右側は一般語としてはあまり使われず、そのために親しみの薄い語という印象を、一般の人はいだいているだろう。

1. 7. おわりに

以上、類義語間の異同を弁別していく上で考えられるさまざまな視点を例示してみた。以上のほかにも、あれこれと視点が考えられるであろう。それぞれの視点からの考察を深め、さまざまな視点を総合し得てはじめて、類義語の種々相が具体的にとらえられるであろうが、ここではそういう予想を述べるにとどめざるを得ない。

今の段階で、一つ考えられることを、ここに付け加えておく。語の中心的意味などとも言われている、意味の知的・客観的な側面は、意味以外の要素からはある程度独立性を保っているように考えられる。これをとりまく周辺の意味などと呼ばれている、いわゆる語感などは、何から形成されるか。中心的な意味・音形式・表記形式などは、もちろん要因になっていると考えられる。その他、その語がよく使われる状況、文脈とか、さきにあげた、その語が使われる表現様式・文体、使用分野、語の出自、使用度なども、語感を形成する要因になっているであろう。したがって、類義語間の語感上の異同を説明するためにも、これ

ら、語のさまざまなありかたの究明は必要であろう。

2. 意味・用法の使い分けからみた類義語の様相

2. 1. 調査の目的

かなり近い意味をもっていながら、それぞれの語の用法を比べてみると、この場合には、こちらの語を使い、こういう時には、こちらを使うというように、使い道が、やや異なっている類義語がある。たとえば、同じように、mist・forestの意味を表わす語でありながら、「きり」と「かすみ」、「もり」と「はやし」では、いくらか意味のへだたりが感じられ、いろいろな場合の用法にも、若干の違いがみられる。しかし、こうした、意味の異同についての意識や使い分けの意識というものは、個人個人によって、少しずつ、ずれていることがあるのではないと思われる。

この調査は、主としてこのような「類義語における意味のへだたりについての意識」を、アンケートによって調べ、さらに、実験テストによって、「類義語の使い分けの実態」を明らかにしようとしたものである。

2. 2. 意味の違いについての意識——アンケート調査による

2.2.1. 調査語について

この調査では、各種の類義語調査資料（1.3.参照）から得られた、約400組1,100語の類義語カードに、さらに辞書類によって若干の語を補って、これを基礎資料とした。次に、この各組の類義語の意味の異同・用法上の差異などを、辞書その他によって、できるかぎり検討しつつ、54組の調査語を選び出した。調査語の選出にあたっては、現代の一般の言語生活において、なじみの深いもので、意味・用法などについての反省が、比較的容易な語を選ぶように留意した。

選出した調査語は、次の54組の類義語である。

もり／はやし きり／もや／かすみ ほこり／ちり／ごみ／くず／かす
ひび／あかざれ うち／いえ なわ／つな／ひも／いと だろ／つち
さつき／さきほど／さきごろ／ちかごろ／ひところ／せんだって

学生／生徒 貯蓄／貯金／預金 幸運／幸福 人民／民衆／大衆／庶民

都市／都会 批判／批評

カーディガン／セーター／ジャケツ スタッフ／メンバー クラス／クラブ／サークル／グループ／チーム／パーティー ジャベル／スコップ キャンデー／ケーキ スラックス／ズボン／パンツ／パンティー／ブルマー／ショーツ ペテラン／エキスパート／オーソリティ レストラン／グリル ジッパー／ファスナー／チャック ヒュッチ／ロッジ／バンガロー／コテージ トランク／スーツケース オーバー／トッパー／コート コップ／カップ／グラス スノード／ストリップ レッスン／ドリル／トレーニング ハット／シャッポ／シャポー バッジ／メダル クラッカー／クッキー／ビスケット パズル／クイズ エピソード／ゴシップ／トピックス ベース／ピッチ／テンポ／リズム ベスチャー／ポーズ スタイル／フォーム エレベーター／リフト／ロープウェー／ケーブルカー

あした／あす／みょうにち てきや／やし／やくざ／ごろつき／愚連隊 ライス／めし／ごはん スカーフ／ネックチーフ／マフラー／えりまき／かたかけ／ショール／ストール ゲーム／試合／マッチ／競技 露台／バルコニー／ベランダ／テラス 帳場／フロント／カウンター タイム／時刻／時間／アワー 試験／テスト／検査 オーケストラ／楽団／楽隊／バンド／アンサンブル／ソサエティー 失敗／過失／ミス／エラー／失策 ピーナッツ／南京豆／落花生 ねまき／パジャマ／ネグリジエ 復古調／リバイバル／逆コース 礼儀／作法／行儀／マナー／エチケット／モラル 広告／宣伝／PR

2.2.2. アンケートの実施

1962年7月から9月にかけて、次にあげる人々105名を対象に、以下に述べるアンケートを実施した。

東京大学大学院（国語専攻）学生 東京教育大学大学院（国語専攻）学生
東京都立高等学校（国語科）教諭 国立国語研究所研究員・研究補助員

調査票の内容は、次のとおりである。

おねがい

次にあげる、ひと組のことばを比べて、特にめだつ違いを、なるべく詳しく書いてください。○○○／△△△／××

（注1） ひとつひとつの語を定義して、おのずから、各語の意味の違いがわかるようにして下さってもけっこうですし、相違点だけを列挙して下さってもけっこうです。

（注2） 意味・用法だけでなく、ことばによっては、語感・ニュアンスといった方面から、いろいろとご検討いただければ、さいわいです。

(注3) ご参考までに、別紙に、3組のセットについて記入したものを、そえておきます。これにとらわれずにご自由に、かつ独創的に書きください。

(アンケートの記入例)

〔例Ⅰ〕

ピーナッツ／南京豆／落花生

「ピーナッツ」は落花生の実の、からを取って、皮をむき加工し、塩をふりかけた食品の名としてのみ用いられるが、「南京豆」は、べつに、食品になっているもののみに限らず、からや皮をかぶったままの、なまの豆を呼ぶのにも使われる。

なお、加工食品でも、からや皮のまま、煎ったものなどは、普通「ピーナッツ」とは言わず、「南京豆」とか「落花生」とかいうようである。

農作物あるいは植物としてとらえる場合には、「落花生」が普通だが、「南京豆」も使わないことはない。しかし、「南京豆」というと、おもに落花生の実、すなわち豆を意識することが多いのではあるまいか。

しかし、植物学上の和名としては「ナンキンマメ」が採られているようだ。

〔例Ⅱ〕

エレベーター／リフト／ロープウェー／ケーブルカー

エレベーター

主としてビルディングなどで、ロープによって垂直に上下し、人を運ぶ乗り物。英語ではリフトと言う。

リフト

①スキーリフトの略。ロープにぶらさがっている椅子に、人を乗せて運ぶ乗り物。

②工事場や食堂などで、器物を入れた箱を、ロープで垂直に上下に運ぶ装置。

ロープウェー

①スキー場で、すべりおりてきた人が、ロープにつかまって斜面をすべりあがって行く装置。

②空中ケーブルカー。

③ケーブルカー。

ケーブルカー

空中または、軌道にはってあるロープによって動く乗り物。ロープウェーとも言う。

〔例Ⅲ〕

ねまき／パジャマ／ネグリジェ

ねまき 夜ねる時に着る衣服を言う。特に、和服のものをさすことが多い。

パジャマ 西洋式のねまきで、うわぎとズボンに分かれているものを言う。

ネグリジェ 西洋風の女性用寢室着で、ワンピース型のものをさす。

前記の54組の調査語（2.2.1. 参照）のうち、調査票の記入例とした3組については、別の記入例を示して、3人にアンケートを求め、その他の51組の調査語については、各組2枚ずつの調査票を配布した。したがって、配布数は105となり、その回収状況は次のとおりであった。

配布数105 回収数82 未回収23 回収率78.0%

2.2.3. アンケート調査の結果

集まったアンケートの中で、使い分けの意識、あるいは意味の違いというようなものが、比較的細かく分析されている調査語について、要点をまとめ、さらに注として、われわれが資料によって調べたことがらをそえて、以下、記述することにする。

	か す み	き り	も や
発生の季節	春。	春・夏・冬。	季節を問わない。
発生の場所	山野。	山, 高原, 海, 川, 町の中	川, 海。
自分との位置	遠くに。	自分を包む。	遠くに。
形 状	やや高くてなびき, うすい雲に似る。	自分では, 全体の形はわからない。まわりに漂う。ぬか雨に似る。	低くてなびき, 白い煙に似る。
密 度	うすい。	もっとも濃い。	やや濃い。

注) 気象学上の用語としては、「きり」「もや」はあるが、「かすみ」はない。

「きり」は視程（見通し）1,000メートル以下の場合、1,000メートルをこえる場合は、「もや」と呼ぶ。

	も り (森)	は や し (林)
A	林よりも木が密集している。	森よりも木がまばらにはえている。
B	山や丘にこんもりとしげっている。	平らな土地にしげっている。
C	草をかき分けふみ分けてはいって行く。	明るくて、道がついている。
D	神社のまわりの木立を言う。	
E	神秘的夢幻的な感じ。	牧歌的, 田園的な感じ。

ウ	チ	イ	エ
話しことば的・俗語的 ○ウチがぶっこわれて困っている。		文章語的 ○イエがいたんで困っております。	

「家屋」「住居」をさす。 話し手自身の家屋・住居を言うとき。 ◦ウチにも遊びにいらっしやい。	「家屋」「住居」をさす。
「家庭」「家族」という場合にも広く用い、さらに「話し手自身の夫」「話し手の属する組織・団体」などもさすことがある。 ◦不親切なウチだ。 ◦ウチは毎晩12時すぎに帰りますのよ。 ◦ウチの社長は気が小さい。	こうした外延性がない。
抽象的な観念や、制度的な単位を言うときには使わない。	抽象的な観念や、制度的な単位を言うときに使う。 ◦イエを中心とした部落意識。 ◦老人にはイエの観念が強い。
法的な財産、あるいは建築上の術語として家屋を言うときにあまり使わない。	法的な財産として、あるいは建築上の術語といったような感じで家屋を言うとき。 ◦イエの譲渡価格 ◦イエのとりこわし作業

	ちかごろ	ひところ	さきごろ	せんだって	さきほど	さっき
意	近い過去から現在までの時間をさす。	遠くない過去の、持続する一定時間をさす。現在との間に時間的切れ目がおかれなければならない。	「ひところ」より遠からぬ過去の「ひところ」より短く持続する一定時間をさす。現在との間に時間的切れ目がなくてもいい。	近い過去の「さきごろ」よりもっと短い一定時間（持続というまでもない）をさす。	ごく短い過去の時（「時間」というよりむしろ「時刻」に近い）をさす。	ごく近い過去の時（「時間」というよりむしろ「時刻」に近い）をさす。（この点「さきほど」と同じ。）
義						
語			やや文語的か。		やや丁寧な感じ（文語的でもあるが、むしろあらたまった感じが強い）。	丁寧さと無関係。
感						

		さ き	さ き ほ ど	せ ん だ つ て	さ き ご ろ	ひ と ご ろ	ち か ご ろ	
弁 別 の し か た	①～どうも胃の調子がわるかった。	○	○	○	○	○	△(・1)	(・1)ガ、モウナオッタ
	②～どうも胃の調子がわるい。	×	×	×	×	×	○	
	③～と比べれば……。	○	○	○	○	○	×	
	④～から比べれば……。	○	○	○	○	○	×	
	⑤～から呼んでいるのに。	○	○	△(・1)	△(・2)	×	×	(・1)マイニチ, ナンドモ (・2)マイニチ, ナンドモ
	⑥～から雨がふってますよ。	○	○	△(・1)	△(・2)	×	×	(・1)ズット (・2)ズット
	⑦～毎晩雨がふる。	×	×	×	×	×	○	
	⑧～毎晩雨がふった。	×	×	△(・1)	○	○	△(・2)	(・1)～ハ (・2)ガ, キョウハフラナイ
	⑨～はやった帽子。	×	×	×	○	○	×	
	⑩～はやったことがある帽子。	×	×	×	△(・1)	○	×	(・1)チョット
	⑪～町の人口が急激にふえた。	×	×	△(・1)	○	○	○	(・1)トクベツノワケガア ッテ
	⑫～町の人口が急激にふえてきた。	×	×	×	×	×	○	
	⑬つい～。	○	○	○	○	×	×	

○以上で弁別のつかないのは「さっき、さきほど」の二つだけ。他はみな弁別できると思う。とくに、「ちかごろ」が他と違うことが、はっきりする。

○「さっき、さきほど」の弁別は、時間の概念では押せないもののようだから、別の概念——待遇ないしあらたまりかた——を持ち出す。

	さ き	さ き ほ ど
⑭～帰りました	○	○
⑮～帰った	○	×
⑯～は失礼しました	○	○
⑰～は失礼した	○	△・1 (・1)尊大の感があるう
⑱ばくの帰ったのは～です	○	○
⑲ばくの帰ったのは～だ	○	×

○上記によって、「さっき」は、「だ、です」両体と結んで不自然ではない。丁寧さ(待遇ないしあらたまりかた)とは関係がないようだ。「さきほど」の方は「だ」体とは結びつきにくいとみられる。丁寧な感じがあるのはこのためであろう、とみられる。

○以上で6語の弁別はできると思うが、所与の語彙の弁別法として考えたものであるから、別の語彙に適用できる保証はないことは言うまでもない。少なくとも“時間についてのかざしの類”についても適用し得るかどうか、その原理的基準は何か、など考えておきたいところである。

な わ	つ な	ひ も	い と
ワラで綯ったもの アサ、シュロなど もある。	アサ・モメン糸で 堅く綯ったもの。	切れ・紙・革などで 細長く作ったもの。	動物・植物の繊維、 化繊などで細長く作 ったもの。
	なわよりも太く、 かたく強い感じ。	糸よりもぐにゃぐに ゃした感じがする。	ひもよりずっと細く ピンと張る、または 長くのびる感じ。
しばるのに用い る。	しばるだけでなく、 ひっぱるとか、ぶ らさげる、ぶらさ がるなどの用途が ある。	しばるもの。	織る、縫う、編むな どの用途あり。まれ にしばるのに使う。
	ロープはつなのこと。		毛糸も糸の一種。
〔なわつき（罪人 のこと）〕などの語 を連想。	〔命のつな〕などの 語を連想。	〔パンパンのひも・ 赤貝のひも〕などの 語を連想。	〔三味線の糸・つり の糸・納豆が糸をひ く〕などの語を連想

く ず	ご み	ち り	ほ こ り
①こわれたり切れ たりして、本来 の形をもたない もの。 ②役に立たないも の。	人によって散らか される何の役にも 立たないもの。作 業、遊び、その他 の結果出る。	①ほこり②に同じ。 ②自然科学で空気中 に浮かんでいる微 細な粒子。	①空気中に舞い上っ た細かな粒子。 ②室内に舞い上がる 粒子。細い繊維状 の物質（ワタホコ リなど）の総称。
	不潔な感じ。	文章語的。	こなっばい感じ。 軽い感じ。

使いふるしたりして形がくずれてしまい、元の形では役に立たないが、その材料の質は変わっていないため再生できるもの。細かくなった物質の集合。		ほこりに比して、概念的で対象がつかみにくい。	種々のものを含む。
		「ちりをひろってすてる」とはいえそうだが、「ほこりを～」とはいわない。 ちり>ほこり ちり<ほこり } ?	
紙くず。かんなくず。 くず鉄 (=スクラップ) 星くず (star-dust)	ごみ箱。ごみ捨て場。ごみ取り。	ちりも積もれば…。ちり取り。	土ぼこり。砂ぼこり ほこりをかぶった本。

ひ	あ か ぎ れ
○寒さのため、皮膚の表面が細かくさけたもの。 ○手の甲、頬などにできてピリピリ痛い。	○指先などに、ひびよりもっと深い割れ口ができたもので、痛さもひどい。 ○冬、水仕事やあらい仕事をする人に見える。 ○寒さより生活のきびしさ、あわれを感じさせる。

貯蓄	貯金	預金
必ずしも金ではない。貯蓄されたものよりも、貯蓄ということをさす。	金も、作用もさす。	金の場合が多い。
自分がたくわえる。	自分がたくわえる。	だれかにあずける。
	郵便貯金が連想される。	銀行とか信用組合のようなものが連想される。
	高額でなくてもいい。	多少高額でなければならない。
口語では比較的使わない。	子どもにいう場合、口で一般にいう場合に使う。	特殊な用語。

批 評	批 判
あるものの長所をあげ、同時に欠点を考える。批評には、立場のかたよりがない。 職業として、「批評家」というのはある。	主として欠点のみを見出す。 批判は、批判の対象となったものと反対の立場でものを言うという意味合いが強い。「批判家」という職業はない。「批判」ということばは、立場を異にするとすることが、まず考えられる。

都 市	都 会
学術用語といった感があり、冷たい客観的な響きを持つ。人口が何人以上で、どのような施設を持ち構造をなしているかといった規定にかなった、大きな町という感じである。	人々の主観に映じた賑やかな大きな享楽と喧騒のうずまく町といった所。社会学や地理学からは「都市」でない小さな町でも、農村の者には「都会」の匂いが感じられるかも知れない。普通は、東京・大阪といった大都市をさすことが多い。

人 民	民 衆	大 衆	庶 民
「人民の人民による人民の為の政治」とか、「人民共和国」とかいう用法からもわかるように、民主主義とか社会主義の下にあるそれらの主義に目覚めた人々といった感が強い。	善良で、毎日毎日をおだやかに暮している人々という感じを与える。	烏合の衆とでもいおうか、愚劣で、時の流れのままに漂う浮草のような感じである。 主義をもたず、扇動にのりやすく抵抗などとは縁の遠い存在である。	封建制度下の共同体に埋没している、未だ一個の人間としての自覚を持たぬ人々。

学 生	生 徒
男子大学生の姿を思い浮かべる。 ややおいて、ソックスに低い底のクツをはいた女性の姿。	中学生（男子）の姿。 ややおいて、セーラー服の女性の姿。
大学生（4年制大、短大）、これに準ずるような各種学校の在籍者（たとえば、アテネ・フランセ、ツダ・スクール・オブ・ビジネス）。	中学生・高校生、これに準ずるような各種学校の在学者（たとえば、生産会社などの技能者養成校で、中卒者から採用して3年間教育するといった形式のものなど）。

- ①ただし、学生とも生徒ともどちらとも呼称のできにくいようなものも、中にはある。おもに各種学校と呼ばれるものの在籍者であるが、こんなときは、別に学生さん生徒さんなどと言わないで、他の適当な呼び方で呼んでいる。
- ②小学校の子どもについては、時として生徒と呼ぶこともあるが自分は普通「児童」と呼んでいる。知るかぎりの学校教育関係者は、だいたいこのように呼んでいるようだ。
- ③旧制の高校・専門学校の在籍者については、学生と呼んでいる。

幸	運	幸	福
<p>自分の努力によって、獲得できるものではない。</p> <p>自分の外に神、またはそれに類似した超自然的な存在の働きを予想する。</p> <p>幸運にめぐまれる状態は、常に幸福の一つの状態であるから、幸福と幸運は一つの因果関係をなしている。</p>		<p>このようなもの（神、超自然的な存在の働き）を予想しない。</p> <p>幸福であるのは常に「幸運」によるものであるとはいえないから、二つの間には逆の関係は成立しない。</p>	

	ク ラ ス	ク ラ ブ	サークル	グループ	チ ー ム	パーティ
集団的	学 習	趣 味	研究・運動	臨時的な理由	スポーツなど	登山など臨時的な理由
集の意志	passive	positive	positive	positive	positive	positive
集団の方向	分裂してできた	分裂してできた	統合してできた	分裂してできた	統合してできた	統合してできた
人数	5～100	10～30	5～10	3～10	10～20	3～10
成の員質	等 質	異 質	異 質	等 質	等 質	異 質
外延	「第1クラス」を、「第1級」の意味で使う。	キャバレー・バーと並ぶクラブ。				レセプションに近い意味でのパーティー。ティ・パーティーなど。
語の新古			新語			新語（もちろん、登山などのための集団という意味で）

ベ テ ラ ン	エ キ ス パ ー ト	オ ー ソ リ テ ィ
いちばん広い。 技術については、それほど大したものでもなくともよさそう。	ベテランより、熟練度が高い。知的な高級な仕事に使われる。 ベテランよりも人数は少ない。	エキスパートよりも、更に知的なもの。かつ、その奥義に達することによって、ある権威的なものが、身に備わっているもの。 これに達した人数はさらに少ない。
スポーツの実技についていう(他のものはいわない)。 ＜マージャンのベテラン＞ 百戦レンマの、いわば実戦経験的な面が強調される。	＜マージャンのエキスパート＞ 実戦面だけでなく、もう少し理論的であり頭腦的。	＜マージャンのオーソリティ＞はあり得ない。
在郷軍人のことを英語で。 (日本語の語感としてはピツタリこない。)		権 威

エ ピ ソ ー ド	ゴ シ ッ プ	ト ピ ッ ク ス
挿 話, 逸 話	う わ さ	話題(主題)
ほめられるべき・ほほえましいといったニュアンスを感じる。	「無責任な『冗談半分の』」といったニュアンスを感じる。ただし悪意や作為的な気持はない。＜デマ＞とはこの点ちがう。	①時事的、ニュース・バリューといったニュアンスを感じる。(トピック・ニュース、カレント・トピックス) ②中心的な話題の意を感じる。(トピック・センテンス、トピック・パラグラフ)

パ ズ ル	ク イ ズ
実践上あるいは教育上の必要から一往遊離した＜課題――解決＞という思考過程、つまり「頭の体操」に使われる問題をさす。	実践上あるいは教育上の必要から一往遊離した＜質問――解答＞の質問をさすが、パズルと違ってクイズは、答えを出すために、思考過程を必ずしも要しない質問でもよい。

クロスワード～，数字～など。	スモウ～。
戦前から日本語として使われていた。	ジャーナリズムと商業リズムのなみにのって，戦後使われ普及した新語。
賞金（賞品）を連想しない。	スポンサーの賞金（賞品）を連想する。
	「20のトビラ」「話の泉」はクイズ番組とされているが，これらの中の一つ一つの問いをクイズというかどうか？ クイズは話しことばのやりとりだけによる質問を含む。
頭の体操を目的とする。	賞金をもらうことを目的とする。

ト ラ ン ク	ス ー ツ ケ ー ス
旅行用の大型鞆。 がっしりした感じ。	旅行用の衣類鞆。 トランクより小型。 布製・ビニール製が多い。

ス ナ ッ プ	ホ ッ ク
凹凸を合わせてとめる金具で，ばちんと締まるもの。すなわち，ホックの①に当たるもの。 ホックの①は，現代ほとんどスナップ。新しい感じがするし，用法としてもその方が正しい。	①相手の穴にさしこんで布などをとめる，金属性のまるい一對のとめ金。 ②かぎ状のとめ金。 かぎホック

オ ー バ ー	ト ッ パ ー	コ ー ト
over coat，即ちいちばん上に着る上衣。	topper coat，上部のコート。	いちばん外側に着るものの総称（日本では特に和服用のコート）。
厚手で，冬防寒用に着る。	オーバーより軽い生地で，春秋に着用。	春秋など，オーバーを着る季節の前後に着る（現在では和服，洋服にかかわりなく）。
丈はスカート丈まで長いもの。	ふつうの上着より長く，スカート丈より短い。	オーバー丈と同じ。

毛織裏つき	裏つき	裏地をつけないのが普通。
-------	-----	--------------

ジ ッ パ ー	フ ァ ス ナ ー	チ ャ ッ ク
	新しい。	最も古くから使われていた
ファスナーよりがん丈。	チャック・ジッパーより小 さめ。	最もがん丈に出来ている。
金属製	金属のほかに、ナイロン製 のものもある。	金属製
ジャンパー、アノラック、 作業衣など、厚手の衣服に 用いる。	日常着用する衣服に使う。	厚手の衣服に使われるほか ボストンバック、その他工 業用品にも使われる。
	上品な語感を与える。	女性にきらわれている語

シ ャ ベ ル	ス コ ッ プ
園芸などに使用する道具。	土を掘ったりまぜたりするときに使用する 道具。
片手でにぎる事ができる大きさ。	すき、くわと同程度の大きさ。両手で使 用。
先がとがっている。	

ス ラ ッ ク ス	ズ ボ ン	パ ン ツ
長さは、長ズボンと同じ。 ズボンより、体、足にびつ たりしている。 実用というより、おしゃれ 着的。 上着と対ではなく、替えズ ボンの、セーターやシャ ツと組み合わせて着る。こ とばかりは軽快な感じを受 ける。男女とも若い人が着 用する。特に女性の場合は ズボンのなものでもスラッ クスといっている。	長さは、半ズボン（ひざぐ らいまで）と長ズボン（足 首まで）がある。 足の部分の幅は、ゆとりを もっている。 実用的。 上着と一対、つまりスーツ になっている。	1. ズボンやスラックスの 下に着ける。 2. 運動会などで、男子が 着用する運動用。 用布は薄手。

	ポ ー ズ	ス タ イ ル	フ ォ ー ム
	全体的には「姿勢」	全体的には「型」「形式」	全体的には「形式」？
(1)	美術用語でモデルの姿勢。手や足の位置。体の置き方。静的。〔8例, カメラの例をふくむ〕	いくつかのあり方のある中での 特定のもの。種類様式といったようなもの。「フレンチ〜」「デキシーランド〜」〔例4〕	スポーツでプレーのさいの体の動かし方。〔10例, うち1例が陸上の走るフォーム。あとの9例はプロ野球で打撃8. 投球 1〕
(2)	((1)から比喩的に) 相手に見せようとする姿勢, 態度。「〜を見せる」〔3例〕	((1)の意味をやや広めて) 服装用語で服装の型。スリーブがどうなっているとか, スカートのどうできているかを全体的に見たもの。〔例27〕	美術などで, 具体的な形となって現われているもの。フォームよりもフォルムということが多い。さらに広く, 色や面などに対する概念で芸術作品の構成活動およびその成果。〔例1〕
(3)		((2)とやや似て), 体の形, 体つき。足が短いとかおなかが出ているとかの。〔例2〕	
(4)		文体。作家の個性の現われの一つと考えられる文章上の特徴。〔例なし〕	

〔 〕は現代雑誌九十種の中での用例の数。

ゼ ス チ ャ ー	ポ ー ズ
身振り, 意思表示, 態度。	姿態, 心がまえ。
形だけの態度で, 心理的に誠実でない。	きどった態度。意識して形をつくる。
動的な形をさす。	静的な状態に多く用いられる。

語 弁別の特徴	パ ン ガ ロ ー	ヒ ュ ッ テ	ロ ッ ジ	コ ッ テ ー ジ
ことばを聞く見る回数 (多い順に1〜4)	1	2	4	3

料金, 感じとして (高そうな順に)	4	3	1	2
海抜 (たとえば バンガローは, 300 ~ 2000であ っても, いちば ん低い所で比較 する) (高そうな順)	3	1	2	= 2
食事	自 炊	自炊も可 食堂も 100~300	食堂 300~2,000	本館が別にあっ てそこでする か, 自炊
管理人は同じ棟 にいるか	いない	い る	い る	いない
ひと棟の大きさ (大きい順)	4	1	2	3
色の イメー ジ	茶色, ただし, 屋根は多色	茶 色	白	白 (ほかに淡 色)
便 所	その棟になし	一般に和風く みとり	水洗, 洋式が 多い	水洗, 和風が多 い
交通の便	徒歩でたどり つく	徒歩でたどり つく	車自由	車自由

えりまき	かたかけ	ショール	ストール	マフラー	ネ チ ー カ フ	スカーフ
えりから入 る寒さを防 ぐため, え りに巻く。	和服の上に 羽織る幅広 のもの。	ものは, か たかけと同 じ。	肩からかけ る。洋装に も, 和装に も用いる。	オーバー類 の下にする 幅はショール の半分。 長さもストール より短い。	首にまく四 角なきれ。 スカーフよ り小さい。	頭を包んだ り首に巻い たりする四 角なきれ。 長いのもあ る。
男女共用い る	婦人用	婦人用	婦人用	男女共用い る	婦人用	婦人用
実用的			装飾品的		装飾品的	装飾的実用品

「かたかけ」 ほど古くないが、やや古い感じ。	古い。日本髪、ぬぎえもん、に肩から羽織るといった感じ	「かたかけ」 のような古さはない。	貴婦人が使用するような感じ。 「豪華さ」			
かたかけ、 ショール、 マフラーなどの総称。						
			毛織物（獣の毛皮で作ったもの）	絹物、毛織物		

露 台	パ ル コ ニ ー	ベ ラ ン ダ	テ ラ ス
同じものをさしているように思う。			
二階の床と同じ高さ（或いはそれ以上でもいい）で、張り出すように作られたところ。		庭に張り出すように作られた、広い濡れ縁のごときもの。	家の建物に続いて、庭に煉瓦や鉄平石などをしき、作られた一区劃。
二階からそこに出られる。			
屋根はない。		屋根はあってもなくてもいいような気がする。	屋根があるものもないものもある。
貴族などが、道路にあふれる群衆に演説するところ。"シラノ"の芝居で、ロクサヌとクリスチャンとがキスしたところ。		住宅公団などのアパートの出っぱりの部分。 オムツを干したり、植木鉢を置いたりするところ。	
		建物の一部といった感じ。	庭の一部といった感じ。（屋根のない場合）

レ ッ ス ン	ド リ ル	ト レ ー ニ ン グ
教育用語，特におけいごとの用語として。	主として教育用語として。	スポーツ用語として。
ピアノの～。バレエの～	～学習。	
学課，教課，課業。 練習の対象になる課程に系統性段階が示しうるもの。 やわらかなひびきがある。	学習における，もっとも基本的な練習。 一定の基礎的な学習の内容を一定の方式に従って，ある要素をくりかえしくりかえし反復練習する。 厳しさのあるくりかえし。	レッスンと比べ対象となる課程に系統的段階が著しくない。

試 験	テ ス ト	検 査
ためしてみる。	(試験に近い)	たしかめてみる。
教育的配慮のある場で使用。	教育用法として輸入，教育用語として普及。	法律用語。 実務関係に用いられる。
あるものの能力や状態が所期の目的に適っているか，将来その目的に適いうるかを実地についてためす。 入学～。蚕業～場。～結婚	専門用語として，試験の方に一歩ゆずっている。 使用範囲も狭い。	一定の規格に適っているか否かをたしかめること。将来のことがらにまではタッチしない。 会計～。身体～。
	試験よりもずっと軽い語感。 しゃれたスマートな感じ。	

復 古 調	リ バ イ バ ル	逆 コ ー ス
<p>3語共，過去のある傾向が再び社会に行なわれるようになること，或はその傾向を意味すると思われるがこれらの語の使用される「傾向」の対象が異なるように思われる。少なくともこれらの3語が流行語（らしきもの？）として数年前盛んに用いられていた時には，夫々違っていたように思う。</p>		
旧軍隊関係の事どもが流行したとき，この言葉が用いられたように思う。 戦記物の記事，軍歌（？） 軍隊式用語，諸式等々，つ	歌謡曲，しかも戦前のそれが，流行したときに用いられたように思う。 この場合全く以前の曲と同じものではなく，アレンジ	前二者が，単に風俗的な面のある傾向であるのに対して，この語は社会体制といった大きな面における過去の復活である復古調のよ

まり、郷愁を感じるような傾向に対して用いられる語ではないかと思う。	したものが用いられて、ここに新しさを盛り込もうとしていたようだ。	うな郷愁も感じられないことはないが、希薄であるし、「リバイバル」のような現代に通じる新しさを盛り込もうとする感じも希薄である。
-----------------------------------	----------------------------------	---

時間／時刻／タイム／アワー

例	時間	時刻
1. ちょっと～がかかるよ。	○	×
2. ～厳守、～励行	○	×
3. ～給、～払い	○	×
4. 開会(約束)の～に遅れる。	○	○
5. サイレンで～を合わせる。	○	○
6. ～表 <small>※</small>	○	○
7. ～を計る	○	×
8. ～到来	×	○

例	タイム	アワー
1. ～アップ	○	×
2. ～スイッチ	○	×
3. ～レコーダー	○	×
4. ～チャーター	○	×
5. ～セール	○	×
6. サマー～	○	×
7. ラッシュ～	×	○
8. ゴールド～	○	○

※ 二学期の講義の時間表。
※ 汽車の時刻表（俗に時間表ともいう）。

- 。5, 6 が共通であることを重視すれば、はっきり「時刻」は punkt, 「時間」は長さとして定義してしまえないことになる。
- 。「タイム」「アワー」と「時間」「時刻」と、共通の場面はほとんどないのではない。ただ「～を計る」だけは、「タイム」にも当てはまる。しかしこれはスポーツ専用の使い方で、「時間を計る」が、「しおどきをみる」の意味に使われるのとは別の語。
- 。「タイム」はしいていえば「時間」にあたるべく、したがって「時刻」的な面もある。
- 。「アワー」は完全に「時間」にあたり、「時刻」にはあたらない。

帳 場	カ ウ ン タ ー	フ ロ ン ト
和風の旅館、飲食店、商店などで客が料金を支払い、会計係、もしくは番頭がすわり、会計の用品（金庫、帳簿、金銭出納機など）を置いてあるところ。	レストラン、喫茶店、デパートなど洋風の帳場。	ホテルの受付。部屋を決めたり、鍵をあずけたり、手紙を受け取ったりするところ。料金もここで払うが、会計をもっぱら扱う場所ではない。

	バーの場合はとまり木によって飲食する台をも呼ぶ。	
場所は店の奥まったところにある場合と、入口(玄関)のすぐわきにある場合とあるようだ。		入口のすぐわき、ないし正面にある。

ゲ ー ム	マ ッ チ	レ ー ス	試 合	競 技
<p>娯楽、レクリエーションのために行なわれるあそびや運動に広く使う。</p> <p>①人間の運動能力の要素的なものを単純に競うもの。(走力、投力、etc)</p> <p>②やや総合的であっても、ごく単純に勝負がきまるもの(角力など)。</p> <p>③子供のための各種の用具を用いての遊戯、及び用具そのもの。</p> <p>④野球等の球技。</p> <p>⑤複雑なルールのもとで、行なわれるあそび。</p>	<p>試合に近い。</p> <p>対戦、決戦、勝負という感じが強く、能力、技量その他において、比較的对等の関係に立ち得ると考えられた両者の間で行なわれるもの。</p>	<p>スピードを競いあうもの。</p> <p>一定の距離の間で、または一定の目標をめざして、二者以上が競いあうもの。</p>	<p>マッチに近い意味をもつが、適用範囲はより広汎である。</p>	<p>ゲームの場合とは逆に、</p> <p>①要素的な能力を競いあうもの</p> <p>②比較的に単純なルールのもの</p> <p>③個々人の演技を競いあうものに用いられる。</p>
<p>個人個人の演技や優劣が、そのまま評価されるようなものには用いられない。</p>	<p>どちらが勝ち、どちらが負けるかという点に強く注目していることばのように思われる。</p>	<p>比喩的に、一定の目標をめざして、せりあい、競いあう関係が、距離感覚、時間感覚を伴って成立すれば、このことばを使い得る。</p> <p>ペナント～。</p>		<p>娯乐的ニュアンスは全くなく、ややフォーマルな感じをもつ。</p>

ラ イ ス	め し	ご は ん
現在の日本では、「米」の意よりも「めし・ごはん」の意の方が強い。	①米を炊いたもの。②毎日時をきめてする食事。	午饭（ひるめし）の意もあるが、ここでは御飯。
料理用語。 発生当時はハイカラな食べ物であり名称であった。	（ライス、ごはん、めしのうち）もっとも古くからの名称。 ややぞんざいな感じを与える。女性間や一般にも、ていねいに言うときは、この語を避けている。	めし・食事の敬語、今ではていねい語として普及。やや女性的、話しことば的。 「私、ごはんを食べてくるわ」
洋食系のいわゆる <u>ごはんも</u> <u>の</u> にライスをあてた。		

オーケストラ	バンド	アンサンブル	ソサエティ
交響楽を演奏することのできる弦・管・打その他それぞれの各楽器の大編成による管弦楽団をいう。	楽隊とか楽団の意味で使う。 たとえば、 ブラスバンド ジャズバンド	二人以上（二つ以上の楽器）による合奏、重唱、重奏の場合に。	演奏する楽器の種類や数には区別界限はなく、同好者の集まりとしてのグループ合唱、合奏がなされること。
		音楽方面とは別に、被服方面において、そろいの上下のものをさすという。	

オーケストラ	バンド	楽 団	楽 隊
クラシック	ハワイアン	音楽一般	所謂チンドン屋

2. 3. 使い分けの実態調査——実験テストによる

前節に記述したアンケートの結果を見渡してみると、このように、類義語の使い分け、あるいは意味のへだたりというようなものの意識を、個人個人について分析した場合には、こまかいところでは、かなりの個人差がありそうだとすることが、当然予想される。

そこで、さきのアンケートによって指摘されたような意味のへだたり、また、それに伴う使い分けが、実際に、どの程度、多くの人々に共通するものか、それには、性別・年齢などで違いがあるかどうか、こうしたことを調べるために、実験テストを実施した。

2.3.1. テストの方法

大学生 258 名を対象として、1962年11月に、類義語の使い分けの実態を調べるための実験テストを実施した。このテストには、前述のアンケートによって、その使い分けが、かなりはっきりととらえられているものの中から、一般に、ある程度なじみのありそうな類義語21組を選んで出題した。その際、テスト問題を、甲・乙の2系統に分け、3語以上が1組となる類義語については、次のように、2語ずつの組み合わせで、2系統にわたって質問した（組み合わせは、アンケート結果を用いて、使い分けの分れめ・問題点が出て来そうな組み合わせにした）。

例1 ほこり／ちり／ごみ／くず／かす

甲系統、8. ごみ／くず 乙系統、8. ごみ／ちり

11. ちり／ほこり 11. かす／くず

例2 スカーフ／マフラー／えりまき／かたかけ

甲系統、10. えりまき／かたかけ 乙系統、10. マフラー／スカーフ

例3 ピーナッツ／南京豆／落花生

甲系統、12. 南京豆／落花生 乙系統、12. ピーナッツ／南京豆

これは、3語以上の類義語の意味の違いなどを、一度に比較して答えることは、被験者の負担が大きすぎ、時間的にも無理だと判断したからである。

このテストの集計結果は、「V. 実験テスト集計表他——テスト1」の<1>から<21>まで（甲・乙両系統とも）にあげてある。

また、この大学生テストのテスト問題のうち、「甲12. 南京豆／落花生」「乙12. ピーナッツ／南京豆」は、長岡市における「国民各層の言語生活の実態調査」の「面接調査⁷²」に、「甲乙19. うち／いえ」「甲15. カップ／コップ」「甲乙7. 貯金／預金」は、同じく「会社調査」に重複して出題してある。「会社調査」の集計結果は、「テスト結果の集計表——テスト2」に収められている。

テスト問題は、主として、アンケート結果を整理したなかから選んだ。

2.3.2 テスト結果の分析

全般的な様相（大学生調査）

まず、テスト結果に現われた全般的な様相を観察すると、さきのアンケートで指摘された主要な点については、アンケートの回答と一致したテスト結果が得られている。しかし被験者の8割以上が、同一の反応を示したものは、128問中66問で、意外に少なかった。このことは、一つには、それぞれの類義語の使い分けをめぐる、人々の意見が分かれそうな微妙なところを、各類義語セットについて、1問程度ずつ入れたことにもよる。それにしても、ある観点からみれば、きわめて明白な使い分けがありそうに見える、これらの類義語においても、観点によっては、使い分けの有無についての意見が、かなり分かれることがあるという事実は、この調査全般にわたって指摘することができよう。また、さらに、アンケート調査によっても、辞書などの記述によっても、きわめて明白な使い分けがありそうに思われる点においても、こうした調査を実施してみると、その使い分けについて、全員の見解が一致するようなことは、ごくまれであって、1割から2割程度、見解を異にする人が出るのが普通だということも、この調査から推定される。

次に、このテストの各問についての答えの傾向を、統計的に求めてみると、128問中、114問については、一往の傾向が出てくる。その問いについての答えの傾向が、まったくつかめないほど、被験者の意見が分かれ、まちまちの答えが出たものは、14問であった。もちろん、この、傾向がつかめないほど答えがまちまちになった14問の中には、問いそのものが、あまりに微妙な点をつきすぎていたり、あるいは、アンケートのうちの特殊な個人の見解を、そのままこのテストの問いとしたりしたために、こうした結果が出たものもある。しかし、男女で意見が分かれたために、全体としては、傾向が出なかったというような問いもないではない。

以下、「テスト1——類義語の使い分け等についての調査」の、〈1〉から〈21〉までのテスト結果について、被験者全員の傾向に注目して分析していくことにする（「Ⅴ．実験テスト集計表他」参照）。

もり／はやし<⊕甲乙——1>

⑦④⑤のテスト結果から、次の3点についての使い分けは、被験者に強く支持されていると認められる。

○「もり」の方が、「はやし」よりも木が密集してたくさんしげっている。——⑦

○神社のまわりの木立を呼ぶのには、「はやし」よりも「もり」の方を用いる。——④

○「もり」の方が「はやし」よりも、神秘的・夢想的な感じがする。——⑤

しかし、次の使い分けは、②のテスト結果からみて、あまり意識されていないように思われる。

○山の木立をさす場合には「もり」を用い、平地の木立をさす場合には「はやし」を用いるという使い分け。——⑦

どろ／つち<⊕甲乙——2>

このテストでとりあげた、次の4点においては、この2語の間に使い分けが意識されているものと認められる。

○「どろ」の方が、「つち」よりも、しめりけが多い。——⑦

○壁に塗るものを呼ぶのには、「どろ」よりも、「つち」を用いる。——④

○どぶの底にたまっているのを呼ぶときには、「つち」よりも、「どろ」を用いる。——⑦

○畑の土壌という意味では、「どろ」と呼ぶよりも「つち」と呼ぶ。——⑤

つな／なわ<⊕甲乙——③>

このテストの結果には、次のような使い分けの傾向がみられた。

○「つな」の方が、「なわ」よりも太さの太いものをさす。——⑦

○罪人をしばりあげるために使われるのは、「つな」と呼ぶよりも「なわ」と呼ぶ。——④

○舟や材木など重いものをひっぱるのに使うのは、「なわ」と呼ぶよりも「つな」を用いて呼ぶ。——⑦

○わらでできているのをさす時には、「つな」よりも「なわ」を用いる。——⑤

ズボン／スラックス<⊕甲乙——4>

○女性用のを呼ぶのには、「ズボン」よりも「スラックス」を用いる。——⑦

○足首まである、たけの長いものを呼ぶには「ズボン」を用い、ひざぐらいまでの長さの、たけの短いものを呼ぶのには「スラックス」を用いる。——④

○上着とそろっているのを呼ぶのには、「スラックス」よりも「ズボン」を用いる。——⑦

○足や体にぴったりと、細く仕立ててあるのを呼ぶ時は、「ズボン」よりも「スラックス」を用いる。——⑤

以上の4点についての使い分け意識が、認められた。

クラブ／サークル<⊕甲乙——5>

この2語については、次のようなことが確かめられた。

- 「サークル」の方が「クラブ」よりも新しい語である。——㉗
- 趣味的な集団は、「クラブ」を用いて呼び、研究的な集団は「サークル」を用いて呼ぶ。——㉘
- スポーツの集団を呼ぶのには、「サークル」よりも、「クラブ」を用いる。——㉙
- 「クラブ」の方が、「サークル」よりも、人数の多い集団をさす。——㉚

パジャマ／ネグリジェ<㉛甲乙——6>

- （「パジャマ」は男女とも着用するが、）「ネグリジェ」は、女性だけが着用するものをさす。——㉜
 - 「パジャマ」は、上衣とズボンに分かれているものをさすが、「ネグリジェ」は、ワンピース型のものをさす。——㉝
 - 「パジャマ」の方が、「ネグリジェ」よりも、実用的である。——㉞
- 以上の3点についての意識は、はっきりととらえられたが、次の点については、被験者の意見がまちまちになり、一般的な傾向はわからなかった。
- 「パジャマ」は、寝ている時だけ着るものをさすが、「ネグリジェ」は、寝室着としても着るものをさすという意識。——㉟

したがって、「ネグリジェ」を、寝室着と規定するような意識は、あまり強くないと考えられる。

貯金／預金<㉞甲乙——8>

このテストにとりあげた、次の4点については、いずれも、はっきりした使い分けの傾向が認められた。

- 郵便局に預ける場合には「貯金」を用い、銀行に預ける場合には「預金」を用いる——㊱
- 「預金」よりも、「貯金」の方が、やさしいことばという感じがする。——㊲
- 金額としては、「貯金」よりも「預金」の方が、高額のものをさす。——㊳
- 自分で積み立てたり、たくわえたりする金と呼ぶ場合には、「預金」よりも、「貯金」を用いて呼ぶ。——㊴

かす／くず／ごみ／ちり／ほこり <㊵甲——8, 乙——8, 甲——11, 乙——11>

- カンナ・ノコギリなどを使うと出てくるものと呼ぶ場合には、「かす」よりも、「くず」を用いて呼ぶ。<甲——8, ア>
- 料理をしたあとで捨てるものと呼ぶ場合には「かす」「ちり」よりも「くず」か「ごみ」を用いて呼ぶ。<乙——11, ウ><乙——8, イ><甲——8, イ>

まず、<乙——11, ウ>の結果から、「かす／くず」では、「かす」を用いるよりも「くず」を用いて呼ぶ方が普通だとみられる。次に、「ごみ／ちり」の対立において、この問いを試みた<乙——8, イ>では、「ちり」は用いず、「ご

み」を用いて呼ぶという傾向が出ている。それでは「ごみ／くず」ではどうか。この点について<甲——8, イ>の結果をみると、両者の間には、はっきりした使い分けの傾向が見られない。したがって、以上の調査結果から、この意味の場合には、少なくとも「かす」「ちり」よりは、「くず」か「ごみ」を用いる傾向の方が強いと推定される。

- 紙きれ・布きれなど、紙や布の使いはしを呼ぶ場合には、「ちり」「ごみ」よりも「くず」を用いる。<乙——8, ウ><甲——8, ウ>

<乙——8, ウ>によると「ごみ／ちり」の対立においては「ごみ」が選ばれてはいるが、<甲——8, ウ>では「ごみ／くず」の対立で「くず」が選ばれている。したがって、「ごみ／ちり／くず」のうち、この意味の場合に「ちり」を用いる傾向は、きわめて弱く、「ごみ」か「くず」を用いるのが普通だと認められる。さらに「ごみ」か「くず」かと言えば、「ごみ」よりは、「くず」を用いて呼ぶ傾向の方が強いと推定される。

- ほうきで、はき集めて捨てるものを呼ぶのには、「くず」「ほこり」「ちり」よりも、「ごみ」を用いる。<甲——8, エ><甲——11, イ><乙——8, ア>

<甲——8, エ>の結果から、「ごみ／くず」では「ごみ」。<甲——11, イ>の結果から、「ちり／ほこり」では「ちり」ということになる。そこで、「ごみ」と「ちり」の間では、この意味の場合、どちらが選ばれるかについて調べた、<乙——8, ア>によると、「ごみ」を使う傾向が、はっきり現われた。

- 机や棚の上にだんだんにたまり、はたきではたきようなものを呼ぶのには、「ごみ」「ちり」よりも、「ほこり」を用いる。<乙——8, エ><甲——11, ウ>

「ごみ／ちり」について調べた<乙——8, エ>の結果では「ちり」。次に「ちり／ほこり」について調べた<甲——11, ウ>の結果では「ほこり」が選ばれている。したがって、「ごみ／ちり／ほこり」の中で、この意味の場合に「ごみ」を用いる傾向は、きわめて弱く、「ちり」か「ほこり」を用いる。さらに、「ちり」よりは「ほこり」を用いて呼ぶ傾向の方が一層強いと推定される。

- 「ほこり」の方が、「ちり」よりも、こまかい。<甲——11, ア>

これは、アンケート調査の回答とは、まったく逆の結果が出た点で興味深い。

- 大気中の微細な粒子を、科学的に呼ぶのには、「ほこり」よりも、「ちり」を用いて呼ぶ方が適している。<甲——11, エ>

- 水分などをしぼり取った、残りを呼ぶのには、「くず」よりも「かす」を用いる。

<乙——11, ア>

- 液体の底にたまった不純物などを呼ぶ場合には、「くず」よりも「かす」を用いて呼ぶ。<乙——11, イ>

- 人々が選り抜いたあとに残ったものを呼ぶときには、「くず」よりも「かす」を用いる。<乙——11, エ>

きり／もや／かすみ<⊕甲——9, 乙——9>

- 「もや」「かすみ」よりも、「きり」の方が、見通しが悪い（密度が濃い。）——
<甲——9, ア><乙——9, ア>

「きり／もや」について調べた<甲——9, ア>においても、「かすみ／きり」について調べた<乙——9, ア>においても、「きり」の方が、見通しの悪い状態をさすという結果が出ている。

- 遠くにたなびいている場合には、「きり」よりも、「もや」を用いて呼ぶ。——
<甲——9, イ>

- 自分自身がつつまれてしまった場合には。「もや」よりも、「きり」を用いて呼ぶ。
<甲——9, ウ>

- 夜間に発生したものを呼ぶのには、「かすみ」よりも、「もや」か「きり」を用いて呼ぶ。<甲——9, エ><乙——9, イ>

「かすみ／きり」について調べた<乙——9, イ>では、この場合には「きり」を用いるという傾向がみられるが、「きり／もや」について調べた<甲——9, エ>においては、答がまちまちになり、傾向はとらえられなかった。この結果から、この意味の場合には、「きり／もや／かすみ」の中で、少なくとも「かすみ」を用いるという意識は弱いと認められる。

- 気象上のことばとしては、「かすみ」よりも、「きり」の方が適している。<乙——9, ウ>

- 「きり」よりも、「かすみ」の方が、文学的なことばである。——<乙——9, エ>

かたかけ／えりまき／マフラー／スカーフ<⊕甲——10, 乙——10>

- （「かたかけ」「スカーフ」は、女性だけが用いるが、）「えりまき」「マフラー」は、男女とも用いる。<甲——10, ア><乙——10, イ>

「えりまき／かたかけ」について調べた<甲——10, ア>では、「かたかけ」に男女とも着用するという答えが集中した。一方、「マフラー／スカーフ」について調べた<乙——10, イ>においては、「スカーフ」に、男女とも着用という答えが集中し、はっきりした傾向が認められた。

- 洋服の場合に用いるとしたら、「かたかけ」ではなく、「えりまき」である。——
<甲——10, イ>

- 「かたかけ」には装飾的な感じがあり、「えりまき」の方が実用的な感じがする。
<甲——10, ウ>

- 毛皮でできているのを呼ぶ場合には、「かたかけ」よりも、「えりまき」を用いる。<甲——10, エ>

- 頭にもかぶるのを呼ぶ場合には、「マフラー」よりも、「スカーフ」を用いる。——
<乙——10, ア>

○四角い形のものをさす場合には「スカーフ」を用い、細長い形をしているのをさす場合には「マフラー」を用いる。〈乙——10, ウ〉〈乙——10, エ〉

落花生／南京豆／ピーナッツ〈⊕甲——12, 乙——12〉

○植物の名として言う場合には、「南京豆」よりも「落花生」を用いて呼ぶ。——〈甲——12, ア〉

○殻をかぶったままの、なまの実を呼ぶのには、「ピーナッツ」「南京豆」よりも、「落花生」を用いる。〈甲——12, イ〉〈乙——12, ア〉

「ピーナッツ／南京豆」について調べた〈乙——12, ア〉によると、「南京豆」を用いるという傾向が出たが、〈甲——12, イ〉によると、「南京豆／落花生」については、「落花生」に答えが集中した。したがって、「ピーナッツ／南京豆／落花生」のなかで、この意味の場合に「ピーナッツ」を用いる傾向は、きわめて弱く、「南京豆」か「落花生」を使うという意識が強い。さらに、「南京豆」よりも「落花生」を用いて呼ぶ方が、普通だと認められる。

○煎って殻を取り去った、赤茶色の皮の豆を呼ぶのには、「落花生」よりも、「南京豆」か「ピーナッツ」を用いて呼ぶ。〈甲——12, ウ〉〈乙——12, イ〉

〈甲——12, ウ〉の結果によると、「南京豆／落花生」では、この場合には「南京豆」を用いて呼ぶという傾向が、強く認められている。そこで、「南京豆／ピーナッツ」について調べた〈乙——12, イ〉の結果をみると、ここには、はっきりした傾向は出ていない。したがって、この意味の場合「落花生／南京豆／ピーナッツ」のうち、少なくとも「落花生」はあまり用いられないという点は確かめられたが、「南京豆」を用いて呼ぶのと、「ピーナッツ」を用いて呼ぶのとでは、どちらが一般的かは、確かめられなかった。

○バターや塩で味をつけた白い豆を呼ぶのには、「落花生」「南京豆」よりも、「ピーナッツ」を用いる。〈甲——12, エ〉〈乙——12, エ〉

「南京豆／落花生」について調べた〈甲——12, エ〉の結果では、この場合には「南京豆」を用いて呼ぶという傾向が、一往出ている。次に「ピーナッツ／南京豆」で調べた〈乙——12, エ〉の結果をみると、圧倒的に「ピーナッツ」が選ばれている。したがって、この意味の場合、「落花生／南京豆／ピーナッツ」のうち、少なくとも「落花生」を用いる意識は弱く、「南京豆」か「ピーナッツ」を用いる傾向の方が強いようであるが、どちらかといえば、「ピーナッツ」を用いるのが、もっとも一般的な傾向と見られる。

○殻のまま煎ったものを呼ぶのには、「ピーナッツ」よりも、「南京豆」を用いる。〈乙——12, ウ〉

セーター／カーディガン／ジャケット〈⊕甲——13, 乙——13〉

○「ジャケット」には、男性だけが着用するものという意識があるが、「セーター」「カーディガン」には、男性用のものをさすとか女性用のものをさすとかいう意識

はない。〈甲——13, ア〉〈乙——13, ア〉

〈甲——13, ア〉の結果によると「セーター／カーディガン」においては、こうした点での使い分けは、認められない。しかし、「セーター／ジャケツ」について調べた〈乙——13, ア〉では、「ジャケツ」は男性用のものをさすという傾向が、一往認められる。

- 「セーター」は、頭からかぶって着る型のものをさし、「カーディガン」「ジャケツ」は、前あきでボタンでとめる型のものをさす。〈甲——13, イ〉〈乙——13, イ〉

「セーター／カーディガン」について調べた〈甲——13, イ〉では、「カーディガン」に、前あき型をさすといふ傾向が、はっきり現われ、また「セーター／ジャケツ」について調べた〈乙——13, イ〉では、「ジャケツ」に、この傾向が現われている。したがって、「セーター／カーディガン／ジャケツ」において、「カーディガン」と「ジャケツ」には、前あき型をさすといふ意識があるが、「セーター」には、こうした意識は弱く、むしろ「頭からかぶる型」のものをさすといふ意識があるのではないかと推定される。

- 「セーター」は、そでの短いものをさし、「カーディガン」「ジャケツ」は、そでの長いものをさすといふ使い分けは認められない。〈甲——13, ウ〉〈乙——13, ウ〉

「セーター／カーディガン」について調べた〈甲——13, ウ〉においても、「セーター／ジャケツ」について調べた〈乙——13, ウ〉においても、はっきりした傾向は現われなかった。したがって、「セーター／カーディガン／ジャケツ」を、この観点から区別する意識は、あまり強くないと考えられる。

- 「セーター」「カーディガン」は、「ジャケツ」よりも薄手のものをさす。——〈甲——13, エ〉〈乙——13, エ〉

〈乙——13, エ〉によると、「セーター」の方が、「ジャケツ」よりも薄手のものをさすといふ傾向が認められるが、「セーター／カーディガン」について調べた〈乙——13, エ〉では、この場合に、どちらが薄手かという傾向は出なかった。したがって、「セーター／カーディガン／ジャケツ」のうち、少なくとも「ジャケツ」は、やや厚手のものと意識されているように思われる。

バルコニー／ベランダ／テラス〈甲——14, 乙——14〉

- 屋根がついているか、雨ざらしになっているかという点から「バルコニー／ベランダ／テラス」を区別する意識はない。〈甲——14, ア〉〈乙——14, ア〉

「バルコニー／ベランダ」について調べた〈甲——14, ア〉においても、「ベランダ／テラス」について調べた〈乙——14, ア〉においても、この観点から区別して使い分けるといふ傾向は認められなかった。したがって、雨ざらしか否かは、これらの語を使い分けるポイントにはならないと推定される。

○2階・3階にあるものを呼ぶのには「バルコニー」を用い、1階にあるものを呼ぶのには、「ベランダ」を用いる。〈甲——14, イ〉

○庭に張り出しているものを呼ぶのには、「テラス」を用い、建物についているものを呼ぶのには、「ベランダ」を用いる。〈乙——14, イ〉

○「ベランダ付き」「テラス付き」よりも「バルコニー付き」の方が、高級な感じがする。〈甲——14, ウ〉〈乙——14, ウ〉

〈甲——14, ウ〉によると、「バルコニー／ベランダ」では、「バルコニー」の方が、「ベランダ」よりも高級な感じがするという傾向がみられる。一方、「ベランダ／テラス」について調べた〈乙——14, ウ〉においては、どちらの方が高級だというような傾向は現われなかった。したがって、「ベランダ」「テラス」よりは、「バルコニー」の方が高級なものと受け取られていると認められる。

○団地などの大きなアパートにみられる、各へやから出入りするたたきを呼ぶ場合には、「バルコニー」よりも、「ベランダ」か「テラス」を用いる。〈甲——14, エ〉〈乙——14, エ〉

「バルコニー」を用いて呼ぶか「ベランダ」を用いて呼ぶかについて調べた〈甲——14, エ〉においては、「ベランダ」を用いるという傾向が、はっきり認められる。しかし「ベランダ／テラス」について調べた〈乙——14, エ〉では、どちらを用いるという、はっきりした結果が出ていない。したがって、この場合、少なくとも「バルコニー」を用いるということは、一般的ではないと推定される。

カップ／コップ／グラス〈⊕甲——15, 乙——15〉

○金属や陶器など、ガラス以外でできているものを呼ぶのには、「グラス」よりも、「カップ」か「コップ」を用いる。金属の場合は「カップ」を用い、陶器の場合は「コップ」を用いて呼ぶ。——〈甲——15, ア〉〈甲——15, イ〉〈乙——15, ア〉

〈乙——15, ア〉の結果から、ガラス以外でできている場合には、「グラス」は用いないという傾向がわかる。次に、金属製の場合については、〈甲——15, ア〉に「カップ」を用いるという傾向が出ている。また、陶器の場合については〈甲——15, イ〉に「コップ」を用いて呼ぶという傾向がとらえられている。

○取手がついているものを呼ぶのには、「コップ」よりも、「カップ」を用いる。〈甲——15, ウ〉

○「カップ」「グラス」よりも、「コップ」の方が、実用的な感じがする。〈甲——15, エ〉〈乙——15, ウ〉

「カップ／コップ」について調べた〈甲——15, エ〉においても、「グラス／コップ」について調べた〈乙——15, ウ〉においても、「コップ」の方が実用的だという答えが圧倒的に多い。

○「コップ」の方が、「グラス」よりも、形が大きい。〈乙——15, イ〉

○洋酒を飲むうつわを呼ぶ場合には、「コップ」よりも、「グラス」を用いる。——
＜乙——15, エ＞

ベテラン／エキスパート／オーソリティー＜⊕甲——16, 乙——16＞

○「ベテラン」の方が、「エキスパート」「オーソリティー」よりも、経験の深い、
熟練している人をさす。＜甲——16, ア＞＜乙——16, ア＞

「エキスパート／オーソリティー」について調べた＜乙——16, ア＞においては、どちらを選ぶ傾向が強いかは、はっきり出なかったが、「ベテラン／エキスパート」について調べた＜甲——16, ア＞には、「ベテラン」の方が、経験の深い人をさすという結果が出た。したがって、この点においては、「ベテラン／エキスパート／オーソリティー」のうち、「ベテラン」が選ばれる傾向が、もっとも強いと言える。

○仕事の内容が、知的なもの、高級なものの場合には、「ベテラン」「エキスパート」よりも、「オーソリティー」を用いる。＜甲——16, イ＞＜乙——16, イ＞

＜甲——16, イ＞から、「ベテラン／エキスパート」では、この場合「エキスパート」を選ぶ傾向がうかがわれるが、「エキスパート／オーソリティー」について調べた＜乙——16, イ＞では、「オーソリティー」の方が、より知的な、高級な仕事の場合に使われるという傾向が出ている。したがって、「ベテラン／エキスパート／オーソリティー」うち、少なくとも「ベテラン」は、この観点からは、あまり選ばれず、「エキスパート」「オーソリティー」が選ばれるのが普通のようなのである。そこで、「エキスパート」と「オーソリティー」では、ということになると、「オーソリティー」の方が、選ばれるようである。

○理論や技術はともかくとして、単に経験だけがある人をさす場合には、「オーソリティー」「エキスパート」よりも、「ベテラン」を用いる。——＜甲——16, ウ＞
＜乙——16, ウ＞

「エキスパート／オーソリティー」について調べた＜乙——16, ウ＞においては、「エキスパート」が選ばれる傾向が強いが、「ベテラン／エキスパート」について調べた＜甲——16, ウ＞では、「ベテラン」が選ばれている。したがって、この意味の場合には、「オーソリティー」よりは「エキスパート」を、「エキスパート」よりは、「ベテラン」を用いる傾向が強いと推定される。

○その道の第一人者をさす場合には、「ベテラン」「エキスパート」よりも、「オーソリティー」を用いる。＜甲——16, エ＞＜乙——16, エ＞

＜甲——16, エ＞の結果によると、この意味の場合には、「ベテラン／エキスパート」では、「エキスパート」を用いるという傾向が、一往出ている。しかし「エキスパート／オーソリティー」について調べた＜乙——16, エ＞では、「オーソリティー」を用いるという傾向が、きわめて強くうかがわれる。したがって「ベテラン／エキスパート／オーソリティー」において、この意味では、少な

くとも「ベテラン」はあまり用いられず、「エキスパート」か「オーソリティー」が一般的だと見られるが、「エキスパート」か「オーソリティー」かと言うことになる、「オーソリティー」を用いるのが、もっとも普通のようなのである。

オーケストラ／バンド／楽隊／楽団<因甲——17, 乙——17>

- 町を行進する音楽隊を呼ぶのには、「オーケストラ」「楽団」よりも、「バンド」「楽隊」を用いる。<甲——17, ア><乙——17, イ>

「オーケストラ／バンド」について調べた<甲——17, ア>においても、「楽団／楽隊」について調べた<乙——17, イ>においても、それぞれ、「バンド」「楽隊」を用いるという傾向が、きわめてはっきりと現われている。

- ジャズ系統の音楽の場合には「バンド」を用い、クラシック系統の音楽の場合には「オーケストラ」を用いる。<甲——17, イ>

- 「オーケストラ」の方が、「バンド」よりも、人数、組織など、規模が大きい。——<甲——17, ウ>

- 「欧州に演奏旅行を続ける～」「放送局専属の～」などの文脈には、「楽隊」よりも、「楽団」の方が、あてはまる。<乙——17, ア><乙——17, エ>

これは、文脈から語を選ぶ形になってはいるが、問題文の内容は<甲——17, イ><甲——17, ウ>と通じるものをもっている。したがって、クラシック系統の音楽の場合、および人数・組織など規模の大きい場合には、「楽団」を用いると解釈することも、できなくはない。もし、これが可能なら、これらの場合には、「楽団」と「オーケストラ」は、ほぼ、同じように用いられる傾向があるとみることができよう。

- サーカス小屋などで、演奏する人々を呼ぶのには、「オーケストラ」「楽団」よりも、「バンド」「楽隊」を用いる。<甲——17, エ><乙——17, ウ>

ちかごろ／ひと／さきごろ<因甲——18, 乙——18>

- 「～はやった帽子」この文脈には、「ひと／さきごろ」は、おちつくが、「ちかごろ」は、おちつかない。<甲——18, ア><乙——18, ア>

- 「～町の人口が急にふえてきた」この文脈には、「ちかごろ」はあてはまるが、「ひと／さきごろ」は、あてはまらない。——<甲——18, イ><乙——18, イ>

- 「～どうも胃の調子がわるい」この文脈には、「ちかごろ」はあてはまるが、「ひと／さきごろ」は、あてはまらない。——<甲——18, ウ><乙——18, ウ>

- 「～からみると、景気もかなりよくなってきた」この文脈には、「ひと／さきごろ」は、あてはまるが、「ちかごろ」は、あてはまらない。<甲——18, エ><乙——18, エ>

うち／いえ<㊤甲乙——16>

○「土地と～を買う」この文脈には、「うち」よりも、「いえ」の方が、あてはまる。

——㊦

○「～の家族は、みなスポーツが好きです」この文脈には、「いえ」よりも、「うち」の方が、あてはまる。——㊧

○「～の格式を重んじる」この文脈には、「うち」よりも、「いえ」の方が、あてはまる。——㊨

○「あしたは～にいない」この文脈には、「いえ」よりも、「うち」の方が、あてはまる。——㊩

学生／生徒<㊤甲乙——20>

○「女子大の～」この文脈には、「生徒」よりも、「学生」の方が、あてはまる。——

㊦○「高等学校の～」「洋裁学校の～」「女子高校の～」これらの文脈には、すべて、「学生」よりも、「生徒」の方が、あてはまる。——㊧㊨㊩

失敗／過失<㊤甲乙——21>

○「ちょっとした～が大火の原因になる」この文脈には、「失敗」よりも、「過失」の方が、あてはまる——㊦

○「事業の～を苦にして病気になる」^{*}「交渉の～の責任をとる」「相手の～に乗じて、優勝する」これらの文脈には、すべて「過失」よりも、「失敗」の方が、あてはまる。——㊧㊨㊩

男女による使い分け意識の相違（大学生調査）

男と女の間で、使い分けの意識の異なる類義語には、どんなものがあるか、また、ある類義語において、どんな意味・用法の場合に、男女の意識に相違が出てくるかを調べるために、前述の「類義語の使い分け等についての調査」のテスト結果を、男女別に集計して、両者の比較を試みた。その集計結果は、「V. 実験テスト集計表他」の「テスト1」の集計表に収めてある。

このテストにおいて、男子と女子の間に、一往、反応の相違が認められたものについて、次に記述する。

どろ／つち<㊤甲乙——2, イ>

○壁にぬるものを呼ぶ場合——女子では、弱いながらも「つち」を用いて呼ぶという傾向が出たが、男子の傾向は求められなかった。しかし、両者の間に有意差はない。

ズボン／スラックス<㊤甲乙——4, イ>

○ひざまでの、たけの短いもの——男子には、「スラックス」を使って呼ぶという傾

向が出、女子には、はっきりした傾向が出ていない。両者の間には有意差が認められる。

クラブ／サークル<⊕甲乙——5, イ>

○研究的な集団——男子には、「サークル」と呼ぶという傾向が、はっきり出ているが、女子には、傾向が出ていない。有意差あり。

パジャマ／ネグリジェ<⊕甲乙——6, イ>

○ネグリジェを「寝室着」と規定する意識——男女とも、こうした意識があるという傾向は出ていない。しかし、男子では「パジャマ」が43.9%, 女子では、ネグリジェが28.1%の回答率を占めており、男女でまったく異なった分布を示している。両者の間には、明らかな有意差が認められた。

ごみ／くず／ちり<⊕甲——8, ウ><乙——8, ウ>

○布や紙の使いはし——「ごみ／くず／ちり」の中で、「くず」を使う傾向が強い点では、男女とも一致しているが、「ごみ／ちり」について調べた<乙——8, ウ>では、男子の場合、はっきりした傾向が出なかった。女子においては、「ごみ／ちり」では「ごみ」, 「ごみ／くず」では「くず」を用いるという傾向がみられる。しかし、男女の間に有意差はない。

落花生／南京豆／ピーナッツ<⊕甲——12, 乙——12>

○煎って殻を取り去った、赤茶色の豆——男子ではこの場合, 「落花生／南京豆／ピーナッツ」のなかで, 「ピーナッツ」を用いるという傾向が出たが, 女子では「ピーナッツ」か「南京豆」を用いるという結果になった。すなわち, 男子では, 「南京豆／落花生」について調べた<甲——12, ウ>においては傾向が認められなかったが, 「ピーナッツ／南京豆」について調べた<乙——12, イ>では, 「ピーナッツ」を用いるという, はっきりした傾向が出た。一方, 女子では, 「南京豆／落花生」においては, 「南京豆」を用いて呼ぶという傾向が出たが, 「ピーナッツ／南京豆」では, 特にどちらを用いるというような傾向は求められなかった。ただし, 2問とも, 男女間の有意差はない。

○バターや塩で味をつけた白い豆——<甲——12, エ><乙——12, エ>の結果によると, この意味の場合には, 「落花生／南京豆／ピーナッツ」のうち, 「ピーナッツ」を用いるという傾向が出た点では, 男女とも変わらない。しかし, 「南京豆／落花生」について調べた<甲——12, エ>において, 男子には, はっきりした傾向が出なかったのに対して, 女子には, 「南京豆」を用いるという傾向が認められた。男女間に有意差はない。

セーター／カーディガン／ジャケツ<⊕甲——13, エ><乙——13, エ>

○厚手か薄手か——男子には, 「ジャケツ」よりも「セーター」の方が薄手のものを

さし、「セーター」よりも「カーディガン」の方が薄手だという意識がみられるが、女子には、「セーター」と「カーディガン」を、厚手が薄手かで区別する傾向は認められない。

バルコニー／ベランダ／テラス<㊦甲——14, 乙——14>

○庭に、はり出しているもの——女子では、この場合には、「ベランダ」よりも、「テラス」を用いて呼ぶという傾向が出たが、男子では、特にどちらを使うというような傾向は出なかった。有意差あり。<乙——14, イ>

○各室から出入りする、アパートのたたき——女子では、この場合、「バルコニー」や「テラス」よりも、「ベランダ」を用いるという傾向が出た。男子には、「バルコニー／ベランダ／テラス」のうち、どれを用いるというような傾向は認められなかった。ただし、男女の間に有意差はない。<甲——14, エ><乙——14, エ>

カップ／コップ／グラス<㊦甲——15, 乙——15>

○金属製や陶器の場合——金属製や陶器など、ガラス以外のものの場合には、「グラス」を使わないという点(<乙——15, ア>)と、金属製の場合には、「コップ」よりも「カップ」を用いて呼ぶという点(<甲——15, ア>)とは、男女とも同じ結果になっている。しかし、陶器でできてるものは、「カップ」か「コップ」かについて調べた<甲——15, イ>において、男子には、「コップ」を用いるという傾向が出たが、女子には、傾向が出なかった。ただし、男女間に有意差なし。

○形が大きいもの——「グラス／コップ」について、どちらの方が形が大きいものをさすかという点を調べた<乙——15, イ>において、女子では、形の大きいものは、「コップ」を用いて呼ぶという傾向が出た。しかし、男子には、傾向が認められなかった。男女の間には有意差が認められる。

ベテラン／エキスパート／オーソリティー<㊦甲——16, エ><㊦乙——16, エ>

○その道の第一人者をさす場合——「ベテラン／エキスパート／オーソリティー」のうち、この場合には、「オーソリティー」を用いるという傾向は、男女とも変わらない。「ベテラン／エキスパート」について調べた<甲——16, エ>において、女子では、どちらを用いるというような傾向が認められなかったが、男子には、「ベテラン」よりは、「エキスパート」を用いるという傾向が出た。ただし、男女間に有意差はない。

ちかごろ／ひところ／さきごろ<㊦甲——18, ア><㊦乙——18, ア>

○へはやった帽子——男子では、この文脈には、「ちかごろ」よりも、「ひところ」「さきごろ」の方が、あてはまるという傾向が出ている。女子においては、「ちかごろ」よりも「ひところ」の方が、おちつくという点では、男子と同じ傾向を示したが、「さきごろ／ちかごろ」について調べた<乙——18, ア>には、はっきりした傾向が出てこなかった。ただし、男女の間に有意差は認められない。

年齢層による使い分けの相違

「テスト．２」の「長岡市の会社調査」の、「２．うち／いえ」「３．カップ／コップ」「４．貯金／預金」の３題は、語の使い分けの、年齢による相違を調べるために、「国民各層の言語生活の実態調査」の一環として実施したものである。

調査結果は、全体としては、さきに述べた「テスト１．類義語の使い分け等についての調査」の「＜㊦甲・乙——１９＞うち／いえ」「＜㊦甲——１５＞カップ／コップ」「＜㊦甲乙——７＞貯金／預金」の調査結果とほぼ一致し、傾向の異なるものは一つもない。しかし、年齢層別にみると、ある程度、各年齢層の間に、傾向の異なるものが認められる。以下、年齢層を三つに分け、各層の傾向が、一致していないものについて記述する。

うち／いえ＜㊦——２＞

○土地と～をを買う——被験者全体の傾向としては、この文脈には、「いえ」があてはまるという傾向が出ている。これを年齢層別にみると、中年層・低年齢層では、「いえ」を選ぶ傾向が認められるが、高年齢層では、ぜんぜん傾向がつかめないほど、反応がまちまちになっている。しかし、年齢層の間の有意差はない。

○山の上に～が３軒ある——全体としては、「いえ」を用いるという傾向が出ている。年齢層別にみると、高年齢層と中年層では「いえ」を選ぶ傾向が出ているが、低年齢層では、傾向が出ていない。そして、中年層と低年齢層との間には、有意差なし。＜㊦２——オ＞（この問いは、「テスト．２」で新設したもので、「テスト．１」の＜㊦甲乙——１９＞には含まれていない。）

カップ／コップ＜㊦——３，イ＞

○陶器製の場合——全体としては、この場合「コップ」を用いるという傾向がみられる。年齢層別には高年齢層・中年層において、弱いながらも、「コップ」を用いるという傾向が、一往出たが、低年齢層では、「どちらも用いる」という答えが多く、傾向が認められない。年齢層の間に、有意差はない。

貯金／預金＜㊦——４，ウ＞

○どちらが高額か——全体の傾向としては、この場合「預金」が選ばれている。年齢層別にみると、高年齢層・中年層では「預金の方が、高額のものをさす」という傾向が、はっきり現われたが、低年齢層では、傾向が認められない。そして、高年齢層と低年齢層の間には、明らかな有意差がある。その他の年齢層の間には、有意差は認められない。

類義語の特別な使い分けと一般の意識

専門分野・職業分野などにより、それぞれの分野では、一般に広く使われている類義語に対して、特別な定義をして使い分けている場合が、しばしばある。また、類義的な語であっても、専門的な立場でものを言うときには、一方の語しか用いないというような場合もある。さきに記述したアンケートにおいても、こうした面での使い分けに言及した回答者も、かなりあった。

そこで、前述の実験テスト（大学生調査）にとりあげた類義語のうち、特定分野における、専門的な特別な使い分け、または、それに類することがらが、一往考えられるものについて、そうした使い分けが、このテストの結果と、どの程度一致しているかについて調べてみた。もちろん、このテストは、大学生を対象として、一般的な、意味・用法の使い分けを調べたもので、一・二の例外をのぞいては、特に、専門的な使い分けを意識しているか否かは調べていない。したがって、以下の記述の大部分は、類義語についての、ごく一般的な使い分けの意識が、専門分野での定義なり、使い分けなりに一致しているか否かという観点から記述することになる。

その結果は、だいたいにおいて、特定分野での専門的な定義や、特別な使い分けも、一般の意識と、それほど、かけはなれていないようにみられる。しかし、中には、一般の意識と、ややずれているのではないかと考えられるようなものが、なかったわけではない。

貯金／預金

○貯蓄銀行法・国民貯蓄組合法をはじめ、法律の方面では、「郵便貯金」「銀行預金」「農林中央金庫預金」「農業協同組合貯金」「信用協同組合貯金」というように、「貯金」と「預金」は、区別して使われている。このうち、郵便局に預けるのは「貯金」と呼び、銀行に預けるのは「預金」と呼ぶという使い分けをとりあげて、調べてみた。

＜Ⓐ甲 2——7, ア＞＜Ⓑ——4, ア＞のテスト結果によると、この使い分けは、性別・年齢にかかわらず、一般の意識ともほぼ一致した使い分けだと考えられる。

きり／もや／かすみ

○気象学の方面では、水平方向の見通し（視程）1,000メートル以内の場合に、「きり」と呼び、視程1,000メートル以上の場合に、「もや」と呼ぶという使い分けがある。すなわち、「きり」と「もや」は、見通しがよいかわるいかによって区別され

ている。そこで、「きり」の方が、「もや」よりも見通しのわるいものをさすという意識が、一般にもあるかどうか、この点について、＜㊤甲——9, ア＞の結果によると、「きりの方が見通しがわるい」という答えは、61.5%, 逆に「もやの方が見通しがわるい」という答えが、30.0%あった。したがって、気象学上の、この使い分けは、一般の意識とそれほど、かけはなれたものではないとみられる。しかし、一致しているとは言いきれないようである。なお、男女の違いは、ほとんどないといってよい。

- 気象用語としては、「きり」「もや」は用いるが、「かすみ」は、用いられない。この点について、「きり／かすみ」の中で、「気象上のことばとして、どちらの方が適しているか」を調べた＜㊤乙——9, ウ＞によると、男女とも、圧倒的に、気象上のことばとしては、「かすみ」よりも、「きり」の方が適しているという答えが多かった。したがって、少なくとも「きり」に比べて、「かすみ」には、気象用語という意識がうすいと認められよう。

ちり／ほこり

- ＜㊤甲——11, ア＞の結果では、「ほこり」の方が、「ちり」よりも、こまかいという傾向が認められたにもかかわらず、「大気中の微細な粒子などを科学的に呼ぶときには、どちらの語の方が適しているか」を聞いた＜㊤甲——11, エ＞では、男女とも、6割以上の被験者が、「ちり」を選んでいる。専門語とまでは、言えないが、科学的なことばとして用いる際には、「ほこり」よりは、「ちり」を用いるという意識があるようである。

落花生／南京豆

- 植物学・農学などでは、植物名としては、和名「ナンキンマメ」を用いている。植物名として「落花生／南京豆」のうち、どちらを用いるかを調べた＜㊤甲——12, ア＞によると、男女とも8割前後の被験者が、「落花生」を用いると答え、「南京豆」を用いるという答えは、全体の18.5%にすぎない。したがって、植物名として「南京豆」を選ぶという意識は、きわめて弱いようである。

学生／生徒

- 教育の方面では、「児童／生徒／学生」を使い分け、小学校在学者を「児童」、中学・高校および各種学校の在学者を「生徒」、また、大学在学者を「学生」と呼んでいる。このうち、「学生／生徒」の使い分けについて、被験者の意識を調べた＜㊤甲, 乙2——20＞のテストでは、この使い分けと一致した結果が得られた。

2.4. 調査のまとめ

類義語の間の意味・用法の使い分けを調べてきた結果、語によっては、使い分けが、あいまいなものも認められるが、この調査では、むしろ、意味的にき

わめて類似していると見られる語でありながら、かなり明確に使い分けられているものが多い点に注目される。このことは、語彙整理や基本語彙の選定などにおいて、類義語を整理したり、いくつかの類義の語の中から、ある語を選定し、他をふるい落とししたりする際には、こうした使い分けに十分注意する必要があることを示している。

また、以上の調査によると、類義語の使い分けの意識は、性別・年齢などによって、さまざまな様相を示し、ときには個人個人で、かなりまちまちになることもあるようにみられる。言語の社会的機能を考えると、こうした使い分けが、人によって、あまりはなはだしくずれていては、コミュニケーションが妨げられることは言うまでもない。しかし、この点についての今回の調査は、まだ十分とはいえない。そこで、次にこれを補う意味で、長岡市民を対象として実施した「国民各層の言語生活の実態調査」の面接調査の結果を紹介し、性別・年齢層・学歴などによって、こうした類義語の使い分けが、どのような様相を示すかを、さらに詳しく述べることにする。

前節の最後にとりあげた、「特定分野での専門的な定義や特別な使い分け」をめぐっては、それが、一般の意識とずれているようなものも見うけられた。狭い専門分野や職業分野のみに通用しているものの場合には、このようなことも問題にはならないが、広く一般の社会にもちこまれているものにおいては、社会生活上、こうした使い分けが、正しく理解されていなくてはならない場合も多い。この点についての今回の調査は、被調査者が、ややかたよっているので、これについても、以下「長岡市面接調査」における類義語の使い分けの調査結果を紹介して、今回の調査の不備を補うことにする。

2. 4. 1. 長岡市面接調査について

この調査は、1962年に国立国語研究所が、長岡市において実施した「国民各層の言語生活の実態」に関する調査の一環として行なった、面接による聞き取り調査である。調査の全容については、別に報告書にまとめられるはずであるが、以下の記述に必要な範囲で、調査対象その他について、ごく概略を紹介しておく。

この面接調査の調査項目のうち、類義語に関するものは、次の4項目につい

ての質問である。

- (1) 落花生／南京豆／ピーナッツ
- (2) 弱震／軽震／微震
- (3) カメラ／写真機
- (4) ボクシング／拳闘

この章では、このうち「1）落花生／南京豆／ピーナッツ」と「2）弱震／軽震／微震」の2組をとりあげて、その調査結果を記述する（残りの2組の調査結果については、Ⅱ.3.3.5.で記述する）。

被調査者のサンプリングは、次のように行なった。

○長岡市民89,296人（1962年11月）のうち、15才以上、約59,000人の中からランダムに2,012人を抽出。

○2,012人に基礎調査票を配布し、1,663人分を回収。この中から、年齢・性別無記入、義務教育未修など条件不備のものを除き1,566人を、2次抽出の母集団とする。

○1,566人の中から、性別・年齢層・学歴により、290人を層化抽出法により抽出し、面接調査の調査対象とした。

以上の操作により抽出した290人は、次のような分布になっている。サンプリングの詳しい手続きや、サンプルの職業構成その他については、長岡調査の報告書にゆずる。

表 4

学 歴 性 別 年 令	義務教育終了			旧中・新高校			旧高専・新大学			計		
	全体	男	女	全体	男	女	全体	男	女	全体	男	女
16～23才	8	4	4	34	13	21	9	5	4	51	22	29
24～29才	10	4	6	14	6	8	7	6	1	31	16	15
30～34才	10	5	5	18	7	11	16	13	3	44	25	19
35～44才	20	10	10	27	10	17	35	28	7	82	48	34
45～54才	16	9	7	17	8	9	13	11	2	46	28	18
55～70才	16	9	7	8	5	3	12	10	2	36	24	12
計	80	41	39	118	49	69	92	73	19	290	163	127

注1) 学歴 「義務教育終了」は、小学校（高等小学校を含む）・国民学校・新制中学校を卒業のもの。

「旧中・新高校」は、旧中学校・旧高女・新制高校を卒業・中退または在学中のもの。

「旧高専・新大学」は、旧高専・旧師範・旧大学・旧通信講習所等、

および新制大学卒業・中退または在学中のもの。

注2) 年齢はすべて、1962年の間にその満年齢に達するもの。

2.4.2. 長岡市面接調査の結果

(1) 「落花生／南京豆／ピーナッツ」の使い分け——この調査項目は「落花生／南京豆」のセットについての問い(1.0～1.2)と、「南京豆／ピーナッツ」についての問い(1.3～1.5)とに分かれ、聞きとりは、実物写真を示しながら進めた。

この調査は、類義語の使い分けの実態を明らかにし、さらに、それが性別・年齢・学歴などの違いによって、どのような様相を示すかを知るために実施したものである。

<1.0>の結果によると「植物の名まえとしては、南京豆・落花生のどちらを選ぶか」については、全体の傾向は、やや「落花生」を用いるという答えが多いようである。性別では、女性には「落花生」を用いるという傾向が、男性よりも、わずかながら強い。年齢別では、24～34才の層に、「落花生」を用いる傾向が強くみられ、逆に55～70才の層には「南京豆」を用いる傾向が、比較的強いのではないかと見られる。また学歴別では、学歴が高い層ほど、「落花生」を用いる傾向が強くなっていくようである。

次に、この問いにおいて、へだたりの大きい二つの層、「中学歴(旧中・新高校)の女性の24～29才の層」と、「低学歴(義務教育修了)の男性の30～34才」をとり出して比べてみると、<1.0>の最下段のグラフのようになる。前者では「落花生」を用いるという答えが圧倒的多数を占め、後者では「南京豆」が過半数を制している。

<1.1>の「からをかぶったままの、なまの豆」の場合は、全体的には、わずかに「南京豆」と呼ぶという答えの方が多。性別では、男女とも「南京豆」と呼ぶという答えの方が、「落花生」よりも多いが、「落花生」の答えの出方は、男よりも女に多かった。年齢別にみると、30～34才の層が、比較的「落花生」という答えが多く、55～70才の層には「南京豆」という答えが、他に比べて多い。また学歴別にみると、学歴が高い層ほど「落花生」を用いるという答えが多くなってくるようである。

表 5

- 1.0 「南京豆」ということばと「落花生」ということばについておたずねします。畑などに生えている植物としてながめている場合には、その植物の名前としては「南京豆」と呼びますか。「落花生」と呼びますか。
1. 南京豆
 2. 落花生
 3. どちらも言う
 4. どちらも言わない

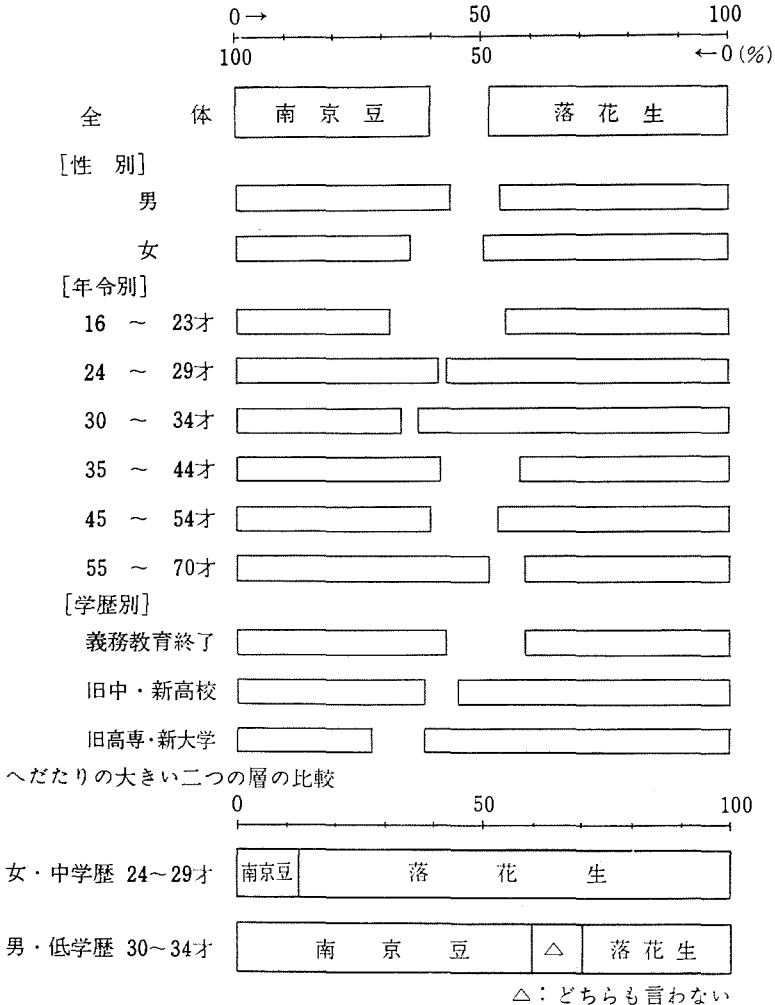
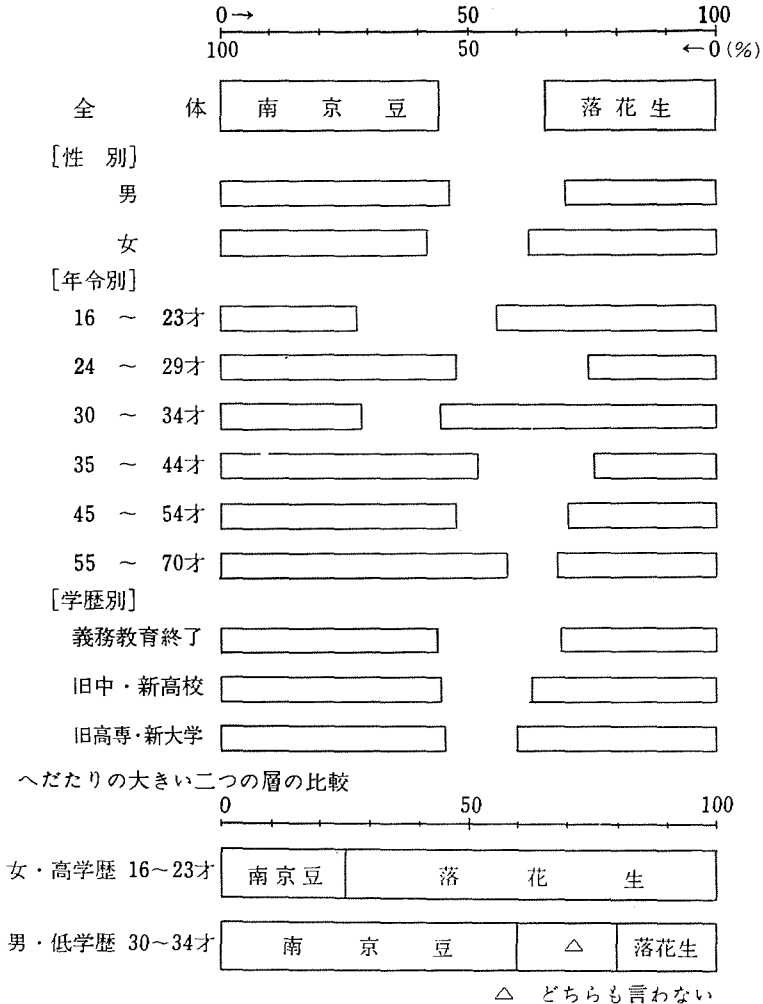


表 6

1.1 からをかぶったままの、なまの実を店で
買う場合には「南京豆」と言います
か。「落花生」と言いますか。

1. 南京豆
2. 落花生
3. どちらも言う
4. どちらも言わない



へだたりの大きい二つの層として「高学歴（旧高専・新大学）の女性の16～32才の層」と「低学歴の男性の30～34才の層」とをとり出して比較すると、前者では、「落花生」という答えが圧倒的に多く、後者では「南京豆」が6割を占めている。

＜1. 2＞の結果は＜1. 4＞の結果といっしょに述べる。

＜1. 3＞以下は「南京豆／ピーナッツ」のセットについての質問である。まず、＜1. 3＞の結果をみると、「ピーナッツ」を用いるという答えの比率はきわめて低い。性別では女子に、年齢別では24～29才の層に、また学歴別では低学歴層に、やや目立つ程度である。

しかし、へだたりの大きい層を二つ抜き出して比較すると、＜1. 3＞の最下段のグラフに示すように、「低学歴の女性の24～29才の層」においては、「ピーナッツ」の比率が5割を占め、「低学歴の男性の35～44才の層」の分布とは、たいへん異なる分布をしている。

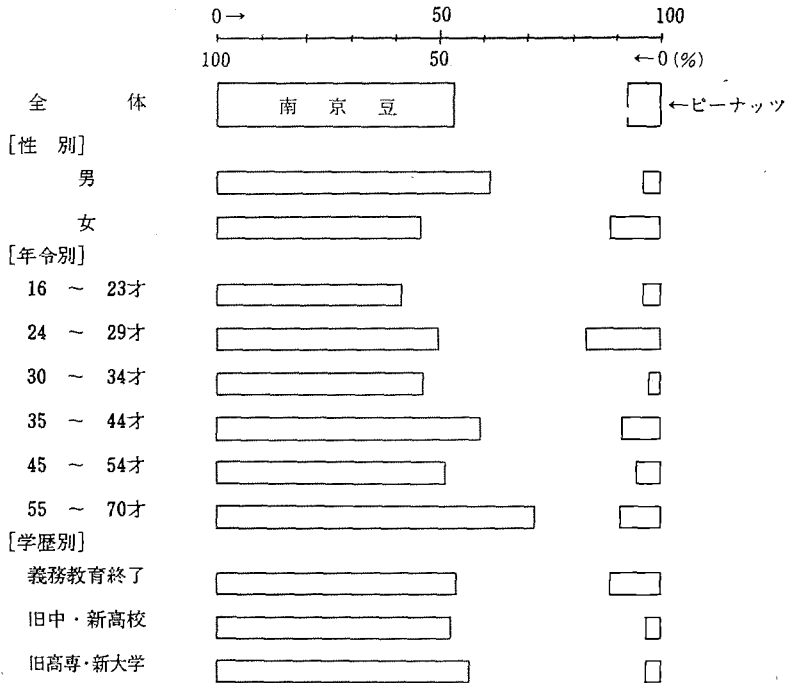
なお、この問いについては、「どちらも言わない」という答えが、全体として33.5%出た。これは、選択肢の中に「落花生」が、はいていなかったためか、あるいは方言のせいかな、この点については、補充調査が必要である。

＜1. 4＞・＜1. 2＞の「煎って殻を取り去った赤茶色の皮のついた豆」の場合については、全体の傾向も、層別の傾向も「落花生／南京豆＜1. 2＞」では「南京豆」，「南京豆／ピーナッツ＜1. 4＞」では「ピーナッツ」という答えに傾いている。性別でみると、男性では、＜1. 2＞においても、＜1. 4＞においても、すべて、女性よりも「南京豆」の答えの比率が、高い。年齢層の間にみられる特徴は、＜1. 2＞・＜1. 4＞ともに、30～34才の層で「南京豆」の答えの比率が最低を示し、45～54才の層で最高を示している。また、「ピーナッツ」を用いるという答えは、24～29才で最高を示し、それから45～54才の層にかけて徐々に減少し、45～54才の層で最低となっている。学歴別にみると、＜1. 4＞の「ピーナッツ」の答えの比率が、学歴が高くなるにつれて増加している。

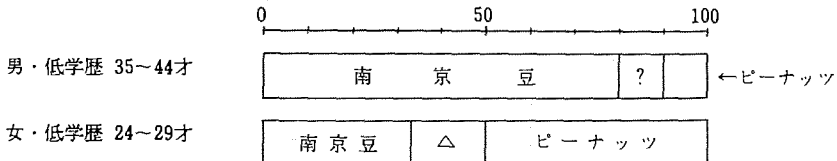
次に＜1. 2＞＜1. 4＞それぞれについて、へだたりの大きい二つの層を比較すると、＜1. 2＞の「中学歴の女性の55～70才の層」では、「落花生」

表 7

- 1.3 つぎに「南京豆」と「ピーナッツ」についておたずねします。
1. 南京豆
2. ピーナッツ
3. どちらも言う
4. どちらも言わない
- からをかぶったままいった場合には、「南京豆」と言いますか。「ピーナッツ」と言いますか。



へだたりの大きい二つの層の比較

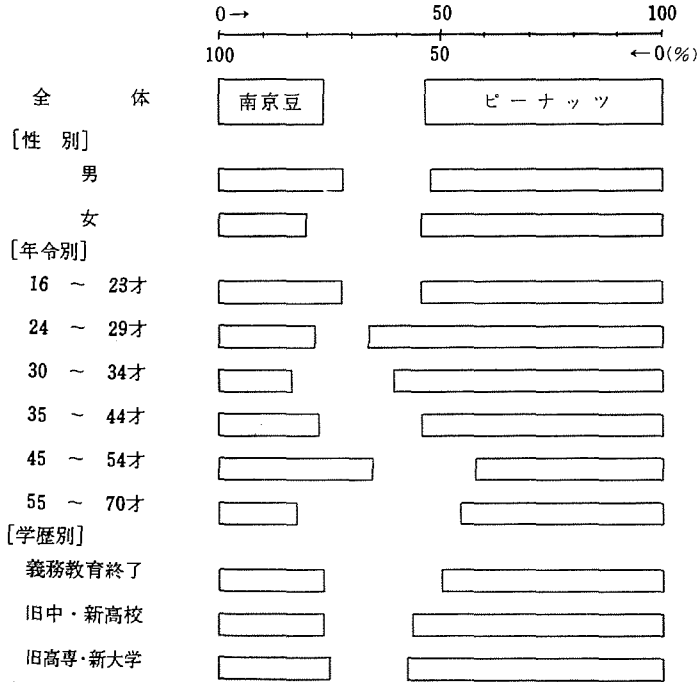


△：どちらも言わない

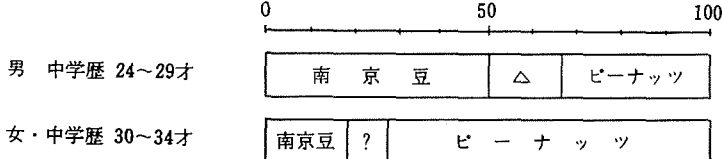
?：どちらも言う

表 8

- 1.4 いって、殻（から）を取り去った、赤茶色の皮のままの場合には「南京豆」と呼びますか。「ピーナッツ」と呼びますか。
1. 南京豆
 2. ピーナッツ
 3. どちらも言う
 4. どちらも言わない



へだたりの大きい二つの層の比較

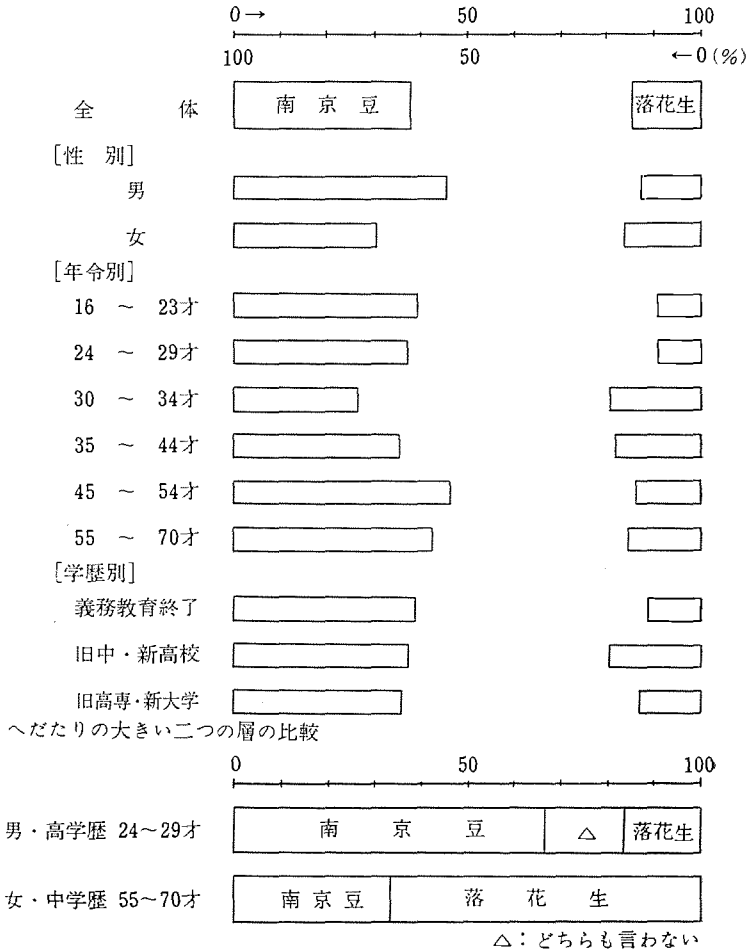


△：どちらも言わない

?：どちらも言う

表 9

- 1.2 いって殻（から）を取り去った、赤茶色の皮のついたままの場合には「南京豆」と言いますか。「落花生」と言いますか。
1. 南京豆
 2. 落花生
 3. どちらも言う
 4. どちらも言わない



を用いるという答えが7割弱を示すが、「高学歴の男性の24～29才の層」では、逆に「落花生」を用いるという答えが7割弱を示している。＜1. 4＞の「中学歴の女性の30～34才の層」では「ピーナッツ」が圧倒的に多いが、「中学歴の男性の24～29才の層」では、「ピーナッツ」は3割強にしかない。

＜1. 5＞は、「バターや塩で味をつけた白い豆」だが、これは全体の結果も、層別の結果も、すべて「ピーナッツ」を用いて呼ぶという答えが、圧倒的に多い。層別では、性別において、男性に「南京豆」という答えが1割以上出た点と、年齢別では、大体において年齢が高年齢層に進むにしたがって、「ピーナッツ」の答えの比率が低くなる点とが注目される。

次に、へだたりの大きい層として、「中学歴層の男性の35～44才」の層と、「中学歴層の女性の16～23才の層」とを抜き出して比較すると、前者においては、「南京豆」を用いるという答えが2割程度出たが、後者には「南京豆」は全く現われず、「ピーナッツ」を用いるという答えが9割5分を占めている。

以上の結果から推定すると、類義語の使い分けには、性別・年齢・学歴など種々の要因がはたらき、Aの意味の場合には、 α の語を選び、Bの意味のときは β の語を使うというような意識は、人それぞれによって、かなり相違のみられるものようである。したがって、類義語によっては、 α の層の人々は、 α の語を使うのが普通に思われる場合に、 β の層の人々は、 β の語を使っているというようなことも多い。その結果、 α の層の人々にとっては、 β の層の人々の用語が、きわめて奇異に感じられるようなことが生ずる。

また、意味による使い分けをしている人と、全く使い分けをしていない人とがあるようなこともあり得る。

次の例などは、こうした使い分け意識の個人差を示すものといえよう。

「藤倉 卓球は選手のやるもので、シロウトがやるのはピンポンじゃありませんか。

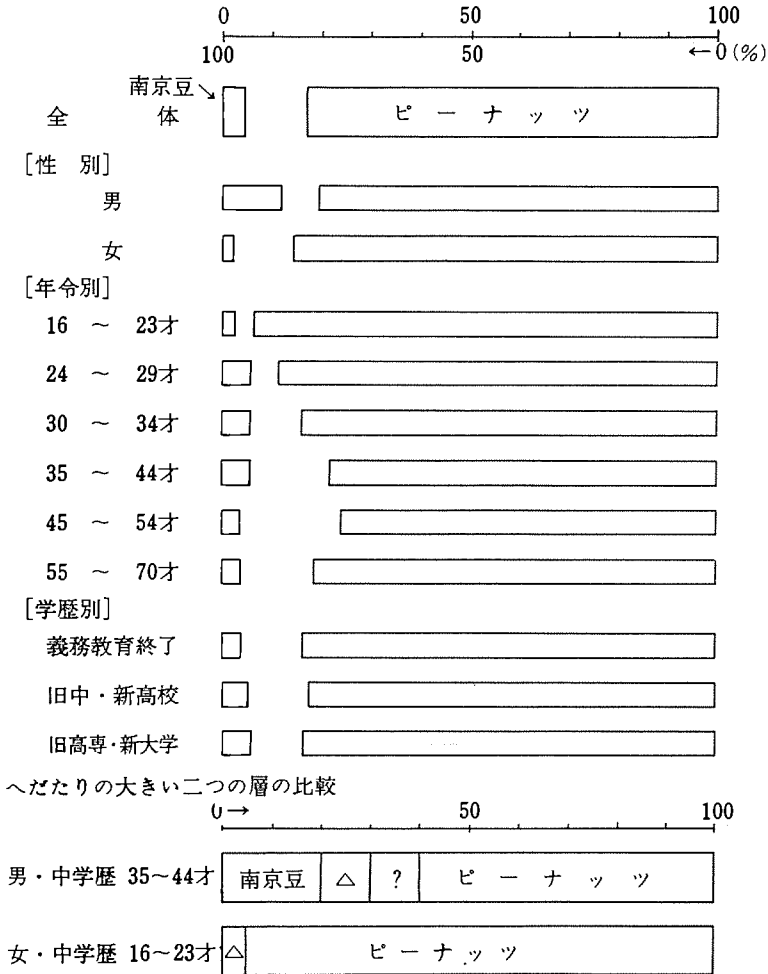
平井 あ、それと同じような区別を、うちの娘がしましたよ。ピーナッツというと、皮をむいて塩をつけたやつなんです。南京豆というと、薄皮のついたやつ、それであたしがびっくりしちゃって、堅いカラのついたのは何だといったら、落花生だっていうんです。」

(週刊朝日・1963年2月22日号・週刊談話室)

表 10

1.5 「から」も「皮」もむいて、バターや塩で味をつけた白い豆を呼ぶときには「南京豆」と言いますか。「ピーナッツ」と言いますか。

1. 南京石
2. ビーナッツ
3. どちらも言う
4. どちらも言わない



△：どちらも言わない
?：どちらも言う

(2) 「弱震／軽震／微震」の使い分け——この質問は、3語を書き並べたカードを示し、語をさし示して答えてもらう方法で、聞きとりを行なった。

地震の震度の段階としては、はげしい方から、弱震→軽震→微震の順と定義されているが、こうした定義が、一般の人々にどのように意識され、またそれが、性別・年齢・学歴などによって、どの程度相違するかを調べる目的で実施

表 11

2.0 地震の程度を表わすことばですが、「弱震」と「軽震」では、どちらの方がゆれかたがはげしいと思いますか。

1. 弱震
2. 軽震
3. どちらとも
言えない

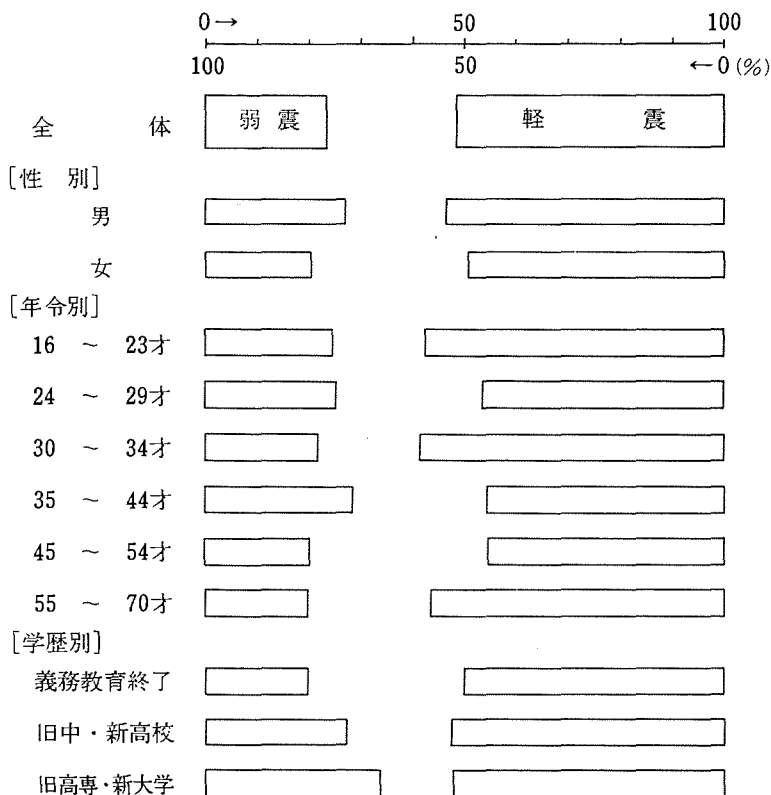
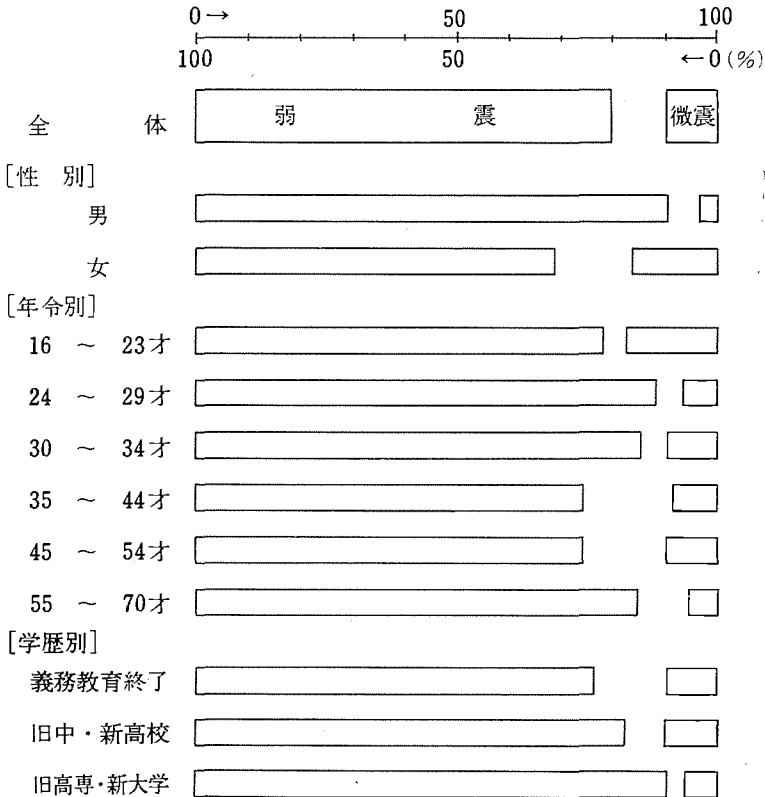


表 12

- 2.1 「弱震」と「微震」では、どちらの方が強いと感じますか。
1. 弱震
 2. 微震
 3. どちらも言えない



したものである。

＜2. 0＞の結果をみると、全体の傾向も、層別の傾向も、すべて「軽震の方が、弱震よりもゆれ方のはげしいものをさす」という答え、すなわち、さきの定義と逆の答えに傾いている。

次に、定義どりの答え、すなわち「弱震の方がはげしい」という答えのパー

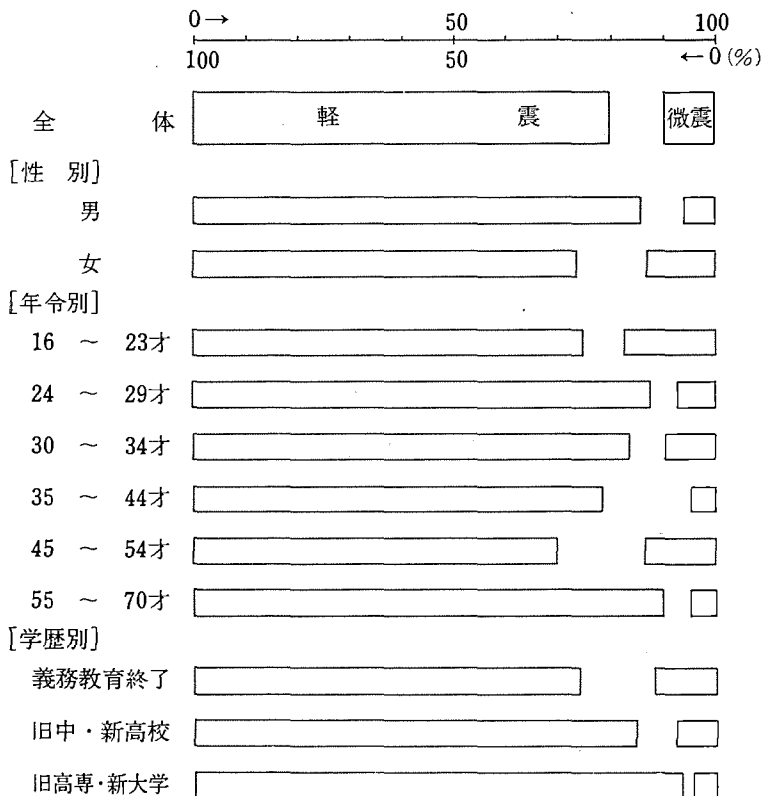
センテージをみると、女性よりは男性の方が、また学歴別では高学歴層ほど高くなり、年齢別では40才前後の層に、定義どおりの答えが、やや目だつ程度である。

＜2.1＞の結果では、全体の傾向も、層別の傾向も、すべて「弱震の方が、微震よりもゆれ方のはげしいものをさす」という答え、すなわち定義と一致す

表 13

2.2 「軽震」と「微震」では、どちらの方がはげしいと感じますか。

1. 軽 震
2. 微 震
3. どちらとも言
ない



る答えが圧倒的に多い。そしてこの傾向は、女性よりは男性に強く、学歴別では学歴が高くなるほど、強く認められる。

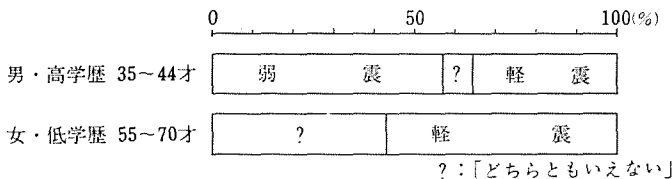
一方、年齢別では、40才前後、50才前後の層で、「弱震の方がはげしい」という答え、すなわち定義と一致する答えのパーセンテージが、わずかながら低くなっている。

<2.2>では、全体の傾向も、層別の傾向も、すべて定義と一致し、「軽震の方が、微震よりもゆれかたがはげしい」という答えが、圧倒的な高率を示した。これも、女性より男性の方が、また学歴別では高学歴層ほど、「軽震の方がはげしい」の答えの割合が高い。

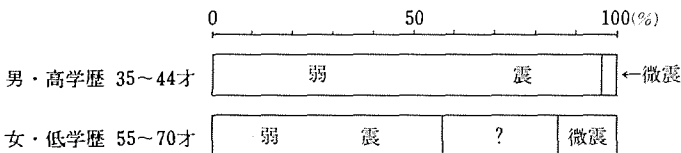
年齢別にみると、24～29才の層から、高い年齢層に移るにしたがって、「軽震の方がはげしい」の答えのパーセンテージが徐々に低くなり、45～54才の層で最低となる。ところが、55～70才の年齢層では、急にこの答えがふえ、90%の高率を示している。

表 14

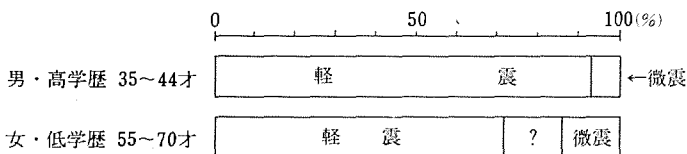
<2.0> 弱震と軽震では、どちらの方がはげしいものをさすか。



<2.1> 弱震と微震では、どちらの方がはげしいものをさすか。



<2.2> 軽震と微震では、どちらの方がはげしいものをさすか。



以上の結果によると、「弱震／軽震／微震」の3語が示す震度の段階は、一般の人々の間では「軽震」が、もっともはげしい地震を示し、「弱震」がこれにつぎ、「微震」が、もっとも軽い地震を示す語だと意識される可能性が強いと考えられる。すなわち、定義のとおり「弱震→軽震→微震」の段階づけで意識している人よりも、「軽震→弱震→微震」という段階づけで意識している人の方が、全般的には多いらしいというわけである。

定義どおり意識している人の比率は、性別では女性よりも男性に高く、学歴別にみると、学歴が高くなるほど比率が高くなるようである。年齢との関係は、たいへん複雑で、この調査では、すっきりした結果が得られなかった。

次に、試みに、きわめて開きのはげしかった二つの層として、「高学歴(旧高専・新大学)の男性の35才～44才の層」と、「低学歴(義務教育修了)の女性の55才～70才の層」とをとり出して比較すると、表14のようになる。

言うまでもなく、前者が、もっとも定義に近い段階づけを示した層であり、後者が、もっとも定義と一致しない段階づけを示した層である。このグラフによると、もっとも定義に近い段階づけを示した層でさえも、「弱震の方が軽震よりも、ゆれかたのはげしい地震を示す」という意識は、そう高くない。一方、もっとも定義と一致しない段階づけを示した層においても、「弱震／微震」「軽震／微震」の間の段階づけの意識は、それほど低くないと認められる。

以上の結果から考えると、定義された類義語を定義どおり使い分けられるかどうかについては、性別・学歴・年齢など、種々の位相差が要因となって、使い分けができるグループと、できないグループとの間の相違が、かなりはげしいのではないかと推定される。

3. 語感などからみた類義語の様相

3. 1. 語感的な差異についての調査

3. 1. 1. 調査の目的

「1. 類義語の種々相」の「3. 語感の方面」では、ある範囲の類義語にわたって共通的に見出される語感の違いのうちの著しいものを例示した。それらの中には、語感のうちで、古い感じの語とか改まった感じの語とか、語そのもの

に伴う語感というべきものが多かった。そういうものについては、ある範囲内での一般的・共通的なものを考えることが、ある程度可能であろう。しかし、語感の他の方面であると考えられる、語のさし示すものごとの上の微細な差異、意味の細かいひだともいうべき方面は、まさに語の知的意味とも分かちがたく連続した部面であり、かりに終極的にはなんらかの一般性・傾向性が見出されるところとしても、まず個々の類義語間の差異について、詳しく分析する作業が、どうしても必要である。ここでは多くの例にわたることはできなかったが、類義語間の語感的な方面における異同が、人々にどのように意識されているかを調査して、この問題に迫る方法をさぐるための糸口とした。

3. 1. 3. アンケート調査

まず、国研報告4「婦人雑誌の用語」、同13「総合雑誌の用語（後編）」の意味による分類語彙表などを手がかりとして、主として語感的な側面を検討するための類義語を、約300組選び出した。その中から、なんらかの点で特に人々の意識を尋ねてみたい20組を選び、国語研究所の職員50人（男31人、女19人）に対して、「次の各組の語に、意味・語感・用法などの違いがあれば説明してください（ばく然とした感じでもけっこうですから、気のついたことを何でもお書きください）」というアンケートを行なった。1組の類義語に対して5人の回答が集まるように、1人に対して2組ずつアンケートした。20組の類義語は次のとおりである。（1961年2月実施）

未来／将来 規則／ルール 大雨警報／大雨注意報 つや／光沢
いのち／生命 財産／身代 1万円以下／1万円未満
まえもって／あらかじめ なおす／修理する 小児マヒ／ポリオ
めし／ごはん／ライス 礼儀作法／エチケット 落花生／南京豆／ピーナッツ きもちよい／快い 習慣／慣習 コンクール／コンテスト
誕生／生誕 移民／移住者 はば／幅員 閨秀作家／女流作家

以上を「国研アンケート」と呼ぶ。以上のうち、次節に述べるテストの調査項目とした2組の回答内容だけを、ここではそのまま掲げよう。

表 15

	つや	光沢
	「つや」は「つやのある声」	「光沢」は、このような言い

1	(男)	「人柄につやが出てきた」のよう な言い方ができる。 「つや」の方が広い。	方ができない。 「光沢」の方がせまい。
		「つやけし」を「光沢けし」とは言わない。「つやだし」を 「光沢だし」とは言わないだろう。	
2	(男)	どちらかといえば、顔のつや、柱 のつやなど。 また、つやを出すなど、やわら かい感じに使う。	どちらかといえば陶磁器や塗 料をぬったものなど。 堅い感じに使う。
		ただし、流用、重なる面はむしろある。	
3	(男)	口語的だ。人間の肌や木質・果 実の場合に使う。	文章語的だ。金属類の場合に だけ使う。(ただし自信なし)
4	(女)	顔・皮膚・果物・紙・ガラスな ど。	漆器・鋳物・織り物(布地そ のもの・金銀糸などのぬいとり) ・箔・蒔絵(宝石)など
		両方に使うもの、毛・皮。	
		表面的(平面的)な光り。	内面的な光りをもつもの、とい う感じを得る。
5	(女)	やわらかいものの場合に。	堅い、つめたいものの場合に、 使い分けたくなる。
要 約	意味のはば 適用上の傾向	広い。 やわらかい感じのものに。	せまい。 堅い、つめたい感じのものに。 金属類。
	文 体	口語的。	文章語的。

表 16

		な お す	修 理 す る
1	(男)	右の記載を含んでさらに広い。 「病気を～、くせを～、形を～、 位置を～」等。 小さな、手がるな行為。 おとなしい、おだやかな、やわ らかな感じ。	道具・機(器)械・設備等の故 障に対する手あての意味であ る。 左の記載よりも大がかりなこ とを意味することがありそうだ。 堅い感じ。

2	(男)	「なおす」の意味範囲のうちの一部が「修理する」 以下のような用法に対しては「修理する」は使えない。 ○精神を～, 病気を～, 作文を～, 衣裳を～, 規則を～。	
3	(男)	口語的, 簡単な修理	文語的, 複雑な修理
4	(女)	単純なものに対して使う。やわらかい感じを受ける。 人間的な事に使うことがある。 洋服を～, わるいくせを～。	機械的要素があると思われるものに使う場合が多い。 形式ばるというか, 一寸むずかしく言いたい時に用いる。 自動車を～, 家を～いたします
5	(女)	修理・修繕の意も含まれるが, その他に, 物品だけでなく病気をなおす(治す), もとの場所になおす等, 整理・整とんの意味にも使う。いわゆるもとの状態にもどす(あるいはそれに近い状態にする場合)。	物品の破損をつくろい, ととのえる。
要 約	意味のはば	「修理」より広く, それ以外の意味がある。	狭い
	適用上の傾向	小さな, 簡単なものについて。	大がかりな, 複雑な, 機械的なもの(自動車, 家)。
約 文	語 感 (?)	やわらかい, おとなしい感じ。	堅い感じ。
	文 体	口語的。	文語的。むずかしく言いたい時。

「つや／光沢」は, 和語と漢語とで同義的な対をなす一例である。上に引用したアンケートの回答の中にも指摘されている例や, 「つやだね・つやばなし」のような, 「つや」には「光沢」には存在しない転義的ないくつかの意味・用法もある。この対の周辺には, 類義語辞典によれば, 「色沢・光滑」などの類義語もあるが普通に使われる語ではない。また, 「照り・輝き・光り」などが, 類似の状況において用いられることがあるとしても, 単語としての意味においては, 「つや・光沢」との間には線を引くことができる。この対は, 「光沢」のように, 漢語とその熟字訓という形でも結びついており, 一般の意識においてはほとんど同一のものとみなされている可能性も考えられる。なめらかな物体の表面の光りを意味する場合, 意味上のはっきりとした差異はないと見てよからう。「白いつやがある／白色の光沢を有する」と対比されるような文体的な違い

も、重要な差異の一つで、上のアンケートでも、「口語的だ／文章語的だ」という形で指摘されている。この文体的な違いも、語感上の違いの重要な一つであるが、アンケートで、5人中3人に指摘されたような、「やわらかい感じのものに／かたい冷たい感じのものに」適用されると意識される傾向などが、一般にあるとすれば、それらも確かめてみたいところである。

「なおす／修理する」も和語と漢語との例である。アンケートに指摘されたように、「なおす」は「修理する」より意味の範囲が広いが、「家を～・屋根を～・へいを～・水道を～・ふろを～・自動車を～・オートバイを～・時計を～・くつを～」のような、かなり広範な語の結合において、「なおす」も「修理する」も互いに代置し得るので、それらの範囲内では、かなり同義的なものと一般に受け取られているであろう。しかし、アンケートの回答の中には、そういう範囲内の意味・用法において、「なおす」は小さな簡単なものについて、「修理する」は大がかりな複雑な機械的なものについて、使われる場合が多いというような指摘がみられた。この点ももっと大勢の人について調べてみたい。

3.1.3. テストによる調査

3.1.3.1. テストの内容など

前節にふれたような、個々の類義語の組にまつわる語感的な差異は、きわめて主観性・恣意性の強い、個人個人によってまちまちなものではないかとも考えられる。また、わりあいには等質的な、あるグループ内の人々の間では、かりにある程度の傾向性があるとしても、年齢層・教養層などによって、傾向の違いがあるかもしれない。上記のアンケートでは、5人中3人ぐらいまで、語感的な事項について、よく似たことを指摘したものがあったが、もっと大勢の人々について、そのような項目に関してどの程度、意識・意見が一致するものか、あるいは一致しないものか、それを調べる目的で次のような質問紙を作った。

次にあげる、似た意味のことばを、ご自分の心で味わってみて、その感じのままに問いに答えてください。

(1)「つやがある」と「光沢がある」

㊦どちらの方が、やさしい（むずかしくない）ことばと感じますか。

(1)どちらの方が、やわらかい物（かたくない物）の光りという感じがしますか。

☆㊦どちらの方が、冷たい物（あたたかくない物）の光りという感じがしますか。

(ロ) どちらの方が、表面的な光り（内面からの光りでない）という感じがしますか。

(2) 「こわれたところを直す」と「こわれたところを修理する」

(ロ) どちらの方が、堅い、形式ばったことばと感じますか。

(イ) どちらの方が、形がより大きいものをなおす感じがしますか。

(ロ) どちらの方が、構造がより複雑なものをなおす感じがしますか。

☆ (ロ) どちらの方が、かんたんになりそうな感じがしますか。

(3) 「女性向けの雑誌」と「婦人向けの雑誌」

(ロ) どちらの方が、より新しい感じのことばですか。

(イ) どちらの方が、より若い年齢層をねらっている雑誌だという感じがしますか。

(ロ) どちらの方が、内容がより高級そうな感じがしますか。

(ロ) 具体的にどんな種類の雑誌を思い浮かべますか。（例、料理の雑誌、手芸の雑誌、おしゃれの雑誌。具体的な雑誌名でもけっこうです。）

女性向けの雑誌（ ） 婦人向けの雑誌（ ）

(4) 「待遇改善を要求する」と「待遇改善を要望する」

☆ (ロ) どちらの方が、より強い感じがしますか。

「つや／光沢」「なおす／修理する」については、前節の「国研アンケート」の回答内容を参考にして質問文を作った。「女性／婦人」は、アンケートには含まれていなかったが、female の意味を表わす単語として「おんな」ほどではないとしても、かなりよく使われる 2 語であり、「女人・おなご・あま・めろろ」のような特殊な強い色合いはなしに使われるが、2 語の間には、なにほどの語感的な違いが予想され、上記のような質問文を作った。「要求する／要望する」もアンケートにはなかったが、「～に対して要求……要望したいと思いますが」というような言い直しをしばしば聞いたことがある。発言者はおそらく、「要求する」よりも「要望する」の方がどぎつくなく、やわらかく聞こえると考えて訂正したものと推測されたが、この点に関して上記のような質問文を作った。（被験者を拘束し得る時間があまり長くはなかったためあって、以上 4 組の質問にとどめた。）被験者は次の二つの大学の学生であった。

千葉大学教育学部学生 25 名（男 9 名、女 16 名）

日本大学文理学部学生 87 名（男 51 名、女 36 名）

計 112 名（男 60 名、女 52 名）

上の大学生グループの性別・年齢構成は、表 17 のとおりである。19～21 歳で

9割弱を占めている。

表 17

大 学 生	年齢	18	19	20	21	22	23	24	25 ~30	31 ~43	不明	計
	男	1	24	12	14	4	1	1	0	2	1	60
	女	1	19	27	3	0	1	0	0	1	0	52
	計	2	43	39	17	4	2	1	0	3	1	112

語感のような主観性の強い、語の側面については、同一人でも短時日のうちにもその時の気分などにより、判断がゆれ動く可能性があると予想して、上記の質問文の中の☆印のものだけについてであるが、10日ほど後に、もう1回質問紙調査を行なった。第2回の質問紙調査では☆印の質問文の次に、

1. (オ)それぞれ具体的に、どんな物のつや、あるいは光沢を連想しますか。
つやがある—— 光沢がある——
2. (オ)それぞれ具体的に、どんなものを直す、あるいは修理することを連想しますか。

直す——

修理する——

という二つの項目を加えた。この新たに加えた2項目と3(オ)とは具体例としてまず連想しやすいものを問うて、他の問いかたの結果の裏付けを試みようとしたものである。被験者は上記の大学生の2クラスのほかに、あらたにコピーライター志望者の講習会の受講者も加えた。この受講者のグループは、第1回のテストは受けず、第2回のテストだけを受けたわけである。

第2回のテストの被験者は、次のとおりであった。

千葉大学学生	23名(男8名, 女15名)
日本大学学生	83名(男44名, 女39名)
講習会受講者	144名(男105名, 女39名)
計	250名(男157名, 女93名)

大学生グループの性別・年齢構成は、第1回テストのときと、ほとんど同じであるから省略し、講習会グループの性別・年齢構成だけを、表18に示す。男女の人数がかなりへだたり、女性の人数において不十分なうらみがある。年齢の上では、大学生グループよりやや年齢の高い方に多く分布して、25~30才が全体の1/3強を占め、18~30才で8割強をおおっている。()内は既婚者の人数で、

男の1/5を占め、女では皆無に近い。

表 18

講習会	年齢	18	19	20	21	22	23	24	25 ～30	31 ～38	不明	計
	男	0	1	3	11	8	17 (1)	10	43 (13)	8 (7)	4	105 (21)
	女	1	2	4	3	8	6	2	10 (1)	2 (1)	1	39 (1)
	計	1	3	7	14	16	23 (1)	12	53 (13)	10 (8)	5	144 (22)

2大学の2回の調査では、出席者に多少の出入りがあったので、2回とも調査を受けた人の数は次のとおりであった。

千葉大学学生 22名(男7名, 女15名)

日本大学学生 59名(男32名, 女27名)

計 81名(男39名, 女42名)

調査の結果は、千葉大学は人数が少ないので独立のグループとせず、日本大学と合わせて「大学生」グループとして合算した。

3.1.3.2. テストの結果

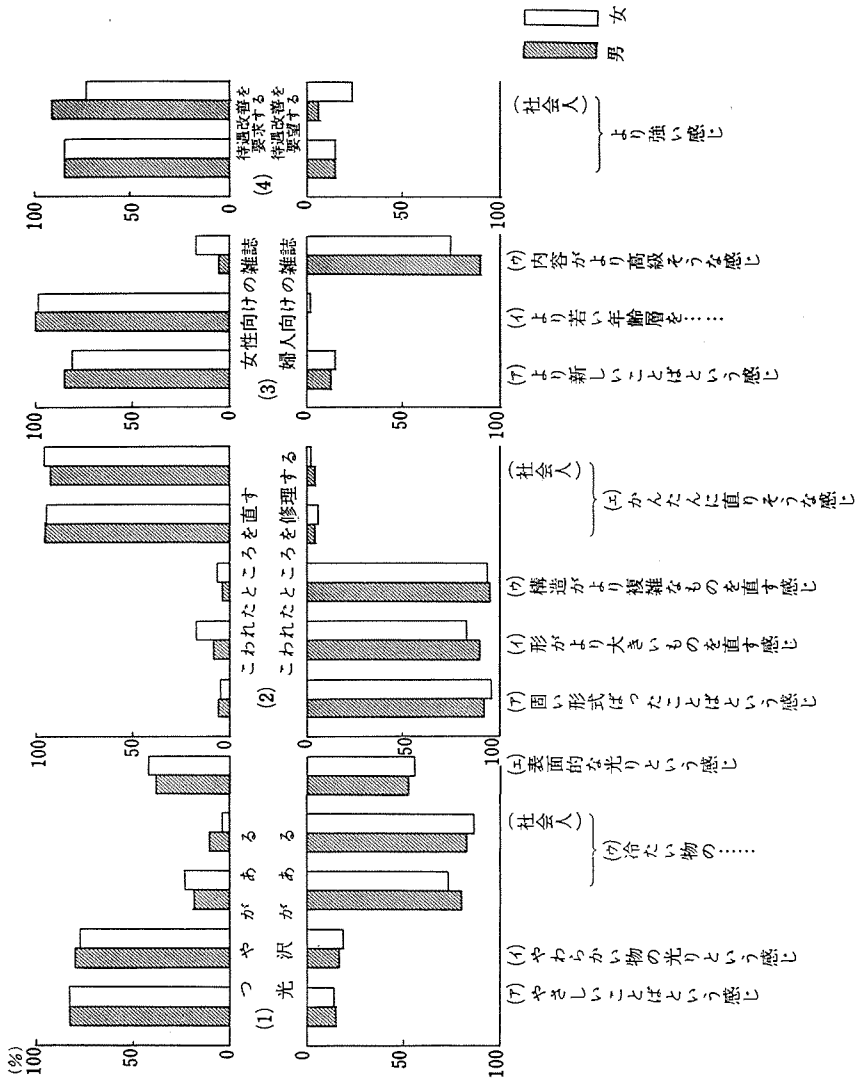
テストの集計結果は巻末の「V. 実験テスト集計表——テスト3」の甲1. から、甲4までのとおりである。このテストはサンプル調査ではないが、一往有意差検定をも施してみた。前後2回調査した、☆をつけた質問項目に関しては、2回の間にみられた変動については、後に別に述べることとし、ここの集計では、2回目を捨てて1回目の結果だけをあげた。以上の結果のうち、百分率だけをグラフにして示すと、表19のようになる。「どちらともいえない」という答えと無答とはグラフからははずしてある。

以下、コピーライター志望者のための講習会の受講生のグループを、「社会人」グループと略称するが、社会人一般を代表するものではないことは、いうまでもあるまい。

以下、4組の問いの各々について、結果を検討してみよう。

(1)つやがある／光沢がある

問(7)の結果に示されたように、「つや」の方がやさしい語だと、大部分の人に感じられているのは当然であろう。しかし、逆に「光沢」の方がやさしい語



だと答えた大学生も、15%あったことは、「光沢」もかなり日常普通の語になっている結果であろうと解される。

問(イ)(ウ)からは、「光沢」は「つや」より硬質の冷たい感じの物体の光りと感じられている傾向が結果として出た。これは、第2回テストに加えた問(オ)の結果とも相応している。問(オ)は「つやがある／光沢がある」から、それぞれ具体的にどんなものを連想するかを具体的に書いてもらったもので、結果をすべて数量的に集計することはむずかしいが、具体的に物の名まえをあげた回答を整理すると表20のようになる。

表 20

表の意味は、たとえば「はだ」とか「皮膚」を連想すると書いた人が、「つや」に対しては全体の人数(250名)の19.2%、「光沢」に対しては皆無であったという具合である。表にあげた以外に、「つや」に対して「はげ頭」(0.8%)、「なすの皮」「婦人の魅力」(ともに0.4%)など、「光沢」に対して「くつ」「ピアノ」(ともに0.4%)などがあった。表の結果から「つや」が人間のはだ・顔・髪やくだものなどを、「光沢」が宝石・金属・ガラス・陶器などを連想させやすい傾向があることがわかる。抽象的に答えた中にも、

連 想 さ れ る も の	つ や	光 沢
はだ・皮膚	19.2	0
顔・顔色・ほほ	15.6	0
髪・髪のコ	9.2	0.8
生き物・動物	2.0	0
皮・毛皮	2.4	0.8
くだもの・果実・りんご	18.4	0.8
木・木製器物・机・テーブル	8.0	8.0
床・廊下・床柱	7.6	2.4
家具・調度品	2.4	0.8
塗り物	0.8	1.6
布地・生地	2.0	8.0
絹	0.8	6.0
陶器類	4.0	12.4
ガラス・ガラス器	0	6.4
仏像	0.4	1.6
自動車(の車体)	0.4	1.2
金属類・金物	2.4	19.2
鉱物(的なもの)	0	2.4
宝石・真珠・ダイヤモンド	0.8	9.2
貴金属・金	0	4.0

(全体の人数は250名)

「つや／光沢」を「生物的／鉱物的」、「動物的／人工的」、「生き生きした感じ／冷たい感じ」といった対比でとらえているものがあった。また、少数ではあるが、「光沢のひびきの方が深みのある高貴な感じがする」、「光沢の方が高価なものを連想します」というように、「光沢」の方に高貴・豪華な語感を認めるらしい回答があった。「光沢」が貴金属や宝石と結びつきやすいことと、漢語が依然として保っている魅

力とによるものであろうか。

ここで一つ注意すべきだと考えられることは、「つや」と「光沢」を対比させて異同を問われると、何か違いがあるはずだという意識がはたらいて、すなわち異化の心理によって、自然な意識状態におけるよりは、差異の面がやや拡大して出てくる可能性があるのではないかという点である。（この点は以下の種々な類義語の組についての問いにおいても同様である。）しかし、それにしても、上のような相当に著しい語感上の傾向が出たことは興味深い。

問(ㄱ)については、傾向は得られなかった。なお、問(ㄱ)～(ㄷ)のいずれにおいても、男のグループと女のグループとでは同一の傾向が出たし、それぞれの比率においても、数%以内の差しかないものが多かった。問(ㄷ)における、大学生グループと社会人グループとの間にも、著しい差は出なかった。

(2)こわれたところを直す／こわれたところを修理する

問いの四つとも、90%以上ないし90%近く、一方の選択肢に反応が集中した。

まず、問(ㄱ)の結果から、語そのものの感じにおいて、漢語である「修理する」の方が堅い感じがするという受け取り方が、一方的に多いという、きわめて常識的な結果が出た。

くさる／腐敗する　つかれる／疲労する　いそがしい／多忙だ　てがみ／書簡
のような、和語と漢語との同義的な対立についても、もし同じ問いを試みれば、おそらく和語よりも漢語の方が堅い感じがするという傾向が、かなりはっきりと出るだろうと推測される。

問(ㄱ)(ㄷ)から、「直す」あるいは「修理する」という語の適用される対象物において、「修理する」の方が「形がより大きいもの」「構造がより複雑なもの」のこわれに関しても感じがするという、かなりはっきりした傾向が得られた。問(ㄷ)からは、二つの動詞が適用される事態という点において、「なおす」の方が、「かんたんになおきそうな感じ」がするという、明らかな傾向が出た。これは、逆に言えば、「修理する」の方が「簡単にはなおりにくい、複雑な工程を経なければならぬ」という感じがする」と言いかえ得る結果であろう。以上(ㄱ)(ㄷ)(ㄷ)の結果は、次の問(ㄷ)の結果とも、かなりよく符合してい

る。問(4)では「こわれたところを直す／こわれたところを修理する」から、それぞれ具体的に、どんなものを動作の対象として連想するかを書いてもらったが、具体的に物の名まえをあげた回答を整理すると、表21のようになる。表の見方は「つや／光沢」の場合と同様である。表の下の方の、機械・自動車・自転車は、「修理する」から連想すると書いた人しかなく、表の上の方の、おもちゃ・衣類・ノート（本類）・たな（戸だな）・本だな（本箱）は、「直す」から連想すると書いた人しか存在しなかった。両者の中間にはさまれている物の名においても、机・いすなどの家具は「直す」

表 21

連 想 さ れ た も の	直 す	修 理 す
おもちゃ	6.8	0
ほころび・つくろい物（衣類の）	4.8	0
ノート・本類	2.8	0
棚（戸だな）	4.4	0
本だな・本箱	3.2	0
机（の足、ひきだし）	9.6	1.6
イス	4.0	0.8
家具	3.6	2.4
戸（木戸）・ドア（の取手）	2.8	0.4
垣根	3.2	0.8
へい	0.8	2.8
やね	0.8	2.8
家（屋）	1.6	7.2
くつ（のかかと）	2.0	4.0
ラジオ・テレビ	1.2	9.2
時計	0.4	16.8
自転車	0	7.6
自動車（車）	0	19.6
機械（類、的）なもの	0	25.6

（全体の人数は250名）

から、ラジオ（テレビ）・時計などの機械的なものは「修理する」から連想されるものとしてあげた人が多かったと言える。表21にあげた以外に、「直す」に対して「日常生活用品」（2.4%）「犬小屋」（1.2%）「障子」（0.8%）「電気製品」（0.4%）「修理する」に対して「電気製品」（2.0%）「飛行機」（1.2%）「洗濯機」（0.4%）「カメラ」（0.4%）があった。抽象的に答えた中にも「自分で直すことができるもの／専門家に頼まなければ、直せないようなもの」「朝めし前にできるようなこと／時間がかかりそうな感じで、本腰のはいった仕事」「自らの手で可能な範囲のもの、または簡単な道具で自らの手でできるもの／道具または機械を使って、自分以外の者の手でするもの」というような対立でとらえているものが、かなりあった。

問(㉔)と(㉕)に限り、社会人のグループにも質問したわけであるが、大学生のグループと非常によく似た結果が出ている。また、大学生・社会人のいずれにおいても、男と女の間の差はほとんど存在しない。

以上の結果から、語そのものの感じとして、「直す」より「修理する」の方が堅い感じであり、語のさし示す事態として、「直す」より「修理する」の方が高度の技術・器具を必要とする複雑なものだという感じは、かなり一般的に持たれているだろうと推測される。

(3)女性向けの雑誌／婦人向けの雑誌

「女性」も「婦人」も、普通の語として一般に用いられるようになったのは、「女」よりずっとあとであろう。「婦人」は、「職業婦人」「婦人病」「国防婦人会」など、第二次世界大戦前からの複合語も少なからずあったが、「女性」は、文法上の feminine gender の意味での用法と、「女性的」のような複合語もあったものの、特に戦後において、流行的にさかんに用いられ出したように推測される。婦人雑誌の命名をみても、戦前からのものは「婦人」を、戦後発刊されたものは「女性」の文字を含んだものが多く、「女性」は戦後の時代の好みに投じた語ではないかと推測し、問(㉖)において「どちらの方が、より新しい感じのことばですか」という質問を試みたわけである。その結果は大体予想のとおりであったと言える。大学生のうち、男においても女においても80%以上が、「女性」を、より新しい感じのことばだと答えている。

語のさし示す対象において、2語は大体重なり合うはずであろう。しかし、それぞれの語から思い浮かべやすい対象のイメージにおいては、微妙な差異がありそうだ。問(㉖)(㉗)はその点を予想して確かめようとした設問であったが、予想を上回るほど、はっきりとした傾向が出た。特に問(㉖)においては、112人中1人を除いて、みな「女性向けの雑誌」の方が、より若い年齢層をねらっている感じがすると答えた。問(㉗)では、8割以上の方が「婦人向けの雑誌」の方が内容がより高級そうな感じがすると答えた。

問(㉔)の結果をまとめたのが、表22である。雑誌の種類・性質で答えたものを表22の(1)に集計したが、表にあげたほかに、「女性」には「男女間の問題」「映画」「音楽」(各0.9%)など、「婦人」には「医学・保健」「子供服」(各0.9

表 22

(1)			(2)		
連想された雑誌	女 性	婦 人	連想された雑誌	女 性	婦 人
おしゃれ・モードなど	50.9	0.9	女 性 自 身	18.8	0
服 装 ・ 服 飾	6.3	0	マ ド モ ア ゼ ル	11.6	0
美 容	1.8	0	若 い 女 性	11.6	0
流 行	1.8	0	装 苑	2.7	0
芸 能 関 係	1.8	0	ド レ ス メ ー キ ン グ	2.7	0
ゴ ン ッ プ	1.8	0	そ れ い ゆ	1.8	0
週 刊 誌	5.4	0	週 刊 女 性	13.4	2.7
礼 儀 ・ 作 法	1.8	0.9	婦 人 公 論	0.9	16.1
教 養 ・ 娛 楽	1.8	1.8	主 婦 の 友	0	15.2
手 芸 ・ あ み も の	20.5	20.5	婦 人 の 友	0	3.6
洋 裁 ・ 裁 縫	0.9	0.9	暮 し の 手 帳	0	3.6
料 理	3.6	52.7	婦 人 ク ラ ブ	0	6.3
育 児 ・ 保 育 な ど	0	19.6	婦 人 生 活	0	8.9
家庭的なことなど	0	8.9	婦 人 画 報	0	1.8
夫 婦 生 活	0	1.8	家 庭 全 科	0	1.8
			主 婦 と 生 活	0	12.5

(全体の人数は112名)

%)などが少数あった。雑誌名で答えたものを、表22の(2)にまとめたが、表以外に「女性」には「美しき十代」「少女」「ヴォーグ」(各0.9%)など、「婦人」には「マイホーム」「家庭全科」(各0.9%)などが少しあった。(「女性」「婦人」の語を含む雑誌名の連想に関しては、それらの語の影響もあると考えるべきだろう。)二つの表から、「女性向け」の方が未婚の若い層を、「婦人向け」の方が既婚の家庭にはいった人々を思い浮かべやすい傾向が見取られる。

この質問項目は大学生に対してしか実施しなかった。大学生の男と女の間には百分率の上でも大差はないが、(ア)(イ)(ウ)とも、男の方が女よりも幾分多く一方に反応が集中する結果になっており、ことによれば男の方が女よりも2語間のニュアンスについて、上記のような設問に関しては簡単明瞭に割り切っているのかもしれない。

(4)待遇改善を要求する／待遇改善を要望する

「どちらの方が、より強い感じがしますか」という問いに対して、大学生グル

ープも社会人グループも、それぞれの中の男のグループも女のグループも、等しく「要求する」の方がより強い感じがするという、明らかな傾向が出て、常識的な予想と一致した。選択肢を選んだ上に、「要求する／要望する」に対して「積極的な感じ／消極的な感じ」、「男性的な感じ／女性的な感じ」、「乱暴な感じ／大変ていねいに一歩さがって言っているような感じ」というような書き込みも散見した。

「要望する」の方が、より強い感じがするという人は、社会人の女のグループで、いちばん比率が高く、2割強を示したが、これは、「要望する」の方が一見おだやかではあるが、ねばり強く求める感じがするというとらえかたの人々であろうか。

3. 1. 3. 3. おわりに

さきにも述べたように、3. 1. 3. 1.に引用した質問文のうちの、☆印をつけた三つについては、10日ほどのへだたりをおいて2回、同一の被験者グループに答えてもらった。これらの三つの質問に2回答えた人は3. 1. 3. 1. に示したように、81人（男39人、女42人）であった。この結果は、表23のとおりであった。（カッコ内の数字は、全体の人数に対する百分率。）

表 23

1(☆)どちらの方が冷たい物 2(☆)どちらの方がかんたん 4(☆)どちらの方が強い感じが
（あたたかくない物）の に直りそうな感じがし しますか。
光りという感じがします ますか。
か。 こわれたところをなおす／ 待遇改善を要求する／待遇改
つやがある／光沢がある こわれたところを修理する 善を要望する

（Ⅰは第1回調査、Ⅱは第2回調査）

Ⅰ					Ⅱ					Ⅰ					Ⅱ				
Ⅱ	つや	光沢	DK	計	Ⅱ	なおす	修理する	DK	計	Ⅱ	要求	要望	DK	計	Ⅱ	要求	要望	DK	計
つや	12 (15)	5 (6)	0	17 (19)	なおす	71 (88)	4 (5)	0	75 (93)	要 求	58 (72)	5 (6)	0	63 (78)	要 求	58 (72)	5 (6)	0	63 (78)
光 沢	5 (6)	53 (65)	3 (4)	61 (75)	修 理 す る	1 (1)	1 (1)	0	2 (2)	要 望	9 (11)	7 (9)	0	16 (20)	要 望	9 (11)	7 (9)	0	16 (20)
D K	0	3 (4)	0	3 (4)	D K	4 (5)	0	0	4 (5)	D K	2 (2)	0	0	2 (2)	D K	2 (2)	0	0	2 (2)
計	17 (19)	61 (75)	3 (4)	81 (100)	計	76 (94)	5 (6)	0	81 (100)	計	69 (85)	12 (15)	0	81 (100)	計	69 (85)	12 (15)	0	81 (100)

「どちらともいえない」という答えと無回答とを、便宜上合わせてDKとみなした。太わくで囲まれた人数を合計したものが、第1回と第2回のテストで同一の一貫した反応を示した人数になる。一貫率は1(㉔)と4(㉗)で8割、2(㉕)で9割弱となった。男女別は表に示さなかったが、1(㉔)・2(㉕)で女の方がわずかに一貫率が高く、4(㉗)では女の方が2割強高かった。

語感のような、主観性の強い、語の側面については、同一被験者でも短時日のうちにもその時の気分などにより、判断のゆれ動きがはなはだしいのではないかと予想した。ところが、8～9割の人数が2回にわたって、まったく同一の反応を示した。これは、個人個人に関しても、調査項目としたような語感においては、かなり一定性が保たれているだろうという予想を立て直す一助となし得よう。また、被験者たちがでたらめな回答をしたのではなく、全体としてはかなり信頼し得る回答をしてくれたということも言えるであろう。

以上、わずか4例にすぎず、それも上記のような数個ずつの質問項目についてしか調べていないわけであるが、1(㉕)を除いて12問中11問に対しては答えにはっきりした傾向が出た。百分率でいうと最低80%近くから、ほとんど100%に近く一方の語に答えが集中したものがいくつかあった。傾向の出なかった1(㉕)の「つやがある／光沢がある」に対する、「どちらの方が、表面的な光り(内面からの光りでない)という感じがしますか」という問いは、こういう点に語感的な差異を求めようとする設問自体に、むりがあったというべきかも知れない。

はじめに、類義語間の語感的な差異のようなものは非常に恣意的・主観的なもので、人々の間で一致した傾向は非常に弱いのではないかと考えたが、以上のわずかなテストの結果に関する限り、予想よりは人々の間で一致する傾向が見出された。

3. 2. 言語使用者の好み・選択についての調査

3.2.1. 調査の目的

同一の事象を表わす語がいくつも存在する場合、言語使用者はこの語の方があの語より感じがいいとかわるいとかいうような、語に対する好みの上の違い

を感じることもある。たとえば、新聞紙上などで時々論議がかわされている例であるが、「パパ・ママ」という呼びかたは好ましくないとか、好ましいとか、「おとうさん・おかあさん」の方がいいとか、どちらだってかわらないじゃないとか、いろいろな意見が出る根拠になっているものはさまざまであって、けっして語に対する好みだけではないが、意見を述べる人のいっている、語に対する直観的な好悪もいろいろな意見を形成する大きな因子になっているであろう。このような好みは主観的なものであるから、人によって異なる点は大きいことが当然予想されるが、ある時代の傾向・ある世代の傾向・あるグループの傾向なども存在するかもしれない。もし、そういう傾向が存在するならば、それは類義語間における勢力のせり合い・隆替に影響し、語彙体系の推移を動かす一要因ともなるであろう。

ある事象を言い表わすのにいくつもの言い方がある場合、そしてどの言い方をしようかと選択に迷う場合がしばしば存在することはいうまでもない。こういうことは、センテンスや連語にまたがっている問題であるが、単語対単語の間にも起こる問題である。たとえば山田太郎という人の妻は、夫のことを第三者に話すときに、「主人が」「夫が」「宅が」「うちの人が」「宿が」「山田が」「太郎が」などのうちの、どの単語を使おうかと選択に迷うこと、第三者との人的関係や場面によって使い分けることは大いにあり得ることである。「山田」「太郎」は別として、「主人・夫・宅・うちの人・宿」などは類義語であって、いまの例は類義語間における選択の問題の一例である。いずれを選択するかが決定される要因は、きわめて複雑であろうが、語に対する好みのほかに、その場面にとどの語が適当だと感じるかも重要な要因であろう。ある表現の場において、いくつかの表現（ここではいくつかの類義語）のうちのいずれを選択するか、それはどういう要因によるかは、きわめて複雑微妙で多岐にわたる問題であるが、類義語を言語行動の面から考察する上でも、重要な課題であろう。

上のような予想の上に立ち、いくつかの類義語に対する人々の好みの上の差異、ある場面における類義語間の選択とその要因について、考察する方法の糸口として、次の2種のテストを実施した。

3. 2. 2. 好みの調査

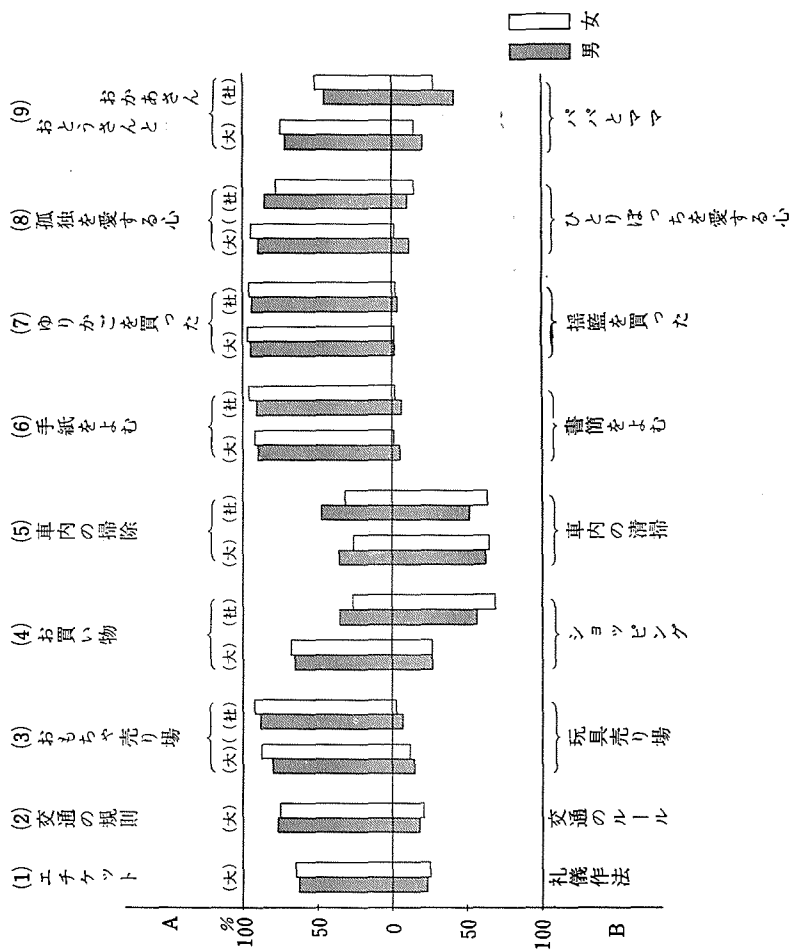
3.2.2.1. テストの内容など

文筆家をはじめ、ことばに対して意識的・反省的な立場にある人々の中には、語に対する好悪も比較的強い人があるかもしれない。しかし、こういう人々の好みは、一般国民のそれとはかけはなれたものである可能性がある。しかし、ことばを生活の要具として使い、ことさら意識などしないであろう実務的な職種の人々にとっては、語に対する好悪などはあまり関心の対象にはなり得ず、問われても当惑させられる場合が多いかもしれない。大学生は、現に知的な訓練を受けつつあり、心理的なゆとりもあって、この場合被験者として比較的適当であろうと予想し、かつ調査の便宜を得やすかったためもあって、東京およびその近郊の大学生を、おもな対象とし、加えてコピーライター志望者のための講習会の受講生をも比較の対象として加えた。以下、同講習会の受講生のグループを前のテストにおけると同様、「社会人」グループと略称する。具体的には、3.1.3.に述べた語感の調査（第1回・第2回）の質問紙の後半を、この調査にあてた。したがって、被験者の人数・性別・年齢構成などは、語感の調査のそれらとまったく同一であるから、3.1.3.を参照していただきたい。

類義語は、けっして2語で1対をなしているものだけではないが、3語以上の間の好悪を問われることは、2語1対の場合よりさらに答えにくいであろうし、結果の集計も容易ではないので、一対比較法の形で2語の間の好みだけを尋ねた。尋ねかたは「あなたは次のことばのどちらがお好きですか。（お好きなほうに○を、別に好ききらいがなければ両方に△をつけてください。）」とした。質問語は、テストに充当し得る時間があまり多くなかったためもあって、多数にわたることはできなかった。第1回テストでは、

- (1) エチケット／礼儀作法
- (2) 守ろう、交通の規則／守ろう、交通のルール（ポスターのことばとして）
- (3) おもちゃ売り場／玩具売り場
- (4) 楽しい暮らしのお買い物／楽しい暮らしのショッピング（広告のことばとして）
- (5) 車内の清掃をいたしますから、しばらくお待ちください。／車内の掃除をいたしますから、しばらくお待ちください。（プラットホームのスピーカーのことばとして）

表 24



の5組を、第2回テストでは第1回の(3)(4)(5)の3組、および新たに、

- (6) 手紙を読む／書簡を読む
- (7) 揺籃を買った／ゆりかごを買った
- (8) 孤独を愛する心／ひとりぼっちを愛する心
- (9) パパとママ／おとうさんとおかあさん

の4組を加えて計7組について質問した。(3)(4)(5)については2回の間の反応の変動をみようとしたわけである。(1)(9)は単語の形で好みを尋ねているが、他の7組は短い文脈をつけ、うち3組は「ポスターのことばとして」などの条件をもつけてある。単語それ自身の意味はかなり抽象的で、実際の文脈の中におかれて具体的に規定される場合が多いが、このことは語内容の感情的側面についても同様であろう。ある程度具体的な限定を伴わないと、好みの判断もつけにくいだろうと考えられたので、文脈や条件をつけたわけである。したがって、それらの組に関しては、その文脈・その条件における類義語に関する好みを尋ねたことになる。

3. 2. 2. 2. テストの結果

テスト結果の集計方法は、語感のテストと全く同一であり、巻末の「V 実験テスト集計表——テスト3」の乙1から乙9までのとおりである。百分率だけをグラフにして示すと、表24のようになる。

以下、このテストの結果を中心に、他の参考データをも加えながら、まず各組について検討してみよう。

(1) エチケット／礼儀作法

まず、国語研究所の職員5人に、この2語の異同について、自由に書いてもらったアンケート(3. 1. 1. 参照)の結果を引用しよう。

	礼 儀 作 法	エ チ ケ ッ ト
1 (男)	封建的、東洋的、保守的、かたくなるしさ、忠孝という線に連なり、「修身」の感あり。 たとえば、来客にたたみに手をつけておじぎをするのは礼儀作法。	西洋的、民主的、文化的。 礼儀作法を知らなくても、エチケットをわきまえていれば、現代の世ではOK、という感あり。

2 (男)	教科目などとして。一般には二つに分ける。 日本風のもの。	非一般。いやみ。キザ。 外国風のもの。 ○「～が悪い」「～がなっていない」「～がいい」
3 (男)	小学校時代の「修身」めいた語感が伴う。 いやな感じがしないでもない。	意味・語感・用法と、ほとんど礼儀作法にオーバーラップするように思う。 強いていえば、バターくさいが、左のような心理的抵抗感がなく、案外すらすらと受け入れられるように思う。エチケットには礼儀作法などの意味のほかに「仁義」「義理」などの意味・語感も含んでいるように思う。「やくざ仲間のエチケット」「酒のみのエチケット」などの場合のエチケットは、単純に礼儀作法だけの語感・意味ではなさそうだ。
4 (男)	たとえば、フスマのあけしめの際の、立ち居振舞いはどうするかという形式のルールを強調するような語感を持っている。ふだんの生活でじぶんが使うことはほとんどない。	「礼儀作法」といわれるよりも気軽に受けとれる。 じぶんでふだん使用するときは、「礼儀作法」から「作法」を取り去った「礼儀」と同意義程度に使っている。「礼儀作法」よりも親しみがあがり、生活的である。
5 (女)	礼儀作法というと立ち居振舞いについての、型にはまったむずかしい作法を思い出し、旧式な感じがする。	エチケットはもつと自由な、良識さえあれば自然に守れる社交上の作法で、明るく近代的なもの。

「エチケット」の方を「礼儀作法」のような心理的抵抗感がなく受け取れるという人と、キザでいやみだという人と、感情的反応では相反する方向が見られたが、意味や語感のとらえかたにおいては、当然のことながら5人の答えの中に底流する共通な方向があるようだ。

日高孝次・艶子著「エチケット」(光文社)の第一章「エチケットとは何か」

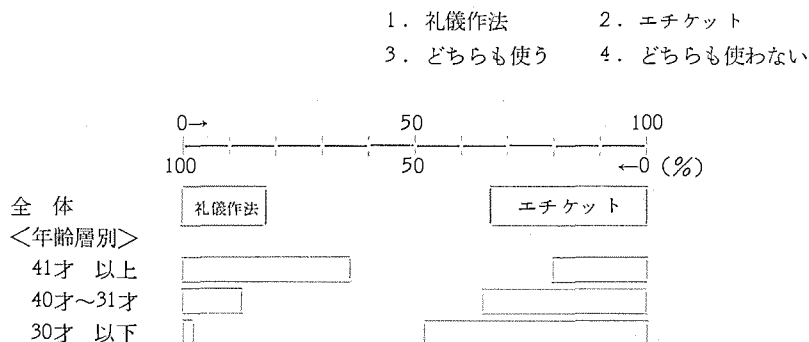
の「礼儀作法とどちらがうか」には、礼儀作法もエチケットも、その本質は同一であるが、エチケットは日本より早く近代化した欧米の民主主義・人権尊重の気風を反映したものであるのに対して、礼儀作法は封建社会に発達した形式的なものがあまり変容せずに存続してきたものだという見解を述べている。

ところで、テストの結果は、エチケットの方が好きだとした人が6.5割弱礼儀作法の方が好きだとした人が2.5割弱、どちらともいえないが1割強で、この大学生のグループでは、エチケットが支持される傾向が出た。男と女の間でもかなり接近した比率が出た。

〈エチケット／礼儀作法〉のような組に対する感情的な反応のしかたには、新旧世代の間に差がありそうに予想される。この点で長岡市における会社調査の結果はある程度の参考になる。(巻末の「V. 実験テスト集計表——テスト2」を参照。)

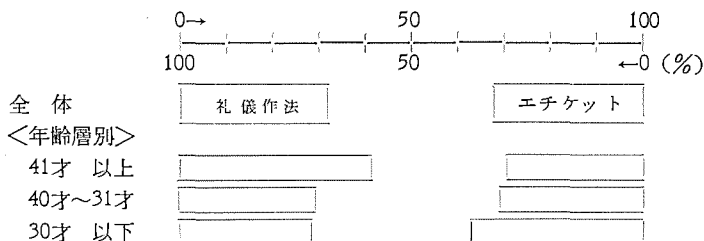
(i)「あなたはどちらのことばの方が感じがいいと思いますか」に対する反応を、全体および三つの年齢層に分けた場合の百分率をグラフにすると、表25の(i)のようになる。「エチケット」または「礼儀作法」に反応したものだけを棒グラフで示し、他の反応や無答は一括して両者のすきまで表わした。これの結果は上の大学生のテストとは質問の形式がわずかながら違っているので、同一条件のものとして比べることはできない。被調査者全体(198名)では「エチケット」「礼儀作法」「どちらともいえない」の三つがほぼ $\frac{1}{3}$ ずつという比率

表 25 (長岡市会社調査)
(ア) あなたはどちらのことばを使いますか。



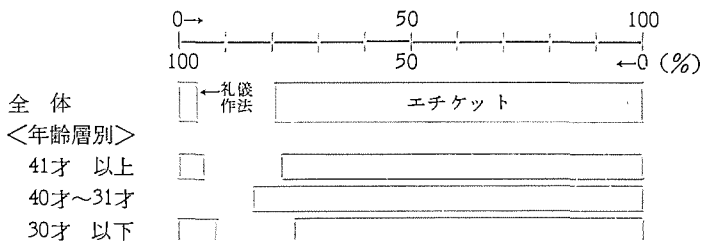
(イ) あなたはどちらのことばが感じがいいと思いますか、

1. 礼儀作法
2. エチケット
3. どちらともいえない



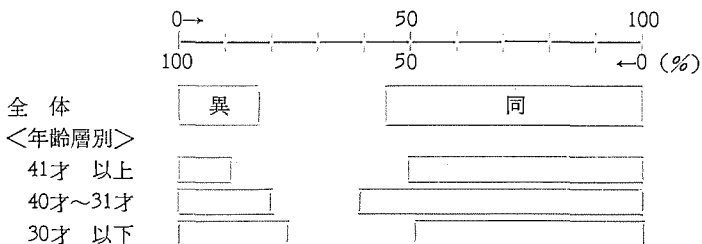
(ウ) どちらの方が新しいことばだと思いますか。

1. 礼儀作法
2. エチケット
3. どちらとも言えない



(エ) エチケットがさしている事柄（ことばの意味）と、礼儀作法がさしている事柄とはどこが違うと思いますか。

1. 違いがある（それはどんな違いですか簡単に書いてください）
2. 違いがない
3. わからない



になったが、三つの年齢層に分けてみると、40才以下の二つの層では「エチケッ

ト」の比率の方が高いが、41才以上の層では逆転して、「礼儀作法」の比率の方が高くなっている。あらかじめ予想したような、年齢の若い人の方がより多く「エチケット」の方を支持するのではないかという方向と、一往合致した。これは、ある都市のある会社のこのテストを受けた人々に関する結果であるが、一般の傾向をある程度反映しているものであろうか。そして、(7)「あなたはどちらのことばを使いますか」に対する反応は、表25の(7)のように三つの年齢層の間に著しい増減の方向が現われたが、これに比べれば、好みに関する質問における年齢層の間のへだたりは著しいものではなかった。

なお、(9)「どちらのほうが新しいことばだと思いますか」に対しては、表25の(9)のように、全体の8.5割弱が「エチケット」に反応し、「どちらとも言えない」が1.5割弱、「礼儀作法」はわずかに2%であった。三つの年齢層の間の差は、多くて3%にすぎなかった。エチケットの方が新しい感じのことばだという語感に関しては、大部分の人が一致し、この点では年齢層の間でも差が出なかったわけである。

また、(5)「エチケットがさしている事柄（ことばの意味）と、礼儀作法がさしている事柄とは、どこか違うと思いますか。1. 違いがない 2. 違いがある（それはどんな違いですか。簡単に書いてください） 3. わからない」に対しては、表25の(5)のように、5.5割弱が「違いがない」、2割弱が「違いがある」に反応した。「違いがない」に反応した方は年齢層の差は少ないが、「違いがある」の方は若い層ほど比率がふえている。違いの内容を書いたものを見渡すと「エチケット」の方には、「明るい・近代的・軽い」など、礼儀作法には「強い・きびしい・堅い・重苦しい」などの形容語が目立っており、はじめに引用した「国研アンケート」の結果と、ほぼ並行した方向を示している。

(2) 守ろう、交通の規則／守ろう、交通のルール（ポスターのことばとして）

「国研アンケート」の「規則／ルール」の5人の答えをそのまま引用することとは控え、適宜要約すると、

	規 則	ル ー ル
（使用分野）	一般語・法律語	スポーツ・ゲームなどに多く使う
（意 味）	成文的なもの	不文律的なもの

(語 感) 格式ばってきこえる 軽い、自由な感じ

のようになる。

このテストでは、「守ろう、交通の～」というポスターの標語として、どちらを好むかと問うたのであって、単語としての「規則」と「ルール」のどちらが好きかと問うたのではない。後者のような問いはおそらくむりな、ほとんど意味のない設問であろう。したがって、どちらの語を好むかという要素も内在するであろうが、この条件・この文脈でどちらを適当と感じるかという要素もかなり存在しているだろうと考えなければなるまい。

この問いの結果は、「規則」が7.5割、「ルール」が2割、「どちらともいえない」が0.5割となり、「規則」が支持される傾向を示した。男女の間にもほとんど差がなかった。この問いでは理由は尋ねていないので、この結果の解釈を客観的に行なうわけにはいかないが、以上のテストとは別個に、中年から20代にわたる4人の男女に、口頭で同じ質問をしたのち、その理由を問うたところ、4人とも「規則」を支持し、その理由として「規則」の方が強い感じがする、「ルール」だとあいまいになるという意味のことを2人が述べた。さきの「国研アンケート」の結果ともならみ合わせると、交通の場合ははっきりした成文的な法律があって、それを守ろうと呼びかけるのにルールでは適当でないという感じがたが、要因としてはたらいたのかもしれないと想像される。もっとも、交通安全運動についての新聞記事中に「ルール無視の運転」「歩行ルール、自転車運転ルールの教育をする」のような用語も見られ、実態として交通規則に関して「ルール」という語が使われていないというわけではない。また現に「守ろう!!交通のルール」というポスターが東京の街頭に見かけられたこともあるが、これはあるいは「規則」とした方が受け取る側の感覚にマッチするものであったかもしれない。

(3) おもちゃ売り場／玩具売り場

デパートの案内係に「おもちゃは何階ですか」と尋ねたら、「玩具は○階でございます」と教えられたという話を聞く。あちこちのデパートの売り場の表示を見ても、「おもちゃ」よりむしろ「玩具」の方が優勢のようである。あるデパートでは総括的な表示としては「おもちゃ」としながら、売り場の小区分に

は、「木製玩具」「金属玩具」等と表示していた。この場合は「木製」「金属」等の漢語との調和上、おもちゃではまずいという要因もあったかもしれない。おもちゃは、文房具と同じ階にしているデパートが多いが、「文具・玩具」と並べて表示する方が、調和するというところもある。二つを合わせて「文玩具」と称しているところもある。しかし「おもちゃ・文房具・運動具」と並べて表示したデパートもある。

おもちゃを扱う業者たちは、「玩具」という語を好み、「おもちゃ」という語をきらうという。「おもちゃ」には安っぽいものという語感をいただき、大のおとなが扱って、それで商売をしている、大事な商品なのだという重みを、「玩具」という語ではじめて感じ得るという（「言語生活」134号、座談会「コンシャリズムと語感」）。こういう語感はおもちゃを職業として扱う当事者たちの間には強いのかかもしれないが、一般人の語感とはかけはなれたものかもしれないと予想される、おもちゃ業者ではない成人5人に、口頭で2語のいずれを好むか、その理由はと問うてみたところ、4人は「おもちゃ」が（はるかに）好きだと答え、1人はどちらともいえないと答えた。理由として「おもちゃ」の方が「かわいらしい感じ」だ、「玩具」は「こどもらしくない」という趣旨をあげたのが3人、「おもちゃ」の方が「使いなれた身近なことばだから」が1人、「玩具」は「発音が鈍重だ」が1人あった。先にあげたおもちゃ業者の語感は、決して一般的なものではなさそうである。

ところで、このテストの「おもちゃ売り場／玩具売り場」のいずれを好むかという問いに対する反応は、大学生において「おもちゃ売り場」8.5割弱、「玩具売り場」1.5割弱、「どちらともいえない」0.5割弱となった。性別で見ると、女の方が男より幾分「おもちゃ売り場」の比率が高く、「玩具売り場」が低かった。社会人のグループでは、「おもちゃ売り場」9割弱、「玩具売り場」0.5割強で、やはり前者が支持される傾向を示し、前者の比率は、大学生のグループより、さらに幾分高く出た。社会人のグループを性別に分けると、やはり女の方が、男より幾分「おもちゃ売り場」の比率が高く出た。

この設問は「～売り場」という結合上の調和性において、「玩具」より「おもちゃ」の方が支持されたことを示すものにほかならないではないかとも考え

られる。たしかにそういう要素は大きい。「売り場」という和語に対して、「玩具」という漢語よりも「おもちゃ」という和語の方が調和するという要因がはたらいっているであろう。しかし、「おもちゃ売り場」という語も「玩具売り場」という語も実在する。もし「～商」という結合において2語のいずれが適当かと問われれば、問題なく「玩具商」が支持されるであろう。「おもちゃ商」という語は実在しないからである。ともに実在する「おもちゃ売り場」と「玩具売り場」の場合は、両者のいずれを好むかという問いも成立し得るし、それは「～売り場」という文脈への調和のよさだけに還元できるとは限るまい。この点は、次の「語の選択とその要因」のテストでも同じ問題語について追及したので、そこでふたたびふれることにする。

(4) 楽しい暮らしのお買い物／楽しい暮らしのショッピング（広告のことばとして）

広告のことばとして、上の二つとも実際に見られた。「ショッピング」という外来語は近年目立ってきたことばで、デパートなどの宣伝文句として「買い物」とせり合っているようである。

ここでは、広告のことばとしてという条件のもとで、「楽しい暮らしの～」の文脈において、類義語「お買い物／ショッピング」のいずれが好まれるかという問いを試みたわけである。大学生における結果は、「……お買い物」が6.5割強、「……ショッピング」が2.5割強で、前者が支持される傾向が出た。男と女の間には、ほとんど比率の差が出なかった。一方、社会人のグループでは、「…お買い物」が3割強、「……ショッピング」が6割で、逆に後者が支持される傾向が出た。性別でみると、女の方が人数の点で十分とはいえないが、男が女よりやや多く「……ショッピング」を支持する比率が出た。大学生と社会人の2グループに同一の問いを課した、両グループの結果を比較し得る6問の中で、この問いの結果はいちばんはっきりと両グループの間の開きが出たものである。ここでいう社会人グループというのが、コピーライター志望者のための講習会の受講生であるという特殊な性格が、「……ショッピング」に傾かせた要因だったのではないかと推察される。この問いも次のテスト「語の選択とその要因」でさらに追及したので、そこでふたたびふれる予定である。

(5) 車内の掃除を……／車内の清掃を……（駅のスピーカーのことばとして）

「掃除」も「清掃」も、ともに漢語であるが、「掃除」はすっかり使いなれた日常語になっている。「清掃」はある程度改まった感じを保っているようだが、公的な場面では、「清掃」の方が従来よく使われてきたし、現在もよく使われている。しかし「車内の掃除を……」と言っている駅もある。公共的な便所のまえに、「只今清掃中」も「只今掃除中」も、ともに見られる表示である。

「掃除」と「清掃」とは、相互におきかえられない文脈も多いが、以上のような場合には、同一の文脈において、現実に双方が現われている。

ここで問題とした、駅のスピーカーのことばとしてという条件における「車内の～をいたしますから……」という文脈での好みは、大学生では「車内の掃除を……」が3割、「車内の清掃を……」が6.5割弱で、後者が支持される傾向が出た。社会人では、大学生より両者の比率が接近し、あまりはっきりした傾向が出なかった。「車内の掃除を……」が4割強、「車内の清掃を……」が5.5割である。これも次のテストで、ほぼ同一の条件で要因を追及したので、そこでまたふれることになる。

(6) 手紙を読む／書簡を読む

基本的なことばの一つである「手紙」の類義語と考えられるものに、「書簡・書状・書信・消息・たより・ふみ」などがあるが、ここでは「書簡」を取り上げて、「てがみ」と対比させてみた。「書簡」は「フルシチョフ首相が各国首脳に書簡を送り」とか、「漱石の書簡」「書簡文学」のように、政治家や文学者の場合などによく使われているようだ。中年から20代にわたる4人の男女に、「てがみ／書簡」のどちらの語を好むかと尋ねたところ、4人とも「てがみ」を好むと答え、書簡は「毛筆で書かれた感じ」「目上の人からの感じで、いかつい」「昔の偉い人たちが書いたのを集めて文集にした感じで、特別のてがみ」という3人の反応が得られた。

「手紙を読む／書簡を読む」のどちらを好むかという、この問いに対する反応は、大学生・社会人の両グループにおいて、ともに「手紙を読む」が9割、「書簡を読む」が0.5割程度で、やはり「手紙を読む」が好まれる傾向がはっきりと出た。性別でみると、両グループにおいて、女で「書簡を読む」を好むと

したものは1人ずつにすぎず、僅少の差にすぎないが男より一層「手紙を読む」に傾いたようにみえる。

(7) 揺籃を買った／ゆりかごを買った

「揺籃」という語は、「揺籃時代」「揺籃の地」のような比喩的な用法で使われるのが普通であろうが、あるデパートでは「ゆりかご」と表示している同じ商品を、他のデパートでは「ヨーラン」と表示していた。中年から20代にわたる4人の男女に「揺籃／ゆりかご」のどちらを好むかと尋ねたところ、4人とも「ゆりかご」の方を（はるかに）好むと答え、「揺籃は深みがあるが、ゆりかごはこどもらしい」「揺籃は要覧かと思ってしまう」と2人はつけ加えた。

「揺籃を買った／ゆりかごを買った」のどちらを好むかという、この問いに対する反応は、大学生・社会人の両グループとも「ゆりかごを買った」が約9.5割で、好みの調査の9問中もっとも一方的な数字が出た。

(8) 孤独を愛する心／ひとりぼっちを愛する心

「ひとりぼっちを愛する心」というのは、普通の言い方ではないが、「ひとりぼっち」という語がやや流行的になっていた時期であったので、あるいはある程度「ひとりぼっちを……」が支持されるかと予想したが、結果は大学生において「孤独を……」が9割強、「ひとりぼっちを……」が0.5割強、社会人において「孤独を……」が8割強、「ひとりぼっちを……」が1割強で、この文脈で、より自然な「孤独を……」の方が支持された。

(9) おとうさんとおかあさん／パパとママ

これは「パパママ是非論」などの形で、新聞紙上などにもしばしば取り上げられて、問題になる組である。大学生グループは、「おとうさんとおかあさん」7割強、「パパとママ」2割弱で、前者が支持される大勢を示したのに対して、社会人グループでは両者がかなり接近して、はっきりした傾向を示さなかった。男女別にみると、両グループとも男の方が「パパママ」支持率が少しずつ高かった。

3.2.2.3. おわりに

大学生と社会人の二つのグループの間で有意差が出たのは、(4)と(9)の二つであった。二つのグループは、ともに年齢的には20～30代を中心とするし、知識

層に属する人々のグループであるが、社会人と称したグループの特殊な性格と大学生のグループとの違いが反映したものではないかと推測される。その他の組、特に(3) (6) (7)などは二つのグループの比率がかなり接近している。

男女の間に、有意差の出たものはなかった。(3) (6) (7) の、和語と漢語との3組では、いずれも、女が男より、和語の支持率が高かったものの、多くても4%程度の差にすぎなかった。日本古来の伝統で、女性の方が、漢語に対する抵抗感が大きく、和語を好む傾向が現代にも存続しているかどうかは、一つの興味ある課題ではあろう。大学生のグループにおける(1) (2) (4) (6) (7) (9) や、社会人のグループにおける、(7)などは、男と女の示した比率が、非常に接近している。

3.2.2.1.に述べたように、(3) (4) (5) の3組については、10日ほどのへだたりをおいて2回、同一の被験者グループに答えてもらった。これらの三つの質問に2回答えた人は、3.1.3.1.に示した81人（男39人、女42人）である。これの結果は、表26のとおりであった。（カッコ内の数字は、全体の人数に対する百分率。）

表 26

あなたは次のことばのどちらが好きですか

- (3)おもちゃ売り場／玩具売 場 (4)楽しい暮らしのショッピング／楽しい暮らしのお買い物 (5)車内の掃除をいたしますから……／車内の清掃をいたしますから……

I おもちゃ玩具DK計					I 買い物ショッピングDK計					I 掃除清掃DK計				
II	おも	玩具	DK	計	II	買物	ショッ ピング	DK	計	II	掃除	清掃	DK	計
おも	58 (72)	2 (3)	1 (1)	61 (75)	お	38 (47)	4 (5)	3 (4)	45 (56)	掃	20 (25)	8 (10)	1 (1)	29 (36)
玩具	5 (6)	8 (10)	0 (0)	13 (16)	ショッ ピング	11 (14)	17 (21)	1 (1)	29 (36)	清	2 (3)	42 (52)	4 (5)	48 (59)
DK	5 (6)	0 (0)	2 (3)	7 (9)	DK	2 (3)	1 (1)	4 (5)	7 (9)	D	1 (1)	3 (4)	0 (0)	4 (5)
計	68 (84)	10 (12)	3 (4)	81 (100)	計	51 (63)	22 (27)	8 (10)	81 (100)	計	23 (28)	53 (65)	5 (5)	81 (100)

2回とも同じ答えをして変化しなかった人は、3問において7～8割で、3.1.3.2.でみたように、語感の調査の3問が8～9割であったのに比べて、やや変化した人が多かった。男女別は表に示さなかったが、(3) (5) では、一貫率が男女ほとんど等しかった。(4)では女の方が1割弱、一貫率が低かった。変

化のしかたをみると、第1回に「お買い物」で、第2回に「ショッピング」と変化した女の人が、8人あって、女全体の2割弱に当たり、やや目立っている。

以上の9組を語種の観点からいえば、(3)(6)(7)(8)は和語と漢語とが同義的な対をなす例で、上記諸文脈においては、(3)(6)(7)では漢語より和語の方が好まれ、(8)では漢語の方が支持される傾向が出た。これらは個々の結果として考えることしかできないが、もし和語と漢語との同義的な多数の対のサンプルが得られて、それらについてこのような方法で調査をすれば、年齢層・教養層・性別などの間における、和語・漢語に対する好みの変動などがとらえられるであろう。また、10年後、20年後に同様の調査をくりかえせば、時代的な好みの変動がとらえられるであろう。

(1)(2)(4)(9)の、外来語と在来語の組も同様に個々の結果としてしか考えられないが、日本語に同化しきった外来語でなく、外国語臭の抜けていない外来語と在来語とが、同義的な対をなすものの適当なサンプルが、もし得られるならば、上と同様の方法で、外来語・在来語に対する好みの動向を調査することができるだろう。

3.2.3 選択とその要因の調査

3.2.3.1. テストの内容など

前節に述べた、語の好みに対する調査では、同一の短い文脈を伴った類義語二つのうちの、どちらを好むかを問い、好む理由・好まない理由などには、まったく触れなかった。したがって、あるグループでどちらの語の方が好まれる傾向があるかについては、一往の結果が出たが、その要因については、まったく知ることができない。このような要因を明らかにすることは至難であろうが、さぐりを入れる試みを行なった。

前節のテストでは、一対の類義語に対する、いわば静観的な好みを問うという形をとった。こんどのテストでは、被験者自らが、ある実生活上の立場に立つことを想定してもらい、一対の類義語を含む二つの言語表現のうちのいずれをとるか、あるいは二つの言語表現のうちのいずれに対して、より好ましいものとして反応するかを問うという形の質問紙を作った。具体的には次のような

五つの問いから成り立っている。

類義語の調査研究のデータとして、この質問紙調査をお願いいたします。

(学科	(年
おなまえ ()			
お	年	(満	才)
生まれた所(何県何郡程度にかんたんに。以下同様)			
()			
小学校時代のお住まい			
()			
()			
現在のお住まい			
()			

- (1) 全く同じ食堂が二つ並んでいます。ただ店の看板の文句がちよっと違います。あなたはA Bどちらの店にはいりたくになりますか。(AまたはBの上に○をつけてください。以下同様。)
- A 味と量の店
- B 味とボリュームの店
- (2) 二つのデパートの次のような宣伝文が並んでいます。あなたは二つのうちではどちらのデパートへ行きたくになりますか。
- A 楽しい暮らしのショッピング
- B 楽しい暮らしのお買い物
- (3) あなたがデパートに勤めていて、いろいろな売り場の表示を出す責任を持っていると仮定してください。あなたは次の二つのうちではどちらの表示を出しますか。
- A 玩具売り場
- B おもちゃ売り場
- (4) あなたが商店の主人だとしてください。休業の日には、はり紙を出すとき、あなたは次の二つのうちでは、どちらのはり紙を出しますか。
- A きょうは休業いたします
- B 本日は休業いたします
- (5) あなたが鉄道関係に勤めていて、係員のことばの訓練をする立場にいと仮定してください。あなたは次の二つのうちではどちらの言い方を係員にさせますか。
- A 車内の掃除^{そうじ}をいたします
- B 車内の清掃^{せいそう}をいたします

5問中の(2)(3)(5)は、3.2.2.の「好みの調査」とまったく、あるいはほとんど同一の言語表現の一対であり、言語行動における選択を問うという形にした点が異なっている。5問とも公的な場における多数者に対する言語表現を選ん

だが、その理由は次のようである。第1に、被験者に対して均一な条件を想定してもらうのに、その方が比較的容易であろうと考えたことである。第2に、日本語では日常的な場における用語が、公的な改まった場にそのまま持ち出されず、別の語を用いようとする傾向が著しく、「1.3.3.改まった感じ」に触れたように、これが同義的な語の存在を招く重要な原因の一つだと予想し、この点を確認しようとしたことである。そして、単に頭で想定した表現でなく、実際に見、あるいは聞いたことのある表現だけを問題語として取り上げた。

以上の5問を、1枚の質問紙として被験者に渡して、五つの選択を記入してもらってそれを回収した後、選択の要因を問う別の質問紙を渡す方式をとった。選択を記入してもらった用紙をまず回収した理由は、一つには、でたらめな回答を排除するため、二つには要因を問う方の選択肢の文章を読むことによって、選択の方が逆に影響を受けたりすることがないためである。(実際に、Aの方の語を選んでおきながら、それを忘れて要因の方ではBの方から選んだというような回答を含む答案が2名あり、これははじめに調査対象から取り除いて、集計を進めた。)

要因を問う質問紙の方は、次に述べるような方法で作った。予備調査で口頭により、できるだけさまざまな種類の人に、五つの選択を問うた後、その選択の理由を自由に述べてもらったものを資料とし、なおその他に当然あり得ると予想される理由をも加えて、10項目程度の選択肢を作った。中には、妥当ではないと考えられるものも、そこには反応が集まらないであろうという予想のもとに、わざと含めてある。また、選択肢のいずれにもあてはまらない選択要因が当然あり得ると予想されるので、各々の最後に、「その他」として自由に記入できる欄を作った。選択肢の文章はここには引用しないが、「V. 実験テスト集計表——テスト4」に見られるとおりである。なお、この第2段の質問紙のまえがきは次のようにした。

いま、あなたは5組の言いかたについて、ABどちらかを選んでくださいました。

- 1 どうしてそちらの語を選んだのか、あなたの気持ちをふりかえってみてください。
- 2 その後、以下に並べてある簡条書きのうち、あなたの選んだ言いかたの方のものを読んでみてください。
- 3 そして、あなたがそちらの言いかたを選んだ気持ちを、いちばんよく代表するものを選び、その番号の上に○をつけてください。

- 4 もし、あなたの気持を代表する簡条書きがなければ、「その他」のところに書いてください。

被験者としては、好みの調査よりもさらに複雑な選択の要因を内省してもらうという困難な知的作業を要求する必要上、まず大学生が適当であろうと考えて、次の二つのグループを対象とした。

武蔵大学経済学部学生 70人(男)

東京女子大学文学部学生 91人(女)

表 27

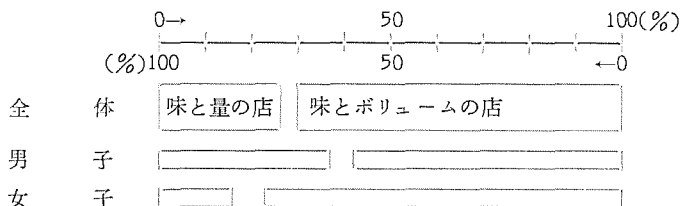
性	とし	18	19	20	21	22	25	?	計
男		7	28	24	10	1			70
女		7	42	13	18	8	1	2	91
計		14	70	37	28	9	1	2	161

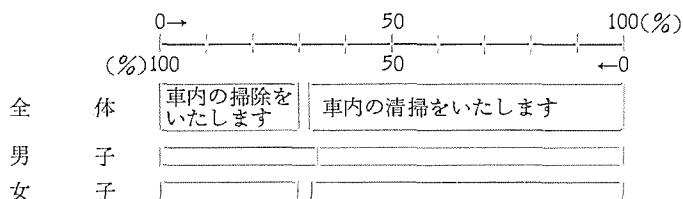
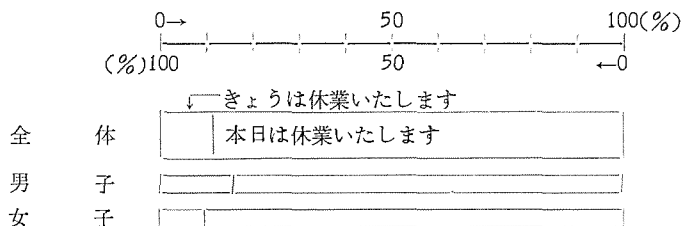
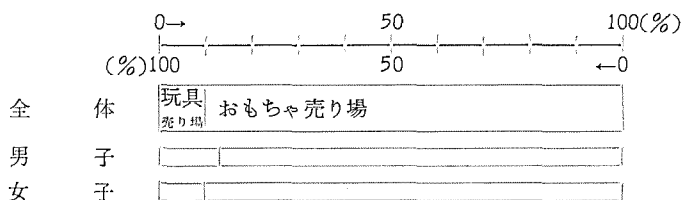
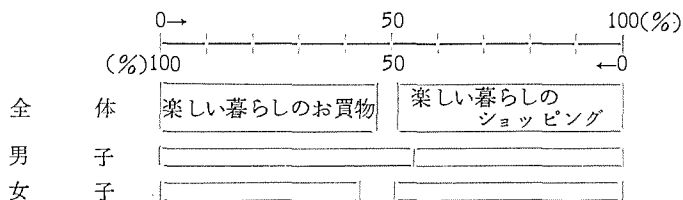
なお、好みの調査で、大学生のグループと社会人のグループの間で、かなりはっきりした好みの差が出たものがあったので、この点を要因にまでわたって追及したいと考えたが、時間の都合上及び得ず、大学生グループの調査だけに終わったことは残念である。

3. 2. 3. 2. テストの結果

選択を問う部分と、選択の要因を問う部分とを、5問の各々について合わせて、その集計結果を巻末の「V. 実験テスト集計表——テスト4」に示した。なお、選択を問う部分だけの5問の結果をグラフで表わすと、表28のとおりになる。5問のそれぞれについて、その結果を調べてみよう。

表 28





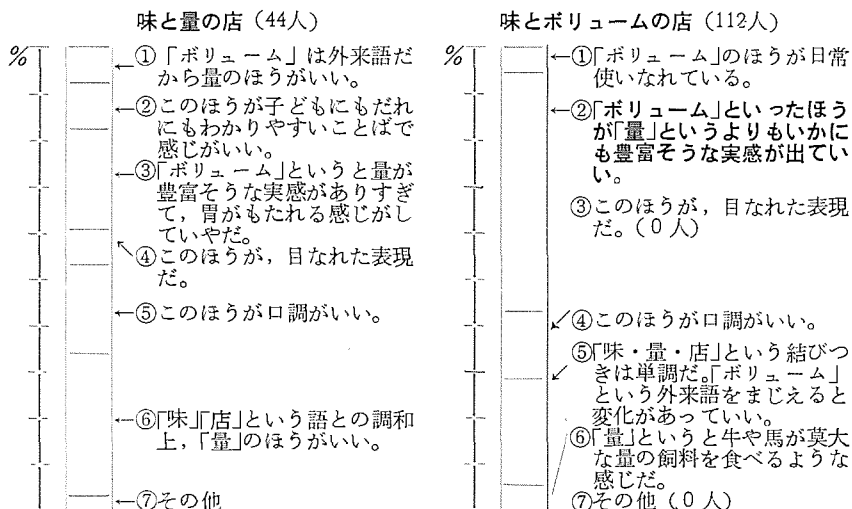
(1) 味と量の店／味とボリュームの店

東京都内で、「味と量の店」という宣伝文句をかかげている食堂と、「味とボリュームの店」というそれをかかげている食堂とが、実際にある。「量」と「ボリューム」とはおきかえられない場合も多い（例「あの人はボリュームがありすぎる」）が、この「味と～の店」という文脈では、相互におきかえることができ、意味もよく類似していると考えてよいだろう。

さて、問いの前段をなす選択の集計結果をみると、男女を合わせた全体では「味と量の店」が3割弱、「味とボリュームの店」が7割で、後者の文句を書いた食堂の方にはいりたくなる人が多いという傾向が出た。男女に分けてみ

ると、男子学生のグループでは「量」が4割弱、「ボリューム」が6割強で傾向が出なかったのに比べて、女子学生のグループでは「量」が2割弱、「ボリューム」が7.5割で「ボリューム」が選ばれる傾向がはっきりと出た。そして男女のグループ間に有意差が出た（5問中、男女間で有意差が出たのはこの一つだけであった）。

表 29



次に、選択の要因の方の調査結果を表29によって調べてみよう。「味とボリュームの店」の方を選んだ7割の人(112人)のうちの約5割に当たる58人が、要因の選択肢の中の②を、自分が「ボリューム」の方を選んだ気持をいちばんよく代表するものとして採った。「味と量の店」を選んだ44人のうちの約2割に当たる9人が、その要因として採った③の要因も、結論的な態度としては肯定的に対する否定的という、逆方向ではあるが、「ボリューム」の語に「量」よりも、いかにも量が豊富そうな実感が出るという感じかたをしている点では、共通性を持つものである。外来語が、それと同義的である在来の語よりも強い実感を表わすことができ、強調的な表現効果を持つ場合の1例であると考えられる。

上にあげた以外の要因で、比較的多くの人が採ったものを、調べてみよう。「味と～の店」という文脈における調和のよさという点にかかわる要因として

選択肢に入れたのは、「量」の方の⑤⑥と「ボリューム」の方の④⑤である。

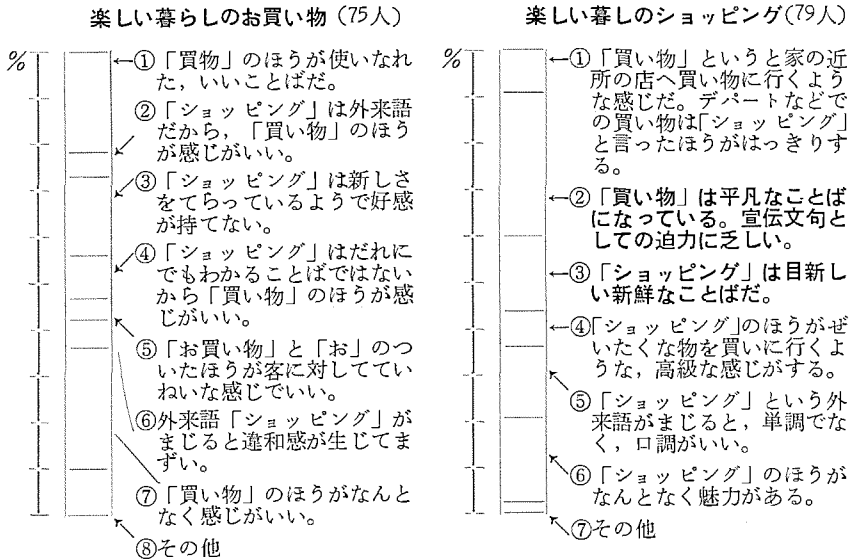
「量」の⑤⑥には「量」を選んだ人数の約5割に当たる23人が、「ボリューム」の④⑤には「ボリューム」を選んだ人数の約4割に当たる43人が集まった。「味と量の店」の方が口調がいい、「味」「量」「店」と調和すると感じる人と、「味とボリュームの店」の方が口調がいい、外来語がまじり単調でなく変化があっていいと感ずる人とは、ともに存在することがわかった。

(2) 楽しい暮らしのショッピング／楽しい暮らしのお買い物

好みの調査のテストの(4)番はこれとほとんど同一の問いであった。問いかたが好みの調査ではどちらが好きかというのであったのに対して、こんどは二つのデパートの宣伝文をみて、どちらのデパートへ行きたくなるかと問うた点が違うだけである。

好みの調査の結果は、3.2.2.2.にしるしたように、大学生グループと社会人グループとの間にはっきりした差が認められた。こんどの調査テストの前段をなす選択の集計結果は、「ショッピング」が5割弱、「お買い物」が4.5割強で、好みの調査における大学生グループと社会人グループとを合算した場合の比率（「ショッピング」が45.7%、「お買い物」が47.3%）と、かなり近い数字を示し、両者相半ばする結果が出た。男女の間では、女の方がわずかに多く「ショッピング」に傾いた比率を示し、選択を保留したものが男に皆無だったのに対して女に少しあった点が異なった。好みの調査のときの大学生のグループより、こんどの調査のときの大学生グループの方が、かなり「ショッピング」に傾いて、「お買い物」と相半ばする結果になった。その原因は、大学生のグループが別のグループであるための違いによるものか、問いかたのわずかな違いによるものか、あるいは両テストの実施された8か月の間に「ショッピング」という新しい外来語が普及・浸透して親しい語になってきたことによるものか、あるいはそれらの複合によるものかなどのいずれかであろう。

選択の要因の方に移ろう。近年使われ出したばかりの「ショッピング」を親しみ深い安定した語である「お買い物」とはり合うほどに支持させた要因は何であったか。「ショッピング」を選択した79人のうち、約3割に当たる24人は②に集まり、2割弱に当たる13人が③に集まった。②と③を合わせると5



割弱になり、外来語を新鮮な魅力あるものと感じ、それと同義的な在来語は平凡・陳腐なものと感じられるという、現代日本語に著しい傾向の1例がここにも見られるわけだ。ショッピングの⑥は、どこに魅力があるかを分析することはできないにしても、この語に魅力のあることを認める人があるだろうと予想して用意した質問である。これを採った2割弱に当たる14人の中にも、しいて魅力を分析すれば、②や③のようなことになる感じかたがあっただろう。⑦「その他」に自分の意見を書いた女2人の「ショッピングの方が楽しく、うきうきした感じがします」「ショッピングは何かうきうきした楽しい買物をするようなふんい気がある」や、「ショッピング」の④を採った1割弱に当たる6人（うち女が5人）に照らしても、「ショッピング」という新しい外来語が購買者の心理をたくみにとらえた商業主義のことばとして、一往の効果をあげていることは認めざるを得ないであろう。ただし、このような新鮮さや魅力が永続的なものであるか、すりきれ、すたれやすいものか、類義語の「買物」とどうせり合っていくか、しだいに意義の分担を生ずるに至るかなどは、興味ある今後の課題であろう。これと同一のテストを数年後に実施すれば、またかなり

異なる結果が出る可能性もあろう。

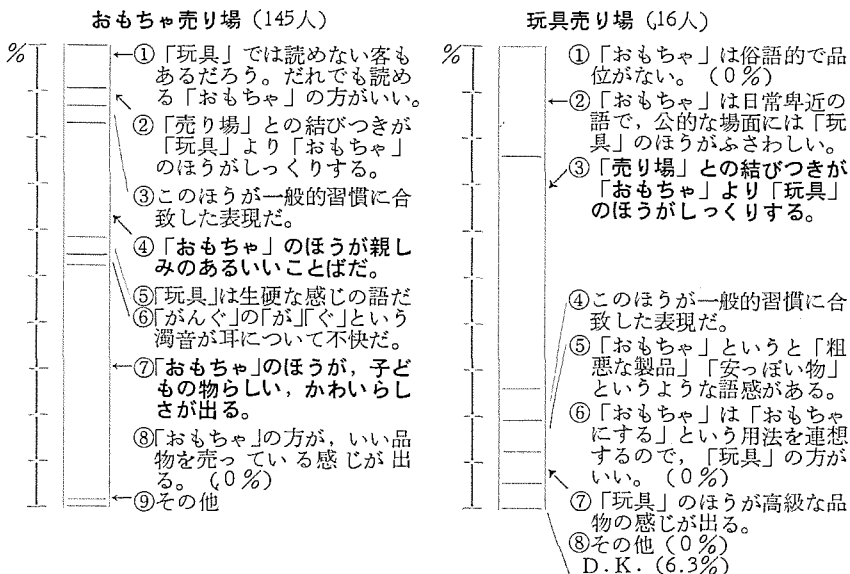
一方「買い物」の方を選んだ75人の選択要因をみると、著しく人数が集中した要因はないが、2割強の17人が採った①、2割弱の13人が採った③のあたりが、代表的な要因であろう。「ショッピング」の新しさが好まれている一方では、その新しさに反発し、使いなれた落ち着いたことばである「お買い物」の方を好む心理も存在しているわけだ。⑦を採った2.5割に当たる18人の中にも、分析すれば上の①や③のような心理になるものがあるだろう。

「楽しい暮らしの～」という文脈における調和や口調のよさに関する要因では、「ショッピング」の⑤を12人(1.5割)が採り、これと対照的な内容をもつ「お買い物」の⑥を7人(1割弱)が採った。

(3) 玩具売り場／おもちゃ売り場

好みの調査の(3)と同じ問題語で、問いかたは少し異なっている。このテストでは、「玩具売り場」を採ったのが1割、「おもちゃ売り場」を採ったのが9割で、好みの調査におけるよりもさらに「おもちゃ売り場」に集中したが、大体は類似した結果が出たといえよう。男女に分けると、こんども女の方がわず

表 31



かに「おもちゃ売り場」の比率が男以上に高かったが、差というほどのものではない。大学生のグループで、男女を通じて、「玩具売り場」よりも「おもちゃ売り場」の方が選ばれる傾向ははっきりしていると言える。

「おもちゃ売り場」を選んだ145人の5.5割にあたる79人は、選択の要因として⑦を採った。これに次いで、④を2.5割の37人が採った。「おもちゃ」ということばの使いなれた身近な性質、和語のもつ柔らかさが、この場合にはその意味内容が、子どもの持ち物であるだけにかわいらしさとマッチして、堅い漢語の「玩具」よりずっと好まれる要因となるのであろう。

好みの調査のところで、おもちゃを扱う業者の間では、「おもちゃ」より「玩具」の方が語感の上で好まれる傾向があるようだと言ったが、「玩具売り場」を選んだ16人のうち、⑤を1人、⑦を1人が採ったにすぎないのを見ると、予想どおり、上記のようなおもちゃ業者が職業的な場面でいただく「おもちゃ」に対する語感、決して一般的なものではないことがわかる。

好みの調査のところで、大部分の人が「おもちゃ売り場」の方を好むと答えたのは、「売り場」という語との結合において、「おもちゃ」の方が適合すると判断されたにほかならないという考え方もあり得ることを指摘して、問題を残した。この点に関係する要因をみると、「おもちゃ」の②を5人(3%強)が採り、「玩具」の③を8人(50%)が採っている。「売り場」との調和という点では、必ずしも「玩具」より「おもちゃ」の方がしっくりすると感じる人が多いとはいえないようだ。「玩具売り場」という、漢語と和語のまざり合った形の方を、かえてしっくりと感じる人もあるのだ。「おもちゃ売り場」が大多数の人に支持された要因はここにはなく、やはりさきに述べた点に存在するものと考えられる。

(4) きょうは休業いたします／今日は休業いたします

おととい——昨日

きのう——昨日

きょう——本日、今日

あした、あす——明日

あさって——明後日

おとし——昨年

去年——昨年

ことし——本年、今年

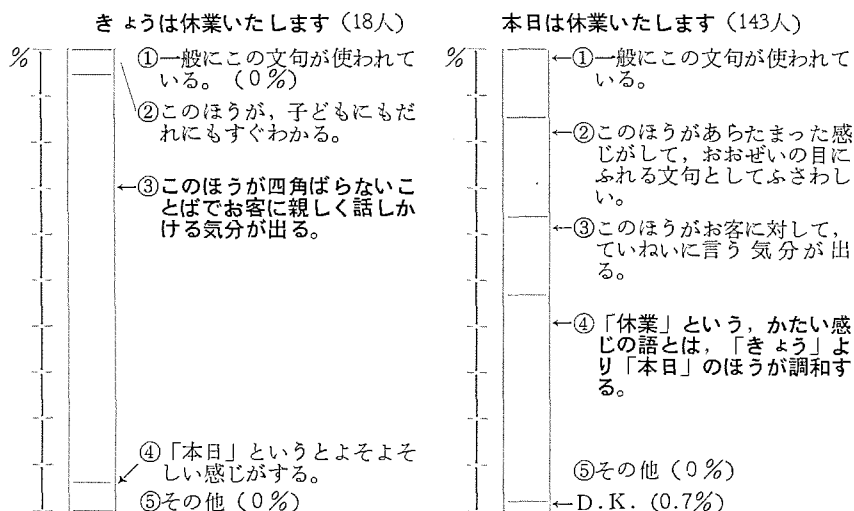
来年——明年

さ来年——明後年

のように、時に関する名詞に、日常のことばと、改まった場面で使うことばと

が類義語として併存していることは、日本語の語彙体系の重層性の中でも著しい例である。ここで取り上げたのは、その1例の「きょう／本日」で、「～は休業いたします」という商店のはりがみの文句としては、どちらを選ぶかと問うたわけである。その結果は「きょうは……」が1割強「本日は、……」が9割弱で、男女間の差はほとんどなかった。

表 32



「本日は……」を選んだ143人の4.5割強の65人は、選んだ要因として④を採った。この場合は文脈の上の調和ということが、「本日は……」が大多数に支持された有力な要因であるらしい。「本日は終了させていただきます」「本日は閉店いたしました」などと同様に、堅い漢語と調和するのは「きょう」ではなく「本日」だと意識されたわけである。「本日」の②は2割強の30人が採ったが、私的なくつろいだ場面と、公的な改まった場面とで、ことばを使い分けようとする日本語の著しい傾向の一つをなす心理は、こういうところにも見られるわけだ。改まった場面にふさわしいことばは、おのずと相手に対してていねいなことばだという感じをもひき起こすに至ることがあるが、「本日」の③を2割弱の24人が採った。

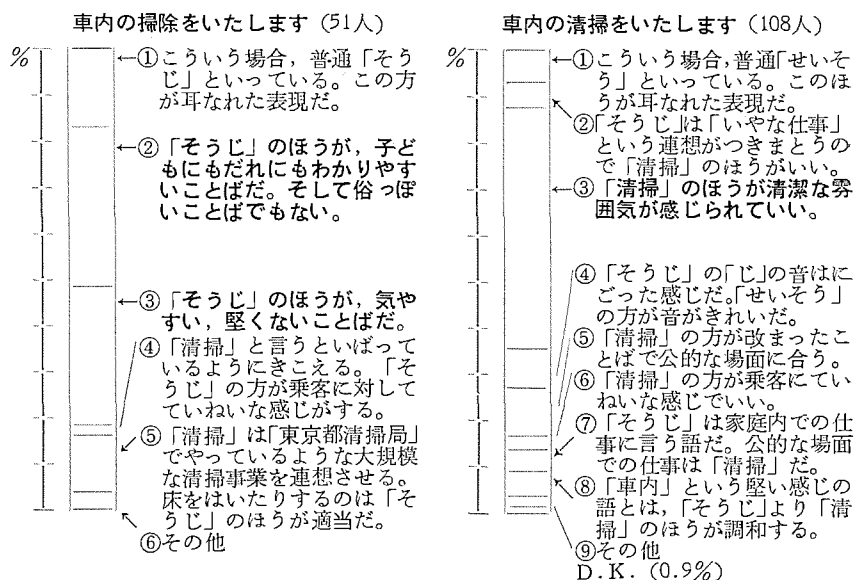
一方「きょうは……」を採った18人のうちの16人までは、要因として、「きょう」の③に集中した。一般に「本日は……」という文句が使われているか

ら、「本日は……」を選んだという人は23人あったが、一般に「きょうは……」という文句が使われているから、「きょうは……」を選んだという人は0であった。現在の習慣として、「本日は……」が普通に使われているという認定は動かぬところであろう。「きょうは……」を選んだ1割強の人々は、そういう現在の根強い習慣からははずれた方を選んだわけで、公的な場にも日常的な語を持ち出した方が親しみが出るというのが選択の主たる要因であったらしい。

(5) 車内の掃除をいたします／車内の^{せいそう}清掃をいたします

好みの調査の(5)とよく似た問いである。問いの文句の後半をこんどは省略したことで、鉄道従業員の乗客に対することばという条件も同一であるが、問いかたの点で、やや異なっている。「掃除」を選んだのが3割強、「清掃」を選んだのが6割7分で、好みの調査(5)の大学生グループに、よく似た結果となった。

表 33



「車内の清掃をいたします」を選んだ108人の5.5割に当たる59人は、「清掃」の③を代表的な要因として採った。この調査とは別個に、20代から60代にわたる各種の男女7人に、口頭で「『清掃』と『掃除』とでは、どちらの方が仕上げがきれいでさっぱりとしていると感じますか」と尋ねたところ、7人とも「清掃」と答えた。こういう語感の違いを2語の間に認めるのはかなり一般的な傾向であるらしく、これが「清掃」を選ばせた代表的な要因だったようである。2語とも語種は漢語であるが、「掃除」は熟し切って日常語そのものになる一方、手あかのついたことばにもなっているであろう。より改まった、漢語らしい漢語である「清掃」の方に新鮮さ・望ましさを求め、この場合は意味内容の性質上、すがすがしさ、清潔さとも結びついた語感が形成されたのであろう。また、発音上、「掃除」は濁音を含む（これを代表的な要因として採ったのは、6人にすぎなかったが）のに対して「清掃」はS音を二つ含んでいること、表記した場合の「清掃」の「清」の字から来る感じなども、こういう語感の形成を助けているのかもしれない。

「車内の掃除をいたします」を選んだ51人のうち、②を採ったのは3.5割に当たる18人、③を採ったのは約3割の15人で、合わせて6.5割になる。「そうじ」という語が「清掃」に対してもつ、基本性・わかりやすさ・気やすさなど、しかも俗語的ではないことなどが、「掃除」を選ばせた主たる要因であったようだ。

3. 2. 3. 3. おわりに

以上、5組の類義語を含む表現の選択とその要因の小調査の結果は、個々の結果として考えるよりほかはなく、一般的な結論を導き出せるものではないが、二・三の観点から五つの結果を見渡して、今後の追究への参考としたい。

5対の類義語を、自分たちが日常生活で普通に使っている基本的なことばと、ややよそ行きのことばの対立という観点からながめると、(1)「量／ボリューム」は特に大学生の場合どちらが愛用されている親しいことばか調査してみなければわからないので除外すると、(2)以下は「買い物」「おもちゃ」「きょう」「掃除」が親しい人と気楽に話すような場合に「ショッピング」「玩具」「本日」「清掃」よりも、より多く普通に使うことばである。(2)「買い物

／ショッピング」(5)「掃除／清掃」については、この点、次の使用意識の調査の3.3.3.で別の大学生グループについてではあるが、一方的なはっきりした傾向が出た。(4)「きょう／本日」のいずれを普通に多く使うかについては調査しなかったが、多少共通性のある「去年／昨年」については、同じテストで「去年」を使うというはっきりした傾向が出た。(3)「おもちゃ／玩具」については特に調査しなかったが、まず上のように判断してまちがいはないだろう。ところで、(1)を除いた4対のうちで、普通によく使う親しみ深い語のほうが、より多くの人に選択されたというはっきりした傾向が出たのは、(3)「おもちゃ／玩具」の場合だけで、(4)(5)は普通によく使わない方の語が選ばれる傾向が出、(2)では両者相半ばする結果が出た。このような結果が出たのは、いずれも公的なやや改まった場面を条件として設定したためによるところもあるであろう。日常卑近の身近なものは、公的な改まった場面には、そのままでは持ち出せないというような、「ケ」と「ハレ」とをきびしく区別する意識は、言語にもさまざまな形で現われており、昔ほどではないにしても、いまだに根強くわれわれの言語意識の中にはたらいっているであろう。

男女に分けて認められる差異の一つは、いずれか一方を選択せず、「どちらともいえない」と判断を保留したものが、男には0人であったのに対して、女には(1)(2)(5)に少しずつあった(合計14人)点である。

語種の観点からみれば、(1)(2)は外来語と在来の語との対立である。(1)については、「ポリウム」は大学生の間などではすっかり定着した外来語になっているので「量」よりも優勢な結果が出たことは予想どおりであったが、(2)の「ショッピング」はかなり新語的な外来語であるのに、(あるいは新語的な魅力をもっているために?)「お買い物」と比肩する人数に選択されたことは注目すべき結果であった。

選択の要因の方に移ろう。要因の選択肢の作りかたは、5組に対してそれぞれに応じて別個に考えたものなので、5組を通ずる共通的な見方はあまりできないが、5組の選択肢のすべてを、その内容に応じて表34のように一往分類してみた。

表 34

分類	問 1		問 2		問 3		問 4		問 5	
	A (量)	B (ボリューム)	A (ショッピング)	B (買い物)	A (玩具)	B (おもちゃ)	A (きょう)	B (本日)	A (掃除)	B (清掃)
(1) 現在の習慣	④	③①		①	④	③	①	①	①	①
(2) わかりやすさ	②			④		①	②		②	
(3) 語種に対する意識	①			②						
(4) 口調のよさ 文脈上の調和	⑤⑥	④⑤	⑤	⑥	③	②		④		⑧
(5) 意味上の区別			①						⑤	⑦
(6) 語感・連想	③	②⑥	②③④	③⑤	①② ⑤⑥⑦	④⑤ ⑦⑧	③④	②③	③④	②③ ⑤⑥
(7) 音からくる感じ						⑥				④
(8) その他			⑥	⑦						

(6)語感・連想としたものは、いくつかの下位分類することもできようが、ここでは広くまとめておいた。この分類は、まったく便宜的なものであるが、5問10組の選択肢それぞれの中で、特に多くの人に採られたものを見渡してみると、「語感・連想」の類では、「ボリューム」の②、「おもちゃ」の⑦、「きょう」の③、「清掃」の③は、それぞれ単独で各々を選んだ人々のうちの50%以上の人に採られ、「ショッピング」②は30%の人に採られた。「口調のよさ・文脈上の調和」の類では、「量」の⑤+⑥、「玩具」の③が50%、「本日」の④が45%の人に採られた。「わかりやすさ」の類では「掃除」の②が35%の人に採られた。特に多くの人が集中したのは、以上のような類であるが、細かく見ればそれぞれの間において、それぞれ分布のしかたは異なり、どういう種類の要因が特に強く選択に作用するというようなことは、一概にはいえないようである。

男女に分けてみて、代表的な要因としての選びかたに多少の傾向の違いが見られるものが二・三ある。たとえば「音から来る感じ」の類に入れた二つの要因（いずれも濁音を含む語の方を、その理由で選ばなかったとするもの）を採ったのは、二つを合わせて女に7人あったが、男には0人であった。

3. 3. 類義語の使用意識の調査と語感

3. 3. 1. 調査の目的

ある事物を表わす同義的な語が、いくつも存在する場合、その中のどれを普通に、ある個人ある層の人々が使う傾向があるかということは、類義語とその使用主体との関係の基本的なものであろう。また、ある層の人々がよく使う語だという事実と、その語に伴う語感とは深い関係があると予想され、類義語間の語感的な異同の考察にもこの関係の究明は参考となるだろう。しかし、これは広く複雑な問題である。ここではある老人グループとある大学生グループとの間で、以上の問題の一端をためしてみることを課題とした。

以上のような目的の調査であるが、同義的な語のうちのどれを普通に使用しているかという実態の調査ではなく、自分がどの語を使用していると意識するかの調査であって、それと使用の実態とがどの程度一致しているかをたしかめることは行なうゆとりがなかった。

3. 3. 2. 調査の方法・内容

調査の方法は、質問紙法による集合調査とした。あるものごとを言い表わすのに a と b の 2 語があり（例 セッケン／シャボン）、連語の形で説明するような場合を除き単語で言うとするれば、a でなければ b、b でなければ a を使わざるを得ないというような、語の側からいえば同義的なはり合い関係というものを（厳密には無理であろうが）仮定し得る場合はしばしば存在する。それらの中には、同一の個人が a と b の双方ともよく使い、文脈・場面などによって a と b とを使い分けているという場合もある。また、ある個人は普通には a を使うとか b を使うという傾向のある場合もある。後者については a または b を要素として含む複合語・イディオムなどは除き、a または b を単独に使う場合に限って考える方が適当だろう。（例 普通「セッケン」としか言わない個人でも「シャボン玉」という語は使うだろう。） a と b の 2 語の間に同義的なはり合い関係を仮定し得る場合のほか、3 語以上の間に類似の関係を仮定し得る場合もある。しかし 3 語以上になると複雑で調査がむずかしくなるので、ほとんど 2 語の問いの場合だけに限った。

今回の調査で取り上げた問題語は、大別して 3 類に分けられる。それぞれについて問題語とそれを取り上げた意図などを、簡単に紹介・説明してみよう。

1) A の 類

若い層の人々がよく使う語だ、老人たちがよく使う語だという事実と、新しい感じのことばだ、古い感じのことばだという語感とは、おそらく深い関係があるだろう。脚本家は、たとえば「せっけん」という現代的な語を意識的に避けて「シャボン取ってくれ」というせりふで、五十がらみの人物の感じを出すというような語感の利用を行なうようだ。同一事物を表わす語が、たとえば、

るり　はり
瑠璃→玻璃→ビイドロ→ギヤマン→ガラス

のように歴史的にいろいろと入れかわってきているものがある。語の時代的な交替が完全に行なわれてしまえば、その場合はもはや類義語の問題は存在しない。しかし、新旧の語が同一の時代の同義的な語として共存の状態にあることも多い。同一個人において共存していることもあるし、老人は古い方の語を、若い人は新しい方の語を使っていることもあろう。語の時代的な交替が、年齢層などの間の差として投影されていることは、当然予想されるところである。そして、老人が多く使っていることばが同時に古い感じのことばであり、若い人が多く使っていることばが新しい感じのことばであるという傾向も予想される。このような種類の同義的なはり合い関係として、次のようなものを仮定した。

シャボン／せっけん

「シャボン」はポルトガル語またはスペイン語からはいった（石綿敏雄「シャボンの語源」―「ことばの研究」国立国語研究所論集1）。明治時代の中期まではさかんに使われた（榎垣実「日本外来語の研究」昭和19年）。今では「せっけん」に押されているが、まだ高い年齢層では、相当程度使われているだろうと予想した。「シャボン玉」という複合語は「シャボン」とは別に使われ、「せっけん玉」などという人はいない。

シャッポ／帽子

「シャッポ」は江戸時代末期にフランス語 *chapeau* から軍隊用語としてはいったとされているが、今では「シャボン」以上に古くさい、やぼな感じの語と化しているのではなかろうか。「つばのついた、多くはラシャの帽子」（広辞苑）であると同時に「単に帽子」（同）の意味にも使われた。しかし今では「シャッポをぬぐ」とか「シャッポ（かしらになる人）が決まらない」などの比喩的な用法は別として、ほとんど「帽子」に取って代られたようだ。もっとも同起源の「シャポー」は最新の外来

語として服飾方面から使われ出しているけはいもみられる。

ベースボール／野球

野球は明治6年（1873）ごろ日本に伝来し、「ベースボール」と呼ばれていたが、明治28年（1895）ごろ一高の監督中馬庚氏が「野球」という訳語を用い始めたという。（「放送のためのスポーツ辞典1」NHK）

ピンポン／卓球

卓球は明治35年（1902）ごろイギリスから伝来し、「ピンポン」と呼ばれていたが、大正10年（1921）「庭球・卓球の研究」という雑誌にはじめて「卓球」の語が見出され、この訳語は城戸尚夫氏の発案になるという。（「放送のためのスポーツ辞典Ⅳ」NHK）この2語は語の新旧のほかに、競技の内容が「ピンポン」はしろうと的、「卓球」は専門家的というとらえかたの傾向をも生じているようだ。これも前と同じスポーツの名で、外来語があとからその訳語に押されぎみになっている例だ。

乗合（自動車）／バス

大正8年（1919）から東京市内で日本最初の「乗合自動車」が営業を開始したというが、現在少なくとも、口ではほとんど「バス」としか言わなくなっているようだ。もっとも、バスの車体に帯状に「乗合（自動車）」と書いた文字は現在でもよく見かける。乗合には乗合馬車や乗合船もあるが、バスをさす限りにおいての「乗合（自動車）／バス」は一往はり合い関係にあると仮定し得るだろう。法律では「一般乗合旅客自動車」と呼ばれている。

婚礼／結婚式

「婚礼」といえばやや古風な、「結婚式」といえば現代的な儀式をさす傾向もあるうし、辞書的な意味においてもまったく同義とはいえないが、同一の儀式に対しても老人は「婚礼」と呼び、若い人は「結婚式」と呼ぶことはあり得る。外に「婚儀」「華燭の典」「祝言」などの語もあり、はり合い関係とまでは言えまいが、老若のグループの間に「婚礼衣裳」のような熟語は除いて「婚礼」と「結婚式」のどちらを普通に使うかについて、差があるのではないかと予想した。

後家／未亡人

語そのものに新旧の感じがあるだけでなく、語のさす対象において「後家」より「未亡人」の方が若い人をさす感じがするというような傾向があるかもしれないし、ほかに「やめ」「寡婦」のような語もあって、はり合い関係とはいえない。しかし老若のグループの間でどちらを普通に使うかについて差があるのではないかと予想した。「若後家」「戦争未亡人」のような熟語は除外して考える。

百貨店／デパート

日本で今いうデパートが出現したのは明治37年（1904）で、はじめは「著名呉服店」「大呉服店」などと呼ばれていたが、「百貨店」という語が Department store の訳語として一往定着したのは大正10年（1921）ごろより少し前であろうとされている。（言語生活 121 号「相談室」）現在でもデパートの営業などについて規定している法律は「百貨店法」である。また、東京都23区職業別電話番号簿（昭和38年）のデパートの項を見ると、「何々百貨店」というような名称が170、「何々デパート」というような名称が17で「百貨店」が圧倒的に多い。大デパートには「何々株式会社」というような名称もあるが、普通の呼びかたとして「デパート」と「百貨店」は一往はり合い関係にあると仮定し得よう。現在口で言う場合にはかなり「デパート」が優勢になっているのではあるまいか。巻末「週刊誌からの採集用例 その2」では「デパート」86例、「百貨店」25例を集め得た。それらの用例をみると、商品の広告欄にも「有名百貨店で発売中」「有名デパートで発売中」のような2通りの呼びかたが共存している。

身代／財産

「身代」は家や個人に所属するものしか言わないのに対し「財産」は国家や法人に所属するものにも言う点で、もちろんはり合い関係とはいえない。古風になった語として「身代」のほかに「身上」もある。「身代限り」「身代をつぶす」などの成語は別として、「財産」を普通に使うか「身代」を使うかに、老若グループの間で差がありはしないかと予想した。

活動（写真）／映画

「活動写真」という語の文献への初出は明治29年（1896）で、大正時代もこの語の全盛時代だったという。「映画」なる語はあったが、フィルム・映像などの意味で使われていたのが、大正の中ごろ以後、「映画」が「活動写真」の代わりに使われるけはいが見えてきたという。永井荷風の「濯東綺譚」（昭和8年、1933）に「活動という語は既にすたれて他のものに代られてゐるらしいが、初めて耳にしたものの方が口馴れて言ひやすいから、わたくしは依然としてむかしの廢語をここに用ひる」と、彼一流のシニカルなポーズをとっている。しかし荷風ならずとも「活動（写真）なる語に郷愁を寄せる人々は年齢の高い層には少なくないかもしれない。他に「キネマ」「シネマ」「銀幕」「電気紙芝居」などの言いかたもあるが、主なるものは上の2語だろう。（広田栄太郎「活動写真から映画へ」言語生活6号）

以上の10例のうち、「ピンポン／卓球」「百貨店／デパート」などは、「ピンポン」「百貨店」をオールドファッションのことばとまで言えるかは疑問かもしれないが、「卓球」「デパート」に対して相対的にはそう言えるものと仮定した。また、どちらがより現代風かという以外の違いも、上に述べたように存

在するものもあろうが、どちらがより現代風かという上での違いが主であるとみなして、これらを含めて10例のすべてをAの類としてくくっておいた。

2) Bの類・B'の類

Aの類では「シャッポ」「シャボン」など外来語の方が、オールドファッションの語になっている組があったが、Bの類はそういう外来語ではなく、在来の語よりも新しい感じの語として一般に受け取られているであろう外来語を一方に持つ組を、10例近く取り上げてみたものである。

機会／チャンス

ほかに「好機」「時節」などの類語がある。

おくりもの／プレゼント

ほかに「進物」という語もあり、近來はデパートなどで「ギフト」をこれらと同義的に使い出したようである。

いいなづけ／フィアンセ

ほかに「婚約者」という類語もある。

せっぶんする／キスする

ほかに「ロづけする」「ペーゼする(?)」などの類語もある。

以上の4組は、いずれもはり合い関係といえるものではないが、どちらの方を普通に(より多く)使っていると思うかの判断を求める例とした。

速さ／速度／スピード

ほかに「速力」という類語もある。

つりあい／均衡／バランス

ほかに「平衡」「権衡」という類語もある。

この3語ずつの2組も、はり合い関係というわけにはいかないが、外来語とそれに意味のかなり近い和語や漢語とのいずれを多く使うかの判断を求める例とした。「速さ／スピード」「速度／スピード」、「つりあい／バランス」「均衡／バランス」という1対比較法の形で判断を求めた。この2組のように、具体的な事物の名称などでなく、抽象的な意味をもつ名詞や、その他多義的な語なども、短い文脈をつけて問うた方が適切で、より信頼性の高い結果が得られたのではないかと調査の実施後に反省させられた。

台所／キッチン

ほかに「お勝手」「くりや」などの類語もある。「キッチン」は「ダイニング・キッチン」「リビング・キッチン」などの複合語からはいったものであろうが、今では単独の用法も見られる。

買い物／ショッピング

「ショッピングセンター」「ウインドーショッピング」などの複合語だけでなく、単独の用法も見られる。

上の2組における外来語は、使われ出してからまだあまり年月を経ていない特に新語的な外来語であると見て、Bの類とは一往区別してB'の類に入れて扱った。

ホック／スナップ

この組は語種からいえば双方とも外来語に属する。この組については誤算があった。これを取り上げようとした時は、「ホック」も「スナップ」も円形の凹凸のある2片をパチンと合わせる留め具で、「スナップ」の方がより新しい感じの語である点だけが違うように思っていた。ところが、後に調べたり、色々な人に尋ねてみると、たしかに上のように意識している人も少なくないが、「ホック」をいわゆるかぎホック、「スナップ」をパチン留めと、はっきり別の物と意識している人も多く、洋裁でもそのように区別して使っていることがわかった。したがって、2語が同義的なより合い関係にあるという仮定は、相当多数の人々に関して成立し得なくなった。したがって、この組はB'の最後におくが、結果の分析は行なわないことにする。

以上のようなBの類を取り上げたねらいは、次の点にある。現在の比較的若い世代では、「バランス」「チャンス」「スピード」などの外来語は、それらに対応する在来の語よりもむしろ多く普通に使う、親しみのある語になっていると考えられるが、老年層ではそうではないのではないかと予想し、その点を確認、どういう組ではおよそどの程度のへだたりが2グループの間にあるかを調べようとしたわけである。

3) C の 類

Cの類の9組は、この調査での主要な項目ではない。Aの類・Bの類だけでは、被調査者が意識的に古風な語をわざと選ぶとか、外来語の方をわざと採るというようなことも予想されるので、問題語のバラエティを多くして、出題意

図をカムフラージュするという含みもあった。しかし大体、Cの類はきわめて日常的なやさしいことばと、多少とも堅いことばとの対にはなっている。

いのち／生命 じゃがいも／ばれいしょ まん中／中央
あぶない／危険だ 疲れる／疲労する ふたご／双生児

の6組は、語種からいえば和語と漢語、

去年／昨年 掃除する／清掃する

は、非常に熟した漢語とそれほど熟してはいない漢語、

すぐに／直ちに

は、きわめて日常的な和語とやや文語的な堅い和語との組になっている。このような同義語的な対比は、現代日本語の語彙体系における重要な問題ではあるが、A・Bの類のように、特に老人グループと大学生グループとの間に差を予想したわけではなかった。

このような調査の先例はほとんどないので、この調査ではまず年齢のへだたりの大きい二つのグループの間で、類義語のうちのいずれを自分が普通に使用していると思うかについて、かなりのへだたりがあるのではないかという予想を立て、これが裏書きされればおもな目的は達せられたものと考えことにした。調査する便宜を得た二つのグループと、その構成員の性別と年齢は、次のとおりであった。

表 35

1 日本大学文理学部学生 77人

2 老人ホーム浴風園在籍者 100人

とし 性	19	20	21	22	?	計
男	5	17	15	7	0	44
女	2	20	10	0	1	33
計	7	37	25	7	1	77

とし 性	58～ 64	65～ 70	71～ 76	77～ 82	83～ 89	計
男	3	6	11	5	1	26
女	7	17	30	12	8	74
計	10	23	41	17	9	100

老人ホームのグループは、年齢が58歳から89歳までの30余年にわたるが、まず、7, 6, 6, 6, 7年の間隔で上のように切り、上と下の2層ずつを合わせれば13, 6, 13年の3層で、人数は33人, 41人, 26人と分布するように配慮した。男女の比率が、ほぼ1対3と不均衡であるが、老人ホームには女の老人の方がずっと多いのでやむをえない。合計ちょうど100人であるが、これは作為的

に 100 人を選び出したのではなく、同老人ホーム数百人の在籍者のうち、健康でこの集合調査に応じてもらうことのできた人数が、たまたまちょうど 100 人だったのである。老人ホームの 100 人の学歴は、

高小卒以下	49人
旧制中卒程度	24人
旧制中卒程度より上	7人
その他（特殊学校など）	6人
不 明	14人
<hr/>	
（中退は一つ下の段階に入れた）	100人

のとおりで、新制大学程度より上の人が7人、新制高校程度の人が $\frac{1}{4}$ の24人あるが、全体として、一方の大学生グループよりは学歴はかなり低い。したがって、二つのグループの間に調査結果のへだたりが見出されても、年齢のへだたりのみならず、学歴その他さまざまな要因のからみ合いによるものと考えなければならぬ。ただ、年齢的にも大きなへだたりのある上記の二つのグループの間で、かくかくの差が出たといえるのみである。

質問紙は次のとおりである。ただし、縦書きであったものをここでは横組みにして掲げ、また前記の A B B' C の符号を加えた。老人ホームのグループの場合には、漢字のすべてにふりがなをつけ、文字を非常に大きく印刷した。

なお、老人ホームの人々のことばは、当然その生活状態と深い関係があろうから、調査に出かけた際の印象などを、簡単に紹介しておこう。従来のいわゆる養老院的な暗さはあまりなく、外部に対してもかなり開かれた社会だという印象をうけた。十数棟に分かれた各寮には、テレビ・ラジオがあってよく利用され、外出・旅行もかなり自由でさかんに行なわれ、映画やテレビへの出演も多いという。読書や謡曲・茶の湯などのクラブ活動もさかんだそう。老人たちの出身も高い階層からの人々もあって、平均して中流程度だという。あまり閉鎖的な社会ではないようだが、もちろん老人一般の傾向を代表するグループではなく、特殊なグループの老人たちと考えるべきことに変わりはない。

この紙には、意味のよく似ていることばが二つずつ30組並べて書いてあります。親しい人と気楽に話すようなとき、あなた自身はふつう、各組の二つのことばのうち、どちらのことばを使って話しますか。あなたの使うほうのことばの頭に○をつけてください

い。

(もし、あなたが親しい人と気楽に話すときでも、両方とも使うばあいには、より多く使っている方に○をつけてください。)

おなまえ ()
 性 別 男 女 (○をつけてください)
 お 年 (満 才)
 生まれた所(何県何郡程度にかんたんに。以下同様)
 ()
 小学校時代のお住まい
 ()
 ()
 現在のお住まい
 ()

C	ま ん 中 中 央	B	おくりもの プレゼント	A	映 画 活 動 写 真	A	シ ャ ッ ポ 帽 子
B	チ ャ ンス 機 会	A	後 家 未 亡 人	B'	ホ ッ ク ス ナ ッ プ	A	野 球 ベースボール
B	バ ラ ンス つ り あ い	B	バ ラ ンス 均 衡	C	ふ た ご 双 生 児	B'	キ ッ チ ン 台 所
C	す ぐ に た だ ち に	A	デ パ ー ト 百 貨 店	B	速 さ ス ピ ー ド	B	速 度 ス ピ ー ド
A	卓 球 ピ ン ボ ン	C	掃 除 する 清 掃 する	B'	ショ ッ ピ ン グ 買 い 物	A	婚 礼 結 婚 式
C	あ ぶ な い 危 険 だ	A	せ っ け ん シ ャ ボ ン	A	身 代 財 産	C	疲 勞 する 疲 れ る
A	乗 合(自動 車) バ ス	C	生 命 い の ち	B	キ ス する せ っ ぶ ん する	C	じゃがいも ば れ い し ょ
C	昨 年 去 年	B	い い な ず け フ ィ ア ン セ				

質問紙のまえがきの補足その他、次のような内容の、口頭のインストラクションを行なった。

1. まえがきの中に「あなた自身はふつう……」とある「ふつう」の意味は、「わざと古くさいことばを使ってみせるなど、特殊な表現意図で語を選んだりするのではなく、ことばを特に意識するようなことなく話を運ぶばあい」という意味に理解してほしい。

2. 語の単独用法で考えてほしい。たとえば「火事／火災」であつたら、「火災 警報」「火事場どろぼう」のような複合的な用法ではなく、「きのう火事（火災）があつた」のような単独用法で考えてほしい。
3. 万一、親しい人と気楽に話すときでも両方とも使い、しかもどちらも同じ程度に使っていて、どちらも決めかねるばあいには、両方に△をつけてほしい。
4. 1組をなす二つの語の意味や用法が重なり合わない部分もあるばあいには、なるべく意味や用法の重なり合う部分で比較してみてほしい。

（老人グループでは無答がかなり出た。これを少なくする努力をもっとすべきであつた。）

3. 3. 3. テストの結果1——2グループ間の差

まず、上に述べたABCの3類に分けて結果を調べてみよう。

1) A の 類

さきに、相対的にオールドファッションの語と仮定した方の語に、10組とも、老人グループの方が大学生グループより多く反応した。しかし2グループ間の開きは組によりさまざまで、かなり著しい差の出たものから、わずかな差しか出ないものまであつた。

「V実験テスト集計表——テスト5」のAの類10組の排列の順序は、老人グループの方で、オールドファッションの語の方に反応した人数の多かったものから順になっている。集計結果のうち百分率だけをグラフにすると、表36のようになる。「どちらともいえない」と無答とはグラフには表わさなかつた。大学グループは「ピンポン／卓球」を除いて、オールドファッションの語に反応したのは0%から8%程度にすぎないので、上の順序はだいたい2グループ間の差の大きかったものから小さかったものへの順序にもなっている。

「ピンポン／卓球」は、老人グループは「ピンポン」、大学生グループは「卓球」が明らかに優勢で、2グループ間で著しいへだたりを見せた。他の9組では、老人グループといえども、より現代的な方の語に反応した人数の方が多く、2グループで優勢な語がはっきり逆に出たのは、この1組だけであつた。「ピンポン」というスポーツとその呼び名の渡来が、「ベースボール」より30年ほど新しく、「卓球」という訳語も40年の歴史しか持っていないという、この組の特異性とこの結果とは関係があるかもしれない。すなわち、「ピンポン→卓球」という隆替のプロセスは、せいぜいここ40年のことにすぎないの

表 36

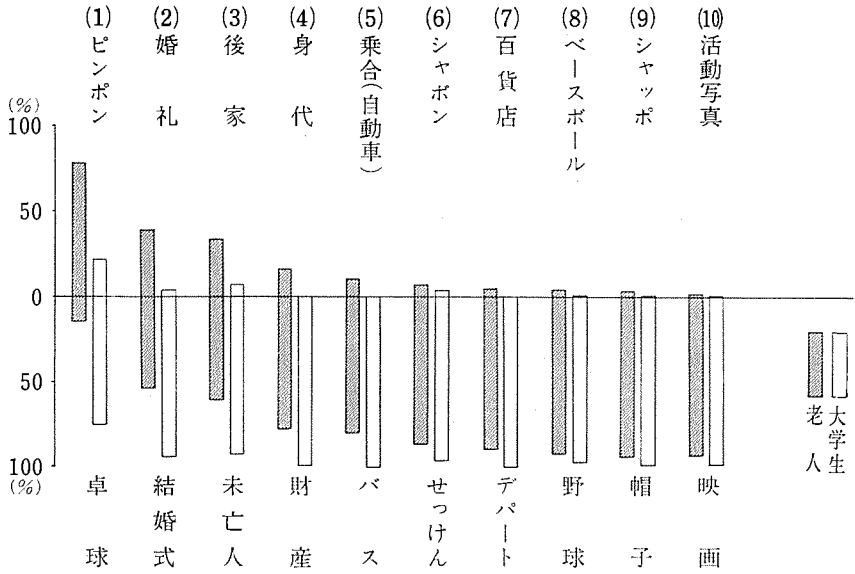
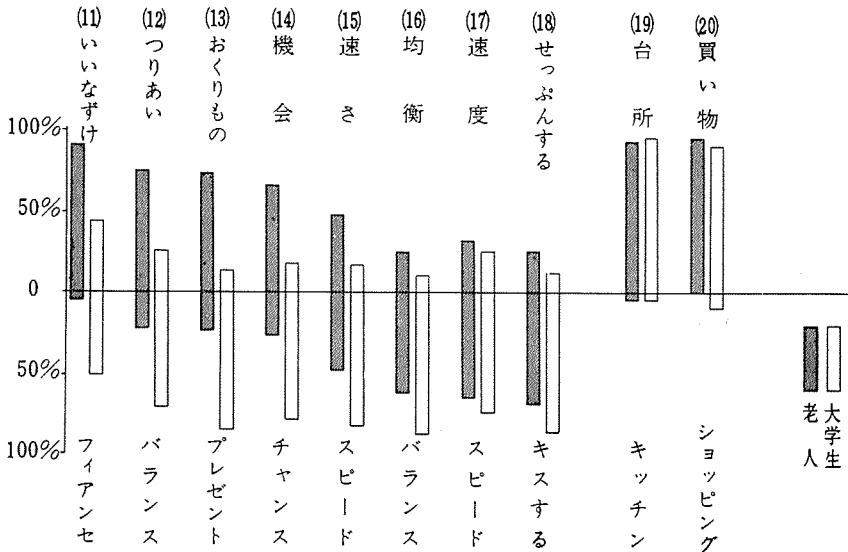


表 37



で、大学生グループでは「卓球」がすでに大勢を占めているが、老人グループでは「ピンポン」が著しく残っているという解釈である。

「婚礼／結婚式」「後家／未亡人」では、大学生グループはほとんど「結婚式」「未亡人」であったのに対し、老人グループでは3～4割が「婚礼」「後家」に反応した。「身代／財産」「乗合（自動車）／バス」では、大学生グループで「身代」「乗合（自動車）」は皆無であったのに対して、老人グループでも「財産」「バス」を使う傾向ははっきりしているが、1～2割程度の老人は「身代」「乗合（自動車）」に反応した。以上にあげた5組に関しては、両グループの間にはっきりした差があったと言える。

(6)以下の5組では、老人・大学生グループのいずれも「デパート」「せっけん」「野球」「帽子」「映画」という、より現代的と仮定した方の語が圧倒的であった。ただし、「百貨店」「シャボン」「ベースボール」「シャッポ」「活動写真」に反応した人数の百分率は、5組とも老人グループの方が少しずつ高かった。「百貨店／デパート」の組に関しては、3. 3. 2. にも述べたように「百貨店」という語は目にふれる文字刺激としてはまだ「デパート」と併存してかなり有力のようであるが、少なくとも東京などでは日常普通に話すことばとしては、「デパート」が「百貨店」を圧してきているのだらうと、上の結果から推測される。

「活動（写真）／映画」の組について考えると、「映画」という語が使われ出したのは大正の中ごろ以後であるから、老人グループの大部分の人は若い時には「活動（写真）」と言っていたものと考えられ、後にほとんどの人が「映画」と言うように変えたものと推定される。もちろん、使用の実態を調査してみれば、自分では「映画」と言っているつもりでも不用意に「活動」という若い時に覚えたことばが飛び出す人もあるかもしれないが、若い人々と同じように相当に「映画」と言うようになって来てはいることを上の結果は反映しているのであろう。「活動→映画」などは「婚礼→結婚式」などよりも、より現代風の語に切り替えられやすい性質の例であるのかもしれない。

老人ホームは3. 3. 2. にも述べたように、予想よりもかなり外に向かって開かれた社会である印象を受けたが、この組の結果なども老人グループが現代

風の語になっていることが予想以上であった。もし、老人グループが老人どうしで話し合うだけの生活をし、テレビなどの現代的な文化との接触もなければ、現代風な語への移行はもっと少ないかもしれない。

2) Bの類・B'の類

さきに述べた事情により「ホック／スナップ」は考察から除外して、Bの類8組とB'の類2組、合わせて10組について見よう。巻末の集計表における、Bの類の8組の並べかたは、集計の結果、老人グループで外来語の方を使うと答えた人数の少なかったものから多かったものへの順序にした。BおよびB'の類の集計結果の百分率だけをグラフにして示すと、表37のようになる。

まず、Bの類について見よう。8組のすべてにおいて、開きの程度はさまざまであるが、外来語の方に反応した人数の割合は、老人グループの方が大学生グループより低かった。これは予想を裏書きする結果である。「いいなずけ／フィアンセ」を除く7組に関しては、大学生グループでは7割から9割に近い人が、外来語の方に反応した。(11)～(13)の5組では外来語の方に反応した人の率は2グループ間で60～30%の開きがあってはっきりした差があり、(16)では25%の開きで一往の差が認められる。(17)(18)は10～15%の開きに止まった。(14)～(15)の3組では老人グループでも外来語の方に反応した人数は、50%を越えている。

なお、Bの類には「スピード」「バランス」「チャンス」等を含む抽象的な意味の語があり、また、それらは同一人が文脈などによって外来語と他方の語と、双方ともよく使う可能性の大きい組でもあったので、このテストのような方法で信頼度の高い結果が果して得られているかどうかには不安が存する。短い適当な文脈をつけるなどの方法で調査すべきであった。

上のような問題点を含んでいるが、「スピード」「バランス」を含む2組ずつの結果を一往検討してみよう。たとえば(14)「速さ／スピード」で「速さ」を、(17)「速度／スピード」で「スピード」をとったような答えは、このばあい矛盾した答えとはいえない。問いが、普通の場合により多く使うと思う方を聞いているのだから、上のような人は、「はやさ」「スピード」「速度」の順に多く使っていると意識したという解釈がつけられる。一人一人の被験者が

「スピード」を含む2組,「バランス」を含む2組に対してどう反応したかを
集計してみると,表38のようになる。両方とも同じ程度に使うという答えや無
回答は除外した。

表 38

大 学 生				大 学 生			
(15) \ (17)	速 度	スピード	計	(12) \ (16)	均 衡	バランス	計
速 さ	2	11	13	つりあい	1	18	19
スピード	17	45	62	バランス	7	47	54
計	19	56	75	計	8	65	73

老 人				老 人			
(15) \ (17)	速 度	スピード	計	(12) \ (16)	均 衡	バランス	計
速 さ	26	21	47	つりあい	22	43	65
スピード	6	42	48	バランス	3	18	21
計	32	63	95	計	25	61	86

全 体				全 体			
(15) \ (17)	速 度	スピード	計	(12) \ (16)	均 衡	バランス	計
速 さ	28	32	60	つりあい	23	61	84
スピード	23	87	110	バランス	10	65	75
計	51	119	170	計	33	126	159

(15)と(17)で,いずれも「スピード」を普通に多く使うと答えた人がいちばん多
く,特に大学生グループでそれが著しい。(12)と(16)でいずれも「バランス」を普
通に多く使うと答えた人は,大学グループではいちばん多かったが,老人グル
ープでは(12)では「つりあい」を,(16)では「バランス」を普通に多く使うと答え
た人がいちばん多かった。(15)と(17),(12)と(16)で,いずれも外来語でない方を使う
と答えた人は,大学生グループではゼロに近かったが,老人グループでは約1/4
に当たる20人以上あった。

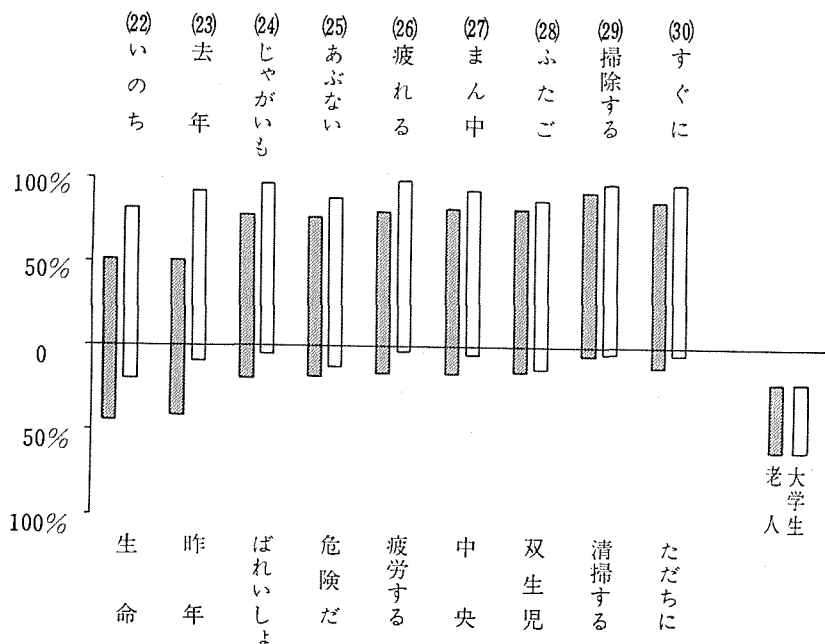
B'の類とした(19)(20)は,一方に外来語を含む点ではB類に似ているが,「キ
ッチン」「ショッピング」は使われ出してからまだあまり年月を経ていない新

語的な外来語であるとみて、Bとは一往区別した。この2組については、さすがに大学生グループでも外来語の方は非常に少なかった。このような外来語はかなり目にふれるようになってきてはいるものの、大学生などの間でも、普通に使う語にはなっていないらしい。この種の外来語を含む類義語間に、今後どのような消長が見られるか興味のあるところである。

3) C の 類

Cの類の集計結果の百分率だけをグラフにすると、表39のようになる。巻末集計表ならびにこのグラフでの、C類の中の排列は、老人グループで、多少とも堅いことばと仮定した方に反応した人数の多かった順にしてある。

表 39



「いのち／生命」「去年／昨年」についての老人グループを除けば、みな日常的なやさしいことばと仮定した方を普通に使うという傾向が出た。これは、親しい人と気楽に話すような時に普通どちらを使うかという問いかたからし

て、当然予想される結果であった。二つのグループを比べてみると、9組のすべてにおいて、老人グループの方が堅いことばの方により多く反応している。老人グループが「いのち／生命」で「生命」に半数近く反応したのなどは、実態とはかなりへだたりがあるのではないかと思わせられる。

9組とも老人グループの方が、堅い方の語に大学生より多く反応したことをどう解釈すべきか、今のところ見当がついていない。まったくの想像的な仮説にすぎないが、堅い書きことば的な語の方を正式な権威のあることばとする意識が、老人の方に強く、若い層には弱まっており、自分が堅い語の方を使っていると思いたい心理が、老人グループの方に作用したとすれば、上の結果と一往つじつまが合う。しかし、以前は日常口頭の語と文語的な語がはっきり分かれていたのが、教科書などの影響で、若い人の方が堅い語をふだんにも使うようになったという傾向があると考えられるが、この傾向とは矛盾する結果であって、この調査だけでは何ともいえない問題として残った。

3. 3. 4. テストの結果Ⅱ——グループ内の内訳

以上、大学生と老人ホームの2グループの間に出た差を調べてみた。おもな目的は以上で尽きている。ただ老人グループは年齢的に見て30年以上にまたがっている。全体で100人に過ぎないので、年齢を段階に区切って調べても、その結果から何かを言おうとすることはできないが、今後の調査への多少の参考が得られないかと考えて、3. 3. 2. に述べたような5段階に区切って内訳を調べてみた。その他、性別・出身地・学歴による3種類の内訳も出してみた。一方、大学生のグループについても、性別・年齢・出身地・学科による4種類の内訳を出してみた。以上の結果のうちの一部分を、参考までに紹介してみよう。

「いいなづけ／フィアンセ」の大学生の方の内訳は、表40のとおりである。

表 40

大 学 生 グ ル ー プ

層 別 \ 反 応	いいなづけ	フィアンセ	そ の 他	計
全 体	34 (44)	39 (51)	4 (5)	77 (100)
男	22 (50)	19 (43)	3 (7)	44 (100)
女	12 (36)	20 (61)	1 (3)	33 (100)
20 才 ま で	15 (34)	26 (59)	3 (7)	44 (100)
21 才 以 上	19 (58)	13 (39)	1 (3)	33 (100)
東 京	6 (24)	17 (68)	2 (8)	25 (100)
東 京 以 外	28 (54)	22 (42)	2 (4)	52 (100)
英 文	14 (56)	10 (40)	1 (4)	25 (100)
国 文	15 (33)	28 (61)	3 (7)	46 (100)
そ の 他	5 (83)	1 (17)	0 (0)	6 (100)

(反応の「その他」は、「どちらともいえない」と無回答を合わせたもの。カッコ内の数字は百分率。)

表 41

老 人 グ ル ー プ

層 別 \ 反 応	いいなづけ	フィアンセ	そ の 他	計
全 体	91 (91)	5 (5)	4 (4)	100 (100)
男	25 (96)	0 (0)	1 (4)	26 (100)
女	66 (89)	5 (7)	3 (4)	74 (100)
58 ～ 64 才	8 (80)	2 (20)	0 (0)	10 (100)
65 ～ 70 才	21 (91)	2 (9)	0 (0)	23 (100)
71 ～ 76 才	39 (95)	1 (2)	1 (2)	41 (100)
77 ～ 82 才	15 (88)	0 (0)	2 (12)	17 (100)
83 ～ 89 才	8 (89)	0 (0)	1 (11)	9 (100)
東 京	34 (97)	1 (3)	0 (0)	35 (100)
東 日 本	30 (91)	1 (3)	2 (6)	33 (100)
西 日 本	24 (86)	3 (11)	1 (4)	28 (100)
そ の 他	1 (100)	0 (0)	0 (0)	1 (100)
?	2 (67)	0 (0)	1 (33)	3 (100)

高小卒以下	46 (94)	2 (4)	1 (2)	49 (100)
中卒程度	21 (88)	3 (13)	0 (0)	24 (100)
中卒程度より上	7 (100)	0 (0)	0 (0)	7 (100)
その他	6 (100)	0 (0)	0 (0)	6 (100)
?	11 (79)	0 (0)	3 (21)	14 (100)

「いいなづけ／フィアンセ」は大学生グループにおいて、双方の語に反応した人数がいちばん接近した組であった。そして内訳を出してみた四つの要因のいずれにおいても、人数の大小が逆転するという、おもしろい結果が出た。（他の組では、反応がいずれか一方の語にかなりかたよっているの、こういうことは起こり得ない。）大学生グループでは、「フィアンセ」が男より女に多かった、21歳以上より20歳までに多かった、生育地が東京以外よりも東京育ちの人に多かった、英文科生より国文科生に多かったという結果が、もし単なる偶然の結果でないとすれば興味深い。女の20歳までの東京育ちの国文科生の8人は、すべて「フィアンセ」に反応した。しかし、この調査だけでは何ともいうことができない。老人グループでも、表41のように、「フィアンセ」が男に0%・女に7%、年齢的にも下から20%・9%・3%・0%・0%と上の段階へ行くにつれて減り、なくなる結果が出た。この傾向がさらに本格的な調査によって確かに言えるとすれば興味深いことである。

「フィアンセ」は老人グループの中の、若い方だけに少し出たが、「ベースボール／野球」では、やや非現代的と仮定した「ベースボール」が大学生グループに1人だったのに対し、老人グループにやや多く5人あった。その5人は

表 42

老人グループ				大学生グループ			
	婚 礼	結 婚 式	そ の 他		婚 礼	結 婚 式	そ の 他
男	16 (62)	9 (35)	1 (4)	男	2 (5)	41 (93)	1 (2)
女	23 (31)	45 (61)	6 (8)	女	2 (6)	31 (94)	0 (0)
計	39 (39)	54 (54)	7 (7)	計	4 (5)	72 (94)	1 (1)

	ピンポン	卓 球	そ の 他
男	17 (65)	7 (27)	2 (8)
女	61 (82)	7 (10)	6 (8)
計	78 (78)	14 (14)	8 (8)

	ピンポン	卓 球	そ の 他
男	4 (9)	38 (86)	2 (5)
女	13 (39)	20 (61)	0 (0)
計	17 (22)	58 (75)	2 (3)

	速 さ	スピード	そ の 他
男	10 (39)	15 (58)	1 (4)
女	38 (51)	33 (45)	3 (4)
計	48 (48)	48 (48)	4 (4)

	速 さ	スピード	そ の 他
男	6 (14)	37 (84)	1 (2)
女	7 (21)	26 (79)	0 (0)
計	13 (17)	63 (82)	1 (1)

	機 会	チャンス	そ の 他
男	14 (54)	10 (39)	2 (8)
女	52 (70)	16 (22)	6 (8)
計	66 (66)	26 (26)	8 (8)

	機 会	チャンス	そ の 他
男	6 (14)	35 (80)	3 (7)
女	8 (24)	25 (76)	0 (0)
計	14 (18)	60 (78)	3 (4)

	つりあい	バランス	そ の 他
男	15 (58)	10 (39)	1 (4)
女	60 (81)	12 (16)	2 (3)
計	75 (75)	22 (22)	3 (3)

	つりあい	バランス	そ の 他
男	7 (16)	35 (80)	2 (5)
女	13 (39)	20 (61)	0 (0)
計	20 (26)	55 (71)	2 (3)

71～76才の第3段階以上だけに現われた。

男女の間に差があるのではないかと予想させる結果が出たものを、表42としてあげてみよう。標本調査ではないが、一往有意差検定を行なった。「その他」とは「どちらともいえない」と無答を合わせたもので、検定のときは有意差の出にくくなる方に加算した。*印を付けたのは5%の危険率で有意差の出たものである。「婚礼／結婚式」では老人グループにおいて、より現代的な「結婚式」が女の方に多い。ところが「ピンポン／卓球」では、より現代的と仮定した「卓球」が男の方に多く、これは大学生グループでも同様である。以下の「速さ／スピード」「機会／チャンス」「つりあい／バランス」では、いずれも、大学生グループ・老人グループ双方において、外来語に反応した比率が男

の方が高い。語の性質によって、女の方がより多く現代的な語を使うとか、男の方がより多く外来語の方を使うとかいう傾向が、もしあるとするならば興味深い。

3. 3. 5. おわりに

以上の結果を全体的にまとめてみると、次のことが言えよう。A・Bの類については、老人グループと大学生グループとの間に、予想した方向での差が、どの組でもほとんど例外なしに出た。ただし、その差は大小さまざまであり、差の小さい組では大学生グループにかなり近い傾向を示した。

以上は年齢のへだたりの大きい二つのグループを調べた結果であるが、両グループの間には年齢以外にも大きな性質の違いがあろうと考えられる。もし青年と老人の間に一般に上の結果と類似した傾向があると確かめることができるならば（それは常識的には当然予想されるところであるが）、次のことが言えよう。Aの類の各組の一方のような、より現代風な同義語によって押され気味になっている語は、老人の方により多く残っている場合が多く、このことはその語が古い感じの語であることとも並行的である。Bの類のような、在来の語と同義的な外来語が比較的新しくはいった場合は、若い人の方が外来語をより多く使っている場合が多く、このことはその語が新しい感じの語であることとも並行的である。

この調査を、大学生グループと老人グループの中間の年齢層の、中年グループにも実施してみたかったが果たせなかった。ここに、項目はわずかではあるが、類似の問題を扱った調査結果がある。長岡市面接調査のうちの類義語に関するものの(3)と(4)とである（2. 4. 1. 参照）。これは、調査地点はことなるが、長岡市民全体からのサンプル調査であり、年齢に関しては16才から70才までを6層に分けてあるので、各年齢層による違いを見ることができる。さらに、上記のテストは2語1組のいずれかに印をつけさせた、使用の意識の調査であったのに対し、長岡の調査は面接して、その事物の写真を見せて、何と言うかを問うたものであるから、使用の実態に、より近い反応が得られているものと考えられる。その結果を紹介することにより、この調査を補強することにした。

この調査の規模その他については、2.4.1. を参照されたい。ここに引用するのは次の2項目である。

(3) (カメラの写真を見せて) これは何と言いますか。

1 カメラ 2 写真機 3 知らない

(4) (ボクシングの写真を見せて) これは何をしているところですか。

1 ボクシング 2 拳闘 3 知らない

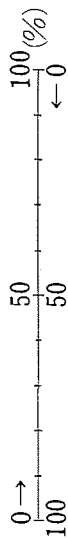
この2問は、さきの質問紙調査の形に翻訳すれば、「カメラ／写真機」「ボクシング／拳闘」となり、外来語を一方に含むBの類と類似した2組であるといえよう。その集計結果の概要を百分率で示すと、表43のようになる。

(3)では「カメラ」と反応したものが全体の8割強、「写真機」と反応したものが2割弱で、「カメラ」と言う人がかなり優勢になっていることがわかる。これを要因別にみると、性別・学歴別ではあまり大きな差が出ていないが、年齢別では24～29歳で「カメラ」が9.5割を占め、これを頂点として年齢が上になるにつれて階段状に「カメラ」が減って、55～70歳では6.5割になっている。

(4)では「ボクシング」と反応した人が全体の9割弱、「拳闘」と反応した人が1割弱で、「カメラ」以上に「ボクシング」は優勢になっている。「レスリング」などと反応した人も少数あった。要因別にみると、やはり性別・学歴別では大きな差が出ていない。ただ学歴別で旧制中学・新制高校卒が「カメラ」も「ボクシング」もいちばん率が高く出たことは、あるいは追究を要する点であるかもしれない。年齢別では、「カメラ」の場合と同じく24～29歳が、「ボクシング」が最高で9.5割、年齢が上になるにつれて階段状に減って55～70歳で7.5割弱となっている。年齢別にみた分布が、二つの場合に同じ形になったことは、非常に興味深い。

外来語が若い人々の間により多く浸透している場合が多いだろうことは、常識的に予想されるところではある。しかし、わずか2例とはいえ、このように年齢の段階を追って、若い方ほど、外来語が優勢になっていることが裏付けられたことは、さきの調査のさまざまな不備を補強する意味でも有意義である。そして、この面接調査における年齢の区切りかたによって言えば、24～29歳あたりが、外来語を使う度合いが最高であるということが、もっと多くの例について確かめられるならばおもしろいであろう。

(ボクシングの写真を見
せて) これは何をしてい
るところですか。 1. ボクシング
2. 拳闘
3. 知らない



ボクシング	拳闘
-------	----

〔性別〕

男	女
---	---

男	女
---	---

〔年齢別〕

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

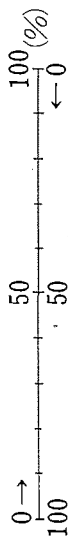
〔学歴別〕

義務教育終了	旧中・新高校	旧高专・新大学
--------	--------	---------

義務教育終了	旧中・新高校	旧高专・新大学
--------	--------	---------

義務教育終了	旧中・新高校	旧高专・新大学
--------	--------	---------

(カメラの写真を見せて)
これは何と言いますか。 1. カメラ
2. 写真機
3. 知らない



カメラ	写真機
-----	-----

〔性別〕

男	女
---	---

男	女
---	---

〔年齢別〕

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

16 ~ 23才	24 ~ 29才	30 ~ 34才	35 ~ 44才	45 ~ 54才	55 ~ 70才
----------	----------	----------	----------	----------	----------

〔学歴別〕

義務教育終了	旧中・新高校	旧高专・新大学
--------	--------	---------

義務教育終了	旧中・新高校	旧高专・新大学
--------	--------	---------

義務教育終了	旧中・新高校	旧高专・新大学
--------	--------	---------

Ⅲ 類義語の問題点

1. 問題の所在とその要因——事例研究

ここでは、主としてマスコミの方面において、実際に、類義語が問題としてとりあげられた事例、あるいは言いかえなどの対象としてとりあげられた事例によって、どんな類義語が、どのような場合に、コミュニケーションの上で問題になるかをさぐり、問題点の所在とそれをもたらす諸要因について記述することにする。また、そうした問題の解決あるいは回避のために実際に行なわれている、言いかえなどの具体的な手段についても検討し、問題解決の方向をさぐってみる。

資料は、おもに、国立国語研究所第二資料研究室作成の「国語関係新聞記事切り抜き帳」ならびにNHK放送文化研究所発行の「文研月報」「放送用語参考辞典」、筑摩書房発行の雑誌「言語生活」の記事によって採集した。

1. 1. きらわれることばとその言いかえ

好ましくないことがらを表わす語や連想の悪い語は、使いなれるにしたがって、そのことばがきらわれ、しだいに別の語に変わって行きやすい。こうした要因によって、類義語が生じてきた例は、古くから忌みことばなどに多くみられ、現在においても、この面から類義語が生じたり、言いかえの必要が起こってきたりすることは、まれではない。しかし、そのきらわれる理由には、さまざまなものがあり、事例によって調べてみると、決して単純ではないようである。

(例1) ライ病／レプラ／ハンセン氏病

＜問題点＞ ライ病患者は、種々の理由から病名を明示されることをきらうため、放送では現在「ハンセン氏病」を第一としている。しかし「ハンセン氏病」では一般には通じないという意見もあるので、放送におけるこの病名の取り扱いについて検討した。

＜「ライ病」の呼び方＞ 放送では、原則として「ライ」または「ライ病」と呼ぶ。ただし、番組の企画意図または文章の表現意図に応じ、場合により「ハンセン氏病」と呼んでもよい。

ただし「レプラ」は、現在語感の点で一番抵抗感が強いので、放送では避ける。

- ＜理由＞ 1. ライ病の早期発見，治療などを扱う番組などで，一般にはほとんど通用しない「ハンセン氏病」を用いたならば，その効果がないと言うことができる。
2. ライ患者あるいはその家族が，「ライ(病)」という呼び方を好まない気持はわかるが，現在では早期発見による完全治癒の道もあり，また遺伝的な病気でもない点を考慮する必要がある。
3. 以上の理由で，「ライ」または「ライ病」と呼んで差しつかえないとした。
- ただし，ライ患者を対象とする医学番組などでは，患者側の心理的抵抗をなるべく避けるため「ハンセン氏病」と呼ぶ方がよい場合があるので，これを用いてよいこととした。
4. なお「レプラ」を用いないこととしたのは，患者がこの名を非常にきらいという理由からである。（文研月報・135）

この例は，この種の問題をもつ類義語としては，典型的なものである。「ライ病／レプラ」で呼ばれる対象，すなわち病気そのものへの嫌悪感から言いかえの必要が起こったものである。「便所／はばかり／手洗い／洗面所／WC／トイレット……」，あるいは「牢屋／監獄／刑務所」など同種の要因によるもので，いずれも，対象そのものをきらい心理から，次々に別なことばを求める例である。

それに対して，次の例などになると，対象そのものというよりは，対象のイメージによる抵抗感とも言うべきものである。

（例2） 移民→移住者

ニュース・社会番組などでは，「移民」という語を避けるようにしたい。言いかえは次のようにする。

移民→移住，移住者

移民船→（移住者〇〇人を乗せた）〇〇丸

＜理由＞ 「移民」という語には，「ひとはたあげる」とか「くいつめ者」という連想があり，移民の人たち自身がきらい。

移民という語は，放送では原則として用いずに，

①移住一（海外に生活の根拠を移すこと）

②移住者一（海外に生活の根拠を移す者）

と呼ぶ。また，「移住」という語を含む熟語についても，原則として「移民」は用いない。

【例】 農業移住（者）・技術移住（者）・呼び寄せ移住（者）・雇用移住（者）・開拓移住（者）・契約移住（者）・海外移住・移住問題・移住行政・移住船
（文研月報・140）

これは、「移民」そのものがきらわれたわけではない。「移民」というもののもつイメージをきらうわけだから「ひとはたあげる」とか「くいつめ者」とかいうイメージをもたない人々には、抵抗感が生じないし、イメージそのものが変われば抵抗感もなくなってくるわけである。特に、この場合「移民」というものに一種のあこがれをいっている若い年齢層の人々などには、「ひとはたあげる」とか「くいつめ者」などという連想が起こるかどうか、疑問であろう。このように、あるイメージが連想されて、きらわれることばの場合には、その抵抗感・嫌悪感に、時代や年齢層の違いが、かなり大きく影響するのではないと思われる。

その一つの例は「バスガール」である。バスが東京の町を走り出した大正9年当時、「高給、乗客も高級、制服の魅力」で、若い娘のあこがれの職業として、ハイカラで、新鮮な呼び名だった。（夕刊東京、昭33.2.10「女性の職業とゆがんだ呼び名」）。しかし、現在、交通関係者の間では、軽べつを含んだことばとして「バスガール」という語は、たいへんきらわれ、募集広告などでも、「女子乗務員」が使われている。

一概に、語感をきらうとか連想が悪いとか言っても、きらわれる語感や連想は、決して一様ではない。

（例3） お触れ→法／法律

「政府はおふれを出しました」 封建時代のことばであるから、「……法」、「法律」などと言いかえること。（放送用語参考辞典・昭31年版）

（例4） 人夫／人足→労務者／労働者

「人夫・人足の呼び名」

文化国家の首都たる東京の真中に、人夫や人足がまだ沢山うごめいているのは嘆ましいものだ。東京駅や品川駅の貨物駅の構内では、「人足何人たのむ」とか、「今日の人夫の働き振りが悪かった」とか、「今日の人足賃いくらだ」等々、人夫や人足が封建時代のカゴカキや川渡し人足のように使われている。何か別の呼び方はないものか。

これらの人々も争議の時ばかり労務者とか労働者とかいわないで名誉ある生産者だということを自覚し行動してもらいたい。（東京タイムズ・昭26. 1. 18・建言）

これらは、封建臭があるという理由できらわれている。

次の「おんな」という語には、女性べつ視の語感があるとして、この語をきらう傾向なども、同種のものと言えよう。

(例5) おんな→女性

「女の問題」「女の権利」などと「女」ということばをしきりに使うが、これは女性を侮辱する感じがする。「女性」としてほしいとの投書があった。そういう感じを与えるようなときには、このことばを避けること。(放送用語参考辞典・昭31年版)
また、次のように、俗語的な語感をきらったものも少なくない。

(例6) 賃上げ→ベースアップ／待遇改善／賃金引き上げ

<言いかえ> 「賃上げ」または「賃上げ」のつく語は、NHKで編集する放送スクリプト、またはアナウンスでは原則として用いず、それぞれの場合に応じて、次のように表現する。

<例> ベースアップ、待遇改善、賃金の引き上げ、賃金引き上げ闘争、ベースアップ闘争。

<理由> 「賃上げ」は、俗なことばであり語感もよくないので、放送では言いかえる。(文研月報・135)

同様のものに「浮浪者狩り→浮浪者一斉取締り(「文研月報」13—5)」あるいは「おっかない→おそろしい／こわい」「おっことす→落とす」「尻っぽ→しっぽ」(いずれも「放送用語参考辞典・昭31年版」)などがある。

一方、連想がわるいという中で、戦後の用語の一つの特徴は、軍隊や戦争を連想させる語を避けた傾向である。

(例7) 戦車／タンク→特車

「"特車" 来年から "戦車"へ」

"特車" が来年1月から旧称の "戦車" へ。

"戦車" が "特車" になつたいきさつは、自衛隊がかつて "戦力なき軍隊" といわれた時代に「戦」という字がいっさい使えず、やむなく原名「タンク」を "特殊戦闘車両" とこじつけた解釈の結果である。防衛二法も改正されたので、そろそろ実体にそくした呼び名をとの西村長官の断で、この改称を含めた政令を決めることになったもの。(中日新聞・昭36. 7.12・通気筒)

「特車が戦車へ」

一貫して変わらなかった「特車」が、来年1月からヨロイの上の衣をぬいで本来の名称「戦車」になる。自衛隊内では昔なつかしい呼び名も、一般には空恐ろしい思い出になるものも多い。リバイバル・ブームもほどほどに。(夕刊東京・昭36. 7.17・目と耳)

このほかにも「師団→管区隊」などの例がある。

戦争関係のことばでは、次のような言いかえも、しばしば見られた。

(例8) 退却→転進／変針

「警備隊も “転進” が得意？」

“遭難漁船を救助に行った保安庁警備隊が台風を恐れて逃げた。これで日本防衛などおこがましいさただ”との追及を受けて立った木村長官 “フリゲート船が逃避したというのは誤りで、南方に進路を変針したのだ”とスマした顔に満場は爆笑しばし。

“退却” ではない “転進” だと空威張りしていた間に無条件降服となった軍隊があったが、自衛隊も転進作戦が得意なのかと、傍聴席もいささか心もとない表情。(毎日新聞・昭29. 5. 21・記者席から)

これらは、現代の “武者ことば” とも言うべきもので、「全滅→玉砕」「敗戦→終戦」「占領軍→進駐軍」なども同様である。立場上、都合のわるい語を避けるという点では、さきの「戦車→特車」などと似ていなくはないが、この場合は「退却」とか「全滅」とかいう語そのものをきらったというよりは、これらの語によって、味方側の事態を表現したくないという心理である。したがって、敵側の事態を述べる際には、これらの語を避けたり、きらったりすることは、あり得ない。これは、「敵方 “馬煙” ト云、味方ヲバ “馬ボコリ” ト言ナリ。 “馬煙” ハ “敗振” ニ通ヘバ也。(「軍詞乾坤之伝記」——菊沢季生「国語伝相論(国語科学講座・Ⅲ)による)」とする古武士のことばと同じ心理から発するものである。また一方、こうした言いかえ、すりかえによって、ものごとを正面から表現することを避けるという点では、次のようなものともふれ合いをもってくる。

(例9) つたえられるところによると、「釈明」というものも、その当時の首相原敬が、議会で窮地におこまれ、苦しまぎれに、どこからか探しだして、つかいはじめたというのである。「言いわけ」とか「おわび」といったような、固定観念のはっきりした言葉を避けたいというのが確かに意識されている。すなわち、はっきりした意志表示をすることにならないように、というのがおもな目的だ(言語生活・24号「国語の乱れる原因」 颯田琴次)

きらわれることばの中で、以上のものと、やや性格の異なるものに、次のようなものがある。

〈例10〉 裏日本→日本海側

〈「裏日本」について〉 次のように言いかえる。

裏日本→（本州・東北地方などの）日本海側
したがって、

表日本→（本州・東北地方などの）太平洋側

〈理由〉 現地では「裏日本」と言われるのを好まないようであるから、できるだけ言いかえたい。

なお気象庁（予報課）では、気象放送の放送文には、できるだけ上記のように使う方針である。（文研月報・107）

これも、おもに「裏日本」と呼ばれる地域の居住者や出身者が、抵抗感をいだくわけだから、その点では、やはり、それぞれの立場によって、きらうきらわれないが分かれてくるものである。しかし、語全体をきらうというよりは、「表」に対する「裏」をきらうというところに、この種の語のきらわれ方の特色がある。戦前「内地」に対して「外地」といわれるのをきらったのと同じ意識である。現在でも、北海道・沖縄などでは、「内地」という語に強い抵抗を感じているらしい。

〈例11〉 内地→本州

「内地」

8月9日前6時のニュースで「内地」と「北海道」ということをいったが、「内地」は「本州」というのがいいのではないか。

△「内地」はなるべく避けたい。「北海道以外」又は「本州・四国・九州」位。
（文研月報・17）

「本州」を「内地」と呼ばれると、自分たちの沖縄・北海道が「外地」ということになり不愉快だというわけである。したがって、これは結局、「外地」という語をきらうところから来ており、これも、さきの「表裏」の「裏」と同様に、「内」に対する「外」をきらう意識が根本的な原因である。

以上のように、きらわれることばとその言いかえとの間に生ずる類義関係には、さまざまなものが見られるが、こうした類義関係の中で、現在、一般に、もっとも問題になっているのは、特定の職業名をめぐるものと、敬称を含めて、人を呼ぶ場合の呼称とである。

1.1.1 問題になる職業名

文研月報・123号では、「人権尊重の気風の高まった昨今では、いやしめた感じの伴う職業名は避け、言いかえようとする傾向が認められる。そこで労働省労働市場調査課と打ち合わせを行ない、問題のある職業名について、次のように呼ぶことにした」として、「小使い／雑役→用務員」「女中さん→お手伝いさん」「（旅館・ホテル・料理屋の）女中→従業員／使用人／接待さん」「人夫・土工→労務者」「職安人夫／失対労務者／ニコヨン→日雇い労務者」などの言いかえを示している。

(1)「用務員」

＜小使い＞または＜雑役＞という呼び方は避ける。

(2)「お手伝い」または「お手伝いさん」

これはいわゆる家庭の女中を指す新しい呼び名であるが、都会地では相当一般化してきたので採用することにした。したがって、「女中（さん）」または、＜家庭女中＞という呼び方はなるべく避けることが望ましい。

また、場合により、「……さん（の家）の使用人」などとすることも考えられる。ただし地方においては、「お手伝いさん」等の呼び名が行なわれず、「女中」という語にいやしめた感じの伴わない場合もあり得る。このようなときは、もちろんしいて言いかえる必要はない。

(3)「従業員」・「使用人」

これは、旅館・ホテル・料理屋などの女中である。この場合は「家庭の女中」ほど神経質に考える必要はないが、差しつかえない限り「旅館の従業員」「料理屋の使用人」などと呼び、「女中（さん）」または「座敷女中」という呼び方を避ける方がよいと思われる。

なお、場合により「接待（さん）」という新しい呼び名を用いることもあり得る。

(4)「労務者」

「人夫」、＜土工＞などの呼び方は避ける。

(5)「日雇い労務者」

「職安人夫」「失対労務者」「ニコヨン」＜失業者＞などの呼び方は避ける。

（注）＜ ＞内は、労働省で使う名称。（文研月報・123）

以下、この種のきらわれる職業名として、しばしばマスコミにとりあげられたり、放送用語として言いかえの必要性が起こったりしたものを、具体例について、調べてみることにする。

(例12) 漁夫→漁民／漁船員

「漁夫（ギョフ）」と言われるのを、漁業関係者はきらうようであるから「漁民（ギョミン）」と言うことにする。

例……「韓国から送還される漁民」（文研月報・85）

「"漁夫"はつかわないでほしい」

漁夫—沿岸漁業に従事する者は漁民漁夫と呼んでさしさわらない。

「漁船船員」または「船員」—厳密な区別はできないが、沖合以遠の海岸漁業従事者。そのほとんどが運輸省船員局の公認で「船員」として乗船しているので、漁夫と呼ぶのは内容、形式的にも不適当である。また韓国抑留漁夫を抑留漁船船員とすれば関係者の気持を少しでも明るくさせることができる。（新聞協会報・昭34.7.15・全日本海員組合）

「漁夫を漁船船員と呼べ」

漁船の大小を問わず、運航の仕事をしなければならないので、船員に変わりなし。法的にも漁船船員ということばはあっても漁夫ということばなし。

「夫」と「員」のニュアンスは非常に微妙。

ひとむかし前までは、船員は船方と呼ばれていたが、今日そんな言葉は時代錯誤と笑われるでしょう。

漁夫と呼ばれると卑称としか受け取れない。漁夫といった方がゴロはよいでしょうが、言葉が時代とともに進歩し、また対象も変化していくことはいうまでもない。

今後漁夫という呼び名はやめてほしい。（毎日新聞・昭31.6.2）

同様のものに「農夫→農民（文研月報・85）」がある。

(例13) 産婆→助産婦

「助産婦」を返上し、「産婆」の愛称復活を。

産婆が助産婦と改称されてから5年。一般の人々が助産婦などといっているのを聞いたことがない。ラジオや新聞でもたいてい産婆と呼んでいる。大衆に深くなじまれている愛称を官僚的な考えから改廃したことを残念に思う。「婆」という字が面白くないというのだろうか、この字は決して偶然につけられたものではない。お産は経験豊かな婦人の手によって処理されなければうまくゆかない。産婆はこの職業にぴったりの呼び名。時代の移り変わりとともに、機構や職業の呼び名もしばしば変ることと思うが、自然に変わるものとはともかく、役人の一方的な考え方で軽率に改めることはやめてもらいたい。だれも使ってくれない「助産婦」はこのさい返上し、「産婆」の愛称を復活することを提唱する。（読売新聞・昭31.2.27・気流）

「助産婦」でよい。

役人の一方的な考え方ときめつけての助産婦返上説に反対。産婆さんを先生と呼んで不思議はないし、私はそう呼んでいる。時代にとり残された愛称を助産婦の方たちはどう思っているだろうか。産婆と自分の職業をあらわしたのを見たことがない。

必ず助産婦。愛称も時に不愉快なこともある。時代にそった名称で呼ぶべきだ。(読売新聞・昭31. 3. 1・気流)

〈例14〉 あんま→治療師／マッサージ師

あんまさんと話しかけたら、ひどくいやな顔をされた。「治療師」か「マッサージ師」という。当人たちの気に入るような呼び名をつかいたいが、「治療師」「マッサージ師」ではいかにも日本語として不熟。言葉だけをみれば「あんま」のほうがずっとすっきりしている。

みなが愛する美しい国語をつくる道は、こういう小さな問題のひとつひとつを解くのあることを、国語審議会あたりで考えてもらいたい。(東京新聞・昭27. 6. 21・大波小波)

〈例15〉 床屋→理容師

床屋と理容師の由来

「床屋」でなく、新しくできた正しい呼び名で「理容師」と呼んでほしい。(読売新聞大阪・昭35. 11. 8・気流)

とこやさんに親しみを覚える。

「床屋」ということばはいやだから、せめてアナウンサーだけでも「理容師」とよんでほしいという意見に対して、かんじんなのは髪のかり方や店の衛生状態なのであって、呼び名にあまり神経質になったって仕方なし。「理容師」「理髪師」「調髪師」「パーパー」よりも「とこやさん」が親しみも感じられていい。(読売新聞大阪・昭35.11.15)

〈例16〉 小使い→用務員

「小使いさん」について

現在の学校には「小使いさん」はなく、「用務員さん」が学校のために働いている。しかしまだ、年配の方の中には「小使いさん」ということばを不用意に使っているむきもあり、このことばが持つ古い観念からしても、「用務員さん」という名称を積極的に使っていただきたい。(東京新聞・昭37. 3. 8・読者の批判)

「小使いの名をなくしたい」

“小使い”ということばは時代にそわない。いいにくく、ききぐるしいこうした言葉を一日も早く社会から追放してしまった方がよい。官公庁、学校、会社など、ぜひこの言葉を改めるように協力と努力をされたし。

小使にかわる呼び名——相手の氏名をよぶ。学校では“おじさん”“おばさん”でいい。国立病院や療養所では、雑仕婦(夫)などを病棟婦(夫)と改め、みんな感じのよい職名であるよう努力している。(毎日新聞・昭31.11.21)

「用務員と塾僕」

学校の用務員(小使)を塾僕と呼ぶのは我々の職業を軽べつするものだとの質問書

を公立学校の用務員さんの労働組合が日吉の慶応義塾普通部に提出。「塾僕」の名は慶応80年来の伝統。「僕はサーバントの訳語で、「しもべ」ではなく「奉仕する人」の意味。教師も塾僕のひとり」との慶応側の陳弁。「塾僕」が「用務員」という呼び名にくらべて民主的であるかどうかの判断が改名のキメ手。(毎日新聞・昭35. 4.18・雑記帳)

(例17) 職人→技能士

「職人」を「技能士」としたら……

職人一まことに簡潔な要領をえたことば。ただ職業順位からみるとあまり上位と思われないどころか、落語に出てくる「熊(くま)さん」が連想されるほど、比較的無学で、その日暮らしの人たちの代名詞のように思われがち。

技能士一職人ということばは封建的。国家試験によって一級二級の技能士の称号を与えるべきだ。家族や親類の人たちに世間に肩身の狭い思いをさせないために必要と考えるから。(毎日新聞・昭37. 4.25・投書)

「職人」という名では

- ・技術は学問と同じく貴重だ。職人を技能工または技術員と呼ぶのも結構だが、その本質が変わらなければ何もならない。
- ・若い世代は気にしない。職人を無学なその日暮らしの代名詞と思う人があつたら、それは時代にそった考え方の出来ない人。
- ・すでにある「技能士称号」。昭和34年度から職業訓練法によって一定の基準を判定する国家検定制度ができた。検定試験に合格すると一級は労働大臣、二級は都道府県知事から証明書が渡され「技能士」となる。(毎日新聞・昭37. 4.30・投書)

(例18) 運転手／運転者／運転士

「運転手」より「運転者」に。

〔質問〕 新聞記事の中で「運転手」となっているが、昭和9年交通法規改正の時から「運転者」と改められているはずだが。

〔回答〕 交通法規や法令には「運転手」はなく「運転者」となっているが、「運転手」という語は昔から一般に使用され、言葉そのものから受ける間違いはない。新聞協会でも問題になったが、今までどおり「運転手」という表現をとる。(読売新聞・昭35. 7.15・読者と編集者)

「バス運転士募集」として法律用語の「運転者」を募集文に用いなかったのは、この法律用語が一般になじみがないと考えられたからだろう。

どうして、最も普通の「運転手」としなかったのか。

- ・東京の「^{ウンテンシュ}」を「^{ウンテンシ}」と発音するなまりから、「運転手」を「運転士」と書いてしまった。
- ・「……手」は割に機械的な仕事をする人(交換手・列車手など)をいうのに対

し、「……士」は高等の技術を持っている人（航空士・通信士・建築士・弁護士・司法書士・栄養士など）といった意味がある。これにならうということもある。国鉄でも「電車運転士」の腕章。

バスも「運転士」でよからうが、「士」と称するだけの技術と責任をもって安全運転を心がけてほしい。（産経新聞・昭34. 1.30）

このほかにも、新聞記事・投書にしばしばとりあげられたものに、「職工→工員」「女工→女子工員」「大工→建築士」「板前・いたば→調理師」「坑夫→採炭夫／鉱員」等、きわめて多彩である。その中でも、この種の言いかえが近年、集中的に行なわれつつあるのは、やはりサービス・接客方面の職種である。

（例19） 給仕／ボーイ

列車「給仕」さんの改名を

列車の通称ボーイさんが「給仕」の腕章をはめているのを見た時気の毒。国鉄の無神経さを軽べつ。人権尊重を基底とした改名が必要。「列車用務員」とか「列車奉仕員」とか、国鉄当局と国鉄労働組合とで改名を真剣に考えたらどうか。もう「ボーイさん」と呼ぶのをやめたいと思うが「給仕さん」よりはまだましなようだ。（夕刊朝日・昭36. 2.11・声）

「ボーイの呼称を改めよ」

ボーイという呼称を改めてもらいたい。本来ボーイとは少年の意味で給仕人の意味はない。ボーイというと何か小僧呼ばわりされているようで、いかにも前時代的な感じを受ける。職業名の改称がひろく行なわれているが、ボーイはそのまま。接待員とかウェイターとかに改めてもらいたい。（読売新聞・昭37.10.13・氣流）

（例20） 女中→お手伝いさん

「女中という呼び名」

小僧、給仕、下男などという呼び方は、少なくとも新聞の社会面には見られないのに、女中だけがいつまでも昔のまま残っているのは不当だ。女中という職業を軽べつしているのではないとの意志表示に、三人称の場合にも「女中さん」などといってみるがこれもはなはだおかなもの。

女中は主婦の仕事を分担する着実な女の職業だから、それに相当する新鮮な誇りある職名を考え出してほしい。（東京新聞・昭32. 1.16・石筆）

「封建的呼び名追放」

1月16日円地文子氏の「女中という呼び名」に同感。

「女中がいる」とやったとき自分自身「旧式」なのではないかと、「女中」という言葉に氣まずさを感じ、「メイドがいる」といってもなにかピッタリしない。現在

「手伝いがいる」といつている。(東京新聞・昭32. 1.22)

「女中さんに明るい呼び名を」

求人難のため、待遇も改善され、呼称もお手伝いさんと変わってきたが、農民が食糧難のころに「お百姓さん」としてもちあげられたのと同様なわざとらしさがある。

(読売新聞・昭35. 4. 4)

〈例21〉女中→接待さん

「旅館の中を風が吹く」

旅館の従業員不足は、女中という名称に一種のコンプレックスを感じていることもいえない。旅館によっては「客室係」、ある県では「観光員」。いずれも三人称の場合で、二人称として使う場合は、やはり「女中さん」。

“女中”の名称がわるいとはいえないかもしれない。しかし沿革的に必ずしもそうではない。日本観光旅館連盟でも、このたび“女中”に代わる呼び名を公募した。

(日経新聞・昭36. 4.28)

「“接待さん”の誕生」

旅館女中さんを、日本観光旅館連盟では、“接待さん”とよぶことに決めた。公募の結果、最後に「係りさん」と「接待さん」のどちらかということになり、“女中さん”の意見を聞いて“接待さん”に決まった。

応募総数8,900, 約1,450種にのぼった。(読売新聞・昭36. 5.19・0993)

この例は、「女中」という語が、言いかえにともなって「家庭女中」と「接客女中」とに区別され、「家庭女中」に「お手伝い」、「接客女中」に「接待さん」という言いかえ語があてられた点で、珍らしい例である。

以上の例からもわかるように、こうした、きらわれる職業名の言いかえに伴って、ほとんど常に問題として持ち出されるのは、新しい職業名になじみがうすいという点である。したがって、その言いかえが、なかなか行なわれにくいことが指摘されている。それにしても、こうした言いかえによって、きらわれる職業名をめぐる、類義的な名称が、次々に発生してくる現象は、類義語の問題としても重視すべきものと思われる。

1.1.2. 人の呼び名と敬称

人の呼び名の中で、まず、家族の呼び名をめぐる問題からとりあげてみることにする。家族の呼び名をめぐるのは、新聞紙上などで、しばしば論争がもちあがっているが、ここでは「父母」を呼ぶ呼び名と、「夫」あるいは「妻」を他人に話す場合の呼び方をめぐる論争を中心に観察してみる。

(例22) パパ・ママ／おとうさん・おかあさん

「お父さんお母さん」

お父さんお母さんという言葉は、日本のことばの中では一番美しい。かたことでお父さんお母さんと呼ばれた時、人はおのずから親となった責任と歓喜に緊張を感じる。最近「パパママ」ということばをむりに使わせている親たちがあるのは、まことに残念。パパママでは日本人にはピッタリこないばかりでなく、愛情もうわすべりになる危険さもある。相当な良家でも、農村の家庭でもパパママと言わせている。せめて尊い父母だけは「お父さんお母さん」という美しい純日本語で呼ばせたい。

(読売新聞・昭30. 8. 9・会議室)

「パパママでよい」

先週の意見に賛成しかねる。「パパママ」の方が「お父さんお母さん」より親しみがあがり、いいやすい。どちらをとるか各各自の自由にまかせたらよい。意見の中の「尊い父母」より、「親しい父母」でありたい。子供にお父さんお母さんと呼ばれようとパパママと呼ばれようと、自然につちかわれた親愛の情から出た言葉なら変わらないはず。親の考えを子供に押しつけず、日ごろ家の中で使っている言葉を自然に子供が覚えるようにするのが本当。(読売新聞・昭30. 8. 16・会議室)

「パパママにしたい」 義母は「おっかやん」といわせる。

私はパパママと呼ばせたいのだが、夫の職業が大工のため、義母は「職人がパパなんてみっともない」と反対。義母は子供に対し夫のことを「おとうちゃん」、私のことを「おっかやん」という。(群馬・Y子)

答え 職人だからパパママと呼んではいけない理由はないが、こうした問題は理屈では割り切れない。おシュウトメさんにしてみれば「パパ」はおかしいし、あなたにしてみれば「おっかやん」では情けない。双方妥協し合って「おとうさんおかあさん」ならいいのではないか。わたくしは「パパママ」という呼び方はきらい。ごく普通に「おかあさん」がいいと思う。(読売新聞・昭36. 4. 10・人生案内)

「パパママは耳ざわりだ」

物語りや歌の中では不自然でないパパママが、実生活の中でナマに使われると耳ざわり。呼称は境遇や環境にマッチしたものであるべきだ。職人だから、農民だからと差別したり卑下したりするのはいけないが、職人には職人の、農民には農民の生活の色彩があるのだから、それにふさわしい呼び名をを考えるのなら、パパママは一般的にお預け願いたい。(読売新聞・昭36. 4. 24・男の言いぶん)

「パパママ」

家庭での呼び名は、それぞれの家庭の個性を生かして、好きなように自由に呼ばってこそ家庭生活の気楽さがあるのだから、パパママはいかんなどと力みかえるような人の家庭は、よっぽど堅苦しく、面白くもない昔ながらの規格型なのだろう。(夕刊東京タイムズ・昭37. 4. 14・赤い気炎)

「ママとお母さん」

ママママと呼ぶセリフを、お母さんにしろ、日本人のくせに母親をママなどというのはけしからんと投書。私も子供にはママと呼ばせないで育ててきた一人だが、こう正面切っていわれると、なんだか戦時中に逆もどりしたようないやな気がした。ママだってお母さんだっておふくろだって、呼び名なんかどうだっていい。そんなことは本質的な親子の愛情になんのさわりもないこと。(東京新聞・昭36. 7.16・6音6画)

前節で記述した「きらわれる職業名」の場合には、その抵抗感・嫌悪感は、ほぼ、社会通念とみられるような形で存在している。ところが、上の「パパ・ママ／おとうさん・おかあさん」などの呼び名になると、その抵抗感は、年齢層・性別などによって、まちまちになってくる。そして、極端な場合には、その抵抗感が全く反対になってしまう。「おとうさん・おかあさん」を推す側では、「パパ・ママ」を徹底的にきらい、「パパ・ママ」を好む人々では、この感覚が、完全に逆になっているというこの例は、まさに適例である。

(例23) 主人をめぐる論争

「主人という言葉」やめましょう。

主人という言葉ぐらい明治・大正あるいはそれ以前の封建性を端的に表現している言葉はない。戦後10年もたっているのに、ほとんど全部の奥さんたちが夫のことを主人主人と呼んでいるのは不愉快。主従関係の打破なくして封建性の打破はあり得ない。雇用関係にある者ならいざ知らず、夫婦間にあって何故多くの婦人は一段と低いところに自分達を置いているのだろうか。一日も早く日本から主人ということばを除去して、低いといわれている婦人の地位を家庭内から向上するよう提唱する。(読売新聞・昭29. 9. 7・会議室)

「主人という呼び名」

40, 50のご婦人の口からの「主人が」ならば自然に聞かれ、いかにもご主人に違いないと思われるのだが、20代のスマートな花嫁さんたちまでが「主人」というのをきくと、いささか時代錯誤的な感じ。

友達→親友→恋人、結婚式の日からは夫となった私の夫は、主人とはならないで終るだろう。世の奥さんたちにとっては主人であるかもしれないが、私の「夫」は、私の「主人」ではないという、単純な理由から。見合結婚をすればやはり「夫が」でなく「主人が」といいたくなるのだろうか、それともただ、その内容にかかわらず皆が「主人」というので主人というのだろうか。

私にはどうしても口ごもってしまっていることの出来ない「主人」という呼び名について、もっとよく考えてみたい、と思っている。(夕刊朝日・昭30.10.19・ひととき)

「夫の呼び名と封建性について」

夫の呼び名には主人、ダンナさま、たく、亭主、おやじ等々さまざま。このごろの女性は夫の名前を呼びすてにしているものもある。が、主人というのが最も一般的。形式ばっていないし、下品でもない。男女同権で、亭主だけが「主人」としていばっているわけではない、妻たる人々を我々は「主婦」と呼んでいる。女性の主という意味だ。「奥さん」というほうがよっぽど非現代的だ。これこそ封建的異名。当今の「奥方」は、決して家の奥ばかりにひきこもっていらっしやらない。「主人」をきらうくせに「奥さん」に平気なのはどういうわけだろう。（東京新聞・昭30.11.3・筆洗）

「主人」でよい 言葉より実質です。

「主人」と呼ぶのは封建的主従関係をあらわすものでなく、「主婦」と同じく一家の中心という意味にすぎないのではないか。主人が封建的なら、奥さん、家内、おかみさん等も同じ。（読売新聞・昭29.9.14・会議室）

「主人」というコトバ——主婦の言語意識と封建性

20代妻の「主人」というコトバについて問題を出してから、反響が多く出た。妻として夫を何と呼んだらいいのか、という古くて新しい問題、「主人」というコトバの今日の時代での位置づけの問題、を提起した。「主人」というコトバの封建性などが加わってきてもつれたが、論の発展をハッキリさせて、題目を明確に立てる方がよい。

題目一妻が第三者に、自分の夫のことを話す時に「主人」と呼ぶことはいいか？
いけないか？

私の結論 ①「主人」と呼んでいい。—そのワケは、この場合の「主人」は「わたしの主人」という意味でなく、自分から離して第三者に、「この家の主人」という意味だから。

②ほかの呼び方もいろいろあるでしょう。—うち、たく、つれあい、夫、彼、何々、何々さん……。そのどれを選んでもいいけど、やはり「主人」と呼ぶのとはちがつても、それぞれの感情性がつきまとい、結局「呼びやすいように呼ぶ」という堂々めぐりで終る。

③正確には、そのものをズバリと指して、「夫は」と呼べるのがいいと思う。

この論は、「私には（テレくさくて）呼べないが」という奥さん方のハニカミから巻き起った論。奥さん方には「主人」という冷たい第三者的な呼び方があるのに、亭主の方にしては、まさか「主婦が」とも言えず、同じく苦心サンタンの領域。（東京タイムズ・昭31.1.16・随想——大久保忠利）

「主人」という語に対する抵抗感が、もっぱら女性の側からもち出されている点は、事がらの性質上当然であるが、それにしても、この場合には、適切な言いかえ語が見出せないところに論議のもとがあるようである。

「主人」に付随して、「妻」をよぶことばもとりあげられているが、これについては、次のような論もみえる。

(例24)

わが妻を称する言葉

家内一旧くから使われているし、今もいちばん普通にいわれるようだけれども、わが妻を家の中に閉じこめ、カビを生やしておくことをいさぎよしとしない私たちに、もうどうしても使う気になれない。

うちのやつ・愚妻—実際にそう思っていないのに、まるで反対にへり下っているのだからきらいだ。

ぼくの妻君がね・奥さんは—自称他称の近代的フェミニストには多いようだが、他人の細君や奥様のことを称しているようなニュアンスが強い。

ぼくの彼女—いかにもきざっぽい。

ワイフ・フラワー—適当な日本語がみつからないので、このような外国語で急場をつくろっている。

今までの日本の社会なら、わが妻を称することばなど必要もなかったが、新しい時代に生きようとする世代のものに堂々とズバリ一口のできるような、この日本語はいつできるだろうか。(夕刊毎日・昭27. 9. 15)

「大久保氏の文章に寄せて」

妻の呼び方—相手によっていろいろ変える。上の人には家内、なかまには女房・ワイフ、のみやではカカア。(東京タイムス・昭31. 1. 29・読者のページ)

次に、家庭の主婦を、他人が呼ぶ呼び名。

(例25)

「先生といわれる程のバカでなし」という川柳があるが、新聞関係の仕事をしているものを先生と呼ぶならわしは、古くからあったらしい。そのためか筆者のある先輩など、なれっ子になって、そう言われても気にしなくなっていたようだが、新聞週間のある集りで、“〇〇大先生”といって紹介された時にはイヤな感じがしたという。丁寧な言葉遣いを教えられた係員が、ある長屋で“奥様”と声をかけたら“バカにおしでないよ”としかられたそうである。ものには度合というものがある。“奥様”とよばれたおかみさんは“大先生”と呼ばれた筆者の先輩と同じ感じを受けたのだろう。(東京新聞・昭25. 10. 6・筆洗)

一般には、「おかみさん」という語は、きらわれ、「奥様」「奥さん」の方が、ていねいな言い方として好まれているというのが社会通念であろうが、上の例にみられるようなことも起こり得る。また、別の考え方としては、次のような考え方もあるようである。

(例26)

「呼び名にこだわるな」

奥さんという言葉もおかしい。なぜ「おかみさん」ではいけないのか。呼び名で上下の差がつくとでも思うのでしょうか。(産経新聞・昭36. 5.23・風)

呼び名とは言えないかもしれないが、「山の神」「だいこく」などの語には、強い抵抗感ももたれるようである。

(例27)

ダイコク「避けたいことば」

「明るい農村」で寺の妻君をダイコクと言ったのは、寺の主婦を蔑視したもので、はなはだ不愉快である。

△山の神に近い語感の良くない俗語であるから、放送では避けたい。(文研月報・29)

また「女中」に対する呼び名についても、同様な問題があるようである。

(例28)

「ネーヤとは呼ばないで」

来客の前で必要以上にネーヤと呼ぶ奥さま、子供にまでこれを教えるかのように使う。これではしようとした返事も出ず、気持よく働こうとした心も消える。ネーヤと呼ぶより何々さんと名前を呼ぶのが、女中を上手に使う最もよい方法の一つ。(毎日新聞・昭33. 4.10)

女中に対することばをつつしんでいただきたい。「ねえや」という言葉ほど侮辱した言葉はない。○○さんと名前を呼んでくれたら返事も気持よく出来るが「ねえや」では呼ばれても返事も出来ない。(読売新聞・昭34.11. 7・人生案内)

この場合は、いずれも「ねえや」に対応する言いかえ語を求めたわけではないが、呼び名の選択の場合には、人名そのもので呼ぶという呼び方も、当然、この選択の範囲に、はいってくる。

次に、「女店員」の呼び方について、昭和34年8月3日「夕刊朝日」が、読者の投稿をまとめて、次のような特集記事をのせている。

(例29)

「女店員の呼び方」 どういったらスマートか

女の従業員を呼ぶのに、スマートら言葉はないかとの提案。

ねえさんーおかしい。お嬢さんーキザ。ちよつとちよつと一気がきかない。

° 私はこう呼んでいる。

店員さん—格別うまい呼び方とは思わないが、改まらず親しみがある、との理由。

売場さん（デパート）。

ガールさん—スマートでやさしく清潔。

お嬢さん—フランスやドイツではマドモアゼル、フロイラインと呼んでいる。

係の方、お店の方。

。呼ばれる方の気持。

「係の方」が好まれる。オネエサン—大人がいうのはいや。店員という言葉も歓迎されない。

一般に、人に呼びかけることばにおいては、その呼び名の語感というものが、受け手にはもちろん、話し手にとっても、もっとも鋭敏な形で感じられやすい。したがって、適切な呼び名を求める気持も強いわけである。この結果、並立する呼び名の間には、微妙な語感の差異を伴い、それが、多くの場合、身分的な上下関係や職業などと結びついているために、テンションのもとになりやすい。

いわゆる敬称についても、同様なことがいえる。

（例30）

「敬称」

様、さん、君、殿、先生等無数（外国でならミスターひとつですむ）にある中から、相手の身分や自分との関係を考えて上でいずれか一つを選んで使わねばならない。

肩書、職業や地位などに伴う特殊な呼び名。

博士（現在もっとも多く使われる）、学士（肩書としての価値を失っている）、修士（まだ生まれていない）、教授（現在もっとも多く使われる）、助教授、講師、教諭、教官など。

閣下（戦後影うすし）、丈、師、太夫（あまり用いられない）。

相撲の関取、大工の棟梁、トビ職の頭（カシラ）などは今も生きている。

NHK、民間放送では、敬称はすべて「さん」で統一。

その道の権威者たちに話をしてもらって、話し手が「……博士」でなく、「……さん」といわれたのでは、聴取者に与える効果はまるで違ってくる。

敬称や肩書を重んじるということは、中身よりもレッテルを重んじる国の風習だといっている。（東京日々・昭28.10.8・蛙のこえ）

敬称のなかで、もっとも広く使われるのは「クンとサン」だが、それだけにこの「クン／サン」をめぐるのは論議が多い。

(例31)

「クンとサン」

日本では外観上、上下の区別がわかるというのは言葉の関係もあると思う。官庁や会社でも同輩下僚に対してはクンといい、先輩上司に対してはサンといているが、不思議に女子に対しては下僚でもサンといているのが多いようだが、いっすすべての人に対してサンといたらどんなものだろう。(夕刊毎日・昭33. 7. 11)

一般には、「サン」で通すというのが、最近の傾向であろうが、ときには、次のような問題も起こる。

(例32)

ある大学で、先生という敬称をつけるのはその創立者だけでよいとのことで、学生に「〇〇さんいらっしゃいますか」といわれた時、息子のお友達かと思ったこともある。子供たちは「先生を“さん”なんて呼ばないけど、別に大した問題ではないでしょう。先生の方が偉いんだという潜在意識があるからそんなことを気にするんですよ」とのこと。目上の人に敬語をつけるのは常識だと思うけど、これも時代の相違というのかも知れない。(東京新聞・昭30.10.12・あけくれ)

また、若い女性が「クン」を使う傾向も、しばしば批判の対象になっている。

「くん」と「さん」

このごろある中学の父兄、正しくって中学生のおかあさんがたから、娘たちが同級の男の子を、Aクンがどうした、Bクンがどういったと、くんづけにして話す。どうも近ごろ問題になっている男女共学のセイではないんでございましょうかという質問を受けた。なるほどちょっと考えると、そんなようにもとれる。しかし、原因は遠く戦時にさかのぼる。戦前も小学校ではほとんどが男女共学であったが、非常時から戦時に移るころ、国民学校時代に、男の子には「くん」づけで呼ぶことが、女の教師にもすすめられた。その遺風が今も小学校にある。

わたしは国語審議会の「これからの敬語」にもあるように、男女に限らず、「さん」を標準の形とし、「さま(様)」は改まった場合、慣用語、手紙のあて名に使うことにする。(殷は公用文に用いるが、様に統一されることが望ましい。)氏は書きことば用で、話しことば用としては一般に「さん」を用いる。「くん」は男子学生用語で、それに準じて会社、銀行、役所など、若い年下の者に、女の子でも「くん」づけにすることもあるが、社会人の対話には、原則として「さん」を用いる。というようなことを話して、先生たちにも男女の区別なしに「さん」づけをすすめている。

(夕刊産経昭31.10.23・ことば戯評)

「何々クン」の効用 若い女性へ

若い娘が同年輩の男をつかまえて「何々クン」という呼び方をするのはきらいだ。六・三制の男女共学から生まれる同権思想のあらわれ。若い娘特有の鈍感さは「若さ」に対する自信の裏返しであり、自信過剰というのは、第三者からみるとたいていこっけいなもので、「何々クン」はその1例にすぎない。(夕刊東京・昭36. 2.23)

一方、書きことばの場合には、「さま／どの」が、一般的だが、最近の傾向としては、公用文や事務的文書は別として、「どの」は、だんだんに使われなくなりつつあるようである。特に若い層では、個人的な手紙に「どの」を使うことは、好まれない。

雑誌「言語生活・143号」掲載の「家族への手紙」についてのアンケート調査では、次のような結果になっている。

<質問>あなたは家族に手紙やはがきを出す場合、あて名の下に、普通なにを付けますか。

- ア. 「さま(様)」を使う。
- イ. 「どの(殿)」を使う。
- ウ. 相手によって「さま(様)」と「どの(殿)」を使い分けている。
- エ. はっきり区別しないが、「さま(様)」か「どの(殿)」を使う。
- オ. その他()

	ア	イ	ウ	エ	オ	無 答	計
男	38 人 79.2%	3 6.2	6 12.5	0 0	1 2.1	0 0	48
女	69 95.8	0 0	2 2.8	0 0	1 1.4	0 0	72
計	107 89.1	3 2.5	8 6.7	0 0	2 1.7	0 0	120

男女とも、㊦の「さま(様)」が圧倒的だ。「どの(殿)」を使う可能性がある人は、全部数えても120人中13人ということになる。家族への手紙は「どの(殿)」づけという時代は、どうやら過ぎ去って行きつつあるようだ。

「どの(殿)」を使う」という答えが、極端に少なかったのは、このアンケートの回答者が、全体に若い年齢層にかたよっていたことも一因と考えられる。

	20才以下	21才～30才	31才～40才	41才以上	不明	計
男	10人	17	14	7	0	48
女	30	36	3	2	1	72
計	40	53	17	9	1	120

1. 2. 語の類義的対応と言いかえの問題

1. 2. 1. 専門用語と一般用語

専門用語と一般用語との類義的対立において、どちらを選ぶかという問題は、マス・コミの用語問題としても、しばしばとり上げられる重要な問題である。専門用語を選ぶべきか、一般用語を選ぶべきかは、もちろん個々の語についての問題であり、語によって、それぞれに事情が異なるのは当然である。しかし、全般的には、専門用語と一般用語との選択における問題点は、正確さ、厳密さとわかりやすさとのかね合いである。

したがって、専門用語を選ぶということは、多くの場合、わかりやすさをある程度無視して、正確さ・厳密さの方を採ったことにほかならない。

以下、医学用語について、放送での、語の選択の実例をあげてみる。

(例33)

虫垂炎〔チュースイエン〕

俗に「盲腸炎」と言うのは、医学的には「虫垂炎」のことである。また、現在の医学用語では「虫様突起炎〔チューヨートツキエン〕』とは言わず、「虫垂炎」に統一している。放送でも「虫垂炎」を使うことにする。

なお、「盲腸」と「虫垂〔チュースイ〕」（旧名・中様突起）とは、となりあっているが、別のものである。（文研月報・72）

(例34)

せきついカリエス

「せきずいカリエス」と言うのは誤りである。「せきついカリエス」〔脊椎カリエス〕と言うのが正しい。（日本医学会医学用語委員会委員長の緒方富雄氏の回答による。）（文研月報・69）

以上は、専門用語を採用して、正確・厳密を期したものである。

もちろん、なかには、単に統一の必要上、専門用語の方を選んだという例も

ないことはない。

(例35) 脳いっ血／脳出血

脳出血《ノーシュッケツ》

従来は「脳いっ血」と言ったが、現在、医学用語では「脳出血」を採用しているので、放送でも「脳出血」ということにする。脳出血も脳いっ血もおなじことである。

(文研月報・70)

(例36) インフルエンザ

従来は「インフルエンザ」と「流行性感冒（略称「流感」）」とが使われていたが、インフルエンザに統一する。

〈理由〉医学用語では「インフルエンザ」というのが普通である。（文研月報・75）
一般用語の方を選ぶ場合の利点は、言うまでもなく、わかりやすさである。

(例37) う歯／むしば

むしば《虫歯》

医学用語では「う歯〔ウシ〕」《齲歯》であるが、放送では「むしば」と言いかえる。（「NHK難語言い換え集」参照）

(例38) 腎臓炎《ジンゾーエン》

医学用語では「腎臓炎」または「腎炎〔ジンエン〕」であるが、放送では「腎臓炎」を使うことにする。「急性腎臓炎」「慢性腎臓炎」などの場合は、2度目から「急性腎炎」「慢性腎炎」と言ってもいい。（文研月報・72）

特に、放送用語のように、耳からのことばとしては、専門用語が避けられ、一般用語の方が選ばれるのは当然のことである。

「点播」「条播」の言いかえ

点播（テンパ）、条播（ジョウハ）は耳からの用語として不適當。条播は、「スジマキ」の慣用語がある。点播（テンパ）はテンマキまたはツブマキ。条播（ジョウハ）はスジマキと言いかえた方がいい。（文研月報・14）

「剪定」

「剪定」という言葉はラジオ向きでない。「剪定」は「枝をかりこむ」、「枝のかりこみ」と言いかえた方がいい。（文研月報・14）

「出場」（消防用語）の言いかえ

放送では原則として「出場」を避け「出勤する」「出る」「かけつける」などの表現にする。

〈理由〉①消防当局では、常に「出場」とよんでいるが、一般の人々には「出場」ではわかりにくい。

②「出場」を「出勤」などと言いかえても、ほかの意味にとられるおそれはない。

(文研月報・149)

「割賦販売」は言いかえる。

これは「ワップ・ハンバイ」または「カップ・ハンバイ」と読むのであるが、経済関係の専門用語であるから、「わけ払い(ワケバライ)」または「分割払い(ブンカツバライ)」と言いかえる。(文研月報・92)

1. 2. 2. 漢字制限に伴う言いかえの問題

当用漢字の実施・普及に伴い、いわゆる表外漢字(当用漢字外の漢字)で表記されていた語については、各方面で、種々の書きかえ・言いかえが行なわれた。その中で、類義語の問題として注目されるのは、単なる書きかえではなく、当用漢字で表記し得る既存の語に言いかえたものである。

(例39) 毀損〔キソン〕

＜放送における呼び方＞ ①損傷〔ソンショウ〕、破損〔ハソン〕 ②傷つける、こわす

＜理由＞ Ⅰ)「毀」が表外漢字である。Ⅱ)「名誉毀損」は「名誉を傷つける」などと言えばよい。(文研月報・135)

(例40) 贋造〔ガンゾウ〕

＜放送における呼び名＞ ①偽造〔ギゾウ〕 ②にせもの

＜理由＞ Ⅰ)「贋」が表外漢字である。Ⅱ)「贋造」の語は、最近ではほとんど使われない。(文研月報・135)

(例41) 轢殺〔レキサツ〕

＜放送における呼び方＞ ①ひき殺す ②ひかれて死ぬ

＜理由＞ Ⅰ)「轢」が表外漢字である。Ⅱ)やさしいことばに言いかえて、わかりやすくする。(文研月報・135)

(例42) 漏洩〔ローエイ〕

＜放送における呼び方＞ ①漏らす ②漏れる

＜理由＞ Ⅰ)「洩」が表外漢字である。Ⅱ)やさしく言いかえる。(文研月報・135)

また、当用漢字音訓表の表外音訓のために、上と同様な言いかえが必要になったものもある。

(例43) 建立〔コンリユウ〕について

＜決定＞①「建てる。建築する。つくる」などと言いかえる。

②ただし仏教用語として、やむを得ず使う場合はコンリューと言うこと。（ケンリツと読む習慣はないので注意すること。）

＜理由＞「当用漢字音訓表」で、「建」および「立」の音訓を、

建……ケン。たてる

立……リツ。たつ

としているので、「建立」と書いてコンリューと読ませることには無理がある。（文研月報・120）

以上の例のように、既存の語におきかえるような方法で、言いかえを行なったものについては、言いかえた語との間の、意味上の差異や語感の違いが、問題になりやすい。

（例44） 「教唆／そそのかす」「煽動／あおる」

「教唆」「煽動」などの刑事法上の用語になると、ことは犯罪の成否にかかわる微妙な点があり、これらをそれぞれ「そそのかす」「あおる」などと言い換えることは、両者の意味の異同がやかましく論ぜられたりするので、簡単にはできないのである。

（言語生活・147号・「法文がむずかしくなる可能性について」林修三）

また、一方、適当な言いかえ語が、既存の語の中になかったものについては、当用漢字で表記可能な言いかえ語を作り出した。「梯形→台形」「橢円→長円」「僻地→辺地」「捺印→押印」「瀆職→汚職」「騒擾→騒乱」などは、その例である。この場合には、もとの語に対して、同義語をめざして、新語を作り出したわけである。したがって、両者の間に、同義関係が成立し、新しくできた言いかえ語が、まったくの同義語として適用していけば問題はない。しかし、中には、両者の間のずれが指摘されるものも、少なくない。

（例45） 函数→関数

「函数」といっても、それだけでは何のことやらわからない。だからこそ、われわれは、これを逆用して、この言葉にいろいろの意味を自由に付与して使っていくことができたのであった。しかし、これが「関数」となっては、もはやこれを「数の関係」以外に使うことは無理であろう。（中略）数学の用語は、ただわかりやすければよいというものでは決してないのである。（言語生活・147号・「相異なる二点」赤撰也）。

以上述べたように、漢字制限と、それに伴う言いかえの現象は、新たな類義関係や同義語を成り立たせた点からみれば、類義語の問題としても、注目すべきものである。

1. 2. 3. 同音衝突による言い換え

主として放送で問題になるものに、同音衝突がある。その結果、類義語や類義的表現で言い換えて、コミュニケーションの混乱を防ぐ手段を講じる必要が起きてくる。

(例46) 前文→まえがき

「前文」について

次のように言い換える。前文（ゼンブン）→前書き（マエガキ）

＜理由＞ゼンブンと言うと「全文」と区別できない。

＜解説＞安全保障条約・憲法・教育基本法などの「前文」をさす。これは習慣上「前文」といっているだけで、法規で決めた名称ではない。なお「後文」にあたるものは条約や法規には実例がないようである。

(例47) A級→Aクラス

「永久」と同音なので紛らしい。

なお、「B級」なども「Bクラス」と言い換える。（放送用語参考辞典・昭31年版）

(例48) 「入居者」の言い換え

都営住宅のおしらせの項で「入居者」という言葉があったが、甚だラジオ向きでない感じた。普通「ニユウキョ」といえば「入渠」しか頭にうかばないので、前後をきかないと全くわかりにくい言葉と思う。

△「はいりたい人」又は「希望者」とした方がいい。（文研月報・12）

(例49) 登院数→出席数

「党员数」と聞きまちがえるから、言い換える。（放送用語参考辞典・昭31年版）

上のような言い換えは、適切な類義語あるいは類義表現さえ得られれば、同音語による誤解を防ぐ上で、もっとも端的な方法であり、その効果も大きい。しかし、そのためには、同音語をめぐる類義語群をさがすだけではなく、同音語として、セットになる語の間の意味的關係についても、十分に検討しておく必要があろう。

類音語においても、同様な言い換えの例がある。

(例50) 「時間内」と「時間外」

普通はそのまま使ってよい。しかし、はっきり区別する必要があるときには、

・時間内→時間中

- ・勤務時間内の職場大会→勤務時間の中で開く職場大会
 - ・5時間内に出席する→5時間以内に出席する。
- というように言いかえる。「時間外」はそのまま。

{ 応急策→応急対策
 恒久策

(文研月報・115)

1. 3. 類義語の使い分けと整理

1. 3. 1. 用語の区別

語の使い分けが、問題としてとりあげられたケースを調べてみると、やはり、専門語、あるいは専門的な意味の違いについての問題が、もっとも多い。

(例51) 手合／対局

手合（テアイ）、対局（タイキョク）

昭和23年8月10日の放送用語調査委員会の決定により、囲碁・将棋ともに、「手合（テアイ）」を使っていたが、今後は次のように使い分けることにする。

手合（テアイ）………囲碁の場合。ただし「テアイ」は「日本棋院手合」と専門的に使う場合である。

対局（タイキョク）…将棋の場合。

<理由> 現在、将棋用語としては原則として「対局」と言っている。（文研月報・75）

(例52) 引揚／帰国

在華同胞 “引揚” か “帰国” か 中共側 “帰国” を主張

中共側は “ヒキアゲ” でなく “キコク” だと主張。帰国と引揚は意味が違うのか、同じとみてよいか、関係者の意見

横田喜三郎東大教授談——引揚だ帰国だと言葉にこだわるのはおかしい。どちらでもいいように思う。連合軍の方針で、外地の日本人は全部一せいに「引揚」げることになり、それ以来習慣的に「引揚」という言葉を使っているのだろう。全部帰すのではない、との中共の政治的意見か。国際法上問題なし。

日中友好協会事務局長小沢清之氏談—政府は抑留者とみているから「引揚」というのだろう。自由人として一定の職業を持てはたらいっている人たちが帰ってくるのだから「帰国」が当然。

田辺引揚援護庁次長談—場所的に先方をもとにして考えれば「引揚」。当方からいえば「帰還」、本国への「帰還」は「帰国」だから、引揚と帰国は同じこと。戦後の「引揚」ということばをそのまま使っている。

外務省アジア局五課談—「引揚」…ある国の国家権力により抑留されていた外国人が抑留を解かれて自由に帰ること。「帰国」…単に外国に居留していたもの、旅行し

ていたものが自由に帰ること。中共側は日本人を別段強制的に自国にとどめておいたのではないから「帰国」だと主張。政府が援護措置をとるので「引揚」になる。（朝日新聞・昭28. 2.17）

「引揚と帰国との意義」

引揚―帰国とは文字からうけるニュアンスが違う、が、その違いについてもいろいろな解釈があるようだが、外国の国家権力によって抑留されていた者が帰国するのが引揚との解釈が一番すらすらと納得がいく。

帰国―中国残留の日本人は抑留者でなく本人の自由意志で今日までとどまり、今度自由意志で帰るのだから「帰国」だというのが中国側の主張。

外務省は、単なる「帰国」でなく「引揚」だからこそ、国の費用を出して世話をするのだ、という。官僚的なおためごかしの言い分で不愉快。「帰国」であろうが「引揚」であろうが、国が世話をするのは当然。（毎日新聞・昭28. 2.18・余録）

「引揚と帰国との意義」

中共ではさすが文字の国らしく、「引揚」ではない「帰国」である、といっているが、字感のピンと来ない当用漢字の国民民主日本では、どちらでも同じようじゃないか、と一向ピンと来ない。日本語はアイマイで緩急自在なところに特徴がある。国交断絶一歩手前に外交官「引揚」とか、友人宅で楽しく遊び「そろそろ引き揚げようか」という「引揚」もある。

中国を相手にする場合は文字についての感覚を鋭敏にしないといけない。日本と中国とは文字は共通であるように見えていて、実質は必ずしもそうではない。日本が漢字を捨てきれないでいる間は、「引揚」と「帰国」のような言葉の行きちがいはなくならないものと覚悟すべきだ。（読売新聞・昭28. 2.21・編集手帖）

（例53） 学長／総長

大学の学長と総長の区別は

〔問〕 大学により学長と総長がいるのに、総長または学長しかない大学のあるのはどういうわけか。

〔答〕 国立大学の場合、法的には「学長」というのが正しい呼び名。「総長」は一般に私立大学で使われているが、とくに大学以外の付属機関、たとえば付属中学校や、その他の研究機関を含めた最高の責任者を「総長」と呼び、別に大学だけに学長を置いている大学もある。

しかし、東大の南原繁氏などは国立大学でありながら、「総長」と呼ばれていた例もあり、そう厳密には区別されないこともある。（毎日新聞・昭37.12. 9・読者相談室）

“学長”と“総長”の使用区分など 関西新聞用語懇談会で提案

東大の学長は官制上“学長”が正しいと思うが、“総長”の字句が使われることがある。また慣例で東大を“学長”としている社も、京大を“総長”にするというよう

に統一されていない。これは東京側用語懇談会に話題としてとりあげてもらい、文部省の見解なども参考にして一本にまとめた。 (新聞協会報・昭29.12.13)

「東大の茅さんは学長か総長か」——茅さんは学長か総長かの質問しきり。

「学長の辞令をもらったんだから総長と呼ばれる覚えはない」と本人は述べている。東大事務局は相変わらず「東大総長」のハンコを使っているし、卒業証書にも「総長」の肩書を印刷する方針。総長が個人として学長といわれるのはいいが、本学としては伝統に基づき総長と呼ぶ。戦後学校教育が変わり、総合大学も単科大学も全部「学長」と呼ぶことに統一したが、そのさい東大は「本学の内容は総長と呼んでこそ名実一体となる」と、「総長」で通すシキタリを決めたという。

(朝日新聞・昭33.1.19・青鉛筆)

このほか、一般的な語においても、類義語の間の区別が問題になった例には次のようなものがある。

(例54) 「舞」と「踊」との差

問 「舞」と「踊」はどう違いますか。

答 舞—静かな上体の動きに重きをおき、手振りには変化があっても、足にはあまり変化がなく、すべるように進退します。敝蘭、幽玄などの趣をみせる動作で、古い日本の宗教的舞踊はすべてこの「舞」に属するものでした。

踊—足取の変化に重きをおく動作で自然活発に、喜怒哀楽を形にあらわす。関西方面で「踊」というべきものを「舞」という習慣のあるのは、関西には古くから地うたなどの落付いた音楽を伴奏とする静かな動作の踊り、つまり舞の形式が多く残存しているからだといわれています。

舞踊—もともと違った両者が一つの熟語舞踊になって英語のダンスの意に使われるようになってから、舞と踊と舞踊の中の特殊な動き方を指す語になりました。(朝日新聞・昭29.6.3・読者応答室から)

(例55) セタイとショタイ

「所帯(ショタイ)」と「世帯(セタイ)」は間違われ易い。放送用語として統一した発音が望ましい。

所帯の方は生計体で「所帯持がいい」「所帯やつれ」「所帯じみる」等。世帯の方は個々の生活単位。意味はほとんど同じだが、習慣上多少使い方が違う。

(例56) 「女中の子」と「女中ッ子」

「近代文学」で芥川の私生児問題の特集。荒正人が諸家の反響の文章を概説しているが、その引用文が、筆者によって「女中の子」「女中ッ子」とまちまちの使用法である。

「女中ッ子」は「祖母さん子」と同じ使用法で、「女中にかわいがられる子」の意味であり、「女中の生んだ子」の意味にはならぬ。由紀しげ子の小説「女中ッ子」が

映画化され、当りをとったものだから、ついうかうかと間違っただろう。

ストリンドベリの自叙伝小説は「女中の子」である。（毎日新聞・昭31・2.21・憂楽帳）

（例57） 「のこんの雪」と「残雪」

「ニュース特集」金沢（12月22日）—狂い咲きの桜の話の中で「2本の桜が咲き、のこんの雪を背景に～」と言ったが、「のこんの雪」は2、3月頃の雪のことであるからこの場合は不適当。

「残雪」の方が適当と思われる。（文研月報・10）

（例58） 「とろ火」と「よわ火」

①料理用語として、「強火」〔ツヨビ〕に対して弱い火を表現するには、原則として〔トロビ〕を用い、その表記は「とろ火」とする。

②ただし、現在の若い世代の間では、「とろ火」ということばが次第に忘れられ「弱火」〔ヨワビ〕の方が使われるようになってきていると見られるので、「弱い火で……」とか「火を弱めて……」などと表現する方がわかりやすい。

また、同様の趣旨から、場合により、「弱火」〔ヨワビ〕を用いてもよい。（文研月報・140）

（例59） 兄弟／姉妹

きょうだい

「きょうだい」は、現在では、「はらから」の意味に使い、男女両方を含む。したがって、放送では、特に男女を区別するばあいには、

兄弟→男のきょうだい 姉妹→女のきょうだい

ということ。（放送用語参考辞典・昭31年版）

以上の例は、いずれも、類義的な語の間の区別が、問題になったものであるが、次の「首相／総裁」は、必ずしも類義語とは言えない。しかし、実際の使用場面においては、使い分けが問題になるほど、つながりの密接な語である。これらは、語としては類義とは言えないが、実際の使用の上で、同一の対象、すなわち、同一人物をさしているために、類義語と同じように、使い分けの問題が起こってきたわけである。

（例60） 首相／総裁

首相・総裁の使い分け

〔読者から〕 各新聞やテレビ・ラジオなどでまちまちな言い方をしているが、貴社ではどういう見解をもっているか。

〔編集者から〕 現行制度のもとでは総理と総裁の身分は不可分関係にある。総裁は党の代表者を意味する。首相は日本の政治、政策の実行者でその職責は首相の方がぐっと重くなり「首相」としての発表の方がより重要な意味をもって来る。読売新聞社では純粋な党行動（たとえば党大会などの場合）のとき以外はなるべく総裁を使わずに首相としてやっている。（読売新聞・昭36 5. 8・読者と編集者）

もちろん、同一対象をさすとか、同一人物をさすとかいったような理由のみで、ただちに類義語であるとは言えない。しかし、実際の言語生活においては、こうしたところに、類義語の問題の一端が現われることがあるのではないかと考える。

最後に、接尾語・助数詞などの使い分けについて、例をあげておく。

(例61) ～ごし／～ぶり

「～年ごし」「～ぶり」について

1. 「～年ごし」の使い方

「あしかけ～年」と同じように数える。

2. 「～ぶり」の使い方

「～時間ぶり、～日ぶり」すべて満の数え方をする。ただし「～時間ぶり」は、短い時間（例、3時間）のときには使わない。

（用例） 事件は～時間ぶりに解決した。

〃 ～日ぶりに 〃

〃 ～週間ぶりに 〃

〃 ～か月ぶりに 〃

（文研月報・115）

(例62) 尾／匹／頭／羽

ビ …尾

魚を数えるには、「…尾」を使わないで、なるべく「匹」を使う。漁業、釣りなどの専門用語としては「…尾」を使うが、その場合でも適宜「…匹」としてもさしつかえないであろう。

ヒキ …匹

けものを数えるには、「…匹」と「…頭」とを使うが、放送ではなるべく「匹」に統一したい。

＜理由＞ 日本語には、多くの種類の助数詞があって、かえって不便ことが多い。最近では、整理されて種類がへる傾向がある。放送でも、なるべく種類をへらすほうがよい。「匹」は、虫や魚を数えるのにも使うから、使う範囲が広くて便利な助数詞である。

＜注＞ 「…頭」は大型の動物（牛・馬など）に使う傾向がある。また、ウサギを数

えるときに「…羽」という習慣があるが、放送では「…匹」と言うのがよい。（放送用語参考辞典・昭36年版）

（例63） 接尾語「ら」「など」

従来、ニュースなどで、人の場合は「Aさん、Bさんら」、事がらの場合は「A、Bなど」と使い分けてきたが、場合により「AさんBさんなど」と使ってよいこととした。

＜注意＞ A・B・C 3人の人を示すのに「Aさん、Bさん、Cさんら」というのは誤り。「ら」には「その他」の意味も含まれている。（放送用語参考辞典・昭36年版）

1. 3. 2. 用語の統一

以上は、使い分けが、問題になった例であるが、使い分けよりも、どちらかに統一・整理することが、直接問題になってしまうことも多い。

（例64） 停戦／休戦

休戦会談

「世界の危機」（8月23日）——停戦会談、休戦会談の用語が同意語としてチャンネルに使用されていたが、いずれかに統一した方がよい。

△現在は「休戦会談」を使っている。（文研月報・7）

（例65） 故郷／ふるさと

故郷

「私のふるさと」で「故郷」を「コキョウ」と「フルサト」のふたつに分けて使っていたが、「フルサト」に統一すべきである。

△ひとつの文章の中では統一した方がききいい。（文研月報・12）

（例66） 「得る」と「える」

8月1日のニュースの内閣改造関係のところで、「適任者を得ることが出来ない」の「得る」を「える」と発音したが、これは「得ること」という連体形なので「うること」が正しいと考えるがどうか。

△文語の場合は「～しうる」だが、口語の場合は「える」でさしつかえない。この場合は「適当な人がえられない」。（文研月報・17）

（例67） 「終えた人」か「終わった人」か

義務教育を「終えた人」は「終わった人」の方が適当だろう。

△文法上、又文語的な形としては「終えた人」が正しいが、今の語感としては「終わった人」という方が普通である。（文研月報・7）

（例68） 「おきる」と「おこる」

「二度とおこらない」は「おきる」「おきない」に代るべき正しい言葉なのか。
「おこらない」は、どうも耳障りである。

△「おきる」が正統だが、「おこる」も認めている。(文研月報・13)

こうした用語の統一というものは、類義語の間の意味・用法・語感など、さまざまな違いを考慮した上で進めることが望ましいわけであるが、それにしても、どのような基準によって統一を進めていくかが、常に問題になる。そこで、用語の統一のための基準というものに対する意識・考え方が、誤彙整理の上で、基本的な問題となってくる。

2. 外来語をめぐる類義語の問題点

2. 1. 意味のあいまいさがもたらす類義関係の様相

外来語の意味は、一般に、あいまいにうけとられやすいようである。しかし、外来語の意味が、あいまいだという中には、少なくとも、次の三つの要素が考えられるように思う。

○語の意味そのものの理解の深さに個人差がある。

○語の意味内容や用法に個人差がある。

○類義語間の意味的關係が、明確でない。

外来語をめぐる類義關係が、複雑な様相を示すのも、こうした、外来語の意味のあいまいさによるところが大きい。もちろん、上にあげた、三つの要素が個々別々に、類義關係の複雑さをもたらすわけではなく、実際には、これらの要素がからみ合って、外来語の意味のあいまいさを生み出し、それによって、外来語をめぐる類義關係の複雑な様相が、もたらされるものと考えられる。しかし、ここでは、便宜上、上にあげた、三つの要素の、それぞれの面から、この問題にせまってゆくことにする。

2. 1. 1. 外来語の理解度

外来語では、意味の理解程度が、一般に浅いと言われているが、それにもかかわらず、外来語の多用は、しばしば話題となるところである。このことは、結局、正確な意味を知らずに用いられることが多いということにはかならない。この点について、さきに紹介した「長岡市の面接調査(Ⅱ・2.4.参照)」

において、「インスタント」「コンクール」の理解度を調査した結果は、表44・表45のようになっている。

この結果からみれば、理解度そのものは、それほど低いとは言えないにしても、理解度の高い層と低い層との差が、きわめて著しいことに気づく。これは、言うまでもなく、外来語の意味の理解程度には、個人個人の差が、はなはだしいことを示すものである。（この問題については、国立国語研究所報告2「言語生活の実態」の207ページ、同じく研究所報告5「地域社会の言語生活」の120ページにも、詳しい調査結果がある。）このことから、必然的に考えられるのは、外来語をめぐる類義関係、すなわちその語が、どんな語と類義関係を結ぶか、というところにも、はなはだしい個人差が出るのではなかろうか、という問題で

表 44
インスタントの意味の理解度

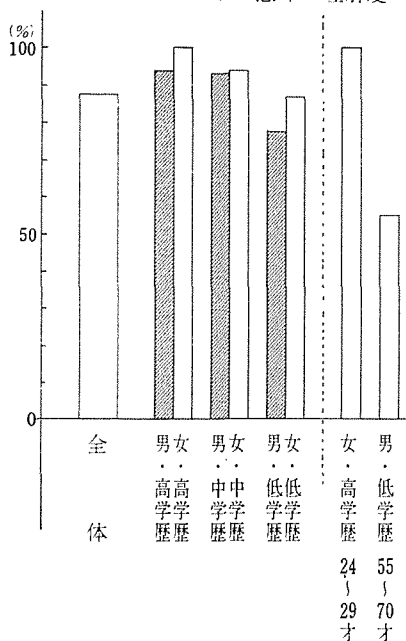
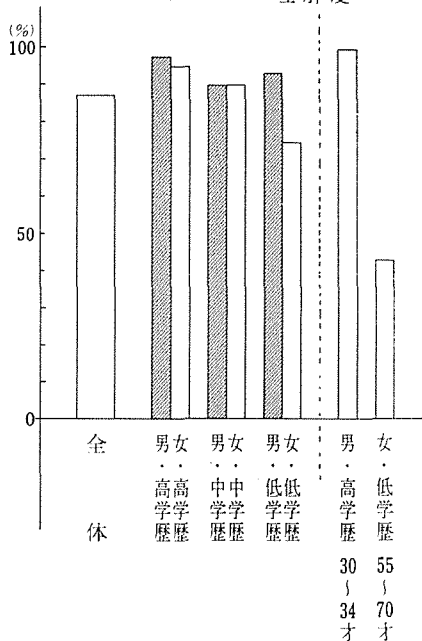


表 45
コンクールの理解度



ある。さきの「長岡市の面接調査」においても、「インスタント」を「安い（安価）」に結びつけた答えや、「コンクール」を「音楽会」「展示会」に結びつけた答えが、かなり見受けられた。これは極端な例だとしても、「レジャー」を「旅行」「娯楽」の類義語と解している人などは多いのではなかろうか。大学生（武蔵大学・相模女子大学）192名を対象とした調査では、15名が「娯楽」に結びつけて意識していた。このように、外来語に対する理解・意識のあいまいさは、類義関係の不安定性をもたらす。

また、こうしたあいまいな理解は、一方において、類義的な外来語の頻出を気にかけない風潮を生みだす。「レジャー」が使われ、すぐ「バカンス」が使われるようになって、両者の意味的關係に対して、明確な意識に欠けていれば、この並立が、無反省に受け入れられてしまいやすい。外来語において、たとえば、次のような類義語が乱立する一因は、ここにあると考えられる。

アパート／マンション／コーポラス／アビタシオン
ハイファッシュョン／フルファッシュョン／アラモード／ニールック
スチュワデス／エア・ガール／エア・ホステス
バスケット／クッキー／サブレー
リックサック／ハイサック／サブサック／ナップザック
スーパータンカー／マンモスタンカー／モンスタータンカー／ジャイアントタンカー
ラストヘビー／ラストスパート／デッドヒート

外来語の意味を、正確な意味によらず、ばくぜんとした一種のムードによって受け入れるような風潮が進むにしたがって、ますます、このような傾向が、はげしくなると予想される。

理解度が低いとか、理解度の個人差がはげしいとかいうことは、外来語それ自体のもつ問題であるばかりでなく、以上述べたように、外来語をめぐる類義関係の不安定さと、類義的外来語の乱立をもたらすものでもあるのである。

2. 1. 2. 外来語の意味・用法の個人差

人それぞれが意識している、個々の外来語の意味内容、あるいは、その用法などは、人によって、かなりのずれがあることがある。そして、そのずれの程度も、和語・字音語の場合よりも、一般に、はげしいのではないかと推定される。

第Ⅱ章2. 2.に、その一部を紹介したアンケート調査で集まった回答を見ると、たとえば、「スラックス」という語をめぐる、「女性用のズボンをさす」と意識している人と、「細いズボンをさす」と意識している人と、「ズボンにかわる同義の新語」と意識している人の、三とおりの人がいることがわかった。「パンツ」という語についても、男性用の下ばき、さるまたの外来語としてしか意識していない人がいる反面、トレーニングパンツやトレアドルーパーパンツ、ジーパンの連想からか、あるいは原語の pants の用法からか「ズボン」のこともさすという答え、「半ズボン」をさすという回答などもあった。したがって、これらの外来語をめぐるでは、「ズボン／スラックス」の意味関係が、あいまいなばかりでなく、「パンツ」の意味を、いかに意識するかによって、「スラックス／ズボン／パンツ」という類義関係を、意識する人と意識しない人とが出てくる。

また、「ロープウエー」について、「空中ケーブルカーのこと」とする回答と、「軌道ケーブルカーも、空中ケーブルカーも含む」という回答とが出た。前者の答えをした人にとっては、「ロープウエー／ケーブルカー」の意味関係は、「ロープウエー」の方が意味がせまく、「ケーブルカーであっても空中のものだけをさす」ということになるが、後者の答えにおいては、「ロープウエー」イコール「ケーブルカー」という関係、すなわち、ほとんど同義と意識していることになる。こうなると、「ロープウエー／ケーブルカー」の意味関係は、二とおりに分かれてくるが、その原因は「ロープウエー」という外来語の意味のあいまいさである。

一方、外来語では、原語としての意味と、日本において普通に行なわれている意味とが、かなりへだたっている場合が多い。そうした外来語が、原語としての意味でも使われるようになると、その語をめぐる、原語としての意味でうけとる人と、従来行なわれていた外来語としての意味でうけとる人とが、当然出てくる。

たとえば「言語生活（147号）」に、次のような投稿が採録されている。

「朝日（大阪）5月30日付（12版）に、リスボンのケイドソレド駅の屋根の落ちた

記事があった。そのあとに「注 AP電による事故の原因はサラザール現政権に対する不満分子のサボタージュ行為によるものだと噂が流れている……」とあった。

「サボタージュ行為」は、屋根のくずれ落ちる原因になり得るか？ 手もとの国語辞典の説明、つまり外来語としてのサボタージュは、屋根のくずれ落ちる原因になるような意味をふくんでいない。なまけ（怠業し）のために屋根のくずれ落ちるはずがない。

研究社の大きな英和には、……機械、製品などに故意に損害を与えたり、戦時中、敵の手先となって軍事行動や重要生産を妨害する……という意味の説明が出ている。榎垣実「俗語の語源」（昭22年刊）には「……大釘のことをフランス語で sabot と呼び、それを抜くことを sabotage と呼んだという。してみると『サボタージュ』は『緩慢作業』でもなく『怠業』でもなく故意に行なう『施設破損』であったことになる。しかも近年イギリス・フランス・ドイツなどでは、主としてこの意味で『サボタージュ』という言葉が使われていたのである」とある。——これなら、サボタージュは、屋根のくずれ落ちる原因になり得るわけだ。

あの記事のほん訳者はサボタージュを外来語としてではなくて、外国語のカタカナ表記として書いたのだと見れば一往すじは通る。ただし、読まされる方は、まず外来語（なまける）として受けとるに違いないから、不親切な訳と言われてもしかたがないだろう。（賀川庸夫）

「サボタージュ」は、外来語としては、「怠業」の意味で使われてきたが、この新聞においては、原語の「故意の破壊行為」の意味で使用されたわけである。

以上述べたように、外来語の意味というものは、個人個人の間に、ずれがあることが多いえに、原語の意味で使われる場合もあるため、その意味・用法が人によってまちまちになり、きわめて不安定になりやすい。

「ライス」という語が、「御飯・めし」と同じ意味で意識されている一方、「ライス」は「皿に盛った洋食用のめし」のみを意味するという意識をもつ人もある。さらに、近年は、原語の「米」の意味で使われる用法さえ出てきた。これなども、外来語の意味の不安定さを示す一つの例である。

このような、外来語の意味・用法の不安定さは、そのまま、外来語をめぐる類義関係の不安定性につながる。すなわち、「サボタージュ／怠業／破壊」「ライス／御飯／めし／米」といった類義関係は、「サボタージュ」「ライス」の意味内容・意味領域が、いかに意識されるかによって変容する可能性がある。

2. 1. 3. 外来語を含む類義語の間の意味的關係

前節で、外来語においては、個々の語の意味が、不安定なことが多い点を指摘した。こうした外来語の場合には、当然、それをめぐる他の語との間の意味的關係もまた不安定になりやすいことが、容易に推定される。特に、類義語では、このような外来語が含まれていると、その外来語の意味が不安定なために、類義語間の意味關係があいまいになり、意味の区別や使い分けが、不明確になりやすい。

たとえば、「広告／PR／宣伝」において、「広告」と「宣伝」とを比べると、「広告」の方は、商品や興行などについて広く知らせる場合に、限られるのに対して、「宣伝」の方は、商業的な方面以外でも、政治的・軍事的なことがらや主義主張を広めることなどにも広く使われる。また、「宣伝」の方は、主として、知らせる行為をさすのに対して、「広告」の方は、知らせるために書かれたり作られたりした物、すなわち「ちらし」や「パンフレット」などを呼ぶ場合にも使われる。第Ⅱ章2.2.で述べたアンケート調査においても、回答者はすべてこうした点を指摘している。したがって、この2語の間の意味の区別・使い分けは、ほぼ、はっきりしていると言えよう。ところが、これに「PR」が加わると、「PR／宣伝」「PR／広告」の間の關係は、かなりあいまいなものになってくる。もちろん「PR」も“public relations”としての専門的な定義は、明確に規定されているかもしれない。しかし、実際に、一般社会で行なわれている用法をみると、単に広告を純化したもの、あるいは、企業内容の紹介・宣伝といったうけとりかたで使われていることも多い。アンケート調査の際にも、次のような回答があった。

「広告や宣伝と同じように売り込もうという意図はもちながら、宣伝のもつからくりや、広告から感じられるあくどさなどをきらって、PRという語にすりかえたにすぎ

ない場合が多い」

このように、「PR」が、あいまいな意味で使われるために、「広告／PR／宣伝」の類義語間の意味的關係が、少なくとも、「PR／広告」「PR／宣伝」の面では、不安定になりやすい。

また、「鉄砲」と「拳銃／ピストル」の間には、意味の上で、大きなへだたりがあるにもかかわらず、ここに「ガン」という外来語が、加わると、「ガン」の外来語としての意味（原語の意味ではなく）が、あいまいなために、この語をめぐる、「鉄砲／ガン／拳銃／ピストル」という結びつきが生じてくる。すなわち、「ガン」は、一般には、「鉄砲」と同義とみられるが、最近では、つぎのように、「拳銃／ピストル」の意味でも用いられるようになってきた。

「船乗り姿もさっそうと、あざやかなガンさばきで活躍するアクション・ドラマ（週刊女性・6月第1週号・P101）」

われわれが調べた範囲では、すべて「ガンさばき」という用例だけだが、「ガン」の意味が、こうした点からあいまいになってくると「鉄砲／ガン」と「拳銃／ピストル」の意味上の接近が起こってくる。

以上のような現象は、外来語どうしの類義語の間では、いっそうはげしくみられる。たとえば、「ヒュッテ」と「バンガロー」では、そのイメージも、かなりはっきり異なっているようである。「ヒュッテ」は、アルプスのような深い山にありそうな感じで、本格的な登山を連想するが、「バンガロー」は、湖畔や高原にあり、たのしいキャンプを連想するといったあたりが、一般に意識される区別であろう。しかし、これに「ロッジ」や「コテージ」が加わると、「ヒュッテ／ロッジ／コテージ／バンガロー」の間では、それぞれのイメージが重なり合ってしまい、その違いをとらえることは容易でない。それも、結局は、かなり普及している語でありながら、「ロッジ」や「コテージ」という語が、どんなものをさすのか、その点があいまいだからではなからうか。問題は、このように意味のあいまいな語が受け入れられ、それに伴って、意味的關係の不明確な類義語が、特に外来語では多くなってくるということである。

もう一つ例をあげると、「プレタポルテ／レディー・メイド／ハーフ・メイド／イージー・オーダー」である。「レディー・メイド／ハーフ・メイド」は、既制服／半既制服」という訳語との対応もあり、その区別は、一往はつきりしている。しかし、「プレタポルテ」「イージー・オーダー」が加わってくると、「レディー・メイド／プレタポルテ」あるいは「ハーフ・メイド／イージー・オーダー」の間の関係・区別は、一般には、あいまいなようである。もちろん専門的な方面では、品質・デザイン・製品化の過程など、種々の点において「レディー・メイド」と「プレタポルテ」は区別されているし、「ハーフ・メイド」と「イージー・オーダー」では、まったく異なるものをさしている。しかし、これらの語が、一般社会に普及する過程では、語と語の間に区別や意味的關係などは、あまり意識されず、ばくぜんと類義的なものとして受け入れられてしまう。したがって、上の例のように、しばしば見かけるような、ありふれた語でありながら、特に外来語どうしの類義語の場合には、その間の意味的關係や区別が、はつきりしていないことが多い。

2. 2. 語のはいりかたに基づく類義関係の多様性

2. 2. 1. 外来語をめぐる類義語の問題として、近年、特に目だつのは、既存の外来語があるにもかかわらず、各分野で独特な外来語をとり入れるために、それが、既存の外来語との間に、あらたに類義関係を結ぶ現象である。さらに、こうした現象が、各方面において、次々にひき起こされ、その結果、類義的外来語の乱立ともいうべき様相を呈する点に、注目する必要がある。

たとえば、「練習・けいこ」を意味するものに「トレーニング／ドリル／レッスン／リハーサル」があるが、これらは、スポーツ・教育・音楽・放送の、それぞれの分野で、独自に、次々にとり入れられて成立するに至った類義的外来語群である。言うまでもなく、「トレーニング」は、スポーツの方面で、「ドリル」は、教育の分野で、また「レッスン」は、音楽・パレーなどの方面で、それぞれ、独自にとり入れられ、独特なニュアンスで使われてきた。そこにさらに、近年、テレビの発達に伴って、放送関係の用語として「リハーサル」が使われ、これが、既存の「トレーニング／ドリル／レッスン」の類義的外来語群に加わることになったわけである。

人の集団を意味する「クラス／クラブ／サークル／チーム／パーティー」なども、同様な性格をもつ類義的外来語群である。「クラス」は学習的な集団、「クラブ」は趣味的な集団、「サークル」は研究的な集まり、「チーム」はスポーツ、「パーティー」は登山や旅行の場合というように、これらの語は、それぞれの集団のふんい気と結びついて、教育・学術・スポーツ・娯楽など、各方面で使われている。

また「ベテラン／エキスパート／オーソリティー」においても、「ベテラン」はスポーツ方面の語として入り、「エキスパート」はおもに技術的な経験者の意味で使われ、一方、「オーソリティー」は学術方面の語として使われている。

このほかにも、映画界から使われ出した「ニュー・フェース」と、野球の「ルーキー」とか、「字幕」の意味の、映画の「スーパー・インポーズ」と、テレビの「テロップ（ロール・テロップ）」、あるいはスポーツの「ルール」とプレスコードなどの「コード」など、種々の分野で、それぞれに外来語がとり入れられることによって、それらが類義的な結びつきをもつケースは、しばしば見られることである。

「カウンセラー／コンサルタント」は、どちらも、専門的な知識をもつ相談役・助言者の意味で使われるが、前者は、教育・心理の方面から入り、後者は企業経営関係から入り、両方とも、最近は、一般にも知られるようになってきた。これなどは、異なる分野の専門用語の間に生じた類義関係として、一つの典型と言える。

2. 2. 2. 類義的な外来語のもう一つの問題は、それぞれの職業分野・専門領域における、専門的な用語にみられる、次のような傾向である。元来、専門的な用語においては、専門的な使い分けや、それぞれの語の一定の定義が必要になることが多い。こうした際に、近年の著しい傾向として、それを、外来語の移入によって解決しようとする傾向が強い。さきに述べた「プレタポルテ／レディー・メード／ハーフ・メード／イージー・オーダー」なども、発生的には、専門的な使い分けを外来語の移入によって解決したものの1例とみることができる。また「ビスケット」に対して、「クッキー／サブレー／クラッカ

ー」などが発生してきたのも、あるいは、専門的な使い分けを示す必要があったからではなかったかと思われる。

このように、専門的な定義や、使い分けの必要から生じた語が、そのまま広く、一般社会に受け入れられるのも、近年の著しい特徴といえる。

たとえば、「ワイド・スクリーン」の映画の、映写距離やフィルムサイズ、映写方式の区別を表わす「シネラマ／シネマスコープ／ビスタビジョン」などは、それぞれの映画の輸入とともに、マスコミの力によって、きわめて短い間に広まってしまった。

小児マヒのうち、特に、流行性小児マヒ（急性灰白髄炎）を区別して、医学方面で「ポリオ」と呼ぶのが、小児マヒの流行をきっかけに、新聞などで一般に広がり、「小児マヒ／ポリオ」の類義的な結びつきは、現在では、常識のようになってしまっている。

また「旅館／やどや／ホテル」に対して、新たに「ホステル」が生じてきたが、これも、宿泊が主目的の「旅館」や「ホテル」と区別して、健康的な保養施設という性格を示すために用いられた、やはり一種の専門用語である。しかし、一般には、「ホテル」との混同からか、「手軽なホテル」とか、「サービスをしないホテル」とかいった受けとり方をしている人が、多いようである。

「モチーフ／テーマ」は、それぞれ、「動機／主題」などと訳され、美術・音楽・文学など、芸術方面で広く使われ、特に音楽などでは、はっきり区別されていた。しかし、文学の方面から、次第に一般化されるにしたがって、両者の区別は、あいまいになっていった。これなどは、専門的な使い分けから生じた類義的外来語が、しだいに、その使い分けを失って、一般に広まっていった、一つの典型とみることができよう。

2. 2. 3. 以上述べたように、社会の種々の分野・領域において、外来語が次次にとり入れられてくるという現象は、それに伴って、類義的な外来語が、数の上でふえてくるというだけでなく、そうした外来語につけられる訳語の問題さらには、それらをめぐる意味的な錯綜・混乱の状態なども、類義語の問題として、見のがすことができない。

たとえば「カルテル／トラスト／シンジケート／コンツェルン」などは、い

ずれも、経済界・経営学の方面で「企業の、資本・経営面での協定ないしは連携の組織型態」をさす語であるが、その結合型態の細かい違いを表わすものとして、上のような外来語が使われている。これらの語には「カルテル（企業連合）／トラスト（企業合同）／シンジケート（企業連携）／コンツェルン（企業組合）」というように、それぞれの一往の訳語は存在するが、実際の使用において有効適切でないためか、ほとんど外来語のままで使用されている。たしかに「企業連合／企業合同／企業連携／企業組合」という組み合わせでは、いかに、個々の語を厳密に定義しても、その使用面において、正確な使い分けが期待できないおそれが十分ある。また、以上は経営面、資本面の結合型態を表わす語であるが、生産面の連携を表わすものに「コンビナート」があり、これも「結合企業」という、上の4語ときわめてまぎらわしい訳語をもっている。こうした事実を考えると、専門用語に類義的外来語がふえてくことも理解できないではない。この点を解決する道の一つは、専門的な使い分けに、十分に耐え得るような訳語をつけることである。単に訳語をつけただけでは、この「企業連合／企業合同／企業連携／企業組合／結合企業」の例のように、実用上なんの効果もないものに終わってしまうわけである。

次に、「ハウス・キーパー／ホーム・ヘルパー」をめぐる例を、あげてみよう。

「家政婦」のことを「ハウス・キーパー」と呼び、従来の「家政婦」に対する観念を改めてもらおうということが、かなり前から行なわれていたために、外来語の「ハウス・キーパー」は、「家政婦」のこととして、一往おちついた形で、一般に受け入れられていたようである。ところが、近年、病院・ホテル・寄宿舎などにおいて、建物の管理や戸締まり・防火の監督、あるいは掃除・衛生面の監督・物品管理などの担当者、すなわち「管理人」を「ハウス・キーパー」と言うようになってきた。ここに、「ハウス・キーパー」をめぐる、「管理人／ハウス・キーパー／家政婦」という意味的な結びつきが生じる。

一方、昭和35年に、ホーム・ヘルプ制度という制度が発足し、それに伴って、「ホーム・ヘルパー」というものが生まれてきた。この制度は、労働者の家庭

の支障，すなわち家族の病気・主婦の妊娠・出産などの際に，その家庭の日常生活をささえていくことができる人を養成し，各企業体に送りこむことを目的としたものである。そして，各企業体に雇われていて，その企業体の労働者の家庭の援助におもむく人を「ホーム・ヘルパー」と名づけ，「家庭援助者」という訳語もつけられている。したがって，ホーム・ヘルパーの仕事の実質的内容は，家政婦にきわめて類似しているわけであるが，一般の家政婦とは，その雇用関係と立場が異なるという理由で，こうした名称が選ばれたようである。しかし，今後この制度の普及・拡充に伴って，「ハウス・キーパー／家政婦／ホーム・ヘルパー／家庭援助者」の間でも，意味的關係が問題になる可能性がある。

こうして，「ハウス・キーパー／ホーム・ヘルパー」という一組の外来語をめぐって，「管理人／ハウス・キーパー／家政婦／ホーム・ヘルパー／家庭援助者」という類義語群が成立してくるわけであるが，それぞれの語の間の結びつきは，決して画一的なものでなく，以上述べたように，一つ一つが，それぞれに異なった要因によって意味的關係をもつに至っている。特に，外来語対字音語あるいは和語というような類義的關係については，ともすると，外来語とその訳語という観点からのみみられがちであるが，以上のように，実際の例について分析してみると，そこには，さまざまな関係が存在することが推定される。

類義的な外来語と，その訳語，さらに，それらをめぐる意味的關係の錯綜という観点からながめる場合に，一つのモデルとして，興味深いのは，「アンパイヤー／レフェリー／ジャッジ」のセットである。

いうまでもなく，これらの語は，スポーツの方面でとり入れられた外来語であるが，スポーツの各分野において，それぞれ独自の，さまざまな訳語をつけ，さらに，その使い分けも異なっている。たとえば，「アンパイヤー」がバレーボール，バスケットボールでは「副審」をさし，「テニス」では「主審」を意味する。「レフェリー」も，レスリング，バレーボール，バスケットボールでは「主審」を意味し，テニスでは「競技委員長」，陸上競技では「審判長」と訳されている。また，「ジャッジ」は，レスリングでは「副審」，陸上競技では「審判員」である。このようにながめていくと，この三つの外来語をめぐっ

て「アンパイヤー／レフェリー／ジャッジ／主審／副審／競技委員長／審判長／審判員」といった一連の語が、類義的に結ばれてくる。もちろん、この方面の類義語という観点から、さらに範囲を広げていけば、各種競技の「ラインズマン（線審）」とか、すもうの「行司」「勝負検査役」、あるいはレスリング・重量あげの「陪審」など、類義的なつながりの認められるものは、まだまだ出てくる。しかし、これらは、意味関係の錯綜という点では、さきにあげた「アンパイヤー」「レフェリー」「ジャッジ」をめぐるもののほどの複雑さはない。「ラインズマン」にしても、その訳語として直接つながるのは、「線審」一語のみだし、「行司」「勝負検査役」は、この2語の間の意味的な違いさえ説明できれば、一往問題はない。「陪審」にしても、これが、「グラン・ジュリー」の訳語であることを考えれば、やはり、外来語との関係は、「ラインズマン」と同様に、1対1の関係であり、そう問題になるとは思えない。

これに対して、「アンパイヤー／レフェリー／ジャッジ」をめぐる一連の類義語の特徴は、外来語との結びつきの多様性、ないしは浮動性である。いま各競技別に表にして示すと、次のようになっている。

	アンパイヤー	レフェリー	ジャッジ
バレー・ボール	副 審	主 審	
バスケット・ボール	副 審	主 審	
レスリング		主 審	副 審
テニス	主 審	競技委員長	副 審
陸上競技		審判長	審判員
卓球	審判員	審判員	
野球	審判員		

これは、結局、「アンパイヤー／レフェリー／ジャッジ」という外来語を使い分けたところから生じた現象であり、それが「主審／副審」と結びついたり、「競技委員長／審判長／審判員」といった訳語を生ぜしめたわけである。しいて使い分けをしない卓球競技や、このうち一語しか使用しない競技、たとえば、野球のようなものと、使い分けする競技とがあったことも、事情を複

雑にした一因と見られる。しかし、その根本的な原因は、各競技が、それぞれの分野において、これらの外来語を別個にとり入れ、その意味づけ、翻訳もまた独自に進めた点にあるのは言うまでもない。

もちろん、スポーツという、いわば、特殊分野における現象であるので、「アンパイヤー／レフェリー／ジャッジ」をめぐる、現在、さしあたって混乱や支障が起こっているというわけではないが、外来語をめぐる類義語の一つの様相を示すモデルとして、ここにとりあげてみた。

すでに、本章2. 2. 2. および2. 2. 3.に述べたような、社会の各分野、専門領域などにおいて、とり入れられる外来語、および、それをめぐる類義語においても、極端な場合には、以上の「アンパイヤー／レフェリー／ジャッジ」のごとき現象も起こる可能性がないとはいえない。一般性の強い方面において、このような類義的外来語の問題が起これば、それをめぐる、さまざまな混乱が生じることが、予想される。

2. 3. 類義的な外来語のふえる理由

外来語が著しく増加する傾向にあることは、近代日本語の一つの特徴であったし、この傾向は現代も変わっておらず、「外来語のはんらん」などとしてよく問題にされている。新たに造られる漢語などの場合に比べて、新たな外来語には、既存の語などと類義のものが、特に多いかどうかは調べてみなければわからない。ただ「テレビ」「トランジスタ」のような、類義語のない場合は外来語のはいる必然性が納得されやすい。それに比べて、

インスタント／即席 チャーミング／魅力的 ショッピング／買い物

のような、他に類義の語が存在する場合には、外来語を取り入れ、使うことの原因・必然性が問題になりやすい。その意味で、「類義的な外来語のふえる理由」について考察してみたい。

しかし、これを十分実証的に明らかにすることは至難のわざで、以下の考察ではとても望めないことである。さまざまな理由の中のいくつかについて、あれこれの乏しいデータを参考として、推測を試みることにねらいを制限せねばならない。実際にはいくつもの理由が複合してはたらく場合が多いと考えられるが、分析された理由を取り出すだけで、その総合にまではほとんど及んで

いない。また、以下に簡条的にあげる理由は厳密には並列すべきものでなく、別の次元のものとして位置づけるべきものも含まれているが、便宜的にただ列挙するにとどめた。従来すでに説かれている理由を、ただ繰り返す結果に終わるものは省略した。また、以下のすべてが外来語の場合特有の理由であるわけではなく、一般的な「類義語のふえる理由」に還元し得るものもある。

なお、ここで「類義的」というのは、厳密な意味ではない。意味分野の上で何らかの意味で同類の語と考えられるものとか、外来語の原語の意味からみて在来語にも似た意味のものがある場合などまで含めて、意味が似ている、または意味が似ている可能性があるという程度に大まかに考えられる範囲内を、一往問題とする射程内に含めた。

2. 3. 1. 即物的な事情

外来語の中には、はじめから一般的な用語としてはいつてくるものもある。しかし、最初はまず何らかの専門分野の用語として使われ、後にそれが一般社会の用語としても広がっていく場合も、多く存在する。専門分野でのはいりかたは、外来の知識・技術の体系や物品と一体をなしてその用語が流入するわけで、ことばがものごとと切り離されて意識的に取り入れられるわけではない。語の持つ感情的効果を別としても、実質的内容において、まったく同じものごとを表わす語が在来語の中に存在することは絶無ないしきわめてまれであろう。しかし、意味の近似した語で外来語の代用をすることが不可能でない場合は考えられる。しかし、その専門分野の人にとっては、知識・技術の体系のかなめのような外来の用語と意味の近似したものが、在来語の中にかりに存在したとしても、そんなことはあまり意識されない場合も多いのではなかろうか。また、専門外の人に対しては訳語を考案して使うにしても、専門仲間ではむしろ原語の方が便利であろう。そのような語が、一般的用語として広がっていった場合、たまたま在来語の中に、類義のものがあつたとすれば、結果としてみると類義的な外来語がふえたともいえることになる。

キャッシュ／現金 キャンセルする／取り消す

のような語の組は、今では一般に類義関係を意識されやすくなっているだろうが、「キャッシュ」「キャンセル」は経済・取引関係の用語から上のような成

り行きを経て、類義的な外来語がふえたという相貌^{けいよう}を呈するに至ったのではなかろうか。

2. 3. 2. 適用範囲などの上での違い

ネーム／なまえ プロポーズする／申し込む アバンチュール／冒険 ネット／あみ ユニホーム／制服 チケット／切符 スター／花形 コーナー／すみ・かど チャーミングだ／魅力的だ

英語やフランス語の知識がある人にとっては、上のような組はかなり類義的と意識されやすいかもしれない。外来語の原語の意味が、在来の日本語とよく似通っている場合、その原語を知っている人にとっては、類義的と意識されやすい傾向があろう。

ところが、外来語は多くの場合に、適用される範囲が限定されている。たとえば「ネーム」は「なまえ」と同義的であるとしても、「なまえ」が広くさまざまな場合に使われるのに対して、「ネーム」は「ネームバリュー」のような複合語を別として、洋服・ワイシャツ等やカバン・万年筆等の持ち物に入れる持ち主のなまえについてしか、一般には耳にしないようである。

「プロポーズする」も「申し込む」一般ではなく、「結婚を申し込む」の場合だけに使われるのが普通だ。テスト6で、大学生197人（男75人、女122人）に「プロポーズする」に意味がいちばん近いと思う語を自由に書かせたところ、「求婚する」（66人）、「結婚を申し込む」（25人）、「求婚」（8人）、「求愛する」（8人）など、結婚に限定された語句を書いた人が148人で、「申し込む」（19人）、「提案する」（3人）、「求める」（3人）、「申し込み」（3人）など、限定のない語句を書いた人は33人とどまった。（巻末の「Ⅴ実験テスト集計表—テスト6」参照。）これは上のような使用の実態を反映している意識の現われであろう。

「アバンチュール」も「冒険」一般の意味でなく、「恋の冒険」の意味で使われているようだ。テスト6で、「アバンチュールを楽しむ」という文脈をつけて、意味のもっとも近い語を求めたところ、「冒険」（60人）が第1位であったが、「情事」（2人）、「恋」（2人）のほか、「恋の冒険」「恋の火遊び」（各1人）など、男女関係に限定したものが合計13人あった。無記入が95人もあっ

て、この語は大学生にもまださほど親しまれてはいないようだ。

「カバー」は「おおい」とかなり同義的であろう。枕にかける布は「枕おおい」とも「枕カバー」ともいう。しかし、おぜんの上にかける布は「おおい」、本の表紙にかける紙は「カバー」というのが普通だろう。いかに同義的な組でも、語の適用範囲まですっかり合致する場合はまず考えられない。

制服／ユニホーム あみ／ネット 切符／チケット

なども、抽象的な定義においては、かなり同一に近いものになるだろうが、それぞれの語の適用される具体的なものにおいては、くいちがう部分が大きだろう。この点を直接に調査することはしなかったが、大学生14人（千葉大学文学部、男4人・女10人）に質問紙法により、これらの単語から思い浮かべる事物を自由に書いてもらった。これがある程度使用の実態を反映するだろうと仮定したわけである。その結果を要約すると、およそ次のようになる。合計の人数が14人を越えるのは、1人で二つ以上書いたものがあるためである。

制 服	ユニホーム
学生服（セーラー服・セビロ・つめえり）13 自衛官の服4 警官の服3 会社・工場3 国鉄、バスの車掌、運転手、店、ホテル、楽団員、消防署、スチュワデス各1	運動服（運動選手の着ている服、運動する時着る服）13 事務服2 店員2 作業服、スチュワデス各1

あ み	ネ ツ ト
漁網12 焼き網（魚・餅）4 頭にかぶる網3 昆虫採集網、くもの巣、物を入れてもち歩く物各1	スポーツのネット（野球、バレー、卓球、テニス、サッカー）14 頭にかぶるあみ5

切 符	チ ケ ツ ト
乗車券（汽車、電車、バス、船、飛行機等）12 入場券（映画館や娯楽場等）3 金をはらった印となるもの（物を買うためのものでなく）1	月賦販売の時使う紙2 商品券2 飛行機、国鉄、周遊券、お金の代りに使える紙片、チケットサービス各1

「ユニホーム」は近年ではかなり広く使われるようになったが、やはり運動服

をまず思い浮かべた人が多い。3組とも、共通的なものを思い浮かべた部分より、共通でないものを思い浮かべた部分の方が大きかったと言えよう。

「スター」は、テスト6で意味のもっとも近い語として「俳優」と書いた人が97人(49%)で、とびぬけて多かった。「人気者」(15人)「花形」(2人)「売れっ子」(2人)や「人気俳優」(5人)は、starの原義に近いといえようが、上の「俳優」や「映画俳優」(5人)「芸能人」(5人)は、原義からは離れる方向を示している。俳優のすべてがスターであるはずはないが、人々の関心にはいるような俳優はスターに限られるところから、おのずと「スター」と「俳優」とが意味の近い語と意識されやすい傾向を生じるのではなかろうか。しかし「スター」なる語は俳優以外にも適用されている。巻末の「週刊誌からの採集用例Ⅱ」で得た「スター」の用例180において、実際にどういう人物についてこの語が使われているかを調べると、

芸能界 110 (うち、映画界60, 歌謡界12)

スポーツ界 35 (うち、野球界28)

上の二つにはっきりとは入れられないもの、その他 35

となる。これは、資料のとりかたから明らかなように、週刊誌一般の傾向を代表するデータではないが、いわゆる俳優だけでなく、野球選手や歌手についても、「スター」なる語がかなり使われているとはいえよう。したがって、「スター」にもっとも意味の近い語を「俳優」とすることは、語の実際使用の面からも成り立たないはずだが、そのような一面的な受け取りかたが、大学生の間にもかなり優勢であるらしいのは注目すべきことだろう。

「コーナー」にしても「かど・すみ・一角」などと類義的に使われているとは限らない。デパートなどで、「おしゃれコーナー」「食料品コーナー」などと、売り場の名につけているのをよく見かける。階の中央にも「何々コーナー」と銘打たれている場合もあって、原義からいえばおかしいことになる。テスト6で、「化粧品コーナー」にもっとも近い語を自由に書かせたところ、「(化粧品)売り場」(102人)が圧倒的に多かった。また、週刊誌などの小さい連続的な記事などに「レジャー・コーナー」「レディース・コーナー」「団地コーナー」などと名付けられているものがあり、こういう「コーナー」は「欄」と類

義的なものと人々に受け取られているかもしれない。「トラックのコーナーをまわる」、「直球でコーナーをつく」のような、原義に近く解し得る用法もある。結局「コーナー」はその場面・文脈などに応じて、「売り場」「欄」などに類義の語にもなり得るかもしれないが、やはりそのどれとも違う、独得の意味をになう語として存在しているのであろう。

「魅力的だ／チャーミングだ」はかなり意味に近いともいえる。20代から50代にわたる男女5人に、「魅力的な人／チャーミングな人」の異同を問うところ、3人は「チャーミング」の方にかわいらしい感じという特徴を指摘し、うち1人はちゃめなおどけたような感じもあるとつけ加えた。「週刊誌からの採集用例Ⅰ」で得た「チャーミング／魅力的／魅惑的」の用例を、男性に関して用いられた例、女性に関して用いられた例、上の二つに入れられない例という分けかたで分類してみると、

チャーミング	(31例)	男 2	女 29	他 0
魅力的	(23例)	男 4	女 11	他 8
魅惑的	(7例)	男 1	女 3	他 3

となる。「チャーミング」が「魅力的」よりも、女性に関して用いられた例の割合が多い。参考的に集めた「チャーム／魅力／魅惑」では、「魅力」の例が300以上となり、週刊誌において、この語がかなり愛用されていることがわかった。上と同じ方法で分類してみると、

チャーム	(29例)	男 0	女 13	他 16
魅力	(328例)	男 100	女 116	他 112
魅惑	(17例)	男 2	女 7	他 8

となる。「魅力」は男にも女にも関係して用いられるのに対して、「チャーム」は女性に関して用いられる傾向があるようだ。「チャーミングだ／魅力的だ」は一往類義的ではあるが、「チャーミング」は女性的なかわいらしさの要素を含む場合が多いようで、「魅力的」にはおきかえられない存在価値になっているようだ。

以上のように、外来語はその原義からみて、在来の語と意味が抽象的には重なり合いそうに思われる場合も、実はその語の適用される範囲が著しく局限されていたり、実際に使われる範囲内でしか通用しない、原義からは離れた意味

に解されていたりする。そして結局、在来の語のどれとも同義的なのではなく、全く重複するものとして外来語がふえたのではなく、別の語が新たに加わったことになる外来語が多い。このようにして、一往在来の語でも表わせるものごとに対しても、外来語が侵入してくる例が非常に多い。

2. 3. 3. 外来語とその訳語との共存

外来語とその訳語とが共存する場合には、類義的な外来語がふえたという結果になることはいうまでもない。たとえば、

ベッド／寝台 ウィークエンド／週末 ホームラン／本塁打
ピッチャー／投手 ルネッサンス／文芸復興 センチメンタリズム／感傷主義
フィードバック／饋還

のような場合である。一方が他方を完全に制圧してしまえば、語の交替となり、類義語の問題ではなくなる。

2. 3. 4. 感情的・心理的な理由

外来語が、主として感情的な効果の側面から好み用いられる場合も少なくないことはいうまでもない。実質的な意味では差異を求めにくいような類義語と併存している外来語に社会習慣的に随伴する感じを、いろいろな例について取り上げて分類してみることは、類義的な外来語がどういう心理的必要から発生し、人々がその方に引きつけられるかを知る上の参考になり得るであろう。しかし、ここでは上のような例を、網羅的に集めて分類していくことはできないので、特に著しい類型とその実例をあげることにとどめて、上の目的への足がかりとしたい。

a) 目新しさ・新鮮さ

「Ⅱ.3.2.3. 選択とその要因の調査」でみたように、「買い物／ショッピング」の組では、広告文句としては、「ショッピング」が「買い物」とほぼ同程度に支持された。その理由として「ショッピング」が目新しく新鮮なことばであり、「買い物」は平凡なことばで宣伝文句としての迫力に乏しいという点が主要なものと推定された。これはまさしく、よく言われている外来語の新鮮さの魅力の1例を指摘した結果になった。常に新しさを追求し、顧客の購買心理に訴えかける必要に迫られている商業主義が、このような外来語の目新しさを追

いかけまわしている現状は、あらためて述べるまでもあるまい。

b) 明るい、自由な感じ

「Ⅱ. 3. 2. 2. 好みの調査」でみたように「礼儀作法／エチケット」では、「礼儀作法」は堅い重苦しいもの、「エチケット」は明るい自由なものという感じで受け取られている傾向が著しい。そして、若い層の方が「エチケット」を多く使い、また好む傾向もうかがわれた。「エチケット」の方が今の時代に好まれ、勢力を大きくしていく方向を示している。

同じく Ⅰ. 3. 2. 2. でみたように、「規則／ルール」でも、「規則」は堅い感じ、「ルール」は軽い自由な感じが伴うようだ。「守ろう／交通の～」という文脈では、「規則」の方が支持されたが、逆に「ルール」の方が押しつけ的でなく感じられ、好まれる文脈も多いだろう。

上下関係を主軸としてきた、従来の日本の社会生活の中から生まれ、そういう語感をになっている語よりも、横の人間関係を軸とした近代の西欧民主社会から移された語の方が、明るい自由な感じがして好まれる場合があるということは、現代日本の精神風土からしても自然の成り行きであろう。

c) より強い実感

Ⅱ. 3. 2. 3. でみたように、「味と量の店」「味とボリュームの店」という食堂の看板の文句は、3：7の比率で「ボリューム」の方が大学生グループに支持される傾向を示した。その理由のうちでは、「ボリューム」の方がいかにも量が豊富そうな実感が出ていい、というのが有力であった。外来語が、それと同義的である在来の語よりも、強い実感を表わすことができ、強調的な表現効果を持つ場合の1例であると考えられよう。

「すごい速さ／すごいスピード」「スピードが出る／速力が出る」の2組で、どちらの方が一層速い感じがするかを、20代から60代にわたるさまざまな男女10人に口頭で問うたところ、10人みな2組とも「スピード」の方だと答えた。

ストップする／とまる・停止する シャープな／するどい
ソフトな／やわらかい デラックスな／豪華な

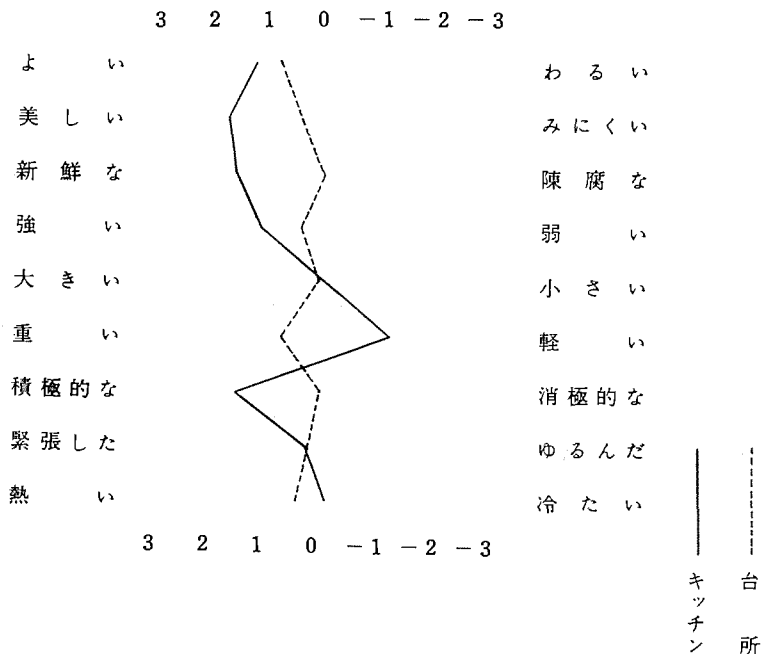
などの組についても、似たような傾向が存在するかもしれない。

d) 高級そうな感じ

欧米の文明・文化を崇拜し、これを取り入れ、追いつくことに大きな努力を払ってきた近代日本であるから、欧米からの外来語が、それと意味の似た在来語よりも高級なものごとを表わしているように受け取る心理が、かなり強固なパターンとして存在していることは否定し得まい。「ホテル／旅館」は建築の構造・様式の違いだけでなく、「ホテル」の方が高級そうだという語感が強固に存在する。「インフルエンザ」ということばが使われたところには、「流感」より何か高級そうに感じられたという。

「キッチン」は、初め「ダイニングキッチン」「リビングキッチン」のような複合語の形ではいったものであろうが、今では単独の用法もみられるので、「台所」と比較してみよう。「台所」「キッチン」のイメージを、いわゆる Semantic Differential の方法で測定することを試みた (C. E. Osgood ほか: The Measurement of Meaning, 1957参照)。この方法は、種々の問題点を含むの

表 46



で結局試験的な調査（被験者は御茶の水女子大学学生20人で、調査語は7組）しか行なわなかった。評定尺度は Osgood の使った 9 対の形容詞の和訳を使った。被験者20人の平均尺度値をプロフィールとして表わすと、表46のようになる。「よい」「美しい」「新鮮な」の、いわゆる価値的な因子において、いずれも「キッチン」の方が高く出たことは、常識的な予想と合致する結果だといえよう。「重い―軽い」の尺度で「キッチン」が「軽い」の方向に傾いたのは、軽快な感じが伴うためであろうか。「台所」より「キッチン」の方が高級そうな、近代的なふんい気を伴った語だろうと考えられるが、この小調査の結果もその推測と矛盾するものではないようだ。

e) 不快な語感・連想を避ける

あからさまに言うことが、はばかれるような事物を表わす語の、不快な語感を避けるために、遠まわしな語が求められる場合に、外来の語はしばしば好適な資料を提供する。

性／セックス 月経／メンス 売春婦／プロスティテュート

のような、性に関することばの組では、外来語の方は上のような意図もあって使われている場合が多いようだ。

洋服の採寸の用語である、

胸まわり／バスト 胴まわり／ウェスト 尻まわり／ヒップ

では、大正時代の洋裁では、左側の「～まわり」の方が使われていたが、「尻まわり」という語の卑俗感を避けるために、「ヒップ」が使われ出し、ついでこれとバランスをとるために、「ウェスト」「バスト」も使われるようになったという。近年さかんに使われ出した「マタニティ・ドレス」も、「妊婦服」にまつわる語感を避ける要因があったという（額田淑「服装誌の外来語は理解されているか」・言語生活134号）。

3 同音類義語をめぐる問題

3. 1. 同音類義語の問題

「奇怪／機械／貴会」のような、いわゆる同音異義語については、それが、コミュニケーションの障害になり、いろいろな混乱をひき起こすとして、しばしば論じられ、当研究所においても、研究報告20「同音語の研究」に見られるよ

うな調査研究を実施した。しかし、同音であっても、比較的意思・用法の似ている語、たとえば「機械／器械」などについては、同音語の問題としては、コミュニケーションの成立そのものに、あまり支障にならないため、同音異義語ほどは、問題になっていないようである。研究報告²⁰「同音語の研究」においても、語の例をあげた程度で、深くつっこんだ考察は行なわなかった。

しかし、類義語の問題としては、同音類義語は、決して小さな問題ではない。一般社会の言語生活において、類義語が問題となる場合のうち、同音類義語が占める比率はかなり高いと思われる。「映画を作るのは、制作か製作か」とか、「当直日誌の“イジヨーなし”は、“異常なし”か“異状なし”か」というような質問が、出ることも多い。これらは単に漢字の用法からだけでは、なかなか処理できない。やはり、二つのことばの意味的關係や、語の用法の異同等を、詳しく調べなくては解決がつかない。

そこで、この節では、意味上の関係や用法上の異同等について、しばしば問題となる同音類義語を取り上げて、考察を進めることにする。

3. 2. 同音類義語とは

同音であって、互いに意味の似ている語というと、たとえば「作成／作製」「移動／異動」「平行／並行」などの語がある。しかし、これらの語も、その意味なり、用法なりを検討すると、その間に若干の相違、すなわち使い分けが見られる。同じ「つくる」の意味ではあっても「作成」の場合は、書類・図表・草案などを作ることをさし、一般の工作物や製品を作ることをさすには「作製」を使う。「移動／異動」も意味的には似ているが、「人事イドー」とか「イドー証明」という場合には「異動」が使われ、「移動」は用いられない。また「ヘイコーな」には「平行」が、「ヘイコーする」には「並行」が使われるといったぐあいである。和語においても同じようなものがないわけではない。たとえば、武術としての「カラテ」には、「唐手」を用い、スポーツ化したものをさすときには、「空手」を用いるとか、あるいは、城を攻める場合には「水攻め」、拷問の方は「水責め」を使うというようなものも、上の字音語の場合と同様な問題をはらむものと考えられる。しかし和語の場合には、字音語の場合よりも、いっそう漢字の使い分けだという感が強い。だが、このよ

うな漢字の使い分けというものは、多少とも意味の違いをとらえたものでありしたがって、これらは、単に用字上の問題としてばかりでなく、類義関係の追究の上からも見のがすわけにはいかない。

「玉／球／弾」「止まる／泊まる」などは、一語の意味領域の細かい意味の相違を書き分けたという点では、用字上の問題かもしれないが、ある意味分野の中の特定の意味を、「玉（宝玉）／球（ボール）／弾（弾丸）」「止まる（停止）／泊まる（宿泊）」などのように表わしている点で、類義語の一種と見ることもできる。もちろん、これらは、「たま」という、あるいは「とまる」という一語のもつ種々の意味についての問題だから、一語多義の現象とも言い得る。しかし、実際の言語現象において、どこまでが同音類義で、どこからが一語多義かはなかなか決めにくいし、こうした区別は、さほど有益でもない。したがって、この研究では、一往、以上のようなものをすべてひっくるめて、同音類義語と呼び、その間の意味の区別、用法上の使い分けと、それに伴う問題を考察することにする。

言うまでもないが、完全に用字上の問題とみられる「妻君／細君」「定年／停年」「媒酌／媒妁」「比べる／較べる」などは、とりあげない。

3. 3. 使い分けの種々相

3. 2. 1. 同音類義語の使い分けといっても、一般社会において、普通に行なわれているものの大部分は、意味・用法による、ごく単純な使い分けである。

（例1）獵師／漁師——「かりゅうど」の意味では「獵師」を用い、魚をとる人の場合は「漁師」を使う。

（例2）主席／首席——「～全権」とか「中共～」とかいうときには「主席」を、また「～で卒業」というようなときには「首席」を用いる。

（例3）字典／辞典／事典——漢字の字義・字源など、おもに漢字についての辞書の場合には「字典」を用い、「英和～」「国語～」「用語～」など、おもにことばをひく辞書には「辞典」を用いる。さらに「百科～」とか「風俗～」など、ことがらをひく辞典になると「事典」を用いる。

（例4）塩／潮——食塩の意味では「塩」を、また「うしお」の意味では「潮」を用いる。

（例5）立ち会い／立ち合い——「～人」の場合は「立ち会い」を使い、すもうの「タチアイ」や「さあ、おタチアイ」というようなときには「立ち合い」を用いる。

(例6) 泣き声／鳴き声——人の場合には「泣き声」を使い、鳥・虫・獣などのときは「鳴き声」を用いる。

(例7) 暑い／熱い——気温が高いの意味では「暑い」を用い、水温や手足に触れたものの温度が高い場合には「熱い」を用いる。

(例8) 立てる／建てる——物をまっすぐに、起こして置くという意味の場合には「立てる」、建造するの意のときには「建てる」を使う。

派生的な用法や、転義的な意味の場合は別として、以上の例のように、同音類義語の使い分けにおいては、Aの場合には α の語を使い、A'の場合には α' の語を使うという区別が、一般の類義語の使い分けに比べて、比較的はっきりしていることが特徴である。

しかし、なかには、上にあげた例ほど明確に分かれないものも、もちろん、ある。

(例9) 待避／退避——列車の「～線」や船の「港外～」の場合には「待避」を用いるが、その他の場合においては、どちらも同じように使うことが多い。

(例10) 温和／穏和——気候について言うとき、すなわち「～な気候」「～な風土」では「温和」を用いるが、人がらなどと言うときは、どちらも使うようである。

(例11) 登る／上る——「山に～」などの時は「登る」，「京に～」「多数に～」「話題に～」などでは「上る」を用いるという使い分けはあるが，「木に～」「屋根に～」の場合などは，どちらも使うようである。

(例12) 早い／速い——「朝が～」「時期が～」は「早い」，「スピードが～」は「速い」という使い分けはあるが，「しごとが～」などでは，どちらとも言えない。

3. 3. 2. 以上あげたような，かなり一般的に行なわれている使い分け以外に，専門分野や職業領域において専門的な定義を与えて使い分けたり，術語としての意味の上から使い分けたりしているものがある。

(例13) 生育／成育——生物学関係や農業方面には，「生育」は植物の場合，「成育」は動物の場合に使うという使い分けがある。

(例14) 定跡／定石——将棋の場合には「定跡」を用い，囲碁の場合には「定石」を用いる。

(例15) 過料／科料——ともに，金銭罰であるが，「過料」は行政罰，「科料」は刑事罰である。

(例16) 大夫／太夫——義太夫語りでも，「大夫」は，文楽の浄り語り籍にもつもの，「太夫」は芝居のチョボ語り。

(例17) 足型／足形——製靴業やたび・くつ下の製造の際の，木型・型紙の意味では「足型」を用いるが，足あとの意味では「足形」が使われる。しかし一般には，使い

分け意識はうすいようである。

こうした、いわば専門的な使い分けは、その専門分野なり職業領域なりの範囲にとどまっていれば、問題はないが、こうした使い分けが、一般社会にはいりこんでくると、しばしば誤解を起こしたり、混乱を生じたりする。

3・3・3. 次に、近年、漢字制限によって、種々の書きかえや同音の類義語による代用などが試みられ、その結果、同音類義語の問題の一環とも考えられる問題が起こりつつあるので、これについて述べることにする。

当用漢字の実施とともに、制限漢字によって表記されていた語を、当用漢字の範囲内で表記できる語で代用するやりかた、たとえば「輿論」を「世論」で代用するような方法が行なわれるようになった。しかし、この例で言えば、「世論」という語は、従来から「セロン」または「セイロン」の読みで「世の中の人々の議論・意見」という意味を表わし、「世論の統一をはかる」「世論に惑わず」のように用いられてきた。一方「輿論」という語は、近代では「public opinion」に当たる語として「世の中の人々に共通の意見、世間一般の大勢となっている意見」の意味で使われてきた。「輿論」を「世論」で代用したため、「在来の世論」と「輿論の代用としての世論」との間に、混乱が起こりがちである。それはまた、「世論」の読みの問題ともからまり、意味の使い分けを意識して「セロン」「ヨロン」あるいは「セイロン」と読み分ける人もあるし、「世論」と書いて「ヨロン」と読むのは不適當だという意見もあるといった状態である。

同音の類義語による代用によって、このような問題が考えられるものは、この他にも、次のようなものがある。

(例18) 叡断→英断——「叡断」は、「天皇の決断」の意、「英断」は「すぐれた決断」の意であるが、この代用の場合には、こうした相違を無視したわけである。

(例19) 海藻→海草——「海藻」は「緑藻・褐藻・紅藻などの総称」として用いられ、「海草」は「アマモなど海中の顕花植物の称」として使われていたが、この代用によると、こうした区別はつけられなくなる。

(例20) 尖端→先端——「尖端」は「先のとがった端、転じて時代や流行の先駆」の意味で使われてきたが、これによると、すべて「先端」でおきかえることになり、両者の間の意味の相違は出てこなくなる。

(例21) 鎔解・熔解→溶解——元来は「溶解」は、液体にとかす場合にのみ用いられ

たが、この代用によると、金属を火でとかすような場合にも使われることとなり、在来を使い分けは、くずれてくることになる。

同音の漢字による書きかえであっても、単に音を借りたもの（庖丁→包丁）や、音通によるもの（火焰→火災）、あるいは、新しく造語したもの（漁撈→漁労）などでは、こうしたことは起こらないが、似た意味の語による代用の際には、在来の意味との間に、新しい問題をもたらすことがある。

3. 3. 4. 同音類義語とは言えないかもしれないが、その周辺にあるものとして、実際の意味は、かなり異なっているにもかかわらず、使われる漢字の意味が似ているために、あるいは、語源的には同源であるために、同音類義語と同じような語がある。

（例22）干拓／乾拓——湾・湖などの排水をして耕地を作る方は、「干拓」。「乾拓」は「水を使わないで拓本をとること」であって、まったく意味は異なるが「干」と「乾」の関連から、類義語とあやまってしまいやすい。

（例23）立坪／建坪——「立坪」は「土・砂利などの六尺立方」で「平坪」の対。「建坪」は「家の建坪」。

（例24）呑み屋／飲み屋——「飲み屋」は「一杯～」など。「呑み屋」は、取引用語で「呑み行為をする取引員」また「競馬・賭博などの胴元」の意。

3. 4. 使い分けの実態

3. 4. 1. 実験テストについて

同音類義語の使い分けの実態を調べるために、高校3年生143名を対象に、実験テストを実施した。このテストには、種々の面で使い分けが問題となりそのような同音類義語であって、高校生程度にも、なじみがあると思われる25組の語を選んで出題した。

高校生を対象としたテストの結果、高校生程度では、使い分けが、はっきり意識されていないと思われるもの、および一般社会で行なわれていると考えられる使い分けと異なる傾向を示したもの、8組については、吟味調査の意味で「大学生を対象とした類義語についての実験テスト」と「長岡市の会社調査における——類義語についての実験テスト」の一部として出題した。

なお、長岡市の会社調査は、「国民各層の言語生活の実態調査」の一環として実施したものである。

以上の実験テストの集計結果は、「V. 実験テスト集計表」に収めてある。

が、高校生を対象としたものは「テスト・3」、大学生を対象としたものは「テスト・1——〈22〉以下」、また長岡市の会社調査は「テスト・2——〈5〉以下」である。

3. 4. 2. テスト結果のあらまし

3種の実験テストを通じて言えることは、こうした調査でも、使い分けの傾向は、かなりはっきりとえられたということである。しかし、明確に使い分けられているのではないかと推定されるような同音類義語においても、ほとんどの場合1割ないし2割の少数意見が出る点は興味深い。それは、もちろん、出題した語が、すべて漢語であった点からみて、漢語あるいは漢字についての教養の問題も含まれているとは考えられるが、本来、同音類義語というものがもつ、基本的な性格、すなわち使い分けが、個人個人によって、かなりゆれているという点にも起因するのではないかと推定される。

高校生調査と、吟味調査として実施した、大学生・会社員の調査との間では、大勢においては、ほぼ一致した結果を得たが、こまかい点ではかなりの差異が認められる。

以下、実験テストのテスト結果について、あらましを記述する。

機械／器械<㊦——1>——「㊦～体操」には「器械」を、その他の「㊦～的」「㊦～にまきこまれる」「㊦～化」には「機械」を用いるという使い分けは、はっきり意識されているようである。

鑑賞／観賞<㊦——2>——当然「鑑賞」を用いると予想した「㊦美術を～する」に「観賞」を選んだ答えや「どちらでもよい」とする答えが多く、はっきりした傾向が出なかった点が注目される。また、ある程度答えがまちまちになるのではないかと予想した「㊦映画を～する」「㊦庭園を～する」に「観賞」を選ぶという傾向が、はっきり出たことなどを考え合わせると、「目で見るもの」の場合には、すべて「観賞」を用い、「㊦音楽を～する」というような、「目でみるもの以外」の場合に、「鑑賞」を用いるとする使い分け意識があるのではないかと推定される。この点「芸術的なものの場合には鑑賞を用いる」とする、一般社会の使い分け意識とは、やや異なる傾向が認められる。

同士／同志<㊦——3>——「㊦～をつのる」には「同志」を用い、「㊦味

方～」「㊤同じマークのカード～」には「同士」を使うということは、はっきり意識されているようである。ところが「㊦～を裏切る」に「同志」を選んだ答えは予想外に少なく、前の三つの場合ほどはっきりした傾向は出なかった。

移動／異動<㊧——4>——「㊦人事の～」には「異動」が用いられ、その他「㊠人口が～する」「㊨民族の大～」「㊩西に～する」には「移動」が使われるとする意識は、きわめてはっきりしているようである。

共同／協同<㊪——5, ㊫2——23>——まず、高校生では「㊦農業～組合」「㊩～で利用する」については、前者には「協同」が、後者には「共同」を用いるという明白な傾向が認められたが、「㊦日米～宣言」「㊠～作戦」においては、答えがまちまちになり、はっきりした傾向が、とらえられなかった。

一方、大学生調査では、「㊦日米～宣言」「㊠～作戦」についても、「共同」を選ぶ、はっきりした傾向が出ている。そして、この2問には、高校調査との間に、明らかな有意差が認められた（危険率1%以下）。しかし、この大学生での結果も、男女別に見ると、男子でははっきりした傾向が認められたが、女子では「㊦日米～宣言」にも「㊠～作戦」にも傾向は認められず、特に「㊦日米～宣言」には、男女間に明らかな有意差が認められた。

以上の結果をまとめてみると、「㊦農業～組合」と「㊩～で利用する」については、調査全体を通じて、前者には「協同」を用い、後者には「共同」を用いるという意識が、はっきり認められたが、「㊦日米～宣言」「㊠～作戦」において、どちらを用いるかは、かなりまちまちになり、そこには、教養差・男女差といったものが、あるいははたらいてくるのではないかと推定される。

平行／並行<㊬——6, ㊭甲——25, ㊮——5>——「㊦互いに～な二直線」と「㊩トラック競技に～して、フィールド競技も行なう」については、高校・大学・長岡の調査のすべての層において、前者には「平行」を用い、後者には「並行」を用いるという、はっきりした意識をもっていることが、確かめられた。また逆に、「㊠交渉は～線をたどっている」では、今回の三つの調査のすべてにわたって、答えがまちまちになり、いずれも、はっきりどちらを使うというような傾向を示さなかった。

「㊟鉄道に～して走る道路」は、高校調査では「並行」を用いるという、きわめて、はっきりした傾向が出たが、大学調査では、全体としても、また男女の各層においても答えがまちまちになり、傾向は認められなかった。高校調査と大学調査との間には、明らかな有意差が認められた（危険率1%以下）。

長岡調査においては、全体としては「並行」を用いるという傾向を示したが、年齢層別にみると、低年齢層では、どちらを用いるか、はっきりした傾向が出なかった。中年年齢層と高年齢層に「並行」を用いる傾向が現われ、特に高年齢層では、きわめてはっきり意識されていると認められた。低年齢層と高年齢層の間には、有意差が出た（危険率5%以下）。

以上の結果から推定すると、「㊟互いに～な二直線」というような、数学用語あるいは形容動詞としては、「平行」を用いるという意識は、きわめてはっきりしていると考えられるが、動詞としては常に「並行する」を用いるという意識は、一概に強いとは言えない。「㊤トラック競技に～して、フィールド競技も行なう」のように、「同時に」の意味で使われた「並行する」については、きわめてはっきりと「並行」を意識するようであるが、「㊟鉄道に～して走る道路」のように「位置の上で並んで」という場合になると、特に若い層では「平行する」を用いている人も、かなりいると思われる。「㊦交渉は～線をたどっている」では、「並行線」と「平行線」の両方が半ばするのではないかと予想したが、予想どおりの結果であった。

不断／普断（普段）<㊟—7>——「㊟～の努力をはらう」には「不断」を用い、「㊦～から心がけておく」「㊟～着」には「普断（普段）」を用いるという使い分けは、高校生程度には、はっきり意識されているようである。また「㊟～の注意」は、どちらもあてはまる文脈だが、ここでは、当然のことながら、どちらを使うというような傾向は出なかった。

最後／最期<㊟—9>——「㊟船の～を見とどける」は、どちらもあてはまる文脈だが、予想どおり、どちらを選ぶというようなはっきりした傾向は出なかった。「㊦あの作品が～となった」「㊟つかまったら～」では、ともに、「最後」を選ぶ傾向が、はっきり認められ、一方「㊤悲惨な～をとげる」では、「最期」を選ぶという傾向が出た。したがって、この場合の使い分けは、

高校生程度には、ほぼ確実に意識されているようである。

温和／穏和<㉞—9>——「㉚～な気候」「㉞～な風土」あるいは「㉜～な人柄」の文脈では、どちらがあてはまるか、なかなか決めにくいのではないかと予想したが、これらのすべてに、はっきりした傾向が出た。すなわち㉚㉞には「温和」、㉜には「穏和」が圧倒的で、「どちらも用いる」という答えは、案外出なかった。「㉞～な表現」は、予想どおり「穏和」を用いる傾向が、はっきり現われた。以上のことから、「温和」「穏和」の使い分けは、高校生程度でも、かなりはっきり意識していると推定される。

修了／終了<㉞—10>——「㉚義務教育～者」「㉞～証書」には「修了」、
「㉜修学旅行も～した」「㉞任務を～する」には「終了」という結果であった。

この二つのことばの場合は、意味・用法が、かなり異なっているので、高校生程度なら、混同することは、まずないのではないかと予想したが、㉜の質問をのぞいては、誤用とみられる答えや「どちらでもよい」が、案外出た。特に「㉞任務を～する」に「修了」を選んだ答えと「どちらでもよい」が、合わせて4割を上まわったのは、まったく予想外であった。

競走／競争<㉞—11>——これは、「㉚自動車～」と「㉞障害物～」には「競走」、
「㉜経済～」と「㉞無～で当選」には「競争」という傾向が、予想どおり、はっきり現われた。

密漁／密猟<㉞—12>——「㉚～船」には「密漁」を用い、「㉞あざらしの～」には「密猟」を用いるという使い分けは、はっきり意識されているようである。しかし、㉞については、「密漁」を用いるという答えも、かなり多かった。「㉜～者」と「㉞～の取り締まり」には、「どちらも用いる」とする答えが、全体の傾向となった。このように、「どちらも用いる」が全体の傾向となったのは、今回のテストにおいては、この問いだけである。この結果から考えると、この㉜㉞の場合の「密漁／密猟」は、1語の表記上のゆれと意識される傾向が強いと言ってもよいかもしれない。

好意／厚意<㉞—13>——「㉞～的にとりかはらう」「㉞令嬢に～を寄せ」には「好意」、
「㉜御～を感謝します」には「厚意」を用いるという点につい

ては、はっきりした傾向が出たが、「㉗先輩の～に甘える」は、答えが、たいへんまちまちになり、傾向はつかめなかった。㉗㉔には、「どららも用いる」とする答えが、2割以上出たことを思うと、このような場合には、「好意／厚意」を使い分けられない人が、ある程度いるようである。

半面／反面<㉕——14, ㉔甲——24, ㉕——6>——「㉗便利な～維持費が高い」に「反面」を用いる傾向と、「㉔顔の右～が日焼けした」に「半面」を用いるという傾向とは、3種の調査全体にわたって、はっきり現われた。㉗世に知られざる～を描く」では、高校生・大学生の調査では、傾向がまったくつかめなほど答えがまちまちになり、また、大学生の男女別の結果も同様に傾向が認められなかった。しかし、この㉗について、長岡調査では「反面」を用いるという傾向が認められ、年齢層別では、中年層と低年齢層に、弱いながら、こうした傾向が現われた（年齢層の間に有意差なし）。

次に「㉔この見方も～の真理だ」においては、高校生・大学生の調査では、いずれも「半面」を用いるという傾向が認められ、大学生調査の男女別の結果では、男女とも、同様な傾向を示した。長岡調査では、全体の結果においても、また低年齢層・中年層の結果においても、傾向が出なかったが、高年齢層には、「反面」を用いるという傾向が出た（年齢層の間の有意差なし）。

以上の調査結果から推定すると、「㉗便利な～維持費が高い」のような「逆接の接続詞」的な用法と、㉔の「右～」のように「一つの面の上下左右半分」といったような場合には、使い分けが明白に現われるが、㉔㉗のように「表側・表面に対する裏側・裏面」という場合の用法では、「反面／半面」の使い分け意識が、はっきりせず、人によってまちまちの使いかたになっているようである。

振動／震動<㉕——15>——「㉔火山爆発の～」には「震動」を用い、「㉗シャンデリアが左右に～する」には「振動」を用いるという使い分けは、高校生程度でも十分に意識されているようである。また「㉗列車の～」も、弱いながらも「振動」を用いるという傾向が認められた。しかし、「㉔速力計の針が小きざみに～する」では、答えがまちまちになり、出題の際の予想どおり、はっきりどちらを使うというような傾向は出なかった。このあたりで、「振動／

震動」の使い分けは、微妙になってくるようである。

作成／作製<㊦——16, ㊦乙——22>「㊦原案を～する」には「作成」を、また「㊦天体望遠鏡を～する」には「作製」を使うという点での使い分けは、高校生にも大学生にも、はっきり意識されている。ところが「㊦試作品を～する」となると、高校生では、どちらを使うという、はっきりした傾向が求められないほど、答えがまちまちになった。大学生調査では「作製」を用いるという傾向が、はっきり現われ、高校生と大学生の間には、明らかな有意差（危険率1%以下）が認められた。しかし、大学生調査の男女の層別の結果では、男子には「作製」という傾向が明白に出たが、女子では、傾向が現われなかった（男女間に有意差はない）。こうした結果をみると、「㊦試作品を～する」では、年齢差・教養差、あるいは男女差などによって、使い分けがまちまちになることが推定される。

次に「㊦設計図を～する」では、大学生・高校生とも、答えがまちまちになり傾向が認められなかった。大学生の男女の層別でも同様な結果であり、この文脈に「作成」を用いるという意識は、あまり強くないようである。

こうした結果が出るところを見ると、品物の製作の場合に「作製」、書類・図表・案件の場合に「作成」というような使い分けは、一往は理解しているが、それほど明確に意識されていないように思われる。

周知／衆知<㊦——17, ㊦乙——25>——高校生調査においても、大学生調査においても「㊦～を集める」には「衆知」を使い、「㊦～の事実」には「周知」を用いるという使い分けは、はっきり意識されているようにみえる。それに反して「㊦全員に～させる」になると、高校生・大学生とも、答えがまちまちになり、どちらを使う傾向があるとは言えない状態である。大学生の男女別の結果でも、男女とも傾向は認められない。また「㊦～徹底させる」においては、高校生では「周知」を用いるという傾向が出たが、大学生では傾向が現われず（危険率1%で有意差あり）、さらに、大学生の男子の層も、女子の層も傾向が出て来ない。

㊦㊦のように、「周知」という語の用法としては、代表的なものにおいてもこのような結果が出た点から、「衆知／周知」の用法上の相違については、き

わめてあいまいな意識しかもっていないように考えられる。

製作／制作<㉔——18, 甲——22, ㉕——7>——「④新型自動車の～」に「製作」を用いるという傾向が、3種の調査のすべての層にわたって認められたのは当然といえるが、「⑦～に余念のない鈴木画伯」において、高校生と長岡調査の低年齢層に「制作」を用いるという傾向が出なかったのは意外であった。

「⑩映画の～」に、どちらを使うかは、かなり微妙なものと予想されたが、調査結果も、予想したとおり、3種の調査の、すべてにわたって、はっきり、どちらを使うというような傾向を示さなかった。また「㉔おもちゃの～」の場合には、高校生調査と長岡調査では「製作」を使うという傾向が認められたが、大学生調査では、男女とも傾向がつかめないほどまちまちな答えとなった。長岡調査の年齢層別の結果では、中・高年齢層には、「製作」を用いる意識が、はっきりみられるのに対して、低年齢層では、傾向というほどのものは見られない（年齢層の間の有意差は認められない）。

以上の調査結果から推定すると、若い人たちの間では、「製作／制作」において「芸術的な作品」の場合には「制作」を用いて、「製作」と区別するという使い分けの意識は、それほど強くないように思われる。

保障／保証<㉖——19>——「⑦身元を～する」「㉕借用料のほかに～金がある」には「保証」を用い、「④社会～」「⑩安全を～する」には「保障」を用いるという傾向が、高校生の調査結果には、はっきりと現われた。したがって、このテストに出題した文脈の範囲内では、「保障／保証」の使い分けは、高校生程度にも、明確に意識されていると推定することができる。

人世／人生<㉗——20, ㉘乙——24>——「⑦～をはかなんで」だけは、両方の調査を通じて、すべて「人生」を選ぶという、はっきりした傾向が出た。しかし、テスト全体を見渡すと、この二つの語の使い分けには、かなり微妙なものが感じられる。「⑦～百般」は、高校生では、「人世」を使うとする者、「人生」を使うとする者が、ほぼ同数であったが、大学生では「人世」を用いるという傾向が、強く出ている。しかし、大学生でも、層別にみると、女子では、まったく傾向がつかめないほど、答えがまちまちになった。「㉘～の機微」は、高校生調査では、弱いながらも「人世」という傾向が出たが、大学生調査

では、男子の層に、一往、「人世」の傾向がみられたのみで、大学生全体も、女子の層も、傾向を示さなかった。さらに、「㊦～をわたる」になると、両方の調査の、すべての層を通じて、まったく傾向が認められない。

以上の㊦㊧㊨においては、いずれも、大学生・高校生の調査結果の間に、明らかな有意差があり、さらに㊨においては、大学生の男子の層と女子の層との間にも有意差が認められた。このような結果からみると、「人世／人生」の使い分けは、「㊩～をはかなんで」の場合を除いては、あまり明確ではなく、さらに、年齢差・教養差あるいは男女差が、ある程度影響してくるのではないかと思われる。

異状／異常<㊪——21, ㊫甲——23, ㊬——8>——「㊭～な高温」だけは、3種の調査の、すべての層にわたって「異常」を用いるという傾向が出たが、その他の問いにおいては、たいへん複雑な結果になった。

まず、「㊮からだの～に気づく」は、高校生調査と長岡調査では、どちらを用いるというような傾向が認められないほど、答えがまちまちになったが、大学生調査においては、一往「異状」を用いるという傾向が出た。しかし、大学生調査でも、女子の層では、傾向が認められなかった（男女の間に有意差はない）。そして、この問いについては、大学生と高校生の結果の間に、明らかな有意差が認められる。

「㊯精神に～をきたす」では、高校生・大学生においては傾向が出ていないが、長岡調査においては「異常」を用いるという傾向が、弱いながらも認められた。長岡調査の年齢層別の結果では、高年齢層と低年齢層においては、傾向が現われず、中年年齢層に「異常」という傾向が現われている（年齢層の間に有意差はない）。

また「㊰～なし」においては、高校生では「異常」を用いるという傾向が出たが、大学生調査では、どちらを用いるというような傾向は認められない。そして、両者の間には、明らかな有意差が認められる。長岡調査においては、高校生の結果とは逆に「異状」を用いる傾向が、はっきり現われた。しかし、年齢層別にみると、やはり、低年齢層には、傾向が出ず、中年年齢層と高年齢層において、「異状」を用いる傾向が、はっきり出ている。そして、高年齢層と低

年齢層の間、および中年年齢層と低年齢層の間には、有意差が認められる。

以上の結果から、まず言えることは、形容動詞形の場合に「異常」を用いるという意識は、きわめてはっきりしているということである。次に名詞的用法での「異状／異常」の使い分けの意識は、主として年齢差によって、かなりのずれが認められ、特に若い層においては、この使い分けが、たいへん混乱しているように見受けられる。

実体／実態<㉔—22>——「㉔～を備える」「㉔～のない政治」には「実体」を用い、「㉔選挙違反の～を調査する」「㉔無医村の～をつかんでいない」には「実態」を用いるという使い分けは、明確に意識されているようである。

解放／開放<㉕—23>——「㉕～的な気分」「㉕植物園を～する」には「開放」を、「㉔店員を～する」「㉔民族を～する」には「解放」を使うという使い分けは、高校生程度では、明確に意識しているようである。

追究／追及／追求<㉖—24>——「㉖真理を～する」の場合には「追究」を用い、「㉔利潤を～する」の場合は「追求」を、また「㉔責任を～する」では「追及」を用いるという使い分けは、意識されていると思われる。しかし、「㉔犯人を～する」においては、少なくとも「追究」は用いないという点はほぼ一致しているようであるが、「追及」を使うか「追求」を使うかでは、はっきりした傾向が出なかった。

以上の結果からみると、「追究／追及／追求」の使い分けについては、高校生程度では、かなりはっきりした意識をもっていると考えられる。これらの語の使い分けでは、やはり、「㉔犯人を～する」あたりが、いちばん微妙なものなのであろう。

体制／態勢／大勢<㉗—25>——「㉗支配～」には「体制」を用い、「㉔受け入れ～」には「態勢」を用い、また「㉔～をくつがえす」には「大勢」を使うという使い分けは、明確に意識されていると思われる。次に、「㉗警戒～」は、「体制」「態勢」の、どちらも使い得る文脈だが、予想どおり、この二つの語のうちのどちらを用いるというような傾向は認められなかった。しかし、少なくとも「大勢」を用いることはないということは、結果に、はっきり現わ

れている。

したがって、「政治体制」というように、組織について述べる時には「体制」を用い、「受け入れ態勢」のように「身がまえ、姿勢」というような意味の時には「態勢」を用いるという点での使い分けは、高校生でも、十分に理解していると言ってさしつかえない。さらに「大勢」と、上記の2語との混同がほとんど見られないところから、「体制／態勢」と「大勢」とを類義的に結びつけるような意識は、ほとんどなく、両者の間には、かなり、はっきりした意味のへだたりを感じているとみられる。

3. 5. 同語意識と別語意識

以上の同音類義語の考察の結果からみると、ここにとり上げたような、同音類義語の使い分けというものは、かなりはっきり意識されている場合と、単なる漢字の表記上の問題として、その使い分けが、ほとんど意識されていない場合とがある。それは、もちろん、語によって異なるが、ここで注意すべきことは、同じ一組の同音類義語においても、その差異なり、使い分けなりが、きわめてはっきり意識されている面と、ほとんど意識されていない面とを、合わせもつものがある、という点である。たとえば、「平行／並行」において、「平行」には「平行な」の形、すなわち形容動詞形があり、「並行」には「並行する」の形、すなわちサ変動詞形があるが、3. 4. に述べた実態調査の結果によると、「ヘイコーな」の場合には、「平行」を用い、「並行」は用いないという意識は、きわめてはっきりしている。しかし一方、「ヘイコーする」には、常に「並行」が用いられ、「平行」は使われないという意識は、それほど高くない。このことは、「ヘイコーな」においては、「平行／並行」は、はっきり別語と意識されているが、「ヘイコーする」においては、一語の表記上の相違すなわち同語と意識される可能性があるということになる。

したがって、ある用法、あるいはある意味の場合だけを取り上げて、そこに同語意識なり、別語意識なりが認められるからといって、それだけで、同音類義語の整理や処理を進めるわけにはいかない。

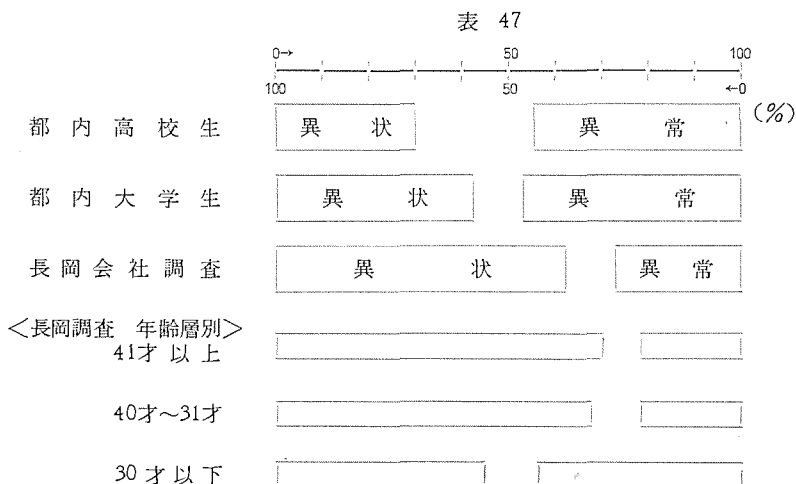
「厚意／好意」の例で言えば、「御コーイ」「コーイ的」「コーイを寄せる」においては、はっきりした別語意識がうかがわれるが、「コーイに甘え

る」の用法では、別語意識は、きわめてうすい。また「鑑賞／観賞」においては、音楽・映画・庭園については別語意識が一往認められるが、美術については、別語意識が弱い。

これらは、きわめて小規模な実態調査であるが、同音類義語の整理などを行なう際には、こうした観点からの調査研究によって、それぞれの同音類義語について、どのような面に、どの程度の別語意識がみられるかをつかんでおく必要がある。

また、一方、同音類義語の同語意識・別語意識には、3. 4. の実態調査の結果からもわかるように、年齢層の間の違いが、きわめて大きい。

いま「異状／異常」の同音類義語について、「イジョーなし」の場合をグラフにして示すと、表47のようになる。すなわち、若い層では、たとえ高校生・大学生というような教養層であっても、この場合の別語意識は、あまり高くない。それに対して、高年齢層では、きわめて明白な別語意識が認められる。



これは1例にすぎないが、長岡市会社調査（テスト2参照）の同音類義語関係のテストにおいては、そのテスト結果全般にわたって、若い層は、高年齢層に比べて別語意識が弱い傾向がみられる。したがって、同音類義語について、こうした意識を調べる際には、なるべく広い層にわたって、特に年齢層については慎重に調査する必要があるだろう。

付 おもな同音類義語の語彙表

この表は、一往「同音類義語の語彙表」と名づけてはあるが、厳密な意味での同音類義語だけを収めたものではなく、むしろ、語の意味や、用いられる漢字の意味が、比較的似ているために、その使い分けが、とかく問題になりがちな同音語を集めたものである。したがって、なかには、類義というには、ふさわしくないものもあるが、新聞協会発行の「新聞用語集」やNHK放送文化研究所発行の「放送用語参考辞典」「文研月報」、あるいは市販の各種「用字用語辞典」等に、使い分けの上で注意がうながされている程度の同音語は、一往すべて収めた。

この表の基本的な資料としては、1958年度から1960年度にわたって実施した「同音語の研究（国立国語研究所報告20）」の際に採集した同音語カードを使用し、さらに、第1章の3にあげた資料からも若干補充した。

なお、この表の作成には、担当者全員が参加した。

記 号 類 の 説 明

- 「 」……………用例
- ～ ……………見出し語の省略
- = ……………意味・用法・使用分野等
- ↔ ……………反対語または対義的な語
- ……………誤読または慣用読みなど
- []……………国語審議会報告「同音の漢字による書きかえ」において、書きかえ案が示されているもの
- × ……………当用漢字外の漢字
- △ ……………当用漢字音訓表外の音訓

(ア)

- 愛[△]誦・愛唱「～歌／牧水の歌を～する」
愛[△]誦「～吟詠集」
○哀[△]憐「～の情」
愛[△]憐
○青い「空が～／麦の芽が～／～ことを言う」
蒼[△]い「顔色が～」
○明明と「電燈が～ともる」
赤赤と「夕日が～さす」
○合う「話し～／服がからだに～／意見が～／答えが～」
会[△]う・逢[△]う「人に～／～は別れのはじめ」
遇[△]う・遭[△]う「雨に～／災難に～／敵に～」
○上がる「階段を～／仕事が～／御酒を～／学校に～／成績が～」
揚[△]がる「天ぶらが～／火花が～／陸に～／意気が～」
騰[△]がる・上[△]がる「相場が～」
拳[△]がる「犯人が～／名が～」
○明[△]き「～めくら」
空[△]き「～箱／～時間」
○飽[△]きる「～ほど食う／ぜいたくに～」
厭[△]きる「仕事に～」
○開[△]く「戸が～／店が～／口が～」
明[△]く・空[△]く「穴が～／～いた席もない／手が～」
○明[△]ける「夜が～／年が～／休暇が～」
明[△]ける・空[△]ける「部屋を～」
空[△]ける「穴を～／バケツの水を～／からだを～／けておく」
開[△]ける「戸を～／ふたを～」
○上[△]げる「帆を～／幕を～／値を～／地位を～／プレゼントを～／学校に～」

揚[△]げる「天ぶらを～／荷を～／芸者を～」

挙[△]げる「犯人を～／全力を～／名を～」

○足形・足型＝足あと

足型＝足の木型

○預[△]かる「金を～／勝負を～／荷物を～／帳場を～」

与[△]かる「おほめに～／お相伴に～／お招きに～／相談に～」

○厚[△]い「装甲が～／情に～」

驚[△]い「信仰が～／病が～」

○暑[△]い「今日は～」

熱[△]い「お湯が～／～仲」

○当[△]て「～にする／さや～／目～／瞞～」

宛[△]・当[△]て（接尾語的）「～名／営業部に～送る」

○当[△]てる「矢を標的に～／枕を～／つぎを～／日に～／漢字を～／生徒に～・てて答えさせる／株で～／毒気に～・てられる」

宛[△]てる「親友に～・てた手紙」

充[△]てる・当[△]てる「食費に～」

○後[△]「～に残る／～を弔う」

跡[△]・述[△]「～をのこす／進歩の～が認められる／～をくらます／水くきの～／親が死んで～を取る」

○油「～揚げ／～かす／～がのる／～を売る／～をしぼる／水と～」

脂[△]「仕事に～がのる／～ぎった肌／～性／～のかたまり」

○海[△]人

海[△]女「～が海中にもぐった」

○文[△]・綾[△]「～織り／ことばの～／事件の～」

○謝[△]まる「丁重に～」

誤る・過[△]まる・謬[×]る「判断を〜」
 ○荒「〜武者／〜海／〜療治／〜野」
 粗・荒「〜造り／〜筋／〜がね」
 ○荒い「鼻息が〜／金使いが〜／波が〜／氣性が〜」
 粗[△]い「〜手ざわり／目の〜ざる／細工が〜／粒が〜」
 ○改まる「風俗が〜／〜って話す」
 革[△]まる「病〜」
 ○表わす「グラフに〜／氣持を〜／姿を〜／喜びを〜」
 現わす「効果を〜／正体を〜」
 著わす「本を〜」
 顕[△]わす「その徳を世に〜」
 ○有る「かねが〜／親が〜」
 在[△]る「〜・りし日の」
 或[×]「〜日／〜人」
 ○暗夜
 闇[×]夜〔闇夜→暗夜〕
 (イ)
 ○良[△]い「天氣が〜／住み〜」
 善[△]い・好[△]い・良[△]い「人が〜」
 ○生かす「魚を〜・かしたまま」
 活[△]かす「能力を〜」
 ○移管「業務の一部を県に〜する」
 移換「国庫内の〜」
 移監「囚人を〜する」
 ○俤[△]観「〜を呈する」
 異[△]観「奇岩絶壁の〜」
 威[△]観
 ○遺棄「〜死体／配偶者から悪意で〜されたとき」
 委[△]棄「土地所有権の〜」
 ○異議「〜をさしはさむ／〜の申立て／〜あり／〜を唱える」
 異[△]義「同音〜語」
 ○異境＝母国を遠く離れた土地

異郷＝ふるさとを遠く離れたさと
 ○活[△]ける「花を〜／鉢に〜」
 生[△]ける「〜しかばね」
 ○意思・意志「〜解釈／自由／〜表示」
 意志「神の〜／〜が強い／〜薄弱／〜の助動詞」
 ○遺志「〜を継ぐ」
 遺[△]旨
 ○畏[×]縮
 委[×]縮・萎[×]縮「〜腎／親の期待が大きすぎて子どもが〜する」
 ○異状「〜なし／〜を認めず」
 異[△]常「〜乾燥／精神／〜な執念／〜発達」
 ○委讓「権限の〜／権利の〜／地租〜」
 移[△]讓「投票〜」
 ○委託「〜販売／〜加工／〜精米」
 依[△]託「〜学生／〜射撃」
 ○徒[△]「〜に月日を重ねる／〜に時間を費やす」
 惡[△]戯「〜する／わる〜／子供の〜」
 ○痛[△]む「傷が〜／心が〜／ふところが〜」
 悼[△]む「死を〜」
 傷[△]む「車が〜／荷物が〜／リンゴが〜」
 ○位置「建物の〜」
 位[△]地・位[△]置「責任の重い〜」
 ○一律「千編〜／〜一体／〜に1割値上げする／〜に扱う」
 一[△]率「税の〜減免／〜税」
 ○一兩「金子〜／〜日／〜年／〜人」
 一[×]兩・一[×]輛「貨車〜分」
 ○一画「一点〜」
 一[△]画・一[×]劃「〜100坪単位」
 一[△]角「敵の〜をくずす／文壇の〜」

一郭・一廓「～城のあるじ」
 ○一反「反物～」
 一段・一反「田～／～歩」
 ○一町「～歩の田畑」
 一町・一丁「一里～」
 一丁「～目」
 ○一丁・一挺「鎌～／ピストル～」
 一挺「駕籠～」〔一挺→一丁〕
 ○一堂「～一派」
 一統「綱～／○○氏とその～／御～様」
 ○移動「～性低気圧／～図書館」
 異動「人事～／～証明」
 ○委任「～統治／～状」
 委認「～を受けて施工」
 ○違反「法令に～／憲法～」
 違犯
 ○委付「船舶保険の～／～権」
 移付「権利物件の～／～命令」
 ○畏服
 威服
 威伏
 ○異聞「忠臣蔵～」
 遺聞
 ○移変
 違変
 異変「一大～」
 ○威名
 偉名
 ○否「～でも応でも」
 嫌・厭「仕事が～になる／～なやつ／～に暑い日だ」
 ○威容・偉容「～を誇る」
 ○衣料「官給～」
 衣糧＝衣服と食糧
 ○威力「金の～／～を発揮する」
 偉力

○入る「氣に～／堂に～／手に～／佳境に～／技神に～／ひびが～／身が～／実が～／おそれ～／寝～」
 要る「人手が～／」
 ○異例・違例「～の措置／～の昇進」
 違例
 ○違令「～の罪」
 違戾「～する」
 ○淫雨・陰雨
 ○印可「老師の～を受ける」
 允可
 ○印鑑「～証明」
 印款
 ○因襲・因習「～的」
 ○引退「～興行／～相撲」
 隠退「～料／～藏物資」
 ○隠喩＝修辭法の一
 引喩＝古人の語・故事を引いて修飾する法
 (ウ)
 ○伺う「御機嫌を～／御意見を～／お宅に～」
 窺う「すきを～／鼻息を～／顔色を～／好機を～」
 ○憂き世・浮世「～の定め／～離れた人」
 浮世「～草子／～絵」
 ○受け「～入れ態勢／郵便～／～がいい」
 請け「～に立つ／下～／荷～」
 ○受ける「試験を～／ボールを～／学位を～／母の血を～／～／けて立つ」
 請ける・承ける・受ける「申込みを～／得意先の仕事を～／敬礼を～／質草を～／け出す／命令を～／四面に敵を～／あなどりを～／大衆に～」
 承ける「引継ぎを～／父のあとを～」

けて家業に[△]励む」
[△]享ける「生を人の世に～」
 ○歌「～を詠む／～に託す／望郷の～」
[△]唄「小～／馬子～」
 歌・[△]唄「～を歌う／子守～」
 ○歌う「海を～った詩」
[△]謳う「条文に～／効能を～」
 歌う・[△]唄う「歌を～」
 ○内・[△]中「朝の～／見ている～に／～の
 怒りを表わさない」
[△]家・内「～の社長／～のなか」
 ○打ち勝つ「相手の打棒に～」
[△]打ち克つ「誘惑に～／困難に～／自分
 に～」
 ○打ち留める「塀にささえを～／五寸く
 ぎで～」
 撃ち止める「一発で～／えものを～」
 討ち止める「敵将を～」
 ○打ち抜く「三遊間を～」
[△]打ち貫く「鉄板を～」
 ○打ち破る「壁を～」
 撃ち破る・討ち破る「敵を～」
 ○内分け
 内訳「～書」
 ○打つ「頭を～／心を～／手を～／古綿
 を～ち直す／田を～／電報を～／
 水を～／あみを～／ばくちを～／芝
 居を～／逃げを～／手金を～」
 討つ・撃つ「賊を～／不意を～」
 撃つ「小銃を～」
 ○写す「ノートを～」
 写す・映す「鏡に～／映画を～」
 移す「籍を～／机を～／心を～／時を
 ～さず」
 移す・[△]遷す「都を～／居を～」
 ○移る「食事に～／心が～／時が～／に
 おいが～」

移る・[△]遷る「東京に～／都が～」
 写る「心に～おもかげ」
 映る「地色によく～／障子に～人影」
 写る・映る「写真に～」
 ○[△]海胆・[△]海菜＝海生動物名
[△]雲丹＝食品名
 ○[△]姥「～ざくら」
[△]乳母「～車」
 ○[△]旨い・[△]上手い・[△]巧い「手品が～／～考
 えだ」
[△]旨い・[△]甘い・[△]美味い「～魚／～話にひ
 っかかる／～汁を吸う／自分だけ～
 事をする」
 ○生む「利を～／よい結果を～んだ」
 産む「卵を～」
 ○[△]膿む「傷口が～」
[△]倦む「気持が～」
[△]熟む「梅の実が～」
 ○憂い「後願の～」
[△]愁い「～をやどしたまなざし」
 ○[△]雲霞「～のごとき大軍」
[△]浮塵子＝虫の名まえ
 ○運行「自動車の～／事業の～」
 運航「船舶の～／飛行機の～／～網」
 ○運勢「～がよい」
 運性・運勢「～判断」
 ○運送「～業／～約款／～保険」
 運漕「湾内～」
 (エ)
 ○鋭気「～を養う」
 英気
 ○英紙＝イギリスの新聞
 英誌＝イギリスの雑誌
 英紙・英誌＝イギリスの週刊新聞など
 ○映像「テレビの～がぼける」
 影像「壁に～をはるほど崇拜してい
 る」

○英断「大～」＝すぐれた決断
[×]断断＝天皇の決断
 ○叡知・叡智＝宇宙の本体である理性
 英知「～に輝く目」
 英智「叡智→英知」
 ○得手「～に帆を揚げる」
 えて・得手「～して」
 ○得る「知識を～」
 獲る・得る「味方を～」
 ○焰「火～」
 炎「青白～／赤色～／皮膚～／脳膜
 ～」〔焰→炎〕
 ○掩蓋「～貨車」
 円蓋「あの～の建物は体育館だ」
 ○衍義「憲法～」
 演義「三国志～」
 ○掩護「～射撃」
 援護「学徒～会／～の手をさしのべ
 る」〔掩護→援護〕
 ○円板「半径10センチの～」
 円盤「～投げ／空とぶ～」
 ○鉛版
 鉛板「亜～」
 (オ)
 ○王公「～貴族」
 王侯「～将相」
 ○王子「～さまとお姫さま」
 皇子「××天皇の第二～として」
 ○王女＝内親王でない皇族女子
 皇女＝内親王
 ○応召「～して海軍にはいる」
 応招「医師の～義務」
 ○大判「～のわら半紙／～小判」
 大番・大判＝おおぶりのこと
 ○犯す「法を～／婦女を～／神聖を～」
 侵す「住居を～／所有権を～／国境を
 ～」

冒す「危険を～／病を～／雨を～・し
 て決行する」
 ○御上「～の威令」
^{△△}女将「茶店の～／旅館の～」
^{△△}御内儀「長屋の～さん」
 ○置く「女中を～／机の上に～／下宿人
 を～／委員を～／質に～／一軒～・
 いた隣／三日～・いて／ただでは～
 ・かない／聞いて～」
[△]措く「何はさて～・き／恐懼～能はず
 ／この難局を処理する者は、彼を～
 ・いてほかにない」
[×]擱く・置く・措く「筆を～／信を～／
 うるさい意見は～・いてもらおう／
 ～・きゃあがれ」
 ○送る「荷物を～／バンドで～／春を～
 ／なきがらを墓に～／日を～／活用
 語尾を～／友を見～」
 贈る「プレゼントを～／弔慰金を～／
 正三位を～」
 送る・贈る「祝電を～」
 ○起こす「事故を～／ペルで～／倒れた
 木を～／畑を～／訴訟を～／文章を
 ～／版を～／電気を～／腹痛を～／
 やけを～」
 興す「国を～／勇気を～・して困難に
 当たる」
 ○起こる「支障が～／事件が～／道心が
 ～」
 興る「国が～」
[×]熾る「炭火が～」
 怒る「赤くなって～／父に～・られ
 た」
 ○奢る「口が～・っている／うなどんを
 ～・ろうか」
[×]驕る・傲る「～平家は久しからず」
 ○治まる「国内が～」

納まる・収まる「税が～／3ページで
 ～／元の鞘に～／品物が～／腹の虫
 が～・まらない／重役に～」
 収まる・治まる「気持が～／混乱が～
 ／争いが～／苦しみが～」
 修まる「身持ちが～」
 ○治める「国を～／水を～／病を～」
 納める「税金を～／元の鞘に～／得意
 先に～／月謝を～」
 収める・治める「混乱を～／事件を～
 ／心を～」
 修める「身を～／行ないを～／古今の
 学を～」
 納める・収める「胸に～／蔵を～」
 収める「成功を～／利益を～／効果を
 ～／粗品ですがお～・め下さい／兵
 を～」
 ○小父[△]「となりの～さん」
 伯父[△]
 叔父[△]
 ○押す「とびらを～・してあける／～・
 しも～・されもせぬ／はんこを～／
 念を～／駄目を～／病を～・して／
 ～・し入る／～・し黙る」
 推す「議長に～／委員に～／～・して
 知るべし／この事から～と、あれが
 原因に違いない」
 庄す・捺す・押す「新聞紙にはさんで
 花を～／印を～」
 ○小母[△]「となりの～さん」
 伯母[△]
 叔母[△]
 ○面「～を冒して／～も振らず／～をあ
 げる」
 表「～向き／～ざた／～を飾る／～芸
 ／～で遊ぶ／畳～／9回の～」
 ○降り口「電車の～」

[△]下り口・降り口「階段の～」
 ○折り込む「広告を～／ぬいしろを～」
 織り込む「価格に～／情勢の変化を～
 ／予算に～／化繊を～」
 ○折り目「～正しい人／紙の～」
 織り目「～が粗い」
 ○折る「枝を～／色紙を～／三角に～／
 腰を～／我を～／骨を～」
 織る「はたを～／絹を～」
 ○下ろす[△]「縫い上げを～／木が根を～／
 髪を～／枝を～／三枚に～／貯金を
 ～／大根を～／～・したばかりの
 服」
 降ろす「乗客を～」
 卸す「小売店に～」
 下ろす・降ろす[△]「看板を～／あげた手
 を～／錠を～／胸をなで～／人をこ
 き～／山を～風」
 墮す[△]「子供を～」
 ○温情「～主義／～味」
 恩情「～をこうむる／～に報いる」
 ○温和・穏和「～な人柄」＝おだやかな
 こと
 温和「～な気候」＝暖かでおだやかな
 こと
 (力)
 ○課「秘書～／日～」
 科「修身～／法～」
 ○怪異[×]
 魁偉[×]「容貌～」
 ○回顧「～録／～する」
 懷古「～趣味」
 ○戒護「受刑者の～／～課長」
 介護「～を要する」
 ○悔悟「～の情」
 改悟
 ○解散「衆議院の～／6時～／会社の

～」
 ×潰散
 ○外紙＝外国新聞
 外誌＝外国雑誌
 外紙・外誌＝外国週刊新聞など
 ○改心「～する」
 回心「長男の死が～の動機となった」
 ○会心「～のえみ／～作／～のホームラ
 ン」
 快心
 ○改新「大化の～」
 改進「～党」
 ○改正「～法律案／法律の～／運賃の
 ～」
 改制
 ○海藻＝海に産する藻類の総称
 海草＝海中に生じる顕花植物，あまも
 の類
 海草・海藻「～資源／～のり／～灰」
 ○回送・廻送「～車／～郵便物／手紙を
 ～する」
 回漕・海送「～問屋／～船」
 〔廻送→回送〕
 ○階層「～選挙」
 界層
 ○快速「～艇／～列車」
 快足「～をとばしてスチール成功」
 ○解題「名著～」
 開題「法華経～／～供養」
 ○改訂「～版」
 改定「～規則／恩給法～」
 ○回答「照会に対する～」
 解答「模範～」
 ○皆動
 皆働
 ○街道「日光～」
 海道「～まわりのバス／東～」

街道・海道「～すじ」
 ○解任＝任を解く
 改任「顧問の～」
 ○壊廃「田畑の～」
 改廃「法令の～」
 ○外被
 外皮「栗の～をむく」
 ○回復「原状に～する」
 快復「～期」
 ×恢復 〔恢復→回復〕
 ○改変「法案の～／制度の～」
 改編「警察の～／機構の～」
 ○回報「～する」
 会報「定期～」
 ○開放「門戸～／～性結核／～蔽禁／一
 般人にも～する」
 解放「農地～／奴隷～／婦人～運動／
 ～軍」
 ○潰滅
 壊滅 〔潰滅→壊滅〕
 ○回遊「～切符／～券」
 回游「カッオの～」
 ○壊乱「風俗の～」
 ×潰乱 〔潰乱→壊乱〕
 ○乖離「精神～病／～概念」
 解離「熱～／電気～」
 ○返す「金を～／手のひらを～／恩を～
 ／言葉を～／読み～」
 帰す「家に～」
 解す「卵を～」
 ○返る「もとに～／忘れ物が～／あきれ
 ～／冴え～」
 帰る・還る「家に～／古巣に～／～・
 らぬ旅／客が～」
 ×解る 〔卵が～〕
 反る「裾が～」
 ○変える「姿を～／調子を～／荒れ地を

畑に～／ダイヤを～／書き～
 代える・替える・換える・[△]送える「書
 面をもってあいさつに～」
 ○価額「資産の～」
 課額「課税～」
 ○鏡「～かけ／～もち」
[△]鑑・[×]鑒「武人の～」
 ○罹る「伝染病に～」
[△]懸かる「懸賞が～」
 係る・繫る「本件に～訴訟」
 掛かる「仕事に～」
 係る・[△]懸かる「責任が～／ちようちん
 が～／かぎが～／氣に～／わなに～
 ／医者に～／迷惑が～／氣合が～／
 かすみが～／食って～」
 ○鍵「～であける／問題を解く～」
[×]鈎「手～」
 ○家業「～にはげむ」
[×]稼業「文筆～」
 ○書く「本を～」
[△]描く「地図を～／絵を～」
 ○格差「～ををつける／生糸の～」＝価
 格の差、格付けの差
 較差「米価と肥料価格の～／最高と最
 低の～」＝比較した差
 ○各紙＝新聞
 各誌＝雑誌
 ○楽士「～長」
 楽師「能～」
 ○学習「～指導要領」
 学修・学習「～簿」
 ○革新「～勢力／～的」
 革進
 ○画然・[×]劃然
 確然「～としない」　〔[×]劃然→画然〕
 ○確定「～申告／～利付証券／～的」
 画定「境界を～／海洋上の～線」

○格別「雨の日は～、その他は毎日行け
 ／～な味」
 各別「～に」
 ○影「怪しい人～／～も形もない／～が
 うすい／月～」
 陰・[×]蔭・[×]庇「岩の～／～であやつる／
 ～になり日向になり／～の声／お～
 さまで」
 ○馳ける・駆ける・[×]駈ける「庭を～」
 翔ける「大空を～」
 ○掛ける「水を～／3を～／仕事をし～
 ／時間を～／口を～／ブレーキを
 ～」
[×]賭ける「マージャンに金を～」
 掛ける・[△]懸ける「すだれを～／鼻に～
 ／腰を～／かぎを～／二股を～／会
 議に～／命を～」
[△]課ける・掛ける「税金を～／保険を
 ～」
 ○籠「鳥～／～の鳥」
[×]駕籠「～に乗る／早～」
 ○下降「～線をたどる」
 下向
 ○過酷・苛酷「～な条件」
 ○傘「折疊～／から～」
[×]笠「すげ～／みのと～／電燈の～／ま
 つたけの～」
[×]毬「松～」
[×]暈「月の～」
[×]瘡
 ○賢い「～子ども／～やりかた」
[×]畏い「～・きおことば」
 ○加重「～する／～形」
 過重「～な負担」
 過充「資本の～」
 ○過小「～評価／～農経営」←→過大
 過少←→過多

過小・過少「～申告／～見積り」
 ○歌唱「～指導」
 歌[×]誦[×]
 ○滓「～がたまる」
 粕・糟「酒の～／～漬」
 ○科す「刑を～／罰を～／過料を～」
 課す「税を～／義務を～／過怠金を～」
 ○震[×]む「煙で～」
 霰[×]む・震[×]む「目が～」
 ○科する「刑を～」
 課する「税を～／宿題を～」
 ○枷[×]「手～足～」
 総[×]「糸ひと～」
 ○型「うるさ～／木～／鋳～／紙～／大～／新～／ひな～／～にはまる／～を破る／自動車の～」
 形「～見／手～／花～」
 型・形「自由～／足の～がつく／～のごとく／借金の～」
 ○過多「胃酸～」
 夥[×]多[×]
 ○堅・固[△]「～石／～練ペイント」
 硬[△]「～うろこ」
 ○語る「～に落ちる／浪曲を～」
 騙[×]る「他人の名を～」
 ○花壇「庭の～」
 華壇「～の話題」＝華道界
 ○過重「負担が～だ」
 加重「～する」
 ○勝つ「戦いに～／相手に～／塩けが～・った味」
 克[△]つ「誘惑に～／おのれに～」
 ○活[×]「～を入れる／死中に～を求める」
 喝[×]「～をくらわす」
 ○各科「～教授法」
 各課「関係～」

○学科「物理～」＝種類
 学課＝課程
 ○確固・確[×]乎「～不動／～たる決心」
 ○過程「生産～／インフレ～／交渉～」
 課程「職業～／教育～／教科～」
 ○角[△]「～が立つ／～敷地／ひと～の人物／～が取れる」
 門「～出／笑う～には福きたる」
 廉「証拠不十分の～で／病気の～により許す」
 ○鐘「～をつく／～を聞く」
 鉦[×]「～や太鼓でさがす」＝たたきがね
 ○加熱「徐々に～する」
 過熱「モーターの～／出火の原因はストーブの～から／～器」
 ○釜[×]「なべ～／～ゆで／～めし」
 汽[△]罐[△]「船の～たき」
 窯[×]「～元／炭を焼く～／陶器の～」
 竈＝かまど
 ○科目「選択～／試験～／勘定～／予算～／議決～」
 課目「許可～／決定～／必修～／得意な～」
 ○空[△]「～つゆ／家が～になる／～の箱／～いばり」
 穀[×]「もみの～／落花生の～／雑穀の～／貝の～／へびの～／もぬけの～」
 豆[△]滓[△]・雪[△]花[△]菜[△]「～ずし」
 ○辛い「さんしょはびりりと～／～酒／点[×]が～／～・くものがれた」
 鹹[×]い「～水」
 ○枯[×]らす「植木を～」
 涸[×]らす「池を～」
 哽[×]らす「声を～」
 ○空手「～で訪問する／～部」＝スポーツ
 唐[△]手[△]＝武術

[△]空手・[△]唐手「～チョップ」
 ○仮住居
 借り住居
 ○科料＝軽微な犯罪に対する刑事罰で判決によるもの
 過料＝証人の不出頭や証言拒否などに
 対する行政罰で決定によるもの
 ○佳麗「後宮の～三千人／風光～なる地」
 華麗「～なる円舞曲／～な舞い姿」
 ○[×]滴れる「水が～／川が～／池が～」
 [×]枯れる「木が～／～・れた芸／人間が～」
 [×]吸れる「声が～」
 ○皮「～算用／化けの～／ふとんの～／面の～が厚い」
 革「～靴／～製品」
 ○[△]乾く「洗濯物が～」
 [△]渴く「のどが～」
 ○[△]交わす「握手を～／契約を～／話を～／枝を～」
 [×]繰す「身を～／体を～」
 ○変わる「声が～／演題が～／年が～／～・った話／～・った人」
 代わる・替わる「大臣が～／一同に～・って私から申し上げます」
 ○観「…の～を呈する／別人の～」
 感「～に打たれる／きつねにつままれた～がある／時期尚早の～を深くする／劣等～／先入～／隔世の～」
 ○勘「～がいい／～で処理する／～にたよる／～がにぶい／～でわかる」
 [×]疳「～が強い／～の虫」
 [×]癩「～にさわる／～性」
 ○官「～民／～側／～を辞する」
 監「通商～」
 ○環「～太平洋地震帯」

[×]鑑「たんすの～」
 ○簡閲「～点呼」
 観閲「～式」
 ○観護「～の措置／少年～所」
 監護「未成年者の～／精神病者の～／～処分」
 ○監査「会計～」
 鑑査「無～で出品する」
 ○監察「行政～／郵政～官」
 観察「保護～処分／少年～事務／～眼」
 ○監視「断続～／～船／～艇／～哨／～所」
 看視
 ○幹事「審議会等の～／～役／～長」
 監事「協同組合～」
 ○看守「刑務所の～」
 監守「狎場～」
 管主
 ○鑑賞「音楽～」
 観賞「～鶏／～用植物／～魚」
 鑑賞・観賞「映画～」
 ○干涉「内政～／選挙～／～計」
 関渉「内・外地～」
 ○岩漿[×]＝地殻内に存在する物質が、高温のため溶解して液状になったもの
 岩床＝岩漿が地層の間に入りこんで蓆状に広がって固結したもの
 ○[×]歓心・甘心「～をかう」
 ○喚声[×]
 [×]喊声・[×]欲声「～をあげる」
 ○乾性「～油」
 乾生「～系列／～形態／～植物」
 ○関税「～引下げ」
 間税「～直税」＝間接税
 ○関節「～炎」
 間節「～管」

○感想「～文」

親想

○干拓「～地」＝海浜・河沼などを干し

て農耕などに適する陸地にすること

乾拓＝拓本を採るとき、水を使わずに

蠟・墨または乾拓碑を使って摺ること

○関知「～するところではない」

感知「危機を～する／計画を～する」

○管長

官長

貫長・貫頂

○患難

艱難「～汝を玉にす」

○喚問「証人～」

勘問

○簡約「～世界史年表／～六法全書」

簡訳

○関与・干与・関預・干預「国政に～する」

○肝要「～な点をおさえる／注意が～だ」

簡要＝ざっとした要領

○管理「～人／～権／～工場／～局」

監理「地方電波～局／～官／工事～」

○還流「資金の～／中央に～」

環流・還流＝海洋学で、黒潮・メキシコ湾流などの暖流

(キ)

○軌「広～／～道」

揆「百姓一～」

軌・揆「～を一にする」

○気圧「高～／～の谷」

汽圧「～ポンプ」

○基因「所得の～たる資産」

起因「財産に～して取得したる財産」

帰因「結局のところ米政府の基本政策に～してしまう」

○気運「～がもりあがる」

機運「～が熟する」

○機縁「～となって／～をつくる」

奇縁「合縁～」

○貴下「～益々御清栄の段」

貴家「～の御繁栄を祈る」

○機械「工作～／～文明／～水雷／～化／～的に割り切る」

器械「医療～／光学～／～体操」

○機関「～区／～車／～庫／～銃／研究～／～紙」

汽罐・汽関

機関・汽罐・汽関「～土」

○技官「農林～」

技監「建設～」

○機関士

汽罐士＝ボイラーマン

○機関紙＝新聞

機関誌＝雑誌

○棄却「公訴～」

毀却「施設物件を～」

○企業「～形態／～官庁／～合同／～化／～中小～」

起業「～者／～費／～もくろみ書」

○器具「戦闘～／機械～」

機具「農～」

○奇計

詭計「～を用いて」

○伎芸＝歌舞・音曲

技芸＝美術工芸

○気候「～条件／～のよい土地」

季候

○寄航

寄港

寄航・寄港「シンガポールに～のう

え」
 ○帰航・帰港「～の途につく」
 帰港「～式／母港への～が延びる」
 ○機才
 奇才「～縦横」
 鬼才「実業界の～といわれた人」
 ○器材＝器具・材料
 器財＝道具
 機材＝機械類の材料
 ○奇策
 詭策[×]
 ○貴紙＝新聞
 貴誌＝雑誌
 ○生地「洋服の～／～が出る」
 素地[△]＝陶器の下地
 木地「～ぬり」＝漆器の下地
 ○奇術「～師」
 詭術[×]
 ○基準「労働～監督署／労働～法」
 規準
 ○貴書
 奇書「三大～」
 稀書[×]
 ○記章・徽章「帽子の～／議員～／勲章
 ～その他の標章／～帯用」〔徽章[×]
 →記章〕
 ○偽証「～罪」
 偽称「税務署員と～し、詐欺を働く」
 ○生酔
 木酔
 ○祈誓
 祈請
 ○規正「団体等～令」
 規制「スト～法」
 規整「生活を～する」
 ○既成「～線／～宗教／～の事実／～作
 家」

既製「～服／～品」
 ○擬製「～豆腐／～弾」
 偽製
 擬制「～資本」
 ○機船「～底びき網漁業／発動～」
 汽船「～トロール漁業」
 ○毀損[×]「名誉～」
 虧損[×]
 ○気体「～燃料／～温度計」
 気態[×]
 ○綺談[×]
 奇談〔綺談[×]→奇談〕
 ○機知・機智「～に富む」
 奇知・奇智〔機智[×]→機知〕
 ○規定「将来を～する／～液／～残響時
 間」
 規程「～の制定／保安～／給与～／分
 課～」
 ○起点「近代の～」＝物事の始まる点
 ー→終点
 基点＝距離を測るもとになる点，基準
 点[×]
 ○饋電[×]「～線／～室」
 起電「～器／～力」
 ○規範「行為の～／道德の～」
 軌範「文章の～」
 基範
 ○氣品「～がある」
 氣稟[×]
 ○詭弁・詭辨[×]「～を弄する」
 奇弁
 ○奇謀[×]
 詭謀[×]
 ○黄味「～をおびた緑」＝黄色味
 黄味・黄身「卵の～」
 ○球技
 球戯「～室」

○救済「～する／～規定」
 救災
 ○急転回「～させる」
 急展開「政局の～」
 ○吸入「～薬／～器」
 吸入「～薬」
 ○朽廃「～した」
 朽敗
 ○急迫「～化／～の危害／～不正の侵害
 ／～時の特例／時局の～／～した事
 態」
 窮迫「～した農村／財政の～」
 ○究明「理論的に～する」
 糾明・糺明「背後関係を～する／責任
 の所在を～する」〔糺明→糾明〕
 ○胸郭「～手術／～成形術」
 胸膈
 胸廓
 ○驚喜
 狂喜「～乱舞」
 ○恐々「～謹言」
 兢々「戦々～」
 恂々「人心～」
 ○共合「～行為」
 協合
 ○競走「徒～／～馬」
 競争「～入札／～試験／～心／生産
 ～」
 ○狂騒「～のちまた」
 狂躁
 ○協同「～組合／～歩調／～一致／～
 体」
 共同「～宣言／～正犯／～施設／～社
 会／～戦線／～体／～謀議」
 ○競売「～人／～で買う」
 競買
 ○強迫「～観念」

脅迫「～状」
 ○狂暴・凶暴・兇暴「～な／～性」
 〔兇暴→凶暴〕
 強暴
 ○共用「～電話／～林野」
 供用「～官」
 ○共和「～国／～党／～政体」
 協和「～交易／～音」
 ○極限「～に達する／～値」
 局限「問題を～する」
 ○極少
 極小「～版／～本／～値」
 ○規律・紀律「～正しい生活」
 ○切る「トランプを～／期限を～／縁を
 ～／水けを～／日を～／みえを～」
 斬る「人を～」
 斬る・切る「木を～」
 ○木綿
 生綿
 ○欣快「～の至り」
 欣懷
 ○吟誦
 吟嘯
 吟唱〔吟誦→吟唱〕
 ○均齊・均整「～のとれた」
 均齊・均勢「～を破る／～を保つ」
 ○謹選
 謹撰「歌集を～する」
 ○禁漁「～水域」
 禁猟「鳥類～区域」
 (ク)
 ○苦汁「～を喫する／～をなめる」
 苦渋「～に満ちた」
 ○下す「判決を～／腹を～／手を～」
 降す「敵軍を～」
 下す・降す「官等を～」
 ○件「この～がわからない」

下り「～列車／東～／～坂／～腹」
 一→のぼり
 △
 行「三～半」
 ○下る「坂を～／野に～／死者は10人を
 ～・らない／腹が～」
 △
 降る「敵の軍門に～」
 ○靴「スケート～／婦人～」
 △
 沓「木～／わら～」
 ○究竟^{△×}
 屈強・究竟「～の若者」
 ○汲む「事情を～」
 ×
 酌む「酒を～」
 ○郡「北多摩～／～下一せい検査」
 群「自由国家～／失業者～／～をなす
 ／～をぬく」
 ○訓育「～する」
 薫育「御～のたまもの」
 ○訓示・訓辞「一場の～を垂れる／～訓
 話の類」
 ○群衆「～整理に出動／～の中からさけ
 び声上がる／～にまぎれる」
 群集「盛り場に～する／～心理」
 ○群棲・群生[×]「猿が～している」
 群生「～林／高山に～する植物」
 (ケ)
 ○輕課「不当に～する」
 輕科
 ○溪間[×]＝谷間
 溪澗[×]＝谷川
 ○惘眼・慧眼[×]「～にも見抜く」
 ○慧悟[×]
 警悟
 ○形式「～的／～論／～ばる」
 型式「飛行機・自動車・機械の～証
 明」
 ○景勝「～地」
 形勝

○輕症
 輕傷「重～20名／全治5日の～」
 ○掲上「鉄道予定線に～する」
 計上「予算に～する／～額」
 ○係争・繫争[×]「～事件／～物」〔繫争[×]
 →係争〕
 ○係属・繫属[×]「訴訟～／～中の事件」
 〔繫属→係属〕
 ○形態・形体「企業～／～分類」
 形態＝心理学でゲシュタルト
 ○敬弔「～のまこと／～の意を表わす」
 慶弔「～慶祝電報」
 ○競売「～法」
 競買
 ○啓白[△]
 敬白
 ○計理「～士」
 經理「～課／～内容」
 ○計量「～法／～觀念／～単位／～的」
 計料
 ○激浪＝はげしい波
 △
 逆浪＝さかまく波
 ○外座・下座
 下座「土～」
 ○下種・下衆[△]「～の知恵はあとから／～
 ばる」
 △
 下司「～下郎」
 ○決起・蹶起[×]「～する」〔蹶起→決起〕
 ○決裁「大臣の～／～権」
 決済「ドル～／～方法」
 ○決選「～投票／～にもちこむ」
 決戦「一大～」
 ○弦「～月／上～・下～」
 絃・弦[×]「管～の遊び／詩歌管～／～
 楽」〔絃～弦[×]〕
 ○現級「～同号俸」
 原級「～留置」

○原形「～質／～をとどめない」
 原型・原形「～を復元する」
 ○権限「社長の～で」
 権原「権利および～」
 ○献言
 建言「大臣に～する」
 ○堅固「～な守備陣／～な城／貞操～」
 険固
 ○減産「～を来たす」
 限産＝制限生産
 ○絹糸「人造～」
 繭糸「～腺」
 ○檢視「～官」
 検死・検屍「～に立ち合う」
 ○肩章＝かた章
 懸章「参謀～」
 ○顕彰「～する／～制度」
 顕賞
 ○現存「～利益／～量／化石に見るのみ
 で～しない」
 敝存
 ○見地「の～に立って」
 検地「太閤～」
 見地・検地「御～ください／御～をお
 待ちします」
 ○玄麦→精麦
 原麦
 ○原板「写真の～」
 原版
 ○元物「～より生ずる収益／～の使用の
 対価」
 原物
 ○検分「～した／実地～」
 見分
 見聞「～を広める」
 ○権要「～の地位」
 顕要

○玄理
 原理「パスカルの～」
 ○幻惑・眩惑「投球モーションに～され
 る」
 (コ)
 ○小「～犬／～鳥／～ちんまり／～雨／
 ～耳にはさむ／～利口／～憎らしい
 ／～半刻／～一里」
 子「いい～だ／～を養う／～芋／もと
 も～もない／売り／～振り～」
 仔・子「～犬／～馬」
 ○小犬
 子犬・仔犬「～が産れた」
 ○△越える「1000円を～／人力を～／苦難
 を～」
 越える「山を～／年を～」
 越える・超える「百人を～／人に～／
 現代を～」
 ○豪「～の者」
 剛「柔よく～を制する」
 ○業「～が深い／～をにやす」
 劫
 ○好意「～的／～を寄せる」
 厚意「～を謝す／～に甘える／～を無
 にする」
 ○幸運「～児」
 好運「～児」
 高運「御～を祈る」
 ○高恩・厚恩「御～をいただく」
 ○号音「～で一せいにスタート」＝信号音
 轟音「～とともに爆沈」
 劫火・業火
 ○向学「～心／～の念」
 好学「～の士／～の徒」
 ○好機「～として十分利用する／～をと
 らえる／～を逸する」
 好期

○剛毅「～果[△]断」
 豪毅[△]
 ○豪氣
 剛氣
 ○攻究
 講究
 考究「天文学を～する」
 ○公言「～にもとらず／～してはばから
 ない」
 広言「～をはく」
 高言「自分の力量も考えずに～する」
 ○囂々「喧々／～たる非難」[△]
 嗽々[△]
 ○公告「遺失物の～／競売～」
 廣告「～塔／～放送」
 ○紅熟
 黃熟
 ○厚情「御～」
 好情「～を寄せる」
 交情「～が深い」
 ○高進「物価～」
 高進・充進・昂進「心悸～」[△]
 ○後世「名を～に残す」
 後生「～おそるべし」
 ○更正「～予算／～決定／～登記」
 更生「会社～法／～資金／～保護／悪
 から～する／～品」
 甦生・更生「甦生～更生」[△]
 ○黄葉「～種葉タバコ」
 紅葉
 紅葉・黄葉「～の山／～する」
 ○高欄[△]
 勾欄[△]
 ○強力「富士山の～／～犯」
 剛力・強力「～無双」
 ○勾留「～状／未決～期間／検事～／～
 理由開示公判」

拘留「～刑／～場／30日未満の～」
 ○荒寥「心中～たり」[△]
 荒涼「～たる冬けしき」
 ○五感＝感覺
 五官＝器官
 ○克服「赤字～／危機を～」
 克復「平和を～」
 ○柿・鱗「～板／～ぶき／～落とし」[△]
 ○越す「山を～／冬を～／家を～／それ
 に～．したことはない」
 超す・越す「千人を～人」[△]
 ○答「～をまちがえる」
 応え「歯～がない／手～がある」[△]
 ○答える「問題に～」
 堪える「痛くて～．えられない／持ち
 ～」[△]
 応える・答える「激励に～／期待に
 ～」
 徹える「からだに～／心に～」[△]
 ○国華
 国花「桜は日本の～だ」
 ○国権「～の最高機関／～乱用」
 国憲「国法～」
 ○小手「～をかざす／～先／～しらべ」
 籠手・小手「～がきまる／高手～にし
 ばり上げる」[△]
 ○琴[△]
 箏「そうの～」
 ○言葉「外国の～／～尻／～づかい／～
 を掛ける／～を飾る／～は国の手形
 ／～を濁す」
 詞「～書き」[△]
 詞・言葉「まくら～」[△]
 辞・詞・言葉「祝いの～」[△]
 ○小間「～もの」
 細「～切れ」
 ○孤「真～」[△]

[△]鷹「～かぶり」
 ○御料「～地／～林」
 御寮・御料「～人／～様」
 御寮「花嫁～」
 ○[△]悪い「～顔」
 [△]強い・[△]剛い「～御飯／ワイシャツのの
 りが～」
 ○今期「～国会／～決算」
 今季「～最高記録」＝今シーズン
 ○根源「ここに武道の～がある」
 根元「天地～づくり」
 ○[×]昏迷
 [×]混迷「～する世界情勢」 〔[×]昏迷→[×]混
 迷〕
 (サ)
 ○才「～がある／～人／～におぼれる／
 文～／～知」
 歳「～入～出／凶～・豊～／～末／～
 月」
 才・歳「50～」
 ○罪科「共同謀議に関する～」
 罪過「犯した～をつぐなう」
 ○際会「困難に～する」＝でくわす
 再会「実母との～」＝再び会う
 再開「事業～」＝再びはじめる
 ○採決「討論～」＝議案の可否をきめる
 裁決「～をください／～処分」＝訴願に
 対する決定
 ○最後「～通牒／あの作品が～となった
 ／つかまったら～逃げられない／～
 の努力／～っ屁」＝一番あと
 最期「～をとげる」＝死にぎわ
 最後・最期「船の～を見とどける」
 ○採集「～経済／標本～」
 採収「～率」
 ○最小「～公倍数／～限度／～2乗法」
 ←→最大

最少「～得点」←→最多
 ○祭場「～の準備は整った」
 斎場「青山～」
 ○再生「～ゴム／～紙／～毛／～芽／～
 弾／～の喜び」
 再製「輸入原塩の～／～生糸」
 ○濟世「～救民の道」
 濟生「～会」
 ○在籍「～船舶」
 在庫・在籍「～数」
 ○裁断「～を仰ぐ／洋服の～」
 [×]截断「～機」
 ○[△]魚「焼き～／なま～／～釣り」
 [×]肴「酒の～／～にする」
 ○先「さおの～／～に行く／～を争う／
 この～は海だ／行き～／運賃は～で
 払う／～が思いやられる／3年～に
 完成の予定」
 [△]前「～の国会で／～に述べたように」
 ○詐欺「～罪／～破産の罪／～恐喝常習
 犯／～師」
 詐偽「～投票罪／～その他不正の行
 為」
 ○作為「無～抽出／～犯／～的／～の跡
 がみえる／～をほどこす」
 作意「～があったわけではない」＝た
 くらみ・作品の意図
 ○作詞・作詩「～作曲／～者」
 ○作成「予算を～する／規則の～」＝文
 書など
 作製＝物品、機械など
 ○策定「～する」
 作定「税の～方法」
 ○下げる「頭を～／補欠選手に～／男を
 ～／ぼろを～／膳を～」
 [△]提げる・下げる「手に～」
 ○[△]指し継ぎ＝将棋の用語

刺し継ぎ「～で補強したズボン」
 挿[△]接ぎ
 ○挿物「旗～」
 差し物
 指物[△]「～師」
 ○差す「刀を～／赤みが～／魔が～／い
 やけが～／気が～／潮が～」
 刺す「敵を～／1 墨に～／指に針を～
 ／ぞうきんを～」
 指す「指～／先生に～・される／～・
 し示す／この語の～意味／西を～・
 して行く／杯を～／～手引く手」
 挿[△]す・差す「かんざしを～／右を～・
 し一氣に寄り切る／花を～」
 注[△]す「水を～／口紅を～」
 ○雑感「～を記す」
 雜観「～記事」
 ○捌く「売り～／荷を～／事務を～／手
 網を～／商品を～」
 裁[△]く「訴えを～／けんかを～」
 ○覚[△]ます「眼を～／ねむりを～」
 醒[△]ます「酔を～」
 冷[△]ます「湯を～／興味を～」
 ○覚[△]める「眼が～／迷いが～」
 醒[△]める「酔いが～」
 冷[△]める「情が～／湯が～／百年の恋も
 一時に～」
 褪[△]める「色が～」
 ○莢[△]「豆の～／～えんどう」
 鞘[△]「刀の～／～あて／～をはらう／も
 との～におさまる／利～をかせぐ」
 ○浚[△]う・漉[△]う「川を～／どぶを～」
 攪[△]う「子供を～／人気を～」
 ○障[△]る「病氣に～／氣に～／からだに
 ～」
 触[△]る「手に～／絵に～・ってはいけな
 い／～・らぬ神にたたりなし」

○三審「～制度」
 參審「～制度」
 ○三嘆「一読～」
 三歎[△]
 讀嘆・讀歎・贊嘆 [讀嘆→贊嘆]
 ○山門・三門「輩酒～に……」
 三門「～を修める」
 ○残留・殘溜「～ハイポ／～変形／～鉤
 土」
 殘留「～組と新設校移行組／～者」
 (シ)
 ○塩「～づけ／～焼き／～だら／～があ
 まい」
 潮・汐[△]「～風／～どき／～がさす／～
 をくむ仕事／それを～に席を立つ」
 ○枝折り「～戸」
 葉[△]「～をはさむ」
 ○士氣・志氣「～が沈滞／～高揚」
 ○四季「～咲き」
 四期
 ○時機「～を見て／～をうかがう」
 時期「～尚早／～過早／渡り鳥が来る
 ～になった」
 ○時宜「～に適する／～に従う／～にか
 なう／～をはかる」
 時宜・時儀=時候のあいさつ
 辭宜・辭儀「お～する／～に及ぶ／～
 作法」
 ○布[△]く「法律を～」
 敷く「鉄道を～／ふとんを～／盜賊を
 組み～／亭主を尻に～／道にじゃり
 を～／花が散り～／背水の陣を～／
 名声、天下に～」
 ○事後「～承諾／～供出／事前または
 ～」
 爾後[△]「～著しき変化を認めず」
 ○志向「現象の理論的解明を～する 実

驗」
 指向「～性集漁灯／～性マイク／～性」
 ○資財
 資材「建築～／～置場」
 ○自習「～時間／～する」
 自修「～英文典」
 ○支所「区役所の～」
 支署「税関～」
 ○自署「自筆～／～本／～入文書」
 自書「氏の～した草稿」
 ○字書「干禄～／漢字～」
 辞書「英和～／国語～」
 ○静まる・鎮[△]まる「寝～／～・りかえった林／気が～／心が～／風が～／嵐が～／ほこりが～」
 鎮[△]まる「神～／戦乱が～／内乱が～／痛みが～」
 ○沈める「船を～」
 鎮[△]める「神靈を～／戦乱を～／痛みを～」
 静める・鎮[△]める「気を～／心を～／埃を～／波を～」
 ○時勢・時世「～順応／～におくれる」
 時世「～の要求／御～」
 ○自省「過失を深く～する」
 自制「～心／～力／欲望を～する」
 ○事績
 事蹟[×]・事跡
 ○自説「～をたてる」
 持説・自説「～をまげない」
 ○私撰[×]「～集／～和歌集」
 私選「～弁護人」
 ○自選「～集／～投票」
 自薦「～他薦」
 自撰「～歌集」
 ○重傷「～を負う」

重症「～患者」
 ○受賞「芥川賞～作品」
 授賞「～対象／～式」
 ○酒色「～におぼれる／～にふける」
 酒食「～の饗応」
 ○授精・受精「人工～」
 受精「～卵」
 ○首席「～で卒業／～全権」
 主席「中共～／国民政府～」
 ○首題＝初めの文句
 主題「第一～／～歌」＝主となる題目
 ○出荷・出貨「～数量／～要請／～組合」
 ○出港
 出航
 ○出処「～進退を誤らない」
 出所「～する／～不明の金／～を明らかにする」
 ○出猟
 出漁
 ○首都「～圈／～建設法」＝首府
 主都「九州の～／東北の～」＝大都会
 ○主動「～性を占める／～的」
 主導「～権／～的地位」
 主働「～土庄」
 ○受動「～的／～免疫」
 受働「～土庄」
 ○首脳「～会議／～部」
 主脳
 ○主部「～述部」
 首部「～索引」
 ○授粉「～樹／～作用」
 受粉「自花～」
 ○酒保＝もと軍隊での日用品飲食物などの販売店
 酒舗＝酒を売る店
 ○需要「商品の～と供給」

需用「～費／～電力」
 需要・需用「～者／～増／～量」
 ○種類「～別」
 主類「～表」
 ○進「…に～じて／～内地米／～加盟
 国」
 准「～看護婦／～将／～尉」
 ○純化・醇化「青少年の環境を～する運
 動」
 ○春季「～皇霊祭／～修学旅行」
 春期「～闘争／～株主総会」
 ○巡検「地質の～」
 巡見「～巡路」
 ○巡回「車北地方御～」
 順向「～抑制」
 順行「音韻の～同化作用」
 ○純正・醇正「～調／～数学／～率オル
 ガン／～中立」
 ○潤性「～土」
 潤製「～はみがき」
 ○遵法・順法「～精神／～運動／～闘
 争」
 ○純良・醇良「～バター」
 ○巡路＝巡回路
 順路「～をふんでおかないと……」
 巡路・順路「庭内観覧～」
 ○署「警察～／監督～／税務～／営林～
 ／消防～」
 所「研究～／観測～／測候～／事務～
 ／営業～／保健～」
 ○使用「～者／～計画／～人」
 施用「石灰の～／肥料の～／麻薬を
 ～」
 ○小「大は～をかねる／～範囲／～学校
 ／～数」
 少「～量／～数の地点」
 ○笙[×]＝雅楽に用いる管楽器の一

簾[×]
 鉦[×]＝たたきがね
 鐘「梵～／半～」
 ○畳[×]
 帖「半紙3～／のり2～」
 帖・畳「6～敷き／8～間」
 ○小額「～紙幣／～公債」
 少額「～投資家／～所得者／予想より
 ～だ」
 ○城郭・城廓「～を構える／～をめぐら
 す」
 城閣「～建築」
 ○召喚「～状／～命令／裁判所に～」
 召還「～権／本国に～／大使を～す
 る」
 招喚
 ○常軌「～を逸した」
 常規[×]
 ○情誼・情宜「～に厚い」
 情義「～を欠く」〔情誼→情義〕
 ○償却「減価～／～残額／～年限／～方
 法／～計画／～資産」
 消却「株式の～／公債の～／買入れ～
 ／借金の～／～炉」
 銷却[×]〔銷却→消却〕
 ○状況「～聴取／～判断」
 常況「心神喪失の～」
 情況「～証拠」
 ○情景「心をうつ～」
 場景「喜劇のような～」
 ○頌詞[×]＝めでたいことば
 頌詩[×]＝めでたい詩
 賞詩＝はめる詩
 賞詞＝はめることば
 ○召集「～令状／国会～」
 招集「会議を～する」
 ○定住→テイジュ一

常住「～不断／～考えている事～／～
 坐臥」
 ○上々「～吉」
 上乘・上々「～のでき」
 ○上進・上伸「相場が～」
 ○上水「～道／～下水施設／神田～／玉
 川～」
 浄水「～場／～タンク」
 ○小数「～点／～部分」
 少数「～意見／～派／～民族」←→多
 数
 ○賞する「ここに、これを～」
 称する・賞する「拍手で健闘を～」
 称する「後世にその徳を～／威臨丸と
 ～船」
 ○定石＝囲碁
 定跡＝将棋
 ○状態「～方程式／混乱～」
 情態「～の副詞」
 ○召致「陸軍大臣が師団長を～する」
 招致「オリンピック～」
 ○招電「～を発する」
 召電「本国からの～を受けて大使が帰
 国した」
 ○焦土「～戦術／国土の～化／空襲で～
 と化する」
 焼土「～を入れる」
 ○唱道「世界平和を～する」
 唱導「師の～によって入信」
 ○聳動「耳目を～させる」
 衝動「～的／～にかられる」
 ○上人＝1. 僧位の名 2. 僧侶の敬称
 聖人＝高僧の尊称
 上人・聖人「お～様／日蓮～」
 ○称美・賞美「上品な色合いを～する」
 賞美
 ○牆壁

障壁〔牆壁→障壁〕
 ○小編・小篇
 掌編・掌篇
 ○定宿・常宿「京都には～がある」
 ○賞揚・称揚・奨揚「りっぱな態度を～
 する」
 ○常用「～漢字／～対数」
 常傭・常用「～労働者／～求職者」
 ○将来「～性／～大人物になる男だ／唐
 から～した宝物」
 招来「この世に極楽を～する」
 ○条理「～整然／～法／～違反／～が立
 たない言い分」
 情理「～を尽くして説く」
 常理
 ○少量←→多量
 小量←→大量
 ○条令
 条例「都～」
 ○食事「～時間」
 食餌・食事「～療法」
 ○食料「低カロリー～／航空～／～品
 店」
 食糧「～自給／輸入～／～増産／～管
 理法／～需給計画／～年度／～事
 情」
 食料・食糧「～品」
 ○諸公「大臣～」
 諸侯「三百～」
 ○初志「～を貫徹する」
 所思「～あって閉門蟄居」
 ○諸子「官僚～／生徒～／～均分相続／
 ～百家」
 諸氏「源氏の流れをくむ～／先学～」
 諸士
 諸姉
 ○書誌「～分類法／～学」

書史
 ○序詞
 序詩
 ○助辞＝助詞・助動詞など
 助字＝漢文などで使う
 ○諸所・諸処「～方々」
 所々・処々
 ○如上「～の前提に立てば」
 叙上「～の如く」
 ○書する
 署する「社名・社印を～・した上」
 ○除する「総数をうで～」
 叙する「功一級に～」
 ○下履[△]き「～にはきかえる」←上履[△]き
 下穿[△]き「～類」
 ○実情・実状「～を述べる」
 ○実績「従来の～／～課税／～平均／～
 単価／～展示圖」
 実績「犯罪の～」
 ○実体「～を備える／～規定／～的效果
 ／～がない政治／～鏡」
 実態「～調査」
 ○実働
 実働
 実働・実働「～時間」
 ○辞典「英和～」
 字典「漢字～」
 事典「百科～」
 ○使途
 支途・使途「～不明の金額」＝つかい
 みち
 ○自動「～車／～的／～焦点／～式／～
 組織／～交換機／～織機／～制御／
 ～電話」
 自働
 ○品「～いたみ／～薄／所変われば～変
 わる／～が悪いペン」

△科「～を作る」
 ○自任「…をもって～する／天才を～し
 ている」
 自認「過失を～する」
 ○支払
 仕払
 ○師範「剣術の～／～学校／～代」
 示範「氏の行為は、よき～となるもの
 だ」
 ○紫斑[△]・紫斑[△]「～病／～熱／～性天然
 痘」
 紫癍[△]
 ○試筆・始筆「万年筆の～／今年の～と
 して」
 ○指標「経済～」
 視標
 示標
 ○試補「司法官～」
 士補「1等警察～」
 ○仕方
 仕法「～書」
 ○仕舞＝能楽
 終い・仕舞「お～／～湯／店～」
 ○染[△]み「～つき／インクの～／～ぬき」
 肝斑[△]「～とそばかす」
 ○凍[△]る「傷口に～」
 染[△]みる・滲る「味が～／紙にインクが
 ～／薬が～／身に～」
 ○示す「方向を～／模範を～／誠意を
 ～」
 謀[△]す「～・し合うす」
 ○締める「帯を～／ボルトで～／社員を
 ～／店を～／家計を～／帳簿を～」
 絞める・締める「ひもで首を～／鶏を
 ～」
 閉[△]める
 ○諮問「～委員会／～機関／～事項」

試問「口頭～」
○社「たまご会～中の人々／～長／村
～」
舎「寄宿～／宿～／～弟／精巧～」
○斜影「～に立つ」
斜映
○杓る「おたまじゃくしを～」
「歳る「～・りあげる」
○邪見
邪険・邪慥「～にする」
○趣意「御～／～書」
主意「質問～書／～主義／～説／～
的」
○主位「～概念」
首位「～打者／～を占める／～をゆず
る」
○周「円～／1～忌／70～年／～50メー
トル」
週「～給／～末／～休／5月の第1
～」
周・週「3～する」
○集荷「～手数量／～配給／～計画／～
資金／～経路」
集貨「～配達」
○重加「負担～／職責が～」
重課「税の～」
重科「刑の～」
重荷
○修学「～旅行」
習学
○秋季「～皇霊祭／～運動会」
秋期「～株主総会」
○修業「～年限／～証書」
習業「～契約」
修行→シュギョー
○終局「討論は～／～的／～裁判／～ひ
ずみ」

終曲「鎮魂曲の～」
終極「～の目的」
○終結「～式／仮説と～」
終決
○舟行
舟航「～の便」
○修好・修交・脩交「～条約」
○收取「果実の～」
集取「証憑の～／種苗の～／農業の
～」
○収集・蒐集「資料の～／情報を～する
／～整理／切手～／～癖」
[×]聚集「凶徒～の罪」
○従順・柔順「～な性格／～な生徒」
○修整「写真の～」
修正「～案／～意見／～資本主義」
○集成「現代名歌～」
修成「記念事業の～」
○収束「インフレを～する／～円／～半
径／事態を～する」
集束「～レンズ」
終熄・終息「動乱～／インフレが～し
た／～段階」
○充足「欲望の～」
[×]充塞
○周知「～の事実／～の通り／～徹底さ
せる」
衆知・衆智「～を集める」
○集中「～的／～排除法／～審理／～資
本主義／～する／～荷重」
集注「～する」
○姑=[×]しゅうとめ
[×]舅
○拾得「遺失物～／～物」
取得「～罪／偽造通貨～／～税」
修得「単位～／訓練を～する」
○収用「土地の～／～補償」

収容「～所／～人員／～施設」
 ○修了「全課程を～する／1 学年～証書」
 終了「任務を～する／刑期～」
 ○修練・修鍊「心身の～」
 習練「水泳の～」
 ○収録「録画・録音の～」
 集録「遺稿の～」
 ○主管「～官庁／～省／～局／～大臣」
 主幹「論説～」
 主監
 ○修行「～僧／武者～」
 修業→シュエギョー
 ○宿志・夙志「～を果たす」
 ○肅清「スターリンの～／血の～／反対派の～」
 肅正「綱紀～／選挙～」
 ○受検「製品の～証明」＝検査を受ける
 受験「大学～生」＝試験を受ける
 ○主語「～述語」
 首語「～記入」
 ○主催「本社～／～団体／～責任者」
 主宰「閣議を～／聴聞会を～」
 主祭
 主裁
 ○趣旨「～弁明」
 主旨・趣旨
 ○首唱＝まっさきとなえはじめる
 主唱＝中心となつてとなえる
 ○主将「～とマネージャー」
 首将
 ○食糧「～庁」
 食料「生鮮～」
 ○助勢「～にかけつける」
 助成「～金／～措置」
 ○所帯「～道具／～をもつ／ひとり～／女～／～やつれ／～じみる」

△世帯・所帯「～主／～数」
 ○所長「刑務～／営業～／保健所の～」
 署長「消防～／税務～／警察～」
 ○触感「鋭敏な～」
 触官「～でえさを求める」
 ○職工
 織工「紡績～」
 ○所用「～のため欠勤／～で外出する」
 所要「～時間／～経費／～の条件」
 ○尻「～馬／～に敷く／～が重い／～がすわる／～が長い／～に火がつく／～をぬぐう／～が来る」
 △後・尻「行列の～につく」
 ○資料「情報～／調査～」
 史料「大日本～／維新～」
 ○首・首級「～をあげる／お～／み～」
 △驗・徴「～が現われる／雪は豊年の～」
 印・標「～をつける／ほんの～ばかり」
 △記す「帳面に名を～／心に～」
 印す・標す「目じるしを～」
 ○知るべ「～をたよって就職する」
 △標「道～／地図を～に進む」
 ○指令「スト～／給電～部」
 司令「～官／軍～部／～塔」
 ○白身「～の魚」
 白味「～がかった色」
 白味・白身「卵の～」
 ○親愛「～なる諸君／～の情」
 信愛「～をこめて」
 ○真意「～を悟る」
 深意
 ○侵害「～行為／権利の～／領海～／人権～」
 浸害
 ○震翰

親[×]翰
 ○心機「～一転」
 心氣「～転倒」
 心[×]悸「～亢進」
 辛氣「～くさい」
 ○新規「～に／～採用／～需要／～の手
 続／～まき直し」
 新奇「～な／～を追う」
 ○真偽「～を確かめる」
 真疑
 信偽
 ○進撃「優勝に向かって～／快～」
 侵撃
 ○進攻・侵攻「共産軍の～に備えて／大
 陸～の作戦」
 ○新鉞
 新坑
 ○親交「～がある／～を結ぶ」
 深交
 親好
 ○親告「～罪」
 申告「～納税／～書」
 ○心魂・心根「～をかたむける」
 ○審査「委員会の～／～会／～官」
 診査「保険の～／無～加入／～協
 議
 会」
 ○診察「～室」
 審察
 ○辛酸「～をなめる」
 辛慘
 ○新史
 新誌「東京～」
 ○信実
 真実「～味が乏しい話」
 ○進出「企業の～」
 侵出「軍隊の～」
 浸出

滲[×]出「～性結核／～性体質」
 ○親書「国王の～」
 信書「～の秘密」
 親書・信書「政府首班への～」
 ○心証「よい～を与える／～を悪くする
 ／～を害する」
 心象「～のバリ」
 ○真情「～を吐露する」
 心情「従業員の～／～に思い至ると
 き」
 心状
 ○浸[×]蝕・浸食「～防止／～溪」
 侵[×]蝕・侵食「国境を～する」〔侵[×]蝕
 →侵食〕〔浸[×]蝕→浸食〕
 ○心身「～を消耗する」
 心神「～喪失／～耗弱」
 身心・心身「～を清める」
 ○深々「～と夜はふける」
 森々「～たる密林」
 △津々「興味～」
 ○審[×]尋「～期日」
 審[×]訊
 ○心髓「問題の～に触れる」
 真髓・神髓「東洋芸術の～」
 ○人世「～百般に通じる」
 人生「～観／～行路／～50／～をはか
 なむ」
 ○真性「～天然痘／～紫斑性痘瘡／～特
 異点」
 真正「～相続人／～果実／～染色質」
 ○新選「～流行歌集／～単語集」
 新[×]撰「～組／～万葉集」
 ○新装「～書」
 新[△]粧・新装「～を凝らす／～開店」
 ○心底・真底「～から協力する気はな
 い」
 ○申達「～書」

進達「上申書の～／申請書の～」
 ○伸張「民意の～／輸出の～／～性／～卓子」
 伸長・伸[×]暢〔伸[×]暢→伸長〕
 ○深長「意味～な笑い」
 慎重「～に審議／～を期する」
 深重
 ○新定
 新訂
 ○進展「地方自治の～／情勢の～」
 伸展「貿易の～」
 進転
 ○進度「工事の～／～が早い」
 伸度「レールの～」＝伸長度
 ○振動「ふりこの～／速力計が小きざみに～する」
 震動「地震の～／火山～／微気圧～」
 ○人頭「～税／～割」
 人当「～庁費」
 ○侵入「～船／伝染病の～」＝他の領分をおかす
 浸入「濁流が～する」＝水がはいる
 進入「電車が駅に～する／～列車」
 滲[×]入
 ○親任「～官」
 信任「～状／～投票／不～案／～が厚い」
 信認
 ○真筆「～偽筆／家康～の書状」
 親筆
 宸[×]筆「明治天皇の御～」
 ○振幅「グラフの～／株価の～」
 震幅「地震の～」
 ○信服・信伏
 心服「彼には部下が～している」
 ○心命
 身命「～を擲って国事に奔走する」

○新約「～聖書」
 新訳「カントの～書」
 ○神靈「御～」
 心靈「～現象／～術」
 ○進路「～をはばむ／台風の～に当たる／～を見いだす」
 針路「船の～」
 進路・針路「日本の～／～を西にとる」
 ○心労「～の余り」
 辛勞「～辛苦」
 (ス)
 ○巢「～くう／鳥の～箱」
 鬆[×]「～が通る」
 ○水源地「～の森林伐採／～をたずねる」
 水源池「～の湯水」
 ○推奨「～する／～照度／～株」
 推賞・推称
 推賞
 ○水棲[×]「～動物」
 水生「～植物／～の／～シダ」
 ○水成「～岩」
 水性「～ガス／～塗料」
 ○水草「～の豊かな土地」＝水と草
 水藻・水草＝みずくさ
 ○趨[×]向性
 趨[×]光性
 ○図会「江戸名所～」
 図絵
 ○透き・隙[×]「～間／～を与える／割り込む～もない／仕事の～を見て／監視の～」
 △空[△]き「～腹」
 ○空[△]く「腹が～／電車が～／戸と柱の間が～／手が～」
 透く「外が～・いて見える」

○[×]梳く「紙を～」
 ○[×]鋤く「畑を～」
 ○[×]漉く「紙を～／海苔を～」
 ○[×]濯ぐ「洗濯物を～」
 ○[×]漱ぐ「口を～」
 ○澄ます「刀をとぎ～／心を～／耳(目)
 を～／巡査になり～／～・している」
 △清ます・澄ます「都市の河川を～」
 ○墨「～をする／朱～／～が薄い」
 炭「～俵～／～焼き」
 ○[×]掏る・[△]掏摸る「さいふを～」
 刷る「プリントを～」
 ○[×]磨る・[△]摩る「墨を～／ごまを～」
 ○[×]剃る「ひげを～」→そる
 △擦る「手を～・り合わせる」
 (セ)
 ○背「～の君／～に腹はかえられぬ／山
 を～にして立つ」
 背・脊「～を向ける／～に負う」
 背・丈「～のたけ／～が高い」
 ○成育「稚魚の～場」＝動物
 生育「稲の～期間」＝植物
 ○清栄・盛栄「御～の段」
 ○[×]凄艶「彼女の美しさは一種～な感じで
 あった」
 ○[×]清婉・[×]清艶「～な美女」
 ○正科「～の体育」
 正課「～課外」
 ○正確・精確「～保持／～性／～度／～
 さ」
 ○成規・正規「～の手続／～の用紙」
 正規「～軍／～労働時間／～酒類／～
 の割当／～の予算／～の業者／～に
 利用／～出入国」
 制規「～の服装」
 ○生氣「～はつらつ／～説／～を取りも
 どす」

精気「～が切れる」
 ○正教「ギリシャ～／～会」
 清教「～徒」
 聖教
 西教
 ○整形・整型「～外科手術／～式公園」
 成形・成型「胸郭～手術／～合板」
 ○性向「消費～／雇用～／貯蓄～」
 性行
 ○精根「～尽きて」
 精魂「～を傾けて／～を込めた仕事」
 ○生彩「～を放つ／～を欠く」
 精彩「～がない」
 ○製作「～所」＝器具などの製作
 制作「卒業～」＝絵などの制作
 ○生産・製産「～工程／～原価」
 生産「～性向上／～地／米の～／～
 的」
 ○精算「運賃～所／概算払いの～／～支
 給」＝運賃などの精算
 清算「～取引／～勘定／～法人／三角
 関係の～」＝きまりをつけること
 ○政治「～結社／～資金規正法／～性／
 ～犯／～家／～的」
 政事「～は狂奔する」
 ○正式「～裁判／～招請状／～に」
 制式
 ○成熟「～卵」
 精熟
 生熟
 ○清祥・清勝「貴下ますます御～の段」
 ○性情「～をためる」
 性状「鉱物の～」
 ○誠心「～誠意」
 清心
 誠信
 ○清新「文壇に～の気を吹き込む」

生新
 ○制する「過半数を～」
 征する
 ○整然「理路～」
 井然・整然「～たる町並み」
 ○正装「～略装」
 盛装・盛粧「～してお出まし／～をこ
 らす」
 ○棲息「魚類の～」
 栖息
 生息「～場所」〔棲息・栖息→生
 息〕
 ○生態「～学／～分布／植物の～」
 生体「～解剖」
 成体「～幼生」
 ○成長「経済～／動物の～／～期の子
 供」
 生長「植物の～／林木の～量／～の
 家」
 ○清聴「御～を煩わす」
 静聴「御～を感謝します」
 ○製鉄「～用石炭」
 精鉄
 生鉄
 ○青天「～の霹靂／～白日」
 晴天「～十日間」
 ○正統「～政府／～の天子／～的／～
 派」
 正当「～に選挙された代表／～防衛」
 ○製糖「～設備／～業／大日本～」
 精糖「～粗糖／名古屋～／明治～」
 ○盛徳＝さかんな徳
 聖徳＝天子の徳
 ○青年「～団」
 成年「～に達する／～式／～の日」
 盛年「～再び来たらず」
 青年・成年「～学級」

○成否「修正案の～／～を問わない」
 正否「事の～を見定める」
 ○正文「～電報・暗号電報／～で打電す
 る」
 成文「～化／～解釈／～法／～化を急
 ぐ」
 ○成分「文の～／温泉の～」
 精分「～をとり出す」
 ○声望「～が高い／～を得る」
 勢望
 ○制帽「制服～」
 正帽
 ○盛名「～をはせる」
 声名
 ○清夜「～の思い」
 聖夜
 ○誓約「～する／～書」
 成約「～を見た」
 ○製油「～業／～所／～能力」
 精油「～タンク」
 ○政令「～案／～違反／～審査委員会」
 制令
 ○精霊「先祖の～を迎える」
 聖霊「～降臨祭」
 生霊
 ○製錬「～事業所／～銅／～能力／～
 液」
 精錬
 精練
 製練
 ○席「～につく／～を譲る／～の暖まる
 暇もない／首～／第一～」
 籍「～を有する者／～を入れる／大学
 に～をおく／原～／戸～」
 ○積年「～の悪弊／～の願い」
 昔年
 ○施行

施業「～林」
 ○施行「工事の～／～細則／～期日」
 施工「直轄～／～計画／～図／～法」
 ○節季「なまけ者の～働き／～大売出し」
 節気＝陰暦でいう季節の区分
 ○説教「～師／～所／～壇／おやじの～」
 説経「～節」
 ○撰取「文化的遺産を～／栄養の～／外国文化の～」
 接手
 接取
 ○節制「酒・たばこを～する」
 撰生「～につとめる」
 ○絶対「～多数／～値／～温度／～権／～者／～主義／～量／～にそうじゃない」
 絶体「～絶命」
 ○説伏・説服「反対派を～する」
 折伏「敵を～する」
 ○攻める「敵を～」
 責める「怠慢を～／子に～・められて買う」
 ○競る「～・り合う／～・り負ける／～・りおとす」
 鞫る「いなかを～・って歩く」
 ○選「～を異にする／～に入る」
 撰
 ○戦火「～を交える／～に焼かれる／～に蹂躪される」
 戦禍「～をこうむる」
 戦渦「～にまきこまれる」
 ○専科「～教員」
 選科「法科大学～」
 ○全科「～担任教育制度／～書」
 全課「～をあげて／営業部の～の反対

をおしきる」
 ○全壊「～半壊」
 全潰「全潰→全壊」
 ○戦機「～が熟す」
 戦期
 ○詮議「～する／～がきびしい」
 僉議
 ○占拠「反乱軍が放送局を～する」
 占居「～の跡」
 ○千金「値～／一刻～」
 千鈞「～の重み」
 ○専権「～事項」
 擅権「のふるまい」
 ○千歳「～の後／～楽」
 千載「～不磨／～一遇の好機をのがさない」
 ○穿鑿「～穿索・穿索「他人の私生活を～する／書誌を～する」
 詮鑿
 銑鑿
 ○撰者「古今集の～」
 選者「応募作の～」
 ○芟除「～する」
 剪除「竹木の～権」
 ○線状「～集落／～トランセクト」
 線条
 腺状「～の器官」
 ○先端・尖端「時代の～を行く／～的な行動」
 尖端「槍の～」〔尖端→先端〕
 ○先頭「～に立つ／…を～として／～を切る」
 尖頭「～負荷／～時」
 先登
 ○颯風＝暴風を伴う強い熱帯性低気圧
 旋風＝俗にいうつむじ風の規模の大き

なもの

○鮮明「旗幟～／～な色彩」

宣明「中外に～する／政策態度を～する」

○^x闡明

○纖毛「～虫／～盤／～運動」

旋毛「～の人種／～の遺伝性」

○^x腺毛

○占有「～権」＝自分のためにする意志をもって物を所持する

専有「～共有／～物／権利を～する」
＝ひとりで所有する

○専用「自動車～道路／警察～電話／商号～権／～車」＝それだけに、または、それだけを使用する

占用「米軍～地／道路～許可」＝独占して使用する

○^x擅用「～電力／盗用～」

(ソ)

○粗「～密波／～糖」

疎「～開／人口密度が～である」

○^x疏「注～」

○沿う「趣旨に～／希望に～／国策に～／線に～／川に～・って下る」

添う「付き～／連れ～相手」

○[△]副う「期待に～」

○^x噪音「楽音～」

騒音「～防止／～計」

○増加「～恩給／～資金／人口～」

増価「～税／～競売」

○爽快「～な朝の空気」

○^x爽快「～無比」

○総括「～的／～質問／～原価／～保険」

総轄「事務を～する」

○造言「～飛語／～蜚語」

雑言「悪口～」

○走行「～キロ数／～時間／～距離／～クレーン」

走向・走行・層向「鉞脈の～／～断層」＝傾いた地層面と仮説の水平面とが交って作る直線の示す方向→傾斜

○総合・^x綜合・^x湊合「～的／～記入／～開発計画／～化学工業／～課税／～勘案する／～官庁／～市場物価指数／～浮選／～雑誌／～大学」〔^x綜合→総合〕

○^x総社・^x惣社＝数社の祭神を一個所に勧請した神社

宗社＝宗廟と社稷

○創世「～記」

創成

創製「幣店～の菓子」

○早生「～児」

早成

○早々「就任～／～に退散した／夜が明け～から出掛ける」

○^x匆々「～の間」

○^x忽々・草々＝手紙の末にするすあいさつの語

○葬送「～曲」

送葬

○総体「～無理な話だ／～的にみて無難なできだった」

相対「～成長／～誤差／～関係／～賃金／～性／～性原理」

○壮図「～空しく」

○^x壯途「～につく／～を祝う」＝さかんなかどで

○^x掃蕩・^x掃討「～戦」

○装入「炉に～／～箱／～ベラ」

送入「空気～ファン」

○^x雑物・^x臧物「鳥の～」

○騒乱「～事件」

争乱

○疎隔「両者の間を～する」

阻隔

○[△]遡及「～効／不～の原則」

遡求「～権／～金額／～原因／～義務者」

○[△]殺ぐ・[△]削ぐ「竹を～／びんを～／感興を～」

○族「社用～／カナカ～／民～」

属「～僚／～吏／～名／オットセイ科アシカ～」

○即する「事実～／～して」

則する「法に～／～して」

○速成「鉄道～／～同盟／～の運転士／～しょうゆ／～訓練／～堆肥」

促成「～栽培」

即成「～犯」

即製

○即断＝その場で決める

速断＝すばやく決める，軽率に決断する

○即答「～を避ける」

速答

○[△]遡行・[△]遡向「～抑制」（心理学）

遡行「流れにそって右岸を～する／音韻の～同化」

遡航・[△]溯航・[△]遡江・[△]溯江「～船舶」

○注ぐ「海に～／～／ぎ込む／田に水を～／涙を～／注意を～」

[△]雪ぐ「恥を～」

[△]濯ぐ「口を～」

○統開「～する」

統会

○即急「～な用事」

速急

○速効「～性鎮痛剤／～肥料／～遅効」

即功「～紙」

即効「～的／～がある」

○備える「資格を～／侵略に～／台風に～」

備える・[△]具える「道具を～」

供える「仏前に～／おくもつを～」

○素描＝デッサン

粗描＝あらく描写する

○空「～を飛ぶ／～があやしい／若い身～で／うわの～／心も～に／～恐ろしい／～だのみ／～寝／他人の～似」

[△]天・[△]空「～打つ浪」

[△]虚・[△]空「～で言う／全文を～で唱える」

○空泣き「子どもの～」

空鳴き「犬の～」

○尊下「～の御英断をまつ」

尊家「～御一同御清勝の段」

○[△]損亡

損耗「兵力の～／機械の～」

（夕）

○代「～がかわる／お車～／電話～」

台「20～の車／1,000～の数／自転車数～／天文～」

代・台「100円～／50才～／10～の若者」

○代替わり＝身代がわり

台替わり＝経済用語で，数字の「台」がわり

○大観「～する」

大鑑「歴史風俗～」＝書名

○耐久「～度／～試験／～力」

耐朽「～年限」

○体系「～的／～づける／給与～」＝学問の体系

大系「文学～／漢文～」＝書名など

○体型「体操の～に開け／戦闘～」
 体形・体型「魚の～／人種別～表」
 ○対抗「～力を付与／～要件／～措置／
 ～機関／～馬」
 対向「～犯」
 ○題字＝書物の巻頭，絵・碑の上部など
 にしるす文字
 題辭＝書物の巻頭，絵・碑の上部など
 にしるすことば
 ○帯出「禁～の圖書」
 貸出「～期限」
 ○代書「～人」
 代署「本人病臥中につき，～する」
 ○大臣「国務～／～表彰」
 大臣・大尽「お～／～遊び」
 ○体する「意を～／命を～／師の教えを
 ～」
 帯する「刀を～」
 ○体制「政治～／支配～／資本主義～／
 ベルサイユ～」＝組織
 態勢「受け入れ～／即応の～」＝姿勢
 体勢「射撃～」＝身がまえ
 ○対生＝植物の葉が2枚向かい合って茎
 につくこと←→互生
 対性
 ○堆積「～物」
 堆石「氷河地形の～を調べる」
 ○対当「～額」
 対等「～の地位／～に話し合う」
 ○滞納「～額／～処分」
 怠納
 ○待避「～線／港の外に～した／普通列
 車の特急を～する」
 待避・退避「～訓練／～據／～命令／
 ～所」
 ○台風・颱風「～圏／～の発生／～の進
 路」

大風「この日～，家屋の破損せるもの
 あり」〔颱風→台風〕
 ○態様「事変・被監督の～」
 態容「事務・管理の～／犯罪の～」
 ○大漁「～旗／～節」
 大狛
 ○倒す「体を～／立ち木を～／幕府を～
 ／ふみ～／かり～」
 殫す「敵将を～／一刀のもとに～」
 ○倒れる「政府が～／不景気で店が～／
 過労で～」
 仆れる（凶弾に～／・～れて後やむ）
 ○高飛び「～しようとした犯人」
 高跳び・高飛び「棒～」
 ○焚物「ふろの～」
 薰物「～をする／～をたしなむ」
 ○丈「背～／身の～／着物の～」
 たけ「心の～／思いの～」
 ○多元「～的／～論／～環／～方程式／
 ～放送」
 多原「～型」
 ○蛸「～の足／～配／～突き」
 胤「やっこ～／～あげ」
 ○他紙＝新聞
 他誌＝雑誌
 ○尋ねる・訊ねる「受付で～／社長に～
 ／歴史に～／原理を～」
 訪ねる「病人を～／社長を～」
 ○質す「問い～／大臣に～／疑問を～」
 正す「姿勢を～／誤りを～／行ないを
 ～／理非を～／大義名分を～」
 糺す「責任を～／罪を～／疑点を～」
 ○立ち会い「～演説会／～人／～のもと
 に契約する／さあ，お～」
 立ち合い「すもうの～／～の出足」
 ○経つ「10年～／日が～／年月が～」
 立つ「足が～／春～日／ポストが～・

っている／優位に～／市が～／値が
 ～／学問で世に～／店が～・ってゆ
 く／計画が～／目算が～
 発つ・立つ「東京を～／旅に～」
 建つ「家が～」
 ○裁つ「反物を～」
 断つ・絶つ「命を～／酒を～／交わり
 を～／連絡を～／望みを～／退路を
 ～／あとを～」
 ○達見「50年後の発展を見通した～」
 卓見「彼の見解は～である」
 ○脱略＝抜けて落ちること
 奪略
 奪掠「～農業／～婚」〔奪掠→奪略〕
 ○縦「～に書く／～10センチ／～に並
 ぶ」
 竪「～琴／～穴式住居跡」
 徑「～糸・緯糸」
 ○立坪＝土・砂利などの六尺立法の積の
 称←→平坪
 建坪「敷地100坪，～30坪」
 ○建て前「家の～で忙しい」
 建て前・立て前「委員会の～としては
 ／会社の～を無視する」＝方針
 ○建物「土地～」
 立て物「大～」
 ○点てる「茶を～」
 閉てる「雨戸を～」
 建てる「家を～」
 立てる「ついたてを～／ひざを～／使
 者を～／波を～／腹を～／誓いを～
 ／役に～／顔を～／生計を～／兄貴
 分に～／操を～／計画を～」
 ○譬・喩「～に引きずられて推論を誤っ
 た／世間一般の～に漏れない」
 例え「～専門家の意見だとしても」→
 たとい

○店「～子／～おろし／～賃」
 棚「本～／～からぼたもち／～にあげ
 る／ふじ～／大陸～」
 ○多分「～家にいる／～大丈夫だ／～に
 その傾向がある／その危険を～に含
 んでいる／～の出資が得られた」
 他聞「～をはばかり」
 他聞・多聞・多分「御～にもれず」
 ○彈「敵の～に当る」
 球「野球の～」
 玉・球「電燈の～／たまつきの～」
 珠「～さん」
 玉「目～／うどんの～／～垣／上～／
 娘を～にして悪事を働く」
 玉・珠「掌中の～／～にきず／～とあ
 ざむく／～をころがすよう」
 ○試し「～にやってみる／～切り」
 例「～がない出来事」
 ○大夫＝文楽の浄瑠璃語り
 太夫＝チャボ語り
 ○頼り「～ない／～にする／つえを～に
 歩く」
 便り「お～／～がない／風の～にき
 く」
 ○垂らし込む「醋酸を～」
 誑し込む「娘を～」
 ○垂れる「教えを～／模範を～／名を後
 世に～」
 放れる「小便を～」
 ○反「～物／絹1～」
 段・反「5～百姓／畑3～／～当り」
 ○談義「長～」
 談議
 ○探求「秘境を～する」
 探究「真理を～する／美の本質を～す
 る」
 探求・探究「原因の～／人生の意義を

～する」
 ○炭^x鉱「～業／～夫／～都市／～
 地／～地質調査」
 炭坑〔炭^x礦→炭^x鉱〕
 ○端正「～な」
 端整
 ○丹誠「～無二の奉公」
 丹精「～を凝らす／父が～した庭」
 ○短打「～主義／長～のつるべ打ち」
 一→長打
 单打=シングルヒット
 ○湛々「～とした心境」
 潭々^x
 ○嘆美「～のためいきをもらす」
 耽美^x「～派／～主義」
 (チ)
 ○地誌「郷土～」
 地史「～古生物学」
 ○知識「～階級／電気の～がある／～欲
 に燃える／～人」
 智識^x「善～」
 ○治政「～のよろしきを得る」
 治世「～乱世／～20年」
 ○遲滞「～なく届ける」
 遲怠「執務ぶりの～を注意される」
 遲退
 ○嫡子=家督を相続する子
 嫡嗣=正妻の子で、その家をつぐもの
 ○中夏=夏のなかば
 仲夏=陰暦5月の異称
 ○帳・帖「雑記～」
 帳「～づら」
 ○兆「1～円予算」
 兆「伝染病流行の～がみえる／台風発
 生の～」
 徴「～する／意見を～する／～に応ず
 る」

○弔意「～を表わす」
 弔慰「～金」
 ○聴官
 聴感
 ○徴収「税金の～」
 徴集「義勇軍の～」
 ○調整「意見の～／～資金／物価～／～
 池／～号俸／～弁／～措置／～勘定
 ／～按配／～基金／～料」
 調製「選挙人名簿の～／地図の～／台
 帳の～／脱穀～／収穫～機／洋服
 の～」
 ○調定「～診療報酬」
 調停「～裁判／～中立」
 ○徴表
 徴憑^x「犯行の～」
 ○重宝「便利～／皆に～がられる人物／
 ～な道具／～する」
 調法「不～」
 ○直接「～侵略／～選挙／～税／～の原
 因／～行動／～的」
 直截^x「～簡明／～的」
 ○勅撰^x「～集」
 勅選「～議員」
 ○直観「～説／～主義／真理を～する」
 直感「危険を～する／～的にさとり」
 ○著名「～人／～の士」
 著明「～な事実」
 ○珍奇・珍稀「～を好む／～な事件」
 珍貴「～な宝石」
 ○陳状
 陳情「～書／国会に～する」
 (ツ)
 ○遂[△]「～に」
 終[△]「～のすみか／～の別れ」
 ○費える「時間が～」
 潰^xえる「将来の夢は～えた／敵はも

ろくも～・え去った」
 ○追究「真理を～する」
 追求「利潤を～する」
 追及「責任を～する／余罪を～する／責任の～」
 ○追賞＝あとからその功績を賞すること
 追頌[×]＝死後、その功績善行をほめあ
 わすこと
 ○通行「～証／～税／～人／右側～」
 通航「運河の～料」
 ○通好「～条約」
 通交「～条約」
 ○通帳「貯金～／米穀～」
 通牒[×]「～を發する／最後～を手渡す」
 ○束[△]「～の間」
 柄[△]「刀の～」
 ○付き・付き「おしろいの～／～の悪い
 マッチ／保証～／～が悪い／～が回
 ってくる／顔～が悪い／しなやかな
 腰～」
 就[△]き「河川改良計画の件に～／病気に
 ～欠席」
 ○付き物「学者に貧乏は～だ／小児麻痺
 には高熱が～だ」
 憑[×]き物「～が落ちたよう」
 ○突く「目を～／鼻を～におい／風雨を
 ～・いて進む／虚を～／不意を～／
 まりを～／判を～／胸を～急坂／つ
 えを～／ひじを～／手を～・いてあ
 やまる」
 衝[△]く「弱点を～」
 搗[×]く「麦を～／米を～／もちを～」
 吐[△]く「ひと息～／ため息を～／うそを
 ～」
 撞[×]く「鐘を～」
 ○着く「大阪に～／目的地に～／荷物が

～／頭がかもいに～／食卓に～／帰
 途に～」
 付く「ほこりが～／板に～／仕事が手
 に～・かない／根が～／身に～／彼
 は近ごろ～・いている／条件が～／
 役が～／鼻に～／気が～／肉が～／
 火が～／決心が～／かたが～／けり
 が～／値が～／1個100円に～／
 高く～・いた買物」
 就[△]く「床に～／社長の任に～／職に～
 ／先生に～・いて習う／新業に～・
 いての話／荷物1個に～・き20円の
 手数料／～・いては」
 憑[×]く「狐が～」
 付く・就[△]く「へいに～・いて曲がる」
 即[△]く「位に～」
 ○注[△]ぐ「酒を～」
 継ぐ・接ぐ「竿を～／家を～／王位を
 ～／志を～／くつ下の穴を～／骨を
 ～／夜を日に～／炭を～」
 次ぐ「相～／～・いで宴会にはいる／
 地震に～・いで津波が起こった／大
 阪は東京に～大都会だ」
 ○造り・作り「黄金～の太刀／～がしっ
 かりしている／料理屋風の～の家／
 小～の人／お～にひまがかかる／若
 ～／～笑い／たいの生け～」
 旁[×]「篇と～」
 作り「菊～の名人」
 ○作る「すいかを～」
 造る・作る「時計を～／たいをさしみ
 に～／顔を～／菜を～／人間を～／
 子供を～／列を～／笑顔を～」
 ○付ける「しるしを～／出納を～／手に
 職を～／家庭教師を～／条件を～／
 気を～／火を～／電燈を～／かたを
 ～」

着ける・著ける「身に～／席に～／服
を～／車を～」
[△]即ける「帝位に～」
[△]就ける「職に～」
 ○土「異国の～をふむ／よく肥えた～／
異国の～になる／～がつく／～1升
金1升」
[△]地「あめ～のはじめの時」
 ○勤める・務める「会社に～／案内役を
～」
 努める・力める・勉める「安全確保に
～／計画推進に～／完成に～」
[△]端「さしみの～」
[×]棲「～を取る／左～をとる」
[△]旋毛「～曲がり」
[△]旋風「～かぜ／～のようにかけ抜け
る」
 ○積もり「～書き／お～／見～書」
 積もり・心算「そんな～で言ったので
はない／映画を見た～で貯金する」
[×]釣り「お～がない／さかな～／～針／
～合い」
[×]吊り「～環／～床」
 ○弦「弓の～／～を離れた矢」
[×]蔓「手～／いも～／～植物／～をたど
る／かね～」
[×]鉉「てつびんの～」
[×]釣る「魚を～／えびでたいを～／とん
ぼを～／甘言で～」
[×]吊る「棚を～／目の～／った人／首を
～／かやを～」
[×]瘡る「足が～」
[×]吊れる「おこると目が～」
[×]釣れる「ふなが～」
[×]瘡れる「首の筋が～」
 (テ)
 ○定型「～詩」

定形「～定規」
 定型・定形
 ○通減「遠距離～制／収益～の法則」
 低減「住民税の～／利用者負担の～を
はかる」
 ○停止「～線／登院～／営業～／～液／
供給～／発行を～する」
 底止「株の暴落は～するところを知ら
ず」
 ○提示「身分証明書の～／免許証の～」
 呈示
 ○呈出「証拠書類の～」
 提出「レポートの～」
[×]挺進「～する」
[×]挺身「～隊」
 ○帝制「～をしていた時代」
 帝政
 帝制・帝政「～ロシア」
 ○底本「三巻本を～とする」
 定本「～西鶴全集／～をつくる」
 ○定立
 定律「ボイル・シャルの～」
 ○的確・適確・適格→テツカク
 ○摘出「誤謬を～する」
[×]剔出「扁桃腺の～手術」
 ○適性「～検査／高速～／高度～／低温
～／～がない」
 適正「～規模／～医療／～価格／～計
量／～徴収／～に配置する／～な配
分」
 ○的中「200メートルの目標に～する」
 適中・的中「予想が～する」
 ○的確・適確「～な判断」
 適格「～者／～審査」
 ○手彫り「～細工／～の置き物」
 手掘り「～でトンネルを造った」←→
機械掘り

○手前「～におく／～で降りる／～ども
／～勝手」
△
点前・手前「お茶のお～」
○転移「責任の～／～点」
転位・転移「がんの～」
○転化「失業者に～する／陽性に～する」
転嫁「責任～／税を消費者に～する」
○転回「空中～／～翼」
展開「～図／論議を～する／行き詰った局面が～する」
○電機「重～／三菱～／東洋～／安川～
／横河～／日新～」＝重電
電器「松下～」＝弱電
○伝承「～文芸／民間～」
伝誦・伝唱「～されてきた民謡」
○天成・天性「～の美貌」
天性「～を生かす」
○転成「～名詞」
転生「～を信じる」
○転々「住所を～する」
×
輾転「～反側」
展転
○伝導「熱の～率」
伝道「～開拓／～布教／キリスト教～
／～師」
○天皇「～制／～大権」
天王「四～／～寺／～山／～星」
○典売＝質物を売ること
転売
○天秤「化学～／～室」
△
天平「～棒」
△
天平・天秤「～にかける」
○問う「大臣に～／～・わず語り／安否
を～／責任を～／殺人罪に～・われ
／年齢を～・わず」
△
訪う「先生を～／名所旧跡を～」

○筒「発煙～」
×
罫・筒「円～状」
(ト)
○動因
導因「戦争の～」
○燈火「～管制」
燈下・燈火「～親しむ」
○導管「～ふるい管」
道管
○当期「～決算」
当季「～最高のレース」＝今シーズン
○銅鉞「～石」
銅坑「～の落盤事故」
○登載「名簿に～」
×
搭載「貨客を～／～砲／～機」
○凍死「～する／疲労～」
×
凍屍
○同士・同志「女～／お互い～／かたき
～／～討ち」＝どちらの転
同志「～をつのる／～を集める／～ス
ターリン／～的結合／～会」
○同紙＝新聞
同誌＝雑誌
○刀身＝刀のなかみ
刀心＝刀のつかの中に入った部分、な
かご
○陶製「～洋食器」
陶性「～タイル」
○動静「右翼の～を監視する」
動勢「人口の～」
○同前＝前に同じ
同然・同前「ないも～／バカも～／こ
じき～の姿／ただも～」＝同様
○同族「～会社」
同属「～元素」
○道断「言語～」
同断「～の処置」

○討幕「～の軍」
 倒幕「～の陰謀」
 ○同胞「海外～／引揚げ～」
 同朋「学園の～の不幸」
 同胞・同朋[×]
 ○当来[×]
 到来「～物／好機～」
 ○棟梁「大工の～／～に弟子入りする」
 統領「大～／～制」
 頭領「～となって事を決める」
 ○通る「車が～／糸が～／議案が～」
 通る・透る「すき～／光が～／声が～」
 通る・徹る「魚に火が～／世間に～・
 った名／放射能が壁も～り抜ける」
 ○梳かす「髪を～」
 解かす「しこりを～／兄に問題を～」
 溶かす「岩石を～／鉄を～」
 溶かす「薬品を～／水に～」
 ○土釜「～でかゆを煮る」
 土窯「～で楽焼きを焼く」
 土竈「～炭」
 ○解く「ひもを～／対立を～／しこりを
 ～／疑いを～／制限を～／方程式を
 ～／任を～」
 説く「道を～」
 溶く「水で～」
 梳く「髪を～」
 ○特志「～看護婦」＝特別志願
 篤志・特志「～家」
 ○特種[×]
 特殊「～鋼／～教育／～自動車／～な
 問題」
 ○独習「～ドイツ語教本」
 独修[×]
 ○特選「～にはいる／日展の～」
 特撰・特選「～のお召」

特薦

○独占「～資本主義／～企業／～禁止法
 ／～形態／利潤を～する／～支配／
 ～的／私的～」
 独壇「～場」
 ○独断「～専行／～的／～で決める／～
 論」
 独壇「～場」
 ○特徴「～的な／～関数／～のない顔」
 ＝他のものにくらべてとりわけ目だ
 つしし
 特長＝格別にすぐれていること、こと
 さらに長じていること
 特徴・特長「一大～がある」
 ○解ける「誤解が～／疑問が～／結びめ
 が～／禁止令が～／誤解が～」
 溶ける「水に～」
 熔ける「炉で～／鉄が～」
 ○土壌「～図／～保全工事／～試験／～
 学／～肥料」
 土状[×]
 ○閉じる「口を～／門を～／目を～／水
 門が～／会を～」
 綴じる「紙を～／新聞を～」
 ○凸角[×]
 突角[×]
 ○突貫「～工事」
 呐威「敵陣に～する」
 ○突起「虫様～」
 凸起[×]
 ○德行「隠れた～が多い」
 篤行「～をたたえる」
 篤厚「資性～」
 ○称える「人口10万と～／新説を～」
 唱える「御詠歌を～」
 称える・唱える「念仏を～／万歳を～
 ／新学説を～」
 ○斗南・図南「～の夢」

○止まる・[△]停まる「車が～／時計が～」
 止まる・留まる「鳥が枝に～／目に～」
 泊まる「宿屋に～」
 ○止める・[△]停める「船を～／車を～／足を～／息を～／けんかを～／通行を～／ガスを～／電気を～」
 止める・留める「髪をピンで～／ボタンを～／心に～／目に～／気に～・めない」
 泊める「客を宿に～／旅行者を～」
 ○取り上げる「仕事を～／刃物を～」
 採り上げる「意見を～／議題に～／～に足りない事」
 ○取り入れる「干し物を～／水を～／技術を～」
[△]穫り入れる「作物を～」
 ○取る「先手を～／手を～・って導く／かじを～／命を～／金を～／休暇を～／栄養を～／～に足りない／不覚を～／きげんを～／悪意に～／脈を～／場所を～」
 執る「銃を～／ペンを～／事務を～／かじを～／指揮を～」
 採る「海草を～／薬草を～／社員を～」
[△]捕る「魚を～／ねずみを～」
[△]撮る「写真を～」
 (十)
 ○内攻「熱が～する」
 内向「～的性格／～性」
 ○内珠皮＝胚珠の2枚の珠皮のうち内側にあるもの
 内種皮＝種子の内側にある膜
 ○内分「角を～する／～点」
 内分・内聞「～にすまず」
 ○内包「危険性を～する／～と外延」

内方←→外方
 ○仲「～買人／夫婦～／～がいい」
 中「世の～／～身／正月～の七日」
 ○泣き声「女の～」
 鳴き声・[×]啼声「鳥の～／犬の～」
 ○泣く「不運に～／もう千円～・いてく
 ださいよ」
 鳴く・[×]啼く「鳥が～／犬が～」
 ○[△]亡くす「父を～」
 無くす「財産を～／本を～」
 ○[△]亡くなる「御子様が～」
 無くなる「品物が～／お金が～」
 ○名[△]残り「～惜しい／冬の～の雪／～な
 く／～が尽きない／～の酒宴」
[△]余波・[△]名残り「台風の～」
 ○成す「形を～・していない／色を～／
 産を～」
[△]為す「悪事を～／不倫を～ことなか
 れ」
[△]生す「子まで・した仲」
 ○名代「～の汁粉／父の～で行く」
 名題「～看板／～役者／～下」
 ○七草「秋の～／春の～」
[△]七種・七草「～粥」
 ○訛る「発音が～」
[△]鈍る「腕が～／切れあじが～」
 ○習う「英語を～」
[△]倣う「ひそみに～／前例に～」
 ○成る「大臣に～／鉄橋架設～／功～・
 り名遂ぐ／～・っていない／5章か
 ら～論文／駒が～／お休みに～」
[△]生る・[△]熟る「実が～」
[△]為る・成る「おとなに～／薬に～／負
 けて～ものか／勘弁～・らない」
 ○慣れる「仕事に～／貧乏に～」
[×]馴れる・[×]狎れる「犬が～／人に～」

熟[△]れる「～・れた鮎／～・れた着物／
 くつが足に～」
 ○難行「～苦行／～道」
 難業「～に命をかける／～を完成する」
 ○難行・難航「会議～がする」
 難航「風で～する漁船」
 (ニ)
 ○匂[×]い・香[△]い「花の～／～袋」
 臭[△]い「ガスの～」
 ○匂[×]う「花の香が～／朝日に～」
 臭[△]う「死臭が～」
 ○二課「営業～／捜査～長」
 二科「～会」
 ○二期「～作／～生／～制」
 二季「～払い／春秋～」
 ○難[△]い「言い～／やり～／見～」
 憎[△]い「～奴」
 ○日次「会の～を決める」
 日時「結婚式の～」
 ○俄[×]「～の事で驚いた／～雨／～に飛び
 去った」
 俄[×]・仁輪加^{△△}「～狂言」
 (ヌ)
 ○抜[△]かす「腰を～」
 吐[△]かす「バカなことを～／何を～か」
 ○抜[△]ける「腰が～／底が～」
 脱[△]ける・抜[△]ける「仲間を～／毛が～／
 同盟から～／名簿に名が～・けてい
 る」
 (ネ)
 ○根[△]接ぎ「柿の木～」
 根[△]継ぎ「柱の～」
 ○寝[△]所＝寝間
 寝[△]床・寝[△]所「うなぎの～／～を敷く」
 ○遼[×]る「～・りあるく／町を～」
 練[×]る「構想を～／案を～／粉を～」

○年期
 年季
 年期・年季「～奉公／～明け／～を入
 れる」
 (ノ)
 ○熨[×]「火～」
 熨[×]斗「～あわび／～をつけて上げる／
 ～紙／～目」
 伸[△]し「～餅」
 ○伸[△]す「～・しかかる／けんかで2人～」
 熨[×]す「布のしわを～」
 ○乗[△]せる「電波に～／口車に～／一口～
 ・せてくれ／三味線に～・せて歌
 う」
 載[△]せる「小説を～／本を机の上に～」
 乗[△]せる・載[△]せる「頭に～／車に～」
 ○望[△]む「～らくは／平和を～／海を～／
 富士を～台地／その徳を～」
 臨[△]む「式に～／海に～／危機に～」
 ○野[△]立て「御～」
 野[△]点「～の茶会」
 ○伸[△]ばす「茎を～／相手を～／国力を
 ～」
 延[△]ばす「開場を～／時間を～／寿命を
 ～／水で～」
 伸[△]ばす・延[△]ばす「羽を～／道を～／し
 わを～／ひげを～」
 ○伸[△]び「茎の～が早い／～ざかりのこど
 も」
 延[△]び
 延[△]び・伸[△]び「～がきくニス／～率／～
 計」
 ○伸[△]びる「草木が～／英語の力が～」
 延[△]びる「期日が～／クリームが～」
 伸[△]びる・延[△]びる「勢力が～／官憲の手
 が～／しわが～／ゴムひもが～／そ
 ばが～」

○延べ[×]棹=三味線
 延べ[×]竿=つりざお
 ○延べる「繰り～」
 延べる・伸べる「床を～」
 ○上せる「記録に～／議題に～」
 逆[△]上[△]せる「湯に～」
 ○織[×]「～を立てる／鯉～」
 上り「～列車／お～さん」
 登り「山～」
 昇[△]り・上り「～階段／～のエレベーター」
 昇[△]り・上り・登り「～坂の力士」
 ○登る「山に～／演壇に～」
 上る「京に～／議題に～／人の口に～／死者が4人にも～」
 上る・昇[△]る「日が～／天に～／屋上に～」
 ○飲み屋「一杯～」
 呑み屋=1.呑行為をする取引員（取引用語）2.競馬賭博の胴元
 ○載る「名簿に～／机に～・っている本」
 乗る「汽車に～／相談に～／軌道に～／電波に～／勝ちに～・って攻める／仕事に気が～／おしろいが～／計略に～／マイクに～声」
 ○野呂[×]松[△]「～人形」
 鈍[△]間「～な奴」
 (ハ)
 ○廃液「工場の～」
 排液「～牛」
 ○排汽「～の冷却」
 排気「～孔／～口／～筒／～組織／～坑／～ガス」
 ○廃休「～止／～業」
 廃朽「～建造物」
 ○廃坑=炭坑

廃鉱=鉱山・炭坑
 ○敗残「～兵」
 廃残「～の身を横たえる」
 ○廃除「相続人の～」
 排除「経済力の集中～／障害を～する」
 ○廃水「工場～／～浄化設備」
 排水「～する／～工事／～ポンプ／～トン数／～量」
 ○配置「～する／～計画／～がえ／～車両源／～転換」
 排置「～記号」
 ○背反「～行為／二律～／～する」
 背[×]叛[×]「二律～」
 ○配付「～税制度」
 配布「空からビラを～する」
 配布・配付「資料の刊行～／種畜の～」
 配賦「予算の～」
 ○榮[△]える「優勝の榮に～」
 映[△]える「夕日に～／～・えない人物／帯が～・えない」
 ○秤[×]「さお～／台～」
 計り・量り「～売り」
 ○諮[△]る「委員会に～」
 謀[△]る・計る・図る「暗殺を～／まんまと～・られたか／再起を～」
 計る・量る「重さを～」
 測る・計る「面積を～／水深を～」
 図る「推進を～」
 計る「親に～」
 量る=もと、ますではかりつもること
 計る=もと、物の数をかぞえ、つもりすること、転じてくふう計画すること
 測る=もと、水中をはかること、多く

は深遠をはかりつものこと
 図る＝物事の見積りを立てること、だ
 いたいのくふう考案をすること

○破壊[△]＝刑事裁判の用語
 破壊[△]＝民事裁判の用語

○佩[△]く・帶[△]く「太刀を～」
 穿[△]く「くつ下を～／ズボンを～」
 履[△]く「げたを～」

○吐[△]く「血を～／息を～／煙を～煙突／
 本音を～／広言を～」
 捌[△]く「品物を～」

○剝奪[△]「権利を～する／官位を～する」
 剝脱[△]「表面の塗りが～する／金箔が～
 する」

○禿[△]「～あたま／山が～になる」
 剥[△]げ「～ちょろの什器／～おちる」

○禿[△]げる「頭が～／山が～」
 剥[△]げる「塗料が～／皮が～」

○跛行[△]「～的／～景気／～経済／～状
 態」
 破衡[△]「物資需給に～を来たす」

○鉄[△]「かにの～／～を入れる／たち～」
 挟[△]み「～うち／書類～」

○挟[△]む「机を～．～んで向かい合う」
 挿[△]む・挟[△]む「しおりを本の間に～／箸
 で～／うわさを耳に～」

○鉄[△]む・剪[△]む「枝を～」

○初まる・始まる「新しき年が～」
 始まる「国会が～／悔んでも～．まら
 ない」

○始め「撃ち方～」←→やめ
 初め「～別の人かと思った」←→おわ
 り
 始め・初め「～に／を～として／年の
 ～／御用～／～のうちは慎重だった
 ～／～から気が進まない」
 始め・初め・肇[△]「国の～」

○始める「歩き～／来～／会議を～／本
 を読み～」

○創[△]める・始[△]める「店を～／勉強を～」

○畑[△]・畠[△]「麦の～／～作物／～が違う」
 疥[△]＝皮膚病

○桮[△]・桴[△]＝太鼓

○撥[△]＝琵琶・三味線

○発航[△]・発港[△]「～時間」
 発向[△]

○発布[△]「憲法～」
 発付[△]「令状～／逮捕状の～」

○花[△]「～形／～ぐもり／～びら／～も実
 もある／～は吉野／後輩に～をまた
 せる／～札」

○華[△]「芸術の～が開く」

○鼻[△]「～が高い／～緒／～を折る／～に
 掛ける／～の下が長い／～に付く／
 ～が曲がる／～であしらう／～をあ
 かす／～をならす」
 鼻[△]・漢[△]「～たれ小僧／～もひっかけな
 い」

○話[△]「～ぶり／～の腰／～合い／～がわ
 かる／おもしろい／～に花が咲く
 ～／～が付く／～がある」

○咄[△]・噺[△]「～本」
 話[△]・咄[△]・噺[△]「～家」

○鼻向け[△]「～もならぬ／～できない」

○銭[△]・嘘[△]「～の言葉」

○跳[△]ねる「馬が～／どろが～／芝居が～
 ／不適格者を～」

○撥[△]ねる「自動車に～・～られる／上 前
 を～」

○刎[△]ねる「首を～」

○早い「夜明けが～／時間が～／失望す
 るのは～／～話が」
 速い「雲の流れが～」
 早い・速い・疾い[△]「足が～／手が～／

息が～」
 ○囁す「拍手で～／～・したてる」
 称揚す「もて～」
 ○流行る「歌が～／病気が～／あの医者
 はよく～／かぜが～」
 逸る・早る「～心／気が～」
 ○抜う「厄を～」
 払う「金を～／すすを～／先を～／注
 意を～／威勢あたりを～／刀を～」
 ○針「～金／～仕事／蜂の～／時計の～
 ／～を含んだ言葉」
 鍼「～師／～きゅう」
 ○張り出す「軒を～」
 貼り出す・張り出す「成績を～」
 ○張る「根が～／氷が～／腹が～／気が
 ～／値段が～／勢力を～／見えを～
 ／向こうを～／女を～／ほおを～」
 貼る・張る「ビラを～」
 ○判「～を押す」
 版「～を重ねる」
 ○版「地方～」
 判「～がちがう／半紙～」
 ○板「黒～／平～測量／掲示～」
 盤「円～投げ／旋～／野球～」
 ○犯意「～の表示／～の有無／～なき行
 為は罰せず」
 叛意「皇帝に対して～をいただく」
 ○半期「下～／第一四～／～決算」
 半季「～奉公」
 ○反軍「～思想」
 叛軍「～の將士」
 ○煩雑「～な手続き」
 繁雑
 ○板状「～節理」
 盤状「～胎盤」
 ○晩成「大器～」
 晩生「～種／～稲」

○犯則「国税～取締法／関税～事件／～
 貨物／～物件」
 反則「～敗け／～で退場」
 ○半天「月が～にかかる」
 半纏・半天「しるし～」
 ○反復「～強調／～記号／～発生」
 反復・反覆「～練習」
 ○半面「～の真理／顔の右～」
 反面「好都合な～危険性も認められ
 る」
 半面・反面「知られざる～」
 ○板面
 盤面「～をにらむ棋士」
 ○凡例＝本のはじめに掲げるその本の読
 み方に関する簡条書
 範例＝手本、模範
 (ヒ)
 ○非「～米作農家／～をさとる／～科学
 ／～公然／～合理性／～をあばく」
 否「議案を～とする者」
 ○日影「夏の強い～」＝日の光
 日陰「～者／～になる／～に休む／～
 の葛」＝日の当たらない場所
 ○引かれる「交番に～」
 引かれる・曳かれる・挽かれる「母船
 に～／牛に～・かれて」
 轆かれる「電車に～」
 魅かれる・引かれる「美人に～／楽の
 音に～」
 ○疋「絹4～」
 匹・疋「犬4～」
 ○引き上げ「金利～」
 引き揚げ「～者／海外～同胞」
 ○引き上げる「給与を～」
 引き揚げる「海外から～／出向社員を
 ～」
 引き上げる・引き揚げる「屋上に～／

沈没船を～／運賃を～／課長に～／
 預けた物を～

○[△]弾手「琴の～／ピアノの～」
 引き手「～茶屋／ふすまの～」

○引き伸ばし「写真の～」
 引き延ばし「審議の～／会期の～」

○引き伸ばす「写真を～」
 引き延ばす「回答を～／審議を～／期限を～」

○引き物「祝賀会の～」
[×]挽物＝ろくろで挽いて造った器具

○挽割り＝のこぎりで挽いて割ること
[×]碾割り「～麦」＝うすで碾いて割ること

○引く「手を～／気を～／かぜを～／くじを～／値を～／たとえを～／辞書を～／血統を～／弓を～／潮が～」
 引く・曳く「すそを～／つなを～」
 引く・曳く・挽く・牽く「はしけを～／車を～」

[△]弾く・引く「ギターを～」
[×]挽く・碾く「麦を～」
[△]退く・引く「つとめを～／身を～／～に～・かれぬ立場」

[×]轢く「老人を車で～」

○[×]庇護「～を受ける」
 被護「～過剰」

○微小「～骷／～片／～粒子」
 微少「損害は～だ」

○火攻め「城を～にする」
 火責め「水責め～の拷問」

○悲壮「～な決意」
[×]悲愴「～な一生を終る」

○皮相「～の見解／～な観」
 皮層「～維管束」

○[×]卑俗「～な例をひけば」
[×]鄙俗「～な風習」

○筆耕「～でくらしをたてる」
 筆工＝筆を製造する職工

○筆法「春秋の～」
[×]筆鋒「～鋭く」

○必要「～条件／～人員／～額」
 必用＝必ず用いること

○一重「～まぶた」
[△]偏「～に貴股のおかげです」
[△]草衣・[△]草「～のはおり」

○人好き「～のする人／～のする顔」
 人付き「～がいい」

○一[△]人「～・ふたり落伍しても」
[△]独り「～日本だけでなく世界の問題だ／～ごと」

○[△]陳「～しょうが」
[△]晩稻「～米」

○秘法
 秘方＝秘密にされている調薬の方法

○[△]干乾し「うえて～になる」
 日干し・日乾し「～れんが」

○皮膜「～浮選／虚実～論」
 被膜

○表「図～／予定～」
 票「～がため／賛成～」
 表・票「調査～」

○表記「国語～表／かな～／～の住所」
 ＝書き表わす
 標記「～の件について依頼する／秘密事項の～」＝標題・目印

○表決「起立～」
 評決＝評議して決定すること
 票決「～の結果、2票差で可決」

○標示「道路～」
 表示「意思～」

○表彰「～する／～規定／～状」
 標章「～権／勲章記章その他の～／商号～／記念の～／商品の～／類似の」

～／団体の～
 表章
 表賞
 ○表状＝表彰する書面
 表情「困った～を見せる」
 ○表題「～をかかげる」
 標題「～音楽」
 ○漂白「～剤／～作用」
 漂泊「～の旅」
 ○干割れ・日割れ「道路の～／はめ板の～」
 ○品性「～下劣」
[×]稟性「すぐれた～の持ち主」
 (フ)
 ○無「～礼／～作法／～沙汰／～愛想／～愛敬／～遠慮」
[△]不「～細工／～祝儀／～しつけ／～器用／～器量／～調法／～格好／～用心」
 無・不「～ざま／～案内」
 ○分「六～四～／八～板／2寸3～／4割5～／～厚い本」
 歩「～合／～どまり／一反～／～をとる」
 分・歩「～がわるい／～がある」
 ○扶育「～料」
[×]傳育「宮内省／官／東宮への任」
[△]覆育
 ○風体〔ふうてい〕「～いやしからぬ武士」＝すがたみなり
 風態
 風袋「～ぐるみ／菓子を～ごとはかる」
 ○夫役「～現品」
 賦役
 ○負荷「電力の～率／～の大任」
 賦課「～金／税の～率」

付加「～刑／米価の～金／～税」
 ○腹[×]腔「～細胞」
 腹孔
 ○副賞
 副章
 ○複製「～を許さず」
 復成「～火山／～岩」
 覆製「～本」＝書誌学用語
 ○副本「正本～／戸籍の～／登記申請書の～」
 複本「手形の～／小切手の～／～番号／～交換／～記号」
 ○父系「～制的社会」
 父傾「～遺伝」
 ○老[△]ける「～・けて見える／年よりも～」
[△]更ける・[△]深ける「夜が～／秋が～」
[×]耽る「読書に～／飲酒に～」
 ○符合「原本に～する」
 符号「モールス～／区切り～」
 付合・附合「～物件／土に～したる不動産」
 付号
 ○腐植「～質／～酸／～化／～土」
 腐食・腐[×]蝕「～試験／～版工／まくら木の～」〔腐蝕→腐食〕
 ○夫人「令～／有閑～／電化～／投書～」
 婦人「～会／～少年局／～労働／職業～／～科／～病／～用／～こども専用車／～服／貴～」
 ○伏す「地に～」
[×]臥す・伏す「病に～」
[×]俯す
 ○不正「～行為／～業者／～出国／～所持」
 不整「～地／麦の～地まき／～粒子」

○敷設「鉄道の～／～機雷／漁具の～」
 布設「海底電線の～」
 附設・付設「大学に～された病院」
 ○伏せる「目を～／杯を～／名札を～／
 切って～／兵を～／その事は～・て
 おこう」
 臥せる「床に～」
 ○部属「～の決定」
 部族「～間の対立／～を統率する」
 ○付託・附託「あわせ～／～議案／委員
 会に～」
 負託「国民の～にこたえる」
 ○不断「～の努力／～の煙／～草」＝絶
 えず 「優柔～」＝決められない
 普段・普断・不断「～着／～思ってい
 ること」＝へいぜい
 ○附置・付置「大学～の研究所」
 布置「監視所の～」
 ○付値
 負値「～二次形式」
 ○物権「～法」＝財産権の一
 物件「差押え～／～費」
 ○物量「～に物を言わせる／～戦」
 物糧「～投下」
 物料「～の分析鑑定」
 ○不貞「～をはたらく／夫の～」
 不逞「～のやから」
 ○不働「～時間」
 不動「～の姿勢／～の信念／～明王／
 ～産／～配偶子／～孢子／～の地
 位」
 ○船「～がインド洋で難破した」
 舟「釣りの～」
 船・舟「湯～」
 ○附表・付表「条約～／別表～」
 附票・付票「戸籍の～」
 ○不便

不憫・不憊「～なことをした」
 ○不変「～の鉄則／～資本」
 普遍「～妥当性／人類～の原理／～定
 数／～的／～の真理」
 不偏「～不党の立場」
 ○殖やす「子を～／財産を～」
 増やす「水分を～」
 ○富裕「～階級／～税制度／～団体／～
 府県」
 富有
 ○付与・附与「法人格を～／財源を～／
 権限を～／当選証書を～」
 賦与「天から～された」
 ○不要「不急～の旅行／～な出張／～存
 置林野」
 不用「予算の～額／終戦処理費の～
 分」
 不要・不用「～品」
 ○振り「一～の刀／～をつける／～の
 客」
 振り・風「人の～見てわが～直せ／知
 らない～をする」
 ○不漁「さんまの～」
 不猟「かもの～」
 ○振るう「刀を～／猛威を～」
 奮う「勇気を～・って立ち向かう」
 揮う「筆を～」
 奮う・振るう「～・って御応募下さい
 ／国力が大いに～」
 振るう・揮う・奮う「志気が～／腕を
 ～／涙を～」
 ○分科「～会」
 分課「～規定／局部の下に～を設け
 る」
 ○分割「～請負／～どり／～目録／～払
 い」
 分轄「教育行政を都道府県が～してい

る」
○憤激「失言が相手の～をかう」
奮激「～して難工事を完成する」
○分署
分所
○奮戦「大いに～する」
紛戦「～におちいる」
○憤然・忿然「～として席を立つ」
奮然「～として戦う」
(へ)
○併記
並記
○平行「～四辺形／～移動／～角／～面
／～辺と～になる／互いに～な二直
線／～棒」＝数学的用語
並行「～路線（鉄道・道路・バス）／
道に～して走る」＝ならんでいる
並行・併行「～して実施する／～的に
／～審議」＝ならび行なう
平行・並行「～線」
平衡「～を保つ／～を失う／～化／～
状態／～負荷／～交付金」
○平行線「～上の 1 点 P」
並行線「～をたどる／道路の～／鉄道
の～」
○米紙＝新聞
米誌＝雑誌
○平板「～な／～測量／～な文章」
平版「～印刷」
平盤
○併用「～住宅／～区間（鉄道）」
並用・併用「二つの薬を～する」
○併列
並列「～に電池をつなぐ」↔直列
「～進行中の車両」↔縦列
○辟[×]「～易する／復～」
癖「～がある」

僻[×]「～村／～地手当／～見」
○別条「～に規定がある」
別状・別条「生命に～ない」
○別品「～あつらえ」
別品・別嬪[×]「～さん」
○編[×]「親族～」
篇・編[×]「続～」〔篇→編〕
○辺[×]「三角形の～」
辺・遍「この～は物騒だ／一～に失望
した」
返・遍「一～」
返「～たのむ」
○弁[×]・辨[×]「安全～」
弁・辯「～が立つ」
弁・瓣[×]「花～」
○変移「時代の～」
変異「～係数／突然～」
変位「～電流／星座の～」
○辺境「～地域」
偏境
辺疆[×]〔辺疆→辺境〕
○偏在「国の南部に～する」
遍在「神の～を信じる」
○編集・編輯[×]「～方針／雑誌の～／～兼
発行人」
編修「図書～官／会議録の～」〔編
輯→編集〕
○便じる・弁じる「用を～」
弁じる・辨[×]じる「一席～」
○編成「予算の～／～標目／学級の～／
計画の～／番組の～」
編制「教科の～／軍の～」
編製「戸籍の～」
○変性「～アルコール／～済み／～を施
す／～法」
變成「～鉱床／～岩／～作用」
○変節「～漢」

変説「～改論」
○変装「つけひげで～する」
変相「死後の～」
○変態「～的／～性／～経営／～心理／
～葉／かえるの～／かいこの～」
変体「～がな」
○便法「特例的～／～として」
弁法
(木)
○保育「森林の～／～所／～給食／～室
／～園」
哺育「～手当」〔哺育→保育〕
○法王「～庁／ローマ～」
法皇「後白河～」
○崩壊「～地／道路の～箇所」
崩潰「莊園制度の～／貴族社会の～」
〔崩潰→崩壊〕
○法系「ローマ～／大陸～／イギリス
～」
○法型
○砲口「～が海峡をにらむ／～直径」
砲隆「～内亀裂」
○抱合
包含「～系」
○報告「～義務／現地～／～書／～事項
／委員会～」
奉告「神官に～／御陵に～／～祭」
○某紙＝新聞
某誌＝雑誌
○方式「勤評～」
法式
○芳醇・芳純「～な酒」
豊潤「～な平野」
○報奨「食糧供出～物資／住民税前納者
に対する～金」
報償「通報者～の～金／民間協力者の
～」

褒章「藍綬～」
○放心「～状態／～の態」
放神＝気をゆるすこと
放心・放神「何とぞ御～下されたく」
○杳然「～自失」
茫然
惘然
○包藏
宝藏
○膨大・庞大「～な」〔庞大→膨大〕
○捧呈「弔詞を～／信任状を～」
奉呈
○包皮
包被
○暴民「～に焼打ちされる」
亡民「～の惨事」
○亡羊「～の嘆／多岐～」
茫洋・芒洋「～たる人物」
○法令「～用語」＝法律と命令
法例＝法律の適用に関する通則
○砲列「重砲の～」
放列「カメラの～をしく」
○保温「～折衷苗しろ／～畜舎／～材」
補温
○火影「かがり火の～」
灯影「沖の船の～」
○母系「～親／～氏族」
母傾「～遺伝」
○補佐・輔佐「幼君を～する／課長～」
保佐「準禁治産者の～」〔輔佐→補
佐〕
○補佐人＝刑事訴訟において被告人を補
佐する者
保佐人＝準禁治産者の行為について同
意権をもつ保護者
○輔佐人＝民事訴訟において当事者また
は訴訟代理人につきそってその陳述

を補助するもの

○補習「～教育／～授業」
補修「住宅の～／倉庫の～」

○補助「～金／～貨幣／～政策／～員／～細胞／～線」
保助「～看護法」

○保障「社会～／安全～条約／最低生活を～する／社会～」
保証「身元～人／連帯～／～つき／～責任／～人」
補償「災害～／国家～／損害～」

○捕食「～性の」
捕食「鳥が虫を～する」

○補正「～案／～予算／～係数／～割当／～提出／欠陥を～する」
補整「～振子」
輔成「～会」

○保税「～運送／～工場法／～倉庫／～地域／～物」
通税[×]「～脱税」

○納[×]「～さし／～突き盤」
臍[×]「～を固める／～をかむ」
帯[×]

○母体「～保護／運動～」
母胎「犯罪の～」

○没する「河底に～／水中に～／忘却のあなたに～」
没する・没する「大正5年に～・した」

○補導[×]「職業～所／学生～部」
輔導[×]
保導「校外～」〔輔導→補導〕

○歩道「横断～」
舗道・舗道「～れんが」＝ペーヴメント

○堀[×]「外～／～あと」
掘り「露天～／～出し物」

彫り「～の深い顔／～物」

○掘る「土を～／石炭を～」
彫る「像を～／銘文を～／石膏を～」

○本居・本拠「～をかまえる」
本拠「愚連隊の～をおそう／敵の～地」

○本紙＝新聞
本誌＝雑誌
本紙・本誌＝週刊新聞

○本所^{←→}分所・支所
本署^{←→}分署・支署

○本体「外交は秘密が～／仏像の～をはずして修理する」

本態
(マ)

○詣[×]る・参る「祈願に～／お宮に～」
参る「今度はいつ～・りましようか／春めいて～・りました／一本取られて～・った／あの事件以来すっかり～・っている／彼女に～・っている／一番～・ろう」

○蒔[×]く・播[×]く「種を～／～・かぬ種は生えぬ」
撒[×]く「水を～／ビラを～／ばら～」

○幕「～を張る／記念祭の～が開く／第三～／～をおろす／お前が出る～じゃない」
膜「横隔～／処女～／～迷路」

○曲げ「～破壊係数／～管／～木／～機械」
揺[×]「～を結う／まる～／ちょん～」

○曲げ物＝容器
揺[×]物「～の映画」

○勝[△]る・優[△]る「実力が～・っている／悪知恵にかけても～・っている」

○不味[△]い「～料理／～菓子」
拙[△]い・不手[△]い・不味[△]い「～字／～つら

／～ことになる」
 ○又「～来る／～の機会／～の日／山～
 山／～借し／～聞き／～いとこ」
 又・復「～いづれ伺います／～とない
 機会」
 又・亦「それも～よからう／これも～
 傑作だ」
 ○待つ「機会を～／～・てど暮せど／電
 車を～／あと一日～・ってくれ」
 俟つ「君の自覚に～／将来の研究に～
 ／言を～・たない」
 ○間々「～見受ける／そういうことが～
 ある」
 継「～子扱い／～母」
 ○豆「～かす／～電球／～本」
 肉刺「指に～を作る」
 ○回り「～線／～フック／～階段」
 廻り・回り「お得意～／火の～が早
 い／～道」
 周り・廻り・回り「長兄は私よりひと
 ～上です／家の～をうろつく」
 ○万歳・万才「三河～」
 漫才・万才「かけあい～」
 ○満々「自信～」
 漫々・満々「～たる水」
 (ミ)
 ○見入る「計器の針を熱心に～・ってい
 る」
 魅入る「悪魔に～・られる」
 ○見栄「～がよくない／～を張る」
 見得「～を切る」
 ○味感
 味官
 ○水攻め「～で城を落とす」
 水責め「火責め～の拷問」
 ○店「～を出す／～を張る／～をたたむ
 ／～屋」

見世「仲～／張～」
 ○溝「～ほり機／かもの～／～ができ
 る」
 針孔
 ○妄り「～に鳥を取ってはならない」
 猥り→みだら
 ○乱れる「順序が～／髪が～／国が～」
 紊れる・乱れる「風紀が～」
 ○道「人の～／～を解く／その～の達
 人」
 道・路「～をつける／～に迷う／どの
 ～／千里の～を遠しともせず／解決
 の～／平和への～」
 ○密漁「～船」
 密猟「カモの～／カモシカの～」
 ○未到「前人～」
 未踏「人跡～の地」
 未到・未踏「～の原野」
 ○見取る「～・り図／相手の気持を～/
 美しさに～・れる」
 看取る「病人を～／学友に～・られな
 がら息をひきとる」
 ○醜い「～行為／～女」
 見難い「片目では本が～」
 ○実る「努力が～」
 稔る・実る「稲が～／柿が～」
 ○名字・苗字「～帯刀御免」
 ○民族「～主義／～自決／～学／～国家
 ／やまと～／少数～」
 民俗「山村～／～語彙／～学」
 (ム)
 ○無期「～刑／～懲役／～延期」
 無季「～俳句」
 ○無双「怪力～／～窓」
 夢想「～する／～剣」
 無双・夢想「～だんす／～側の懷中時
 計」

○無想「無念～」
 無相「～離念／～解脱」
 ○旨「認める～の一項／その～伝える」
 宗・旨「質素を～とすべし」
 ○無名「～の人／～戦士／～作家／～氏
 ／～指」
 無銘「～の刀」
 ○村「～つくり／～八分／～人／～芝居
 ／～ずもう」
 群「～がる／ひと～のまぐさ」
 叢[×]
 斑[×]「色～ができる／～な性格」
 (メ)
 ○銘「～打つ／～がある／～を刻む」
 名「～答弁／日本～／数～」
 ○名菓
 銘菓[×]
 ○銘記＝心にきざむ
 明記「職業・年齢～の上／法文に～し
 である」＝明らかにする
 ○名月＝陰暦八月十五夜の月、または九
 月十三夜の月
 明月＝すみわたったまらい月
 ○銘酒＝特別な製法によるよい酒
 名酒[×]
 ○明答「～を避ける」
 名答「御～」
 ○名刀「家宝の～」
 銘刀「正宗の～」
 ○名文「なかなかの～だ」
 明文「～上／法律～／～化する」
 ○名木「境内にけやきの～がある」＝た
 ち木
 銘木「～店」＝材木
 ○迷夢「～からさめる／～をさます」
 迷雾「～がはれたような気持」
 眼鏡^{△△}「～をかける／～越しに見る／色

～／遠～／虫～／～が狂う／～橋／
 ～蛇」
 鑑識^{△△}「～にかなう」
 ○針孔^{△△}「～に糸を通す」
 目処[△]「解決の～がつく」
 ○目抜き「～の通り」
 目貫[△]「～に趣向をこらす／～師」
 (モ)
 ○燃える「火が～／学校が～／～ような
 バラの花／かげろうが～／向学心に
 ～／～思い」
 萌える[×]「若草が～」
 ○設ける「規定を～／休息所を～／酒席
 を～／口実を～・けて断わる／事務
 所を～／待ち～」
 儲ける[×]「金を～／一男二女を～」
 ○妄信・盲信「～する」
 ○目礼「～目送／～を送る」
 黙礼[×]
 ○持たせる「証明書を～／弁当を～」
 凭せる[×]「～・せかける／壁に体を～」
 保せる[×]「花を1週間～／鮮度を～」
 ○餅「～は餅屋／しり～」
 糯[×]「～米／～とうるちの割合」
 ○持って「手に～／～まわった言い方」
 以て[△]「書面を～通知する／俊敏を～世
 に鳴る／これを～第1位とする／利
 口で～顔かたちもいい／～のほか」
 ○最も「～大きい」
 尤も[×]「～らしい／～なことだ／～今か
 らでは間に合わない」
 ○元・基・本[△]「農は国の～」
 元「～通り／～代議士／～の木阿弥／
 ～から先まで／～にもどる／～がか
 かる商売／～も子もない」
 下・許[△]「この条件の～では／足～／花
 の～に遊ぶ／親の～を離れる」

元・素「かびを～にして作った薬」
 本「庭にひと～なつめの木」
 ○者「くせ～/家族の～/ふとどき～」
 物「～を大切にする/～を思う/～の本/～はためし/～がわかる/～の数/～ともしない/～になる/～につかれる/～笑いのたね/そうしたい～だ/～静かな人」
 (ヤ)
 ○屋「文房具～/何でも～/やかまし～/千三つ～/わからず～/音羽～/鈴の～」
 家「あき～/～賃/この～の主人/～鳴り震動」
 ○屋形「～船/お～様」
 館「名主の～」
 ○訳詞「(人名)～, (人名)作曲」
 訳詩・訳詞「～者」
 ○焼け「半～/夕～/朝～」
 自棄・焼け「～をおこす/～酒/～のやんばち」
 ○屋号=店の称, 歌舞伎役者の別称
 家号=家の別称
 ○安い「～・かろう悪かろう/～・からぬ気持/お～御用」
 易い・安い「書き～/解き～問題」
 ○野生「～する/～の植物」=山野に自生する
 野性「～に返る/～的/～味」=荒い性質
 ○矢庭「～になぐりかかる」
 矢場「悠然と～に立つ」
 ○破れる「障子が～/計画が～/紙が～/くつ下が～/前途への夢が～/交渉が～/つり合いが～」
 敗れる「戦いに～」
 ○山影「美しい～」

山陰「～にひそむ」
 ○止める「運転を～」
 辞める・罷める「勤めを～・めて自適の境地に入る」
 (ユ)
 ○優「～に/～にやさしい」
 尤「～なるもの/～物」
 ○遊戯「路上～/体育～」
 遊技「～場」=許可営業の娯楽・パチンコ・マージャンなど
 ○夕陰
 夕影「～にはえる空」
 ○憂愁「～にとざされる」
 幽愁
 ○優生「～学/～保護法/～結婚/～手術」
 優性「～突然変異/～遺伝」←→劣性
 雄性「～配偶子/～物質/～光熱」
 有性「～世代/～生殖」←→無性→両性
 ○勇退「～して後進に道をゆずる/東京駅長を最後に～した」
 優退「5人抜きすると～だ/奉納試合で～する」
 ○雄途「～につく」
 雄図「～むなしく」
 ○夕辺「映画の～/秋の～」
 昨晩「～来た人/～の地震」
 ○有和「～政策」
 融和「～する/～的/両国の～を図る」
 ○諭旨「～退学」
 諭示「裁判長は宣誓の趣旨を～する」
 ○油送「～パイプ/～管」
 油槽「原油～/精油～」
 油槽・油送「～船」
 ○油糧「～界/～原料/～資源」

油量「～計／埋藏～」

(ヨ)

○世「～の中／～の批判／～に知られた
名作／～に逢う／～が～なら／～を
捨てる／あの～／この～」

代「君が～」

世・代「み～／昭和の～／武家の～」

○良い「頭が～／～・くきく葉／～値だ
／覚悟は～か／～注意を払う／成績
が～生徒／使い～家具／～所に来た
／～・く似た人／間にあって～・か
った」

善い・良い「～時代だった／日が～」

好い「～女」

良い・好い「～天気／～体／～仲が
～」

良い・善い・好い「～人が～／～気が～」

○用「～を足す／～件／～がある／～船
／工業～／公共の～に供する／～を
なさぬ」

要「～は／説明の～がある／～注意」

○要役「～地／～地承役地」

用益「～権／～部分／～者／～物権／
～質／～賃貸借」

用役

○溶液「～青酸～」

養液＝培養液

○^x熔加

溶加「～材／～材試験」

○溶解「～度／～限度」

^x鎔解・^x熔解「～^x炉」〔^x鎔解→溶解〕

○用具＝使う用具

要具＝必要な道具

○^x邀撃＝むかえ討つ

要撃

○用件＝用向き

要件「資格／～／充足／～を具備す

る」＝必要条件

用件・要件「～を伝える／～をメモす
る」

○用語「～例／～法／～が不適切だ／洋
裁～」

要語・用語「哲学～」

○要綱「政策～」＝要約した大綱

要項「募集～」＝大切な事項

○様式「生産～／生活～／ビザンチン～
／詩の～をとる／～化」

要式「～行為／～処分／～契約／～証
券」

○容赦・用捨「～なく／御～ください」

○溶成「～燐肥」

溶性「～シリカ／～ラッカー」

溶製「～鋼／～鉄」

○陽性「～転化／～な人柄」←陰性

陽生「～植物」

○用船「御～／軍～」

^x備船・用船「～料／～計画／～契約」

○容態・容体→ヨードイ

様態「～の助動詞」

○容体「～ぶる」

容体・容態「病人の～／～が急変す
る」

○用足し「～に行く」

用達[△]「宮内庁御～」

○要談「～を交わす」＝重要な相談

用談「その件で～いたしたい」＝用む
きの話

要談・用談「～中にたおれる」

○用地「～費／～買収／建築～」

要地「交通上の～／軍事的な～／交通
の～」

○養畜「～経営／～家／～行政／～農
民」

用畜「～飼養」

○用法「～説明書」
 用方「物の～に従い」
 ○要務「喫緊の～／最大の～」
 用務「外交関係の～で出張／～員」
 要務・用務「～を帯びて」
 ○要約「内容を～すれば」
 要訳
 ○洋々「前途～／～たる太平洋」
 溶々「～として流れる」
 ○能く・克く「一艦～大敵に当たる」
 良く「体を～する」
 良く・善く「性格が～なる」
 良く・好く「仲が～ない」
 ○予習←→復習
 予修
 ○振る「腕を～」
 攀じる「岩に～・じ登る」
 ○寄せ「客～／～がうまい棋風」
 寄席「～芸人／～が好きだ」
 ○余得「役目がら～が多い」
 余徳「故人の～をしのぶ」
 ○夜鳴き・夜啼き「からすの～」
 夜泣き「赤ん坊の～」
 ○余熱「～利用／～機関／アイロンの～
 を利用する」
 予熱「空気～器／～炉／～帯」
 ○読む「本を～／グラフを～／相手を～
 ／人の心を～／票を～／作戦を～／
 手を～」
 詠む「俳句を～」
 (ラ)
 ○乱「～ぐい／応仁の～／～どり／～数
 字」
 濫「～にわたる」
 (リ)
 ○理解
 理會＝事理を會得すること

○里言
 里諺
 俚言＝方言、なまりことば
 ○利口「興言～」
 利口・利巧・伶俐「～な人／～者／～
 な犬／～に立ちまわる」〔伶俐→
 利口〕
 ○留出
 溜出「～物」
 流出「土砂の～量」
 ○粒々「～辛苦」
 流々・粒々「細工は～」
 ○了「引継を～する」
 諒・了「～とする」〔諒→了〕
 ○猟「～犬」
 漁「網～」
 猟・漁「大～／～師／～に出る」
 ○両「～3年／金子百～／～の手」
 輻・両「車～／8～編成」〔輻→兩〕
 ○了解・諒解「～事項／～点／～する／
 ～度」
 領會＝のみこむ
 領解＝會得する〔諒解→了解〕
 ○漁期「さんまの～」
 漁季
 獵期「かもの～」
 獵季
 ○漁師「～町」
 獵師「～道」＝かりゅうど
 ○了承・諒承「事情は～する」
 領掌
 領承〔諒承→了承〕
 ○瞭然・了然「一目～」
 ○了得「よろしく御～願いたい」
 領得「物品を～する／金額を～する」
 ○漁場「オホーツク海の～／かのに～」
 獵場「かもの～」

○両様「和戦～の構え」
 両用「水陸～戦車」
 ○緑草「～を好んで食べる／～におおわ
 れる野となった」
 緑藻・緑草「～類」
 ○隣交「～を回復する」
 隣好「～政策をとる」
 (レ)
 ○暦年「～制／～度」
 歴年「～の功／～の戦乱」
 ○劣勢「～木／～を挽回する」
 劣性「～遺伝／～突然変異」
 ○練製「～品」
 錬成・練成「～道場」
 (ロ)
 ○蠟「～タブレット」
 蠟
 ○牢乎「～たる決意」
 牢固「～たる城塞」
 ○労資「資本主義下の～関係」＝労働者
 と資本家
 労使「3公社5現業の～関係」＝労働
 者と使用者
 労資・労使「～協調／～対立」
 ○浪人「白線～／中学生～」
 牢人・浪人「～もの」
 ○露地「～栽培／茶庭の～」
 路地・露地・路次「～裏に住む」
 露次＝野宿・野陣
 ○六法「～全書」
 六法・六方「～を踏む／飛び～」
 ○露天「～掘り」
 露天・露店「～商」
 ○論及「この点に～する」
 論究「この点を～する」
 (ワ)
 ○和「～戦両様のかまえ／～を講じる／

内角の～／人の～／～製／～を乞
 う」
 倭・和「～人／～寇」
 ○別れる「子に～／死に～／夫婦が～」
 分かれる・別れる「道が～／勝負が～
 ／論が～／枝が～」
 ○腋・掖「～の下／～毛／～香」
 脇「～役／～道／～見出し／学校の～
 ／話を～にそらす」
 脇・傍「～に置く／～から見る」
 ○沸く「ふろが～／湯が～」
 湧く・涌く「うじが～／霧が～／涙が
 ～／地下水が～／勇気が～／非難が
 ～／泉が～」
 沸く・湧く・涌く「議論が～／人氣が
 ～／血が～／場内が～」
 ○業「し～／神の御～／容易な～ではな
 い」
 技・業「早～／～をきそう／～が極ま
 る」
 ○渡り「～鳥／～廊下／～やぐら／～に
 船／～をつける／オランダ～／～の
 職人」
 径「～八寸」
 ○渡る「橋を～／島に～／他人の手に～
 ／川を～／アメリカに～／他国へ～
 ／雁が～／インドから～．～て来た
 仏教／日が空を～／世を～／所有権
 が他人に～／知れ～／さえ～」
 亙る・渉る・渡る「秘密に～／久しき
 に～／すべてに～／長時間に～／武
 芸百般に～」

IV む す び

類義語は、その中核をなす意味の面でも、意味にまつわる語感の面でも、互いに少しずつ違いの場所があり、使用者の側からいえば、これが類義語の使い分けになる。この使い分けのしかたには、年齢・教養・性などによって相違する点はあるにしても、社会一般に共通する部分がある。それと同時に個人によってかなりずれているところがある。このことは、テストの結果で明らかである（Ⅱ.2.3.Ⅲ.3.4.参照）。類義語の性格がこういうものだということとは、常に念頭におかなければならないことだろう。

最近外来語が、際限なくふえてくる風潮があり、これに伴って類義語がますます増していくので、適切な対策を立てることが要望されている。どういう対策を立てるべきかという問題は、類義語の使い分けの必要性の度合いがどの程度であるかということにかかっていると考えられる。外来語が国語にとり入れられるには、それ相当の理由があるのであろう。ある場合には、在来の漢語・和語のもつ意味・語感の領域の一部分しか受け持たないために、外来語が必要とされていることもあり、また、ある場合には、新鮮さ・明るさ等の語感が好まれるためということもある。後者のような場合には、一見無用なゆきすぎとも考えられようが、社会のある分野、たとえば、宣伝・広告関係の側では、外来語の印象の新鮮さ・明るさを利用することが、有効で、必要な条件になっているのであろう。このように、外来語が使われる事情には、ことば以外の社会的・心理的条件がはたらいているので、社会一般が、その類義語の使い分けをどのくらい必要としているかはかることは、たいへんむずかしいことになる。しかし、こういう面を考慮しないで、類義語を整理することはできない。

そこで、もし類義語を整理する可能性があるとするならば、類義語の整理の自然の動向をさらに人為的に推し進めることが、さしあたって必要であり、また効果的であると考えられる。それはどういう場合であるか。

1. 同音衝突 たとえば、「前文」と「全文」のような同音語のまぎらわしさが能率を妨げるために、「前文」を類義語の「前書き」と言い換えるという処

置が現に放送ではとられている。

2. 古めかしいことば・改まったことば

語感に関するテストで明らかなように、古い語感をもつ語は、高年齢層に使われる傾向がある。こういうことばが、やがて消えてゆくことは自然のなりゆきである。また、公の場で使うことばは、日常生活で使うやさしいことばとは違った、改まったことばでなければいけないという意識は、根強いもので、青年層にもなお受け継がれていることが、テストによって明らかにされた。しかし、このテストには、現に公の場で使われている表現をとりあげたので、そういう表現をすでに耳にし目に見ている青年層は、これを公の場で使う「きまり文句」と受け取って反応したと考えられる。青年層の自然な語感にそった表現は、もう少し違ったものであるかもしれない。

3. むずかしいことば

たとえば、「インフルエンザが猖獗をきわめる」のようなむずかしいことばは、今日すでに使われなくなってきた傾向がみられる。また、堅い感じのことば、つまり漢語を日常生活の談話にも使っている、あるいは使う方がいいという意識は、青年層にはだんだん薄くなっていると考えられる。こういうことは事例にもテストにもうかがえる傾向である。

これらの場合には、能率上の要求、また、高年齢層の減少、社会情勢の変化等によって、ごく自然な形で、類義語の整理が現に進みつつあると考えることができよう。この動向は重視されなければなるまい。一方、意味の使い分けの面で、専門用語の外来語がもたらす類義語の問題があることは、Ⅲ.2.2.に述べた。こういう類義語の混乱を避けるためには、専門用語の訳語を用意することが必要であるが、この訳語は、専門領域の中だけに通じるような、ひとりよがりなものでないと同時に、専門的な使い分けにも耐え得るように考慮されなければならない。

はじめに述べたように、われわれは、この研究を始めるにあたって、参考にし得るような文献をほとんどもたなかった。また、種々の制約で、調査の規模も大きくすることができなかったので、類義語について考えておかなければな

らないと思われることを一通り調べてみたという程度にとどまってしまった。

次に、この研究では立ち入ることができなかった数々の点をあげると、

1. この研究ではいくつかのテストを実施し、その分析に基づいて考察を進めてきたが、それは使用者の意識の調査である。使用者が、その類義語をこのように使うという意識と、その人の実際の使用状態とは、必ずしも一致していない。この関係を明らかにすることは、類義語の整理の可能性を考える上からも重要な課題になるが、その調査は行っていない。

2. この研究で、一対の類義語を考える場合、単語対単語の一対に限った。しかし、現実には、単語と連語、単語と短い句等の間に類義関係があることが多い。

3. 意味に関しては、抽象的・概念的な意味の使い分けが中心的な課題になることはいうまでもない。しかし、この研究では、われわれの考察をテストによって確かめ、少しでもその客観性を保とうとしたので、テストする語にあまり高度に抽象された語や、被験者の個性によっていろいろに理解される余地のある語をあてることは、避けなければならなかった。

これらの点を、今後の研究のための参考としてしるしておく。

なお、この研究を始めたとき、われわれは、この研究で扱った問題のほかに、「地方新聞・地方放送などに現われる、全国共通語と誤認されている方言に関する問題」があるのではないかと考えた。これは、特殊な場合であるが、たとえば、「さつまいも」を九州地方では「からいも」といい、「七輪」を京阪地方では「かんてき」という。こういう方言は、ある程度広い地域に行なわれるために、それらが、その地域で発行されている新聞や地方放送に現われることがある。もし、視聴者が、新聞・放送の用語は全国共通語を用いるものという理解のもとにこれに接するならば、その方言が、その地域内の共通語的性格をもっているだけに、これが全国共通語と誤認され、この方言的言い方と全国共通語の言い方との間に類義関係を生じることになる。ことに、ラジオ・テレビの場合、全国に中継され、また新聞では、地方のニュースが紙型で中央に送られて、そのまま印刷されるというような場合には、理解に支障をきたす可能性が生まれる。このような現象が、実際にどの程度起こっているのであろう

か。この問題について、次の6新聞社5放送局にゆき、校閲部担当者・アナウンサーの経験をたずねた。

新聞：京都新聞・大阪毎日新聞・四国新聞・西日本新聞・長崎新聞・熊本日日新聞
放送：NHK大阪・高松・福岡・長崎・熊本

この結果を概括的にいえば、新聞でも放送でも、こういう現象がないとはいえない切れないが、實際上問題にはならない。もし、校閲の段階で発見した場合には、当事者の判断で全国共通語に直している、ということであった。一方、調査地出身の方言研究者や文筆家にも面会してたずねてみたが、即座に指摘し得るような現象をあげてもらうことはできなかった。要するに、この種の問題が全くないわけではないが、それがコミュニケーションを妨げるほど大きな問題にはなっていないと判断されたので、この調査を打ち切ることにした。

V 実験テスト集計表他

ここには、類義語の調査研究において実施した7種の実験テストの集計結果と、週刊誌調査における調査語の用例数の一覧表とを収めてある。

はじめに、この7種の実験テストの集計表全体にわたって使用した、記号類の説明をしておく。

- ① 各テストでは、それぞれの問いにおいて、A・Bの記号をつけた二つの単語を、調査語としてとり上げてある。(例外的に、3語について調査した問いも一部にある。)
- ② 集計表では、それぞれの問いにおいて、このA・Bの二つの調査語のうち、どちらが選ばれたかについて、被験者の反応を、おもに次のような分類によって集計した。

A……………その問いの答えとしては、Aの語があてはまる。

B……………その問いの答えとしては、Bの語があてはまる。

A B……………どちらもあてはまる。

?……………どちらも言えない。

NO……………どちらもあてはまらない。

DK……………無答

- ③ A・B・AB・?・NO・DK等のそれぞれの欄の数字は、 f が度数(それぞれの反応を示した被験者の数)分布を示し、%は、その分布を百分比で示したものである。
- ④ 有意水準欄の*は、度数の分布が危険率5%以下で有意であることを示し、**は同じく危険率1%以下で有意であることを示す。
有意水準欄の(A**A)または(B**AB)は、Aの度数がA以外の度数に比べて有意に大きいこと、あるいは、Bの度数がABの度数に比べて有意に大きいことを示す。
- ⑤ 傾向の欄は、その問いについての反応(答え)として、他の反応に比べて有意に度数の多い反応が記入してある。したがって、もっとも支持の

多い答えというわけである。

- ⑥ 男女差・年齢差・有意差等の欄の*は、各層または各グループの間に、5%以下の危険率で有意差があることを示す。**は同じく1%以下の危険率で有意差があることを示す。
- ⑦ 各テストの有意水準・有意差の検定には、 χ^2 検定法・無相関検定法を用いた。

なお個々の実験テストについての説明は、それぞれのテストの集計表のはじめに記述してある。

テスト 1. 類義語の使い分け等についての調査

① テストの時期	1962年11月	
② テストの対象	日本大学文理学部学生	72名 (男39名 女33名)
	千葉大学文理学部学生	18名 (男5名 女13名)
	上智大学外国語学部学生	89名 (男41名 女48名)
	早稲田大学教育学部学生	79名 (男38名 女41名)
計		258名 (男123名 女135名)

③ その他	テストの内容は、甲・乙の2系統に分かれ、一部出題語が異なっている。問題別の受験者数は次のとおり。	
	甲系統受験者	130名 男 51名 女 79名)
	乙系統受験者	128名 男 72名 女 56名)
計		258名 (男123名 女135名)

問題	問	題	文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
甲乙	ア		どちらの方が木が密集してたくさんしげっていると思いますか。	男	f 114 % 92.7	5 4.1			4 3.3 0	0 0	123	*** (A *** \bar{A})	A	
				女	f 126 % 93.3	7 5.2			1 0.7 0.7	1 0.7	135	*** (A *** A)	A	
				全	f 240 % 93.0	12 4.7			5 1.9 0.4	1 0.4	258	*** (A *** \bar{A})	A	
A	イ	1	神社のまわりの木立を呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f 89 % 72.4	24 19.5	8 6.5 0.8	1	1 0.8 0	1 0.8	123	*** (A *** \bar{A})	A	
				女	f 101 % 74.8	21 15.6	11 8.1 1.5	2	0 0 0	0 0	135	*** (A *** \bar{A})	A	
				全	f 190 % 73.6	45 17.4	19 7.4 1.2	3	1 0.4 0.4	1 0.4	258	*** (A *** \bar{A})	A	
B	ウ		山の木立と平地の木立とに分けて、山の木立をさす場合にはどちらの語を使いますか。	男	f 45 % 36.6	46 37.4	24 19.5 6.5	8	0 0 0	0 0	123	*** (A *** \bar{A})		
				女	f 65 % 48.1	45 33.3	14 10.4 7.4	10	1 0.7 0.7	1 0.7	135	*** (A *** \bar{A})		
				全	f 110 % 42.6	91 35.3	18 14.7 7.0	18	1 0.4 0.4	1 0.4	258	*** (A *** \bar{A})		
はやしエ			どちらの方が神秘的・夢幻的な感じがしますか。	男	f 114 % 92.7	5 4.1			4 3.3 0	0 0	123	*** (A *** \bar{A})	A	
				女	f 127 % 94.1	5 3.7			3 2.2 0	0 0	135	*** (A *** \bar{A})	A	
				全	f 241 % 93.4	10 3.9			7 2.7 0	0 0	258	*** (A *** \bar{A})	A	
甲乙2	ア		どちらの方がしめりけが多いと思いますか。	男	f 115 % 93.5	5 4.1			3 2.4 0	0 0	123	*** (A *** \bar{A})	A	
				女	f 120 % 88.9	13 9.6			2 1.5 0	0 0	135	*** (A *** \bar{A})	A	
				全	f 235 % 91.1	18 7.0			5 1.9 0	0 0	258	*** (A *** \bar{A})	A	
A	イ	どろ	壁にぬるものを呼ぶとしたらどちらを使いますか。	男	f 48 % 39.0	68 55.3	1 0.8 4.9	6	0 0 0	0 0	123	*** (A *** \bar{A})		
				女	f 47 % 34.8	75 55.6	4 3.0 6.7	9	0 0 0	0 0	135	*** (B *** A)	(B)	
				全	f 95 % 36.8	143 55.4	5 1.9 5.8	15	0 0 0	0 0	258	*** (B *** A)	(B)	
B	ウ	つち	どぶの底にたまっている場合どちらを使いますか。	男	f 119 % 96.7	2 1.6	1 0.8 0.8	1	0 0 0	0 0	123	*** (A *** \bar{A})	A	
				女	f 134 % 99.3	1 0.7	0 0	0	0 0 0	0 0	135	*** (A *** \bar{A})	A	
				全	f 253 % 98.1	3 1.2	1 0.4 0.4	1	0 0 0	0 0	258	*** (A *** \bar{A})	A	

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
エ	畑の土壌（どじょう） という意味では、どちら を使いますか。	男	f 3	117	3	0		0	123	*** (B***B̄)	B	
		女	f 7	126	2	0		0	135	*** (B***B̄)	B	
		全	f 10	243	5	0		0	258	*** (B***B̄)	B	
甲 乙	どちらの方が、太さが 太いと思いますか。	男	f 101	14			8	0	123	*** (A***Ā)	A	
		女	f 104	15			15	1	135	*** (A***Ā)	A	
		全	f 205	29			23	1	258	*** (A***Ā)	A	
3 イ A つ な ウ B な わ エ	罪人の手足をしるに はどちらを使いますか。	男	f 13	107	2	1		0	123	*** (B***B̄)	B	
		女	f 19	107	6	2		1	135	*** (B***B̄)	B	
		全	f 32	214	8	3		1	258	*** (B***B̄)	B	
B な わ エ	舟や材木など、重いも のを引っぱるには、どち らを使いますか。	男	f 115	5	3	0		0	123	*** (A***Ā)	A	
		女	f 127	6	2	0		0	135	*** (A***Ā)	A	
		全	f 242	11	5	0		0	258	*** (A***Ā)	A	
甲 乙 4	ワラでできているもの を呼ぶには、どちらの語 を使いますか。	男	f 2	118	2	1		0	123	*** (B***B̄)	B	
		女	f 3	126	5	1		0	135	*** (B***B̄)	B	
		全	f 5	244	7	2		0	258	*** (B***B̄)	B	
甲 乙 4	女性だけが着用するの は、どちらですか。	男	f 1	104	12	4		2	123	*** (B***B̄)	B	
		女	f 2	113	16	3		1	135	*** (B***B̄)	B	
		全	f 3	217	28	7		3	258	*** (B***B̄)	B	
A ズ ボン	たけの短い、ひざぐら いまでの長さのものと、 足首まである長いものと に分けると、たけの短い のを呼ぶには、どちら の語を使いますか。	男	f 26	61	13	21		2	123	*** (B***A)	(B)	
		女	f 41	47	10	36		1	135	***		
		全	f 67	108	23	57		3	258	*** (B***A)	(B)	

問題	問	題	文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差	
B	ウ	スラックス	上着と一対（一揃え） になっている場合には、 どちらの語を使います か。	男	f 105 85.4	8 6.5	4 3.3	3 2.4		3 2.4	123	※※ (A※※ \bar{A})	A		
				女	f 118 87.4	4 3.0	8 5.9	4 3.0	1 0.7	135	※※ (A※※ \bar{A})	A			
				全	f 223 86.4	12 4.7	12 4.7	7 2.7	4 1.6	258	※※ (A※※ \bar{A})	A			
E	エ	スラックス	足や体にぴったりと仕 立てである細めのもの は、どちらの語で呼びま すか。	男	f 5101 4.182.1	13 10.6	4 3.0	0 0	0 0	123	※※ (B※※ \bar{B})	B			
				女	f 5102 3.775.6	17 12.6	8 5.9	3 2.2	0 0	135	※※ (B※※ \bar{B})	B			
				全	f 10203 3.978.7	30 11.6	12 4.7	3 1.2	0 0	258	※※ (B※※ \bar{B})	B			
甲	ア	乙5	どちらの方が新しいこと ばですか。	男	f 3111 2.490.2					9 7.3	0 0	123	※※ (B※※ \bar{B})	B	
				女	f 1121 0.789.6					13 9.6	0 0	135	※※ (B※※ \bar{B})	B	
				全	f 4232 1.689.9					22 8.5	0 0	258	※※ (B※※ \bar{B})	B	
A	イ	クラブ	趣味的な集団と研究的 な集団とに分けると、研 究的な集団はどちらの語 で呼びますか。	男	f 4074 32.560.2	5 4.1	4 3.3		0 0	123	※※ (B※ \bar{B})	B			
				女	f 5063 37.046.7	20 14.8	2 1.5		0 0	135	※※				
				全	f 90137 34.953.1	25 9.7	6 2.3		0 0	258	※※ (B※※A)	(B)			
B	ウ	サークル	スポーツの集団を呼ぶ ときには、どちらの語を 使いますか。	男	f 114 92.7	4 3.3	1 0.8	4 3.3		0 0	123	※※ (A※※ \bar{A})	A		
				女	f 116 85.9	9 6.7	5 3.7	5 3.7		0 0	135	※※ (A※※ \bar{A})	A		
				全	f 230 89.1	13 5.0	6 2.3	9 3.5		0 0	258	※※ (A※※ \bar{A})	A		
E	エ	サークル	どちらの方が、人数が 多い集団をさしています か。	男	f 69 56.1	24 19.5			29 23.6	1 0.8	123	※※ (A※※?)	(A)		
				女	f 81 60.0	29 21.5			25 18.5	0 0	135	※※ (A※ \bar{A})	A		
				全	f 150 58.1	53 20.5			54 20.9	1 0.4	258	※※ (A※※ \bar{A})	A		
甲	乙6	ア	女性だけが着用するの は、どちらですか。	男	f 5113 4.191.9	5 4.1	0 0		0 0	123	※※ (B※※ \bar{B})	B			
				女	f 1120 0.788.9	11 8.1	2 1.5		1 0.7	135	※※ (B※※ \bar{B})	B			
				全	f 6233 2.390.3	16 6.2	2 0.8		1 0.4	258	※※ (B※※ \bar{B})	B			

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
A パ ジ ヤ マ	イ 夜寝ている時だけ着るものと、寝室着として寝るもので、つろいでいる時も着ているものに分けて、寝室着として着るのは、どちらですか。	男	f 54	41	16	10		2	123			
		女	f 18	38	25	53		1	135			
		全	f 72	79	41	63		3	258			
B ウ	上着とズボンに分かれているものと分かれていないもの、形の上で分けてみると、分かれていないもの（ワンピース型）はどちらですか。	男	f 7	109	4	2		1	123			
		女	f 4	125	4	1		1	135			
		全	f 11	234	8	3		2	258			
ネ グ リ ジ エ	実用的なものと、おしゃれ着とに分けると、どちらの方が実用的ですか。	男	f 93	5				24	1	123		
		女	f 123	2				8	2	135		
		全	f 216	7				32	3	258		
甲 乙	郵便局にあずける時と、銀行にあずける時とに分けると、郵便局の場合にはどちらの語を使いますか。	男	f 100	17	4	2		0	123			
		女	f 101	30	3	1		0	135			
		全	f 201	47	7	3		0	258			
A 貯 金	子どもなどに話す場合、どちらの語の方が、やさしいことばだと思いますか。	男	f 116	4				2	1	123		
		女	f 133	2				0	0	135		
		全	f 249	6				2	1	258		
B ウ	金額としては、どちらの方が高額のものさしていると思いますか。	男	f 7	88				28	0	123		
		女	f 14	93				27	1	135		
		全	f 21	181				55	1	258		
預 金 エ	金融機関などにあずけず、自分たちで積み立てたり、自分自身で旅行費用をたくわえたりするような場合には、どちらの語を使って呼びますか。	男	f 102	14	4	3		0	123			
		女	f 120	8	1	6		0	135			
		全	f 222	22	5	9		0	258			

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
甲	ア	カンナやノコギリを使うと出てくるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 1 49 % 2,096,1	1 0 2,0 0			0 51 0 0	79	*** (B***B̄)	B	
			女	f 5 73 % 6,392,4	1 0 1,3 0			0 79 0 0	130	*** (B***B̄)	B	
			全	f 6 122 % 4,693,8	2 0 1,5 0			0 130 0 0		*** (B***B̄)	B	
A	イ	料理をしたあとで捨てるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 17 25 % 33,349,0	3 6 5,9 11,8			0 51 0 0	79	***		
			女	f 38 37 % 48,146,8	3 1 3,8 1,3			0 79 0 0	130	***		
			全	f 55 62 % 42,347,7	6 7 4,6 5,4			0 130 0 0		***		
B	ウ	裁縫や裁断のあとに出る布きれや紙きれは、どちらの語で呼びますか。	男	f 3 45 % 5,988,2	3 0 5,9 0			0 51 0 0	79	*** (B***B̄)	B	
			女	f 3 72 % 3,891,1	2 2 2,5 2,5			0 79 0 0	130	*** (B***B̄)	B	
			全	f 6 117 % 4,691,1	5 2 3,8 1,5			0 130 0 0		*** (B***B̄)	B	
乙	ア	庭掃除のとき、ほうきで掃き集めて捨てるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 45 0 % 88,2 0	5 1 9,8 2,0			0 51 0 0	79	*** (A***Ā)	A	
			女	f 74 1 % 93,7 1,3	4 0 5,1 0			0 79 0 0	130	*** (A***Ā)	A	
			全	f 119 1 % 91,5 0,8	9 1 1,9 0,8			0 130 0 0		*** (A***Ā)	A	
A	イ	庭掃除のとき、ほうきで掃き集めて捨てるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 42 24 % 58,233,3	4 2 5,6 2,8			0 72 0 0	56	*** (A***B)	(A)	
			女	f 39 16 % 69,628,6	1 0 1,8 0			0 56 0 0	128	*** (A***Ā)	A	
			全	f 81 40 % 63,331,3	5 2 3,9 1,6			0 128 0 0		*** (A***Ā)	A	
B	ウ	料理をしたあとで捨てるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 51 4 % 70,8 5,6	1 16 1,4 22,2			0 72 0 0	56	*** (A***Ā)	A	
			女	f 47 0 % 83,9 0	0 9 0 16,1			0 56 0 0	128	*** (A***Ā)	A	
			全	f 98 4 % 76,6 3,1	1 25 0,8 19,5			0 128 0 0		*** (A***Ā)	A	
B	ウ	部屋をかたづけたあとで捨てる紙きれやほろきれなどは、どちらの語で呼びますか。	男	f 35 22 % 48,630,6	8 7 11,1 9,7			0 72 0 0	56	***		
			女	f 35 14 % 62,525,0	2 5 3,6 8,9			0 56 0 0	128	*** (A***B)	(A)	
			全	f 70 36 % 54,728,1	10 12 7,8 9,4			0 128 0 0		*** (A***B)	(A)	

問題	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
ち り エ	机の上や棚の上などに、だんだんたまるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 11.1	8 83.3	1 1.4	3 4.2		0 0	72	*** (B***B̄)	B	
		女	f 7.1	4 82.1	0 0	6 10.7		0 0	56	*** (B***B̄)	B	
		全	f 9.4	12 82.8	1 0.8	9 7.0		0 0	128	*** (B***B̄)	B	
甲 ア 9	どちらの方が見通しがわるい（密度が濃い）と思いますか。	男	f 66.7	34 25.5	13		4 7.8	0 0	51	*** (A**Ā)	A	
		女	f 58.2	46 32.9	26		6 7.6	1 1.3	79	*** (A**B)	(A)	
		全	f 61.5	80 30.0	39		10 7.7	1 0.8	130	*** (A***Ā)	A	
イ A き り ウ B も や エ	遠くにたなびいている場合、どちらの語を使って呼びますか。	男	f 13.7	7 76.5	3 5.9	2 3.9		0 0	51	*** (B***B̄)	B	
		女	f 16.5	13 77.2	3 3.8	2 2.5		0 0	79	*** (B***B̄)	B	
		全	f 15.4	20 76.9	6 4.6	4 3.1		0 0	130	*** (B***B̄)	B	
	あなた自身がつまれてしまった場合には、どちらの語を使って言いますか。	男	f 60.8	31 25.5	13 11.8	6 2.0		0 0	51	*** (A***B)	(A)	
		女	f 65.8	52 27.8	5 6.3	0 0		0 0	79	*** (A***Ā)	A	
		全	f 63.8	83 26.9	11 8.5	1 0.8		0 0	130	*** (A***Ā)	A	
	夜間発生するのは、どちらの語を使って呼びますか。	男	f 45.1	23 33.3	17 13.7	7 7.8		0 0	51	***		
		女	f 43.0	34 43.0	7 8.9	2 2.5		2 2.5	79	***		
		全	f 43.8	57 39.2	14 10.8	6 4.6		2 1.5	130	***		
乙 ア 9	どちらの方が、見通しがわるい（密度が濃い）と思いますか。	男	f 12.5	9 80.6	58		4 5.6	1 1.4	72	*** (B***B̄)	B	
		女	f 5.4	3 87.5	49		3 5.4	1 1.8	56	*** (B***B̄)	B	
		全	f 9.4	12 83.6	107		7 5.5	2 1.6	128	*** (B***B̄)	B	
A か す み イ	夜間発生するものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 18.1	13 70.8	51 4.2	5 6.9		0 0	72	*** (B***B̄)	B	
		女	f 8.9	5 75.0	42 3.6	7 12.5		0 0	56	*** (B***B̄)	B	
		全	f 14.1	18 72.7	93 3.9	12 9.3		0 0	128	*** (B***B̄)	B	

問題	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
B ウ き り	気象通報など気象上のことばとしては、どちらの方が適していますか。	男	f 6	64 88.9			2 2.8	0 0	72	*** (B***B̄)	B	
		女	f 1	55 98.2			0 0	0 0	56	*** (B***B̄)	B	
		全	f 7	119 93.0			2 1.6	0 0	128	*** (B***B̄)	B	
エ	どちらの方が、文学的なことばだと感じますか。	男	f 63	4 87.5	5.6		4 5.6	1 1.4	72	*** (A***Ā)	A	
		女	f 50	5 89.3	8.9		0 0	1 1.8	56	*** (A***Ā)	A	
		全	f 113	9 88.3	7.0		4 3.1	2 1.6	128	*** (A***Ā)	A	
甲 10	男女とも用いる（着用する）のは、どちらですか。	男	f 45	0 88.2	6 11.8	0 0	0 0	0 0	51	*** (A***Ā)	A	
		女	f 77	2 97.5	0 2.5	0 0	0 0	0 0	79	*** (A***Ā)	A	
		全	f 122	2 93.8	6 4.6	0 0	0 0	0 0	130	*** (A***Ā)	A	
A イ え り ま き	洋服の場合に用いるとしたら、どちらですか。	男	f 42	5 82.4	3 9.8	1 2.0	0 0	0 0	51	*** (A***Ā)	A	
		女	f 56	11 70.9	11 13.9	1 1.3	0 0	0 0	79	*** (A***Ā)	A	
		全	f 98	16 75.4	14 12.3	2 1.5	0 0	0 0	130	*** (A***Ā)	A	
B ウ か た か け	実用的、装飾的というように分けると、どちらの方が実用的だと思いますか。	男	f 37	9 72.5			5 9.8	0 0	51	*** (A***Ā)	A	
		女	f 53	20 67.1	25.3		6 7.6	0 0	79	*** (A***Ā)	A	
		全	f 90	29 69.2	22.3		11 8.5	0 0	130	*** (A***Ā)	A	
エ	きつねやたぬきの毛皮でできている場合には、どちらの語を使って呼びますか。	男	f 36	9 70.6	6 17.6	0 11.8	0 0	0 0	51	*** (A***Ā)	A	
		女	f 66	5 83.5	8 6.3	0 10.1	0 0	0 0	79	*** (A***Ā)	A	
		全	f 102	14 78.5	14 10.8	0 10.8	0 0	0 0	130	*** (A***Ā)	A	
乙 10 ア	頭にもかぶるのは、どちらですか。	男	f 3	67 4.2	1 93.1	1 1.4	0 0	0 0	72	*** (B***B̄)	B	
		女	f 4	46 7.1	5 82.1	1 8.9	0 1.8	0 0	56	*** (B***B̄)	B	
		全	f 7	113 5.5	6 88.3	2 4.7	0 1.6	0 0	128	*** (B***B̄)	B	

問題	問	題	文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差		
A マフラー	イ		男女とも使うのは、どちらですか。	男	f %	66 91.7	2 2.8	3 4.2	1 1.4		0 0	72	*** (A*** \bar{A})	A		
				女	f %	48 85.7	1 1.8	6 10.7	1 1.8		0 0	56	*** (A*** \bar{A})	A		
				全	f %	114 89.1	3 2.3	9 7.0	2 1.6		0 0	128	*** (A*** \bar{A})	A		
	ウ		四角の形をしているのは、どちらですか。	男	f %	1 1.4	68 94.4	2 2.8	1 1.4		0 0	72	*** (B*** \bar{B})	B		
				女	f %	1 1.8	51 91.1	2 3.6	1 1.8		1 1.8	56	*** (B*** \bar{B})	B		
				全	f %	2 1.6	119 93.0	4 3.1	2 1.6		1 0.8	128	*** (B*** \bar{B})	B		
B スカーフ	エ		細長い形をしているのは、どちらですか。	男	f %	70 97.2	1 1.4	1 1.4	0 0		0 0	72	*** (A*** \bar{A})	A		
				女	f %	53 94.6	1 1.8	1 1.8	1 1.8		0 0	56	*** (A*** \bar{A})	A		
				全	f %	123 96.1	2 1.6	2 1.6	1 0.8		0 0	128	*** (A*** \bar{A})	A		
	ア	11		どちらの方が、こまかいと思いますか。	男	f %	13 25.5	33 64.7			4 7.8	1 2.0	51	*** (B** \bar{B})	B	
					女	f %	23 29.1	51 64.6			5 6.3	0 0	79	*** (B*** \bar{B})	B	
					全	f %	36 27.7	84 64.6			9 6.9	1 0.8	130	*** (B*** \bar{B})	B	
A ちり	イ		ほうきではき集めて捨てるものを呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f %	39 76.5	5 9.8	4 7.8	2 3.9		1 2.0	51	*** (A*** \bar{A})	A		
				女	f %	65 82.3	8 10.1	3 3.8	3 3.8		0 0	79	*** (A*** \bar{A})	A		
				全	f %	104 80.0	13 10.0	7 5.4	5 3.8		1 0.8	130	*** (A*** \bar{A})	A		
	ウ		はたきではたい取り去るものを呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f %	6 11.8	43 84.3	1 2.0	0 0		1 2.0	51	*** (B*** \bar{B})	B		
				女	f %	6 7.6	71 89.9	2 2.5	0 0		0 0	79	*** (B*** \bar{B})	B		
				全	f %	12 9.2	114 87.7	3 2.3	0 0		1 0.8	130	*** (B*** \bar{B})	B		
B ほこり	エ		大気中の微細な粒子を、科学的に呼ぶときには、どちらの語の方が適していますか。	男	f %	33 64.7	13 25.5	1 2.0	3 5.9		1 2.0	51	*** (A** \bar{A})	A		
				女	f %	49 62.0	14 17.7	4 5.1	12 15.2		0 0	79	*** (A** \bar{A})	A		
				全	f %	82 63.1	27 20.8	5 3.8	15 11.5		1 0.8	130	*** (A*** \bar{A})	A		

問題	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
乙	11	ア	水分などをしぼり取った残りは、どちらの語で呼びますか。	男	f %	70 1	1 0		0 72	*** (A*** \bar{A})	A	
					97.2 1.4	1.4 0	0 0					
				女	f %	52 3	0 1		0 56			
	92.9 5.4	0 1.8	0 0									
全	f %	122 4	1 1		0 128	*** (A*** \bar{A})	A					
	95.3 3.1	0.8 0.8	0 0									
A	イ	液体の底にたまった不純物などは、どちらの語で呼びますか。	男	f %	55 8				0 9		0 72	*** (A*** \bar{A})
				76.4 11.1	0 12.5	0 0						
			女	f %	42 1	1 12		0 56	*** (A*** \bar{A})	A		
	75.0 1.8	1.8 21.4	0 0									
全	f %	97 9	1 21		0 128	*** (A*** \bar{A})	A					
	75.8 7.0	0.8 16.4	0 0									
B	ウ	料理のあとで捨てるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f %	9 58				4 1		0 72	*** (B*** \bar{B})
				12.5 80.6	5.6 1.4	0 0						
			女	f %	5 43	5 3		0 56	*** (B*** \bar{B})	B		
	8.9 76.8	8.9 5.4	0 0									
全	f %	14 101	9 4		0 128	*** (B*** \bar{B})	B					
	10.9 78.9	7.0 3.1	0 0									
エ	くず	他の人々が遅りぬいていった後に残ったものを呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f %	39 21				10 2		0 72	*** (A**B)
				54.2 29.2	13.9 2.8	0 0						
			女	f %	30 11	8 7		0 56	*** (A***B)	(A)		
	53.6 19.6	14.3 12.5	0 0									
全	f %	69 32	18 9		0 128	*** (A***B)	(A)					
	53.9 25.0	14.1 7.0	0 0									
甲	12	ア	畑などで植物として見ている場合には、植物の名として、あなたはどちらの語を使って呼びますか。	男	f %				9 41	0 0	1 51	*** (B*** \bar{B})
					17.6 80.4	0 0	2.0 0					
				女	f %	15 63	1 0		0 79	*** (B*** \bar{B})	B	
	19.0 79.7	1.3 0	0 0									
全	f %	24 104	1 0	1 130	*** (B*** \bar{B})	B						
	18.5 80.0	0.8 0	0.8 0									
A	イ	から(殻)をかぶったままの、なまの実を店で買う場合には、どちらの語を使いますか。	男	f %				4 43	1 1	2 51	*** (B*** \bar{B})	B
				7.8 84.3	2.0 2.0	3.9 0						
			女	f %	15 59	4 0	1 79	*** (B*** \bar{B})	B			
	19.0 74.7	5.1 0	1.3 0									
全	f %	19 102	5 1	3 130	*** (B*** \bar{B})	B						
	14.6 78.5	3.8 0.8	2.3 0									
ウ	南京豆	煎って殻を取り去った、赤茶色の皮のついたままの場合には、どちらの語を使って呼びますか。	男	f %				27 18	3 1	2 51	***	
				52.9 35.3	5.9 2.0	3.9 0						
			女	f %	51 20	8 0	0 79	*** (A*** \bar{A})	A			
	64.6 25.3	10.1 0	0 0									
全	f %	78 38	11 1	2 130	*** (A** \bar{A})	A						
	60.0 29.2	8.5 0.8	1.5 0									

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
B 落花生	殻も皮もむいて、バターや塩で味をつけた、白い豆を呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f 22	f 13	f 2	f 12		2	51	※※ ※※(A※※NO) ※※(A※※NO)	(A)	
		女	f 43	f 14	f 6	f 16		0	79			
		%	54.4	17.7	7.6	20.3		0				
		全	f 65	f 27	f 8	f 28		2	130			
		%	50.0	20.8	6.2	21.5		1.5				
乙 12	から(殻)をかぶったままの、なまの実を店で買う場合には、どちらの語を使いますか。	男	f 4	f 54	f 6	f 7		1	72	※※(B※※B) ※※(B※※B) ※※(B※※B)	B	
		女	f 4	f 40	f 9	f 3		0	56			
		%	7.1	71.4	16.1	5.4		0				
		全	f 8	f 94	f 15	f 10		1	128			
		%	6.3	73.4	11.7	7.8		0.8				
A イ ビー ナツ ツ	煎って殻を取り去った赤茶色の皮のついたままの場合には、どちらの語を使って呼びますか。	男	f 36	f 20	f 13	f 2		1	72	※※(A※※B) ※※ ※※	(A)	
		女	f 22	f 19	f 14	f 1		0	56			
		%	39.3	33.9	25.0	1.8		0				
		全	f 58	f 39	f 27	f 3		1	128			
		%	45.3	30.5	21.1	2.3		0.8				
B ウ	殻をかぶったまま煎ってある場合には、あなたはどちらの語を使って呼びますか。	男	f 9	f 50	f 9	f 3		1	72	※※(B※※B) ※※(B※※B) ※※(B※※B)	B	
		女	f 2	f 39	f 11	f 4		0	56			
		%	3.6	69.6	19.6	7.1		0				
		全	f 11	f 89	f 20	f 7		1	128			
		%	8.6	69.5	15.6	5.5		0.8				
南京豆 エ	殻も皮もむいて、バターや塩で味をつけた白い豆を呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f 64	f 2	f 4	f 2		0	72	※※(A※※A) ※※(A※※A) ※※(A※※A)	A	
		女	f 50	f 2	f 4	f 0		0	56			
		%	89.3	3.6	7.1	0		0				
		全	f 114	f 4	f 8	f 2		0	128			
		%	89.1	3.1	6.3	1.6		0				
甲 13 ア	女性だけが着用するのは、どちらですか。	男	f 1	f 18	f 18	f 13		1	51	※※ ※※ ※※		
		女	f 0	f 22	f 31	f 25		1	79			
		%	0	27.8	39.2	31.6		1.3				
		全	f 1	f 40	f 49	f 38		2	130			
		%	0.8	30.8	37.7	29.2		1.5				
A セー ター イ	前があいていてボタンでとめる型と、頭からかぶる型とに分けると、前があいているものは、どちらの語で呼びますか。	男	f 1	f 44	f 1	f 4		1	51	※※(B※※B) ※※(B※※B) ※※(B※※B)	B	
		女	f 1	f 75	f 3	f 0		0	79			
		%	1.3	94.9	3.8	0		0				
		全	f 2	f 119	f 4	f 4		1	130			
		%	1.5	91.5	3.1	3.1		0.8				

問題	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
B	ウ	カー ディガン	男	f 12 %23.5	8 15.7	9 17.6	21 41.2	1 2.0	51	※※		
			女	f 17 %21.5	0 0.36	29 74.1	33 8.8	0 0	79			
			全	f 29 %22.3	8 6.2	38 29.2	54 41.5	1 0.8	130	※※		
B	エ	カー ディガン	男	f 4 %7.8	30 58.8	13 25.5	3 5.9	1 2.0	51	※※ (B※※AB)	(B)	
			女	f 5 %6.3	29 36.7	34 43.0	11 13.9	0 0	79			
			全	f 9 %6.9	59 45.4	47 36.2	14 10.8	1 0.8	130	※※		
乙	ア	13	男	f 12 %16.7	42 58.3	10 13.9	8 11.1	0 0	72	※※ (B※※A)	(B)	
			女	f 4 %7.1	30 53.6	9 16.1	13 23.2	0 0	56			
			全	f 16 %12.5	72 56.3	19 14.8	21 16.4	0 0	128	※※ (B※※NO)	(B)	
A	イ	セー ター	男	f 7 %9.7	55 76.4	3 4.2	6 8.3	1 1.4	72	※※ (B※※B̄)	B	
			女	f 2 %3.6	49 87.5	2 3.6	3 5.4	0 0	56			
			全	f 9 %7.0	104 81.3	5 3.9	9 7.0	1 0.8	128	※※ (B※※B̄)	B	
B	ウ	ジャ ケット	男	f 18 %25.0	26 36.1	9 12.5	17 23.6	2 2.8	72	※※		
			女	f 15 %26.8	15 26.8	13 23.2	12 21.4	1 1.8	56			
			全	f 33 %25.8	41 32.0	22 17.2	29 22.7	3 2.3	128	※※		
B	エ	ジャ ケット	男	f 36 %50.0	20 27.8	7 9.7	7 9.7	2 2.8	72	※※ (A※B)	(A)	
			女	f 30 %53.6	12 21.4	9 16.1	5 8.9	0 0	56			
			全	f 66 %51.6	32 25.0	16 12.5	12 9.4	2 1.6	128	※※ (A※※B)	(A)	
甲	ア	14	男	f 19 %37.3	27 52.9	2 3.9	1 2.0	2 3.9	51	※※		
			女	f 32 %40.5	35 44.3	6 7.6	6 7.6	0 0	79			
			全	f 51 %39.2	62 47.7	8 6.2	7 5.4	2 1.5	130	※※		

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差	
A	イ	バルコニー	男	f 13	f 32	f 1	f 3		2	51	※※ (B※※A)	(B)	
			女	f 12	f 59	f 2	f 5		1	79	※※ (B※※B)	B	
			全	f 25	f 91	f 3	f 8		3	130	※※ (B※※B)	B	
				% 25.5	% 62.7	% 2.0	% 5.9		% 3.9				
B	ウ	ベランダ	男	f 33	f 10			6	2	51	※※ (A※※A)	A	
			女	f 61	f 10			6	2	79	※※ (A※※A)	A	
			全	f 94	f 20			12	4	130	※※ (A※※A)	A	
				% 72.3	% 15.4			% 9.2	% 3.1				
A	イ	ベランダ	男	f 9	f 24	f 0	f 16		2	51	※※		
			女	f 7	f 53	f 6	f 13		0	79	※※ (B※※B)	B	
			全	f 16	f 77	f 6	f 29		2	130	※※ (B※※B)	B	
				% 17.6	% 47.1	% 0.3	% 14.4		% 3.9				
B	ウ	テラス	男	f 27	f 32			12	1	72	※※		
			女	f 21	f 29			6	0	56	※※		
			全	f 48	f 61			18	1	128	※※		
				% 37.5	% 44.4			% 16.7	% 1.4				
A	イ	ベランダ	男	f 28	f 40	f 0	f 4		0	72	※※		
			女	f 15	f 41	f 0	f 0		0	56	※※ (B※※B)	B	
			全	f 43	f 81	f 0	f 4		0	128	※※ (B※※B)	B	
				% 38.9	% 55.6	% 0.0	% 5.6		% 0.0				
B	ウ	テラス	男	f 31	f 29	f 3	f 9		0	72	※※		
			女	f 33	f 16	f 0	f 7		0	56	※※ (A※※B)	(A)	
			全	f 64	f 45	f 3	f 16		0	128	※※		
				% 43.1	% 40.3	% 4.2	% 12.5		% 0.0				

問題	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差			
甲	ア	15	金属製のもの、どちらの語で呼びますか。	男	f %	36 70.6	7 13.7	5 9.8	2 3.9	1 2.0	51	$\chi^2 (A \leftrightarrow \bar{A})$	A		
				女	f %	61 77.2	5 6.3	9 11.4	4 5.1	0	79	$\chi^2 (A \leftrightarrow \bar{A})$	A		
				全	f %	97 74.6	12 9.2	14 10.8	6 4.6	1 0.8	130	$\chi^2 (A \leftrightarrow \bar{A})$	A		
A	イ	15	陶器でできているものは、どちらの語で呼びますか。	男	f %	8 15.7	27 52.9	7 13.7	8 15.7	1 2.0	51	$\chi^2 (B \leftrightarrow A)$ $\chi^2 (B \leftrightarrow NO)$	(B)		
				女	f %	28 35.4	37 46.8	5 6.3	8 10.1	1 1.3	79	χ^2			
				全	f %	36 27.7	64 49.2	12 9.2	16 12.3	2 1.5	130	$\chi^2 (B \leftrightarrow A)$	(B)		
B	ウ	15	持つところ（取手）がついているものと、ついていないものとに分けると、取手のあるものは、どちらの語で呼びますか。	男	f %	32 62.7	5 9.8	9 17.6	4 7.8	1 2.0	51	$\chi^2 (A \leftrightarrow AB)$	(A)		
				女	f %	58 73.4	4 5.1	13 16.5	4 5.1	0	79	$\chi^2 (A \leftrightarrow \bar{A})$	A		
				全	f %	90 69.2	9 6.9	22 16.9	8 6.2	1 0.8	130	$\chi^2 (A \leftrightarrow \bar{A})$	A		
エ	15	どちらの方が日用品あるいは実用的という感じがしますか。	男	f %	4 7.8	43 84.3			3 5.9	1 2.0	51	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
			女	f %	5 6.3	61 77.2			13 16.5	0	79	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
			全	f %	9 6.9	104 80.0			16 12.3	1 1.8	130	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
乙	ア	15	ガラス以外、たとえば金属製や陶製のものは、どちらの語で呼びますか。	男	f %	8 11.1	57 79.2	1 1.4	6 8.3	0 0	72	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
				女	f %	6 10.7	46 82.1	0 0	3 5.4	1 1.8	56	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
				全	f %	14 10.9	103 80.5	1 0.8	9 7.0	1 0.8	128	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
A	イ	15	どちらの方が、形が大きいものを指しますか。	男	f %	22 30.6	32 44.4			17 23.6	1 1.4	72	χ^2		
				女	f %	7 12.5	34 60.7			14 25.0	1 1.8	56	$\chi^2 (B \leftrightarrow ?)$	(B)	
				全	f %	29 22.7	66 51.6			31 24.2	2 1.6	128	$\chi^2 (B \leftrightarrow ?)$	(B)	
ウ	15	どちらの方が、日用品として、実用的ですか。	男	f %	2 2.8	64 88.9			5 6.9	1 1.4	72	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
			女	f %	0 0.92	52 92.9			3 5.4	1 1.8	56	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		
			全	f %	2 1.6	116 90.6			8 6.3	2 1.6	128	$\chi^2 (B \leftrightarrow \bar{B})$	B		

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
B カップ エ	洋酒を飲むときのうつわを呼ぶ場合には、どちらの語を使いますか。	男	f 71 % 98.6	0	1	0	0	0	72	※※ (A※※ \bar{A})	A	
		女	f 55 % 98.2	0	0	0	0	1.8	56	※※ (A※※ \bar{A})	A	
		全	f 126 % 98.4	0	1	0	0	0.8	128	※※ (A※※ \bar{A})	A	
甲 ア 16	どちらの語の方が、経験が深い人をさしますか。	男	f 37 % 72.5	6	11.8		8	0	51	※※ (A※※ \bar{A})	A	
		女	f 46 % 58.2	16	20.3		17	0	79	※※ (A※※?)	(A)	
		全	f 83 % 63.8	22	16.9		25	0	130	※※ (A※※ \bar{A})	A	
A イ ベテラン	どちらの語の方が、知的な高級な仕事の場合に使われますか。	男	f 1 % 2.0	48	94.1		2	0	51	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		女	f 1 % 1.3	74	93.7		4	0	79	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		全	f 2 % 1.5	122	93.8		6	0	130	※※ (B※※ \bar{B})	B	
B ウ エキスパート	単に経験をつんでいるという場合と、経験がある上に理論や技術がすぐれている場合とに分けると、単に経験だけがあるという人は、どちらの語を使って呼びますか。	男	f 43 % 84.3	5	9.8	2	1	0	51	※※ (A※※ \bar{A})	A	
		女	f 67 % 84.8	9	11.4	2	1	0	79	※※ (A※※ \bar{A})	A	
		全	f 110 % 84.6	14	10.8	4	2	0	130	※※ (A※※ \bar{A})	A	
エ	その道の奥義に通じているような達人・第一人者を呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f 15 % 29.4	31	60.8	3	2	0	51	※※ (B※※A)	(B)	
		女	f 27 % 34.2	36	45.6	14	2	0	79	※※		
		全	f 42 % 32.3	67	51.5	17	4	0	130	※※ (B※※A)	(B)	
乙 ア 16	どちらの語の方が、熟練度の高い人をさしますか。	男	f 36 % 50.0	31	43.1		5	0	72	※※		
		女	f 22 % 39.3	29	51.8		5	0	56	※※		
		全	f 58 % 45.3	60	46.9		10	0	128	※※		
A イ エキスパート	どちらの語の方が、知的な高級な仕事に使われますか。	男	f 13 % 18.1	54	75.0		5	0	72	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		女	f 7 % 12.5	45	80.4		4	0	56	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		全	f 20 % 15.6	99	77.3		9	0	128	※※ (B※※ \bar{B})	B	

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
B ウ オーソリ ティ	単に熟練している場合と、熟練している上に理論も技術もすぐれている場合とに分ける人は、単に熟練している人は、どちらの語を使っていますか。	男	f 54	16	1	1		0	72	※※(A※※ \bar{A})	A	
		女	f 47	7	1	1		0	56	※※(A※※ \bar{A})	A	
		全	f 101	23	2	2		0	128	※※(A※※ \bar{A})	A	
			% 75.0	22.2	1.4	1.4		0				
エ	その道の奥義に通じているような達人・第一人者を呼ぶときには、どちらの語を使いますか。	男	f 10	58	4	0		0	72	※※(B※※ \bar{B})	B	
		女	f 11	44	0	1		0	56	※※(B※※ \bar{B})	B	
		全	f 21	102	4	1		0	128	※※(B※※ \bar{B})	B	
			% 13.9	80.6	5.6	0		0				
甲 17	演奏しながら町を進行して行く音楽隊を言う場合には、どちらの語を使いますか。	男	f 2	49	0	0		0	51	※※(B※※ \bar{B})	B	
		女	f 0	77	1	1		0	79	※※(B※※ \bar{B})	B	
		全	f 2	126	1	1		0	130	※※(B※※ \bar{B})	B	
			% 3.9	96.1	0	0		0				
A イ オーケ ストラ	クラシック系統の音楽と、ジャズ系統の音楽とに分けると、ジャズ系統のものを演奏する人々の集団を言う場合には、どちらの語を使いますか。	男	f 0	50	1	0		0	51	※※(B※※ \bar{B})	B	
		女	f 1	77	1	0		0	79	※※(B※※ \bar{B})	B	
		全	f 1	127	2	0		0	130	※※(B※※ \bar{B})	B	
			% 0.98	98.0	2.0	0		0				
B ウ バンド	どちらの方が、人数や組織からみて規模が大きいのをさしていますか。	男	f 51	0				0	51	※※(A※※ \bar{A})	A	
		女	f 77	0			2	0	79	※※(A※※ \bar{A})	A	
		全	f 128	0			2	0	130	※※(A※※ \bar{A})	A	
			% 100	0			2.5	0				
エ	サーカスや催し物などのふんい気をもりあげるために演奏する人々の集団を言う場合には、どちらの語を使いますか。	男	f 4	41	5	1		0	51	※※(B※※ \bar{B})	B	
		女	f 5	65	7	2		0	79	※※(B※※ \bar{B})	B	
		全	f 9	106	12	3		0	130	※※(B※※ \bar{B})	B	
			% 7.8	80.4	9.8	2.0		0				
乙 17	欧州に演奏旅行を続ける～。	男	f 3	67	2			0	72	※※(B※※ \bar{B})	B	
		女	f 0	55	1			0	56	※※(B※※ \bar{B})	B	
		全	f 3	122	3			0	128	※※(B※※ \bar{B})	B	
			% 4.2	93.1	2.8			0				

問題	問 題 文		A	B	A B	N O	?	D K	T	有 意 水 準	傾向	男女 差
A 楽 隊	イ	～が町を行進する。	男	f 67 % 93.1	2 3 2.8 4.2			0 0	72 0	有意 (A _{楽隊} \bar{A})	A	
			女	f 55 % 98.2	0 1 0 1.8			0 0	56 0	有意 (A _{楽隊} \bar{A})	A	
			全	f 122 % 95.3	2 4 1.6 3.1			0 0	128 0	有意 (A _{楽隊} \bar{A})	A	
B 楽 団	ウ	サーカス小屋の～。	男	f 48 % 66.7	20 4 27.8 5.6			0 0	72 0	有意 (A _{楽団} \bar{A})	A	
			女	f 38 % 67.9	12 6 21.4 10.7			0 0	56 0	有意 (A _{楽団} \bar{A})	A	
			全	f 86 % 67.2	32 10 25.0 7.8			0 0	128 0	有意 (A _{楽団} \bar{A})	A	
エ		放送局専属の～。	男	f 5 % 6.9	67 0 93.1 0			0 0	72 0	有意 (B _{放送} \bar{B})	B	
			女	f 0 % 0	56 0 100 0			0 0	56 0	有意 (B _{放送} \bar{B})	B	
			全	f 5 % 3.9	123 0 96.1 0			0 0	128 0	有意 (B _{放送} \bar{B})	B	
甲 18	ア	～はやった帽子。	男	f 45 % 88.2	0 6 0 11.8			0 0	51 0	有意 (A _{野球} \bar{A})	A	
			女	f 74 % 93.7	1 4 1.3 5.1			0 0	79 0	有意 (A _{野球} \bar{A})	A	
			全	f 119 % 91.5	1 10 0.8 7.7			0 0	130 0	有意 (A _{野球} \bar{A})	A	
A イ ひ と こ ろ		～町の人口が急にふえてきた。	男	f 0 % 0	51 0 100 0			0 0	51 0	有意 (B _{野球} \bar{B})	B	
			女	f 0 % 0	79 0 100 0			0 0	79 0	有意 (B _{野球} \bar{B})	B	
			全	f 0 % 0	130 0 100 0			0 0	130 0	有意 (B _{野球} \bar{B})	B	
B ウ ち か ご ろ		～どうも胃の調子がわるい。	男	f 0 % 0	51 0 100 0			0 0	51 0	有意 (B _{野球} \bar{B})	B	
			女	f 2 % 2.5	77 0 97.5 0			0 0	79 0	有意 (B _{野球} \bar{B})	B	
			全	f 2 % 1.5	128 0 98.5 0			0 0	130 0	有意 (B _{野球} \bar{B})	B	
エ		～からみると、景気もかなりよくなってきた。	男	f 50 % 98.0	0 1 0 2.0			0 0	51 0	有意 (A _{野球} \bar{A})	A	
			女	f 78 % 98.7	0 1 0 1.3			0 0	79 0	有意 (A _{野球} \bar{A})	A	
			全	f 128 % 98.5	0 2 0 1.5			0 0	130 0	有意 (A _{野球} \bar{A})	A	

問題	問 題 文		A	B	A B	N O	?	D K	T	有 意 水 準	傾向	男女差
乙 18	ア	～はやった帽子。	男	f 45	18	9		0	72	※※ (A※ \bar{A})	A	
			女	f 31	22	3		0	56	※※		
			全	f 76	40	12		0	128	※※ (A※ \bar{A})	A	
アイ	さきごろ	～町の人口が急にふえてきた。	男	f 1	71	0		0	72	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			女	f 2	54	0		0	56	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			全	f 3	125	0		0	128	※※ (B※※ \bar{B})	B	
ウ B	ちかごろ	～どうも胃の調子が悪い。	男	f 2	70	0		0	72	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			女	f 0	56	0		0	56	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			全	f 2	126	0		0	128	※※ (B※※ \bar{B})	B	
エ		～から見ると、景気もかなりよくなってきた。	男	f 70	2	0		0	72	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			女	f 53	2	1		0	56	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			全	f 123	4	1		0	128	※※ (A※※ \bar{A})	A	
甲 乙 19	ア	土地と～を買う。	男	f 3	118	1		1	123	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			女	f 8	120	7		0	135	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			全	f 11	238	8		1	258	※※ (B※※ \bar{B})	B	
アイ	う	～の家族は、みなスポーツが好きです。	男	f 116	4	3		0	123	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			女	f 133	2	0		0	135	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			全	f 249	6	3		0	258	※※ (A※※ \bar{A})	A	
ウ		～の格式を重んじる。	男	f 8	115	0		0	123	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			女	f 8	124	3		0	135	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			全	f 16	239	3		0	258	※※ (B※※ \bar{B})	B	

問題	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
B いえ	あしたは～にいない。	男	f 52.0	64 17.1	21 30.9				0 0	123 0	※※(A※AB)	(A)
		女	f 70.4	95 9.6	13 20.0				0 0	135 0	※※(A※※A)	A
		全	f 61.6	159 13.2	34 25.2				0 0	258 0	※※(A※※A)	A
甲 乙	女子大の～。	男	f 85.4	105 8.1	10 6.5				0 0	123 0	※※(A※※A)	A
		女	f 87.4	118 5.2	7 7.4				0 0	135 0	※※(A※※A)	A
		全	f 86.4	223 6.6	17 7.0				0 0	258 0	※※(A※※A)	A
20 A 学生	高等学校の～。	男	f 6.5	8102 82.9	13 10.6				0 0	123 0	※※(B※※B)	B
		女	f 6.7	9113 83.7	13 9.6				0 0	135 0	※※(B※※B)	B
		全	f 6.6	17215 83.3	26 10.1				0 0	258 0	※※(B※※B)	B
ウ B 生徒	洋裁学校の～。	男	f 5.7	7111 90.2	5 4.1				0 0	123 0	※※(B※※B)	B
		女	f 4.4	6125 92.6	4 3.0				0 0	135 0	※※(B※※B)	B
		全	f 5.0	13236 91.5	9 3.5				0 0	258 0	※※(B※※B)	B
エ	女子高校の～。	男	f 7.3	9106 86.2	8 6.5				0 0	123 0	※※(B※※B)	B
		女	f 3.7	5119 88.1	11 8.1				0 0	135 0	※※(B※※B)	B
		全	f 5.4	14225 87.2	19 7.4				0 0	258 0	※※(B※※B)	B
甲 乙 21 A 失敗	ちょっとした～が大火の原因となった。	男	f 4.9	6112 91.1	5 4.1				0 0	123 0	※※(B※※B)	B
		女	f 8.9	12114 84.4	9 6.7				0 0	135 0	※※(B※※B)	B
		全	f 7.9	18226 87.6	14 5.4				0 0	258 0	※※(B※※B)	B
イ	事業の～を苦にして病気になる。	男	f 95.1	117 3.3	4 1.6				0 0	123 0	※※(A※※A)	A
		女	f 99.3	134 0.7	1 0				0 0	135 0	※※(A※※A)	A
		全	f 97.3	251 1.9	5 0.8				0 0	258 0	※※(A※※A)	A

問題	問 題 文		A	B	A B	N O	?	D K	T	有意水準	傾向	男女差
B 過 失	交渉の～の責任をとる。	男	f 114 % 92.7	8 6.5 0.8	1 0.8			0 0	123	*** (A*** \bar{A})	A	
		女	f 114 % 84.4	18 13.3 2.2	3 2.2			0 0	135	*** (A*** \bar{A})	A	
		全	f 228 % 88.4	26 10.1 1.6	4 1.6			0 0	258	*** (A*** \bar{A})	A	
	相手の～に乗じて、優勝する。	男	f 81 % 65.9	31 25.2 8.9	11 8.9			0 0	123	*** (A*** \bar{A})	A	
		女	f 85 % 63.0	37 27.4 8.9	12 8.9			1 0.7	135	*** (A*** \bar{A})	A	
		全	f 166 % 64.3	68 26.4 8.9	23 8.9			1 0.4	258	*** (A*** \bar{A})	A	
甲 22	アトリエで～に余念のない鈴木画伯。	男	f 17 % 33.3	33 64.7 2.0	1 2.0			0 0	51	*** (B*** \bar{B})	B	
		女	f 25 % 31.6	49 62.0 6.3	5 6.3			0 0	79	*** (B*** \bar{B})	B	
		全	f 42 % 32.3	82 63.1 4.6	6 4.6			0 0	130	*** (B*** \bar{B})	B	
	新型自動車の～を開始した。	男	f 45 % 88.2	6 11.8 0	0			0 0	51	*** (A*** \bar{A})	A	
		女	f 69 % 87.3	9 11.4 1.3	1 1.3			0 0	79	*** (A*** \bar{A})	A	
		全	f 114 % 87.7	15 11.5 0.8	1 0.8			0 0	130	*** (A*** \bar{A})	A	
A 製 作	宣伝映画・記録映画の～をやる。	男	f 27 % 52.9	21 41.2 5.9	3 5.9			0 0	51	***		
		女	f 32 % 40.5	45 57.0 2.5	2 2.5			0 0	79	***		
		全	f 59 % 45.4	66 50.8 3.8	5 3.8			0 0	130	***		
	おもちゃのデザインと～をやる。	男	f 27 % 52.9	22 43.1 3.9	2 3.9			0 0	51	***		
		女	f 45 % 57.0	30 38.0 5.1	4 5.1			0 0	79	***		
		全	f 72 % 55.4	52 40.0 4.6	6 4.6			0 0	130	***		
乙 22	試作品を～する。	男	f 24 % 33.3	47 65.3 0	0			1 1.4	72	*** (B*** \bar{B})	B	
		女	f 21 % 37.5	32 57.1 5.4	3 5.4			0 0	56	***		
		全	f 45 % 35.2	79 61.7 2.3	3 2.3			1 0.8	128	*** (B*** \bar{B})	B	

問題	問 題 文		A	B	A B	N	O	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
A 作成	設計図を～する。	男	f 34	36	1				1	72	有意水準		
			% 47.2	50.0	1.4				1.4				
		女	f 24	32	0				0	56			
			% 42.9	57.1	0				0				
	原案を～する。	男	f 62	8	1				1	72	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			% 86.1	11.1	1.4				1.4				
		女	f 50	6	0				0	56			
			% 89.3	10.7	0				0				
B 作成	天体望遠鏡を～する。	男	f 12	59	0				1	72	有意水準 (B 有意水準 B)	B	
			% 16.7	81.9	0				1.4				
		女	f 4	51	0				1	56			
			% 7.1	91.1	0				1.8				
		男	f 16	110	0				2	128	有意水準 (B 有意水準 B)	B	
			% 12.5	85.9	0				1.6				
甲 23	からだの～に気づく。	男	f 34	15	2				0	51	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			% 66.7	29.4	3.9				0				
		女	f 42	36	1				0	79			
			% 53.2	45.6	1.3				0				
	～なし。	男	f 22	20	9				0	51	有意水準		
			% 43.1	39.2	17.6				0				
		女	f 35	40	4				0	79			
			% 44.3	50.6	5.1				0				
	～な高温が続く。	男	f 5	46	0				0	51	有意水準 (B 有意水準 B)	B	
			% 9.8	90.2	0				0				
		女	f 13	66	0				0	79			
			% 16.5	83.5	0				0				
B 異常	精神に～をきたす。	男	f 22	27	2				0	51	有意水準		
			% 43.1	52.9	3.9				0				
		女	f 39	37	2				1	79			
			% 49.4	46.8	2.5				1.3				
		男	f 61	64	4				1	130	有意水準		
			% 46.9	49.2	3.1				0.8				

問題	問題文		A	B	A B	N O	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
乙23	ア	日米～宣言。	男	f 17	55	0		0	72	有意水準 (B 有意水準 B)	B	有意水準
			女	f 27	29	0		0	56			
			全	f 44	84	0		0	128			
				% 23.6	76.4	0		0				
A協同	イ	陸海空軍の～作戦。	男	f 24	45	3		0	72	有意水準 (B 有意水準 B)	B	
			女	f 23	33	0		0	56			
			全	f 47	78	3		0	128			
				% 33.3	62.5	4.2		0				
B共同	ウ	農業～組合。	男	f 70	2	0		0	72	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			女	f 45	10	1		0	56			
			全	f 115	12	1		0	128			
				% 97.2	2.8	0		0				
エ	小学校と中学校が～で 利用する体育館。	男	f 7	65	0			0	72	有意水準 (B 有意水準 B)	B	
		女	f 4	52	0			0	56			
		全	f 11	117	0			0	128			
			% 9.7	90.3	0			0				
甲24	ア	便利～維持費が高い 欠点がある。	男	f 7	44	0		0	51	有意水準 (B 有意水準 B)	B	
			女	f 8	71	0		0	79			
			全	f 15	115	0		0	130			
				% 10.1	89.9	0		0				
A半面	イ	この見方も～の真理だ	男	f 40	11	0		0	51	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			女	f 58	20	1		0	79			
			全	f 98	31	1		0	130			
				% 73.4	25.3	1.3		0				
ウ	世に知られざる～を描 いた小説。	男	f 23	26	2			0	51	有意水準		
		女	f 47	30	1			0	79			
		全	f 70	56	3			0	130			
			% 53.8	43.1	2.3			0				

問題	問題文		A	B	A B	N O	?	D K	T	有意水準	傾向	男女差
B 反 面	顔の右～が日焼けした。	男	f 51	0	0			0	51	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			% 100	0	0			0				
		女	f 76	3	0			0	79			
			% 96.2	3.8	0			0				
		全	f 127	3	0			0	130	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			% 97.7	2.3	0			0				
			f 50	19	2			1	72			
			% 69.4	26.4	2.8			1.4				
乙 24	～百般に通じる。	男	f 30	20	4			2	56	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			% 53.6	35.7	7.1			3.6				
		女	f 80	39	6			3	128			
			% 62.5	30.5	4.7			2.3				
A 人 世 ウ 人 生 エ	うでひとつで～をわたる。	男	f 33	38	1			0	72	有意水準 (A 有意水準 A)		
			% 45.8	52.8	1.4			0				
		女	f 29	24	2			1	56			
			% 51.8	42.9	3.6			1.8				
	～をはかなんで自殺する。	男	f 62	62	3			1	128	有意水準 (A 有意水準 A)		
			% 48.4	48.4	2.3			0.8				
		女	f 16	52	4			0	72			
			% 22.2	72.2	5.6			0				
	～の機微にふれる。	男	f 11	44	1			0	56	有意水準 (B 有意水準 B)	B	
			% 19.6	78.6	1.8			0				
		女	f 27	96	5			0	128			
			% 21.1	75.0	3.9			0				
	～の機微にふれる。	男	f 44	27	0			0	72	有意水準 (A 有意水準 B)	(A)	
			% 61.1	37.5	0			0				
		女	f 27	27	0			0	56			
			% 48.2	48.2	0			0				
	～の機微にふれる。	全	f 71	54	0			0	128	有意水準 (A 有意水準 B)		
			% 55.5	42.2	0			0				
甲 25 A 平 行	互いに～な二直線。	男	f 50	1	0			0	51	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			% 98.0	2.0	0			0				
		女	f 78	1	0			0	79			
			% 98.7	1.3	0			0				
		全	f 128	2	0			0	130	有意水準 (A 有意水準 A)	A	
			% 98.5	1.5	0			0				
			f 21	28	2			0	51			
			% 41.2	54.9	3.9			0				
	労使双方ともゆずらず、交渉は～線をたどっている。	女	f 42	35	2			0	79	有意水準 (A 有意水準 A)		
			% 53.2	44.3	2.5			0				
		全	f 63	63	4			0	130			
			% 48.5	48.5	3.1			0				

問題	問 題 文		A	B	A B	N	O	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差
B ウ 並	鉄道に～して走る道路。	男	f 21	26	4				0	51	※※		
		女	f 37	41	1				0	79	※※		
		全	f 58	67	5				0	130	※※		
行 エ	トラック競技に～してフィールド競技も行なう。	男	f 2	49	0				0	51	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		女	f 1	78	0				0	79	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		全	f 3	127	0				0	130	※※ (B※※ \bar{B})	B	
乙 25	～を集める。	男	f 15	57	0				0	72	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		女	f 5	48	1				2	56	※※ (B※※ \bar{B})	B	
		全	f 20	105	1				2	128	※※ (B※※ \bar{B})	B	
A 周 知	～の事実だ。	男	f 55	17	0				0	72	※※ (A※※ \bar{A})	A	
		女	f 46	9	1				0	56	※※ (A※※ \bar{A})	A	
		全	f 101	26	1				0	128	※※ (A※※ \bar{A})	A	
ウ B 衆 知	～徹底させる。	男	f 39	31	2				0	72	※※		
		女	f 28	25	1				2	56	※※		
		全	f 67	56	3				2	128	※※		
エ	掲示して、全員に～させる。	男	f 38	30	4				0	72	※※		
		女	f 31	23	1				1	56	※※		
		全	f 69	53	5				1	128	※※		

テスト2. 長岡市会社調査

① テストの時期	1962年11月	
② テストの対象	北越製紙K.K	107名
	津上製作所	91名
計		198名

③ その他	年齢層の層別人員	
	H (41才以上)	70名
	M (31才～40才)	67名
	L (30才以下)	61名
全 (全 体)		198名

出題語	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢差
1	AB エ礼 チ儀	あなたは、どちらのことばを使いますか。	H	f 12 % 17.1	25 33 35.7 47.1	0	0	0	70	差		差
			M	f 22 % 32.8	9 36 13.4 53.7	0	0	0	67	差		差
			L	f 30 % 49.2	1 30 1.6 49.2	0	0	0	61	差		差
			全	f 64 % 32.3	35 99 17.7 50.0	0	0	0	198	差 (AB差A)	(AB)	
	ケ作 ツ ト法イ	あなたは、どちらのことばの方が感じがいいと思いますか。	H	f 22 % 31.4	29 41.4		19 27.1	0	70			
			M	f 22 % 32.8	18 26.9		27 40.3	0	67			
			L	f 22 % 36.1	16 26.2		21 34.4	2 3.3	61	差		
			全	f 66 % 33.3	63 31.8		67 33.8	2 1.0	198	差		
	ウ	どちらの方が新しいことばだと思いますか。	H	f 58 % 82.9	2 2.9		10 14.3	0	70	差 (A差A)	A	
			M	f 57 % 85.1	0		10 14.9	0	67	差 (A差A)	A	
			L	f 50 % 82.0	2 3.3		9 14.8	0	61	差 (A差A)	A	
			全	f 165 % 83.3	4 2.0		29 14.6	0	198	差 (A差A)	A	

出題 語	問 題 文		同	異	A	B	N	O	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢 差
エ	エチケットがさしている事柄（ことばの意味）と、礼儀作法がさしている事柄とは、どこが違うと思いますか。	H	f	37	7					7	19	70	*** (同) DK	(同)
			%	52.9	10.0					10.0	27.1			
		M	f	40	14					3	10	67		
			%	59.7	20.9					4.5	14.9			
		L	f	32	16					5	8	61		
			%	52.5	26.2					8.2	13.1		*** (同) 異	(同)
		全	f	109	37					15	37	198	(同) 異	
			%	55.1	18.7					7.6	18.7		*** (同) DK	(同)

出題 語	問 題 文		A	B	A	B	N	O	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢 差
2	A B うい	ア	H	f	24	38	8			0	70	***	(B)	
				%	34.3	54.3	11.4			0				
			M	f	14	41	12			0	67			
				%	20.9	61.2	17.9			0				
			L	f	13	41	7			0	61			
				%	21.3	67.2	11.5			0		*** (B) B	B	
			全	f	51	120	27			0	198	*** (B) B	B	
				%	25.8	60.6	13.6			0				
	ちえ	イ	H	f	56	8	5			1	70	*** (A) A	A	
				%	80.0	11.4	7.1			1.4				
			M	f	60	5	2			0	67			
				%	89.6	7.5	3.0			0				
			L	f	61	0	0			0	61			
				%	100	0	0			0		*** (A) A	A	
			全	f	177	13	7			1	198	*** (A) A	A	
				%	89.4	6.6	3.5			0.5				
		ウ	H	f	21	41	7			1	70	*** (B) A	(B)	
				%	30.0	58.6	10.0			1.4				
			M	f	7	56	4			0	67			
				%	10.4	83.6	6.0			0		*** (B) B	B	
			L	f	11	47	3			0	61	*** (B) B	B	
				%	18.1	77.0	4.9			0				
			全	f	39	144	14			1	198			
				%	19.7	72.7	7.1			0.5				
	エ		H	f	43	15	10			2	70	*** (A) B	(A)	
				%	61.4	21.4	14.3			2.9				
			M	f	53	5	8			1	67			
				%	79.1	7.5	11.9			1.5		*** (A) A	A	
			L	f	34	8	19			0	61	*** (A) AB	(A)	
				%	55.7	13.1	31.1			0				
			全	f	130	28	37			3	198			
				%	65.7	14.1	18.7			1.5				

出題語	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢差							
	オ	山の上に～が三軒ある。	H	f 11	40	17		2	70	※※ (B※※AB)	(B)								
			% 15.7	57.1	24.3	2.9													
			M	f 11	43	13	0	67	※※ (B※※ \bar{B})				B						
			% 16.4	64.2	19.4	0													
			L	f 13	26	22	0	61						0					
% 21.3	42.6	36.1	0																
全	f 35	109	52	2	198	※※ (B※※AB)	(B)												
% 17.7	55.1	26.3	1.0																
3	A B ア カ コ ツ ブ イ ウ エ	金属製のものは、 どちらの語で呼びま すか。	H	f 61	4	4	1	0	70	※※ (A※※ \bar{A})	A								
			% 87.1	5.7	5.7	1.4	0												
			M	f 56	5	5	0	1	67				※※ (A※※ \bar{A})	A					
			% 83.6	7.5	7.5	0	1.5												
			L	f 45	5	8	3	0	61						0				
			% 73.8	8.2	13.1	4.9	0												
			全	f 162	14	17	4	1	198				※※ (A※※ \bar{A})	A					
			% 81.8	7.1	8.6	2.0	0.5												
			イ	陶器でできている ものは、どちらの語 で呼びますか。	H	f 8	35	5	19				3	70	※※ (B※※NO)	(B)			
					% 11.4	50.0	7.1	27.1	4.3										
					M	f 7	37	7	15				1	67				※※ (B※※NO)	(B)
					% 10.4	55.2	10.4	22.4	1.5										
					L	f 7	23	6	23				2	61					
			% 11.5	37.7	9.8	37.7	6	198	※※ (B※※NO)				(B)						
			全	f 22	95	18	57	3.0											
% 11.1	48.0	9.1	28.8																
ウ	持つところ(取手) がついているもの と、ついていないも のに分けると、取手 のあるものはどちら の語で呼びますか。	H	f 54	5	9	2	0	70	※※ (A※※ \bar{A})	A									
		% 77.1	7.1	12.9	2.9	0													
		M	f 50	3	13	0	1	67				※※ (A※※ \bar{A})	A						
		% 74.6	4.5	19.4	0	1.5													
		L	f 43	4	12	2	0	61						0					
% 70.5	6.6	19.7	3.3	0															
全	f 147	12	34	4	1	198	※※ (A※※ \bar{A})	A											
% 74.2	6.1	17.2	2.0	0.5															
エ	どちらの方が、日 用品あるいは実用的 という感じがします か。	H	f 4	55			9	2	70	※※ (B※※ \bar{B})	B								
		% 5.7	78.6			12.9	2.9												
		M	f 6	53			8	0	67				※※ (B※※ \bar{B})	B					
		% 9.0	79.1			11.9	0												
		L	f 1	52			8	0	61						0				
% 1.6	85.2			13.1	0														
全	f 11	160			25	2	198	※※ (B※※ \bar{B})	B										
% 5.6	80.8			12.6	1.0														
			H	f 61	4	5	0	0	70	※※ (A※※ \bar{A})	A								
			% 87.1	5.7	7.1	0	0												

出題語	問題文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢差
4	A B 貯預	郵便局にあずけると とき、銀行にあずけ るときとに分ける と郵便局の場合に は、どちらの語を使 いますか。	M	f %59 88.1	5 7.5	2 3.0	0 0	1 1.5	67	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			L	f %54 88.6	5 8.2	2 3.3	0 0	0 0	61	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			全	f %174 87.9	14 7.1	9 4.5	0 0	1 0.5	198	※※ (A※※ \bar{A})	A	
	金 金 イ	子どもなどに話す 場合、どちらの語の 方がやさしいことば だと思えますか。	H	f %64 91.4	4 5.7			1 1.4	70	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			M	f %62 92.5	3 4.5			2 3.0	67	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			L	f %60 98.4	1 1.6			0 0	61	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			全	f %186 93.9	8 4.0			3 1.5	198	※※ (A※※ \bar{A})	A	
	ウ	金額としては、ど ちらの方が高額の ものをさすと思いま すか。	H	f %7 10.0	55 78.6			6 8.6	70	※※ (B※※ \bar{B})	B	
			M	f %1 1.5	42 62.7			24 35.8	67	※※ (B※※ \bar{B})	B	※※
			L	f %3 4.9	35 57.4			23 37.7	61	※※		
			全	f %11 5.6	132 66.7			53 26.8	198	※※ (B※※ \bar{B})	B	
	エ	金融機関などにあ ずけずに、自分たち で積みたてたり、自 分自身で旅行費用を たくわえたりするよ うな場合には、どち らの語を使って呼び ますか。	H	f %36 51.4	14 20.0	10 14.3	7 10.0	3 4.3	70	※※ (A※※B)	(A)	
			M	f %51 76.1	7 10.4	5 7.5	4 6.0	0 0	67	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			L	f %40 65.6	10 16.4	7 11.5	4 6.6	0 0	61	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			全	f %127 64.1	31 15.7	22 11.1	15 7.6	3 1.5	198	※※ (A※※ \bar{A})	A	
5	A B 平並 行行	互いに～な二直線。	H	f %60 85.7	10 14.3	0 0		0 0	70	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			M	f %65 97.0	1 1.5	1 1.5		0 0	67	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			L	f %59 96.7	1 1.6	1 1.6		0 0	61	※※ (A※※ \bar{A})	A	
			全	f %184 92.9	12 6.1	2 1.0		0 0	198	※※ (A※※ \bar{A})	A	
	イ	労使双方ともゆず らず、交渉は～線を たどっている。	H	f %27 38.6	34 48.6	8 11.4		1 1.4	70	※※		
			M	f %28 41.8	34 50.7	3 4.5		2 3.0	67	※※		

出題 語	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢 差
6	ウ	鉄道に～して走る 道路。	L	f 34.4	21 50.8	31 13.1	8	1 1.6	61	※※		
			全	f 38.4	76 50.0	99 9.6	19	4 2.0	198	※※		
			H	f 30.0	21 67.1	47 1.4	1	1 1.4	70	※※ (B※※B̄)	B	
			M	f 28.4	19 58.2	39 11.9	8	1 1.5	67	※※ (B※※A)	(B)	※
			L	f 44.3	27 47.5	29 8.2	5	0 0	61	※※		
			全	f 33.9	67 58.1	115 7.1	14	2 1.0	198	※※ (B※B̄)	B	
	エ	トラック競技に～ して、フィールド競 技も行なう。	H	f 12.9	9 74.3	52 11.4	8	1 1.4	70	※※ (B※※B̄)	B	
			M	f 7.5	5 86.6	58 1.5	1	3 4.5	67	※※ (B※※B̄)	B	
			L	f 3.3	2 91.8	56 3.3	2	1 1.6	61	※※ (B※※B̄)	B	
			全	f 8.1	16 83.9	166 5.6	11	5 2.5	198	※※ (B※※B̄)	B	
	A B 半反	便利な～維持費が 高い欠点もある。	H	f 20.0	14 78.6	55 1.4	1	0 0	70	※※ (B※※B̄)	B	
			M	f 14.9	10 80.6	54 4.5	3	0 0	67	※※ (B※※B̄)	B	
			L	f 6.6	4 91.8	56 1.6	1	0 0	61	※※ (B※※B̄)	B	
			全	f 14.1	28 83.3	165 2.5	5	0 0	198	※※ (B※※B̄)	B	
	面 面	この見方も～の真 理だ。	H	f 30.0	21 57.1	40 11.4	8	1 1.4	70	※※ (B ※ A)	(B)	
			M	f 49.3	33 41.8	28 7.5	5	1 1.5	67	※※		
			L	f 37.7	23 41.0	25 19.7	12	1 1.6	61	※※		
			全	f 38.9	77 47.0	93 12.6	25	3 1.5	198	※※		
	ウ	世に知られざる～ を描いた小説。	H	f 31.4	22 52.9	37 12.9	9	2 2.8	70	※※		
			M	f 28.4	19 56.7	38 13.4	9	1 1.5	67	※※ (B ※ A)	(B)	
			L	f 27.9	17 62.3	38 9.8	6	0 0	61	※※ (B※※A)	(B)	

出題 語	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢 差
		全	f %	58 29.3	113 57.1	24 12.1		3 1.5	198	※※ (B 対 B̄)	B	
	顔の右～が日焼けした。	H	f %	62 88.6	6 8.6	1 1.4		1 1.4	70	※※ (A 対※ Ā)	A	
		M	f %	66 98.5	0 0	0 0		1 1.5	67	※※ (A 対※ Ā)	A	
		L	f %	58 95.1	2 3.3	1 1.6		0 0	61	※※ (A 対※ Ā)	A	
		全	f %	186 93.9	8 4.0	2 1.0		2 1.0	198	※※ (A 対※ Ā)	A	
7	アトリエで～に余念のない鈴木画伯。	H	f %	23 32.9	45 64.3	2 2.8		0 0	70	※※ (B 対 B̄)	B	
		M	f %	22 32.8	41 61.2	3 4.5		1 1.5	67	※※ (B 対 A)	(B)	
		L	f %	23 37.7	37 60.7	1 1.6		0 0	61	※※		
		全	f %	68 34.3	123 62.1	6 3.0		1 0.5	198	※※ (B 対※ B̄)	B	
	新型自動車の～を開始した。	H	f %	64 91.4	3 4.3	3 4.3		0 0	70	※※ (A 対※ Ā)	A	
		M	f %	65 97.0	1 1.5	0 0		1 1.5	67	※※ (A 対※ Ā)	A	
		L	f %	58 95.1	3 4.9	0 0		0 0	61	※※ (A 対※ Ā)	A	
		全	f %	187 94.4	7 3.5	3 1.5		1 0.5	198	※※ (A 対※ Ā)	A	
	宣伝映画・記録映画の～をやる。	H	f %	35 50.0	29 41.4	5 7.1		1 1.4	70	※※		
		M	f %	32 47.8	30 44.8	5 7.5		0 0	67	※※		
		L	f %	34 55.7	22 36.1	5 8.2		0 0	61	※※		
		全	f %	101 51.0	81 40.9	15 7.6		1 0.5	198	※※		
	おもちゃのデザインと～をやっている。	H	f %	47 67.1	16 22.9	6 8.6		1 1.4	70	※※ (A 対※ Ā)	A	
		M	f %	47 70.1	10 14.9	10 14.9		0 0	67	※※ (A 対※ Ā)	A	
		L	f %	37 60.7	22 36.1	1 1.6		1 1.6	61	※※		
		全	f %	131 66.2	48 24.2	17 8.6		2 1.0	198	※※ (A 対※ Ā)	A	

出題 語	問 題 文		A	B	AB	NO	?	DK	T	有意水準	傾向	年齢 差
8	A B 異異 状常	ア	からだの～に気づく。	H	f 25 39 6 35.7 55.7 8.6			0 0	70	※※		
				M	f 27 31 8 40.3 46.3 11.9			1 1.5	67	※※		
				L	f 28 30 3 45.9 49.2 4.9			0 0	61	※※		
				全	f 80 100 17 40.4 50.5 8.6			1 0.5	198	※※		
	イ		～なし。	H	f 49 15 5 70.0 21.4 7.1			1 1.4	70	※※ (A※※ \bar{A})	A	
				M	f 45 14 7 67.2 20.9 10.4			1 1.5	67	※※ (A※※ \bar{A})	A	※
				L	f 28 26 7 45.9 42.6 11.5			0 0	61	※※		※
				全	f 122 55 19 61.6 27.8 9.6			2 1.0	198	※※ (A※※ \bar{A})	A	
	ウ		～な高温が続く。	H	f 18 47 5 25.7 67.1 7.1			0 0	70	※※ (B※※ \bar{B})	B	
				M	f 14 47 5 20.9 70.1 7.5			1 1.5	67	※※ (B※※ \bar{B})	B	
				L	f 22 38 0 36.1 62.3 0			1 1.6	61	※※ (B※※ A)	(B)	
				全	f 54 132 10 27.3 66.7 5.1			2 1.0	198	※※ (B※※ \bar{B})	B	
	エ		精神に～をきたす。	H	f 33 31 5 47.1 44.3 7.1			1 1.4	70	※※		
				M	f 21 38 8 31.3 56.7 11.9			0 0	67	※※ (B※※ A)	(B)	
				L	f 24 36 1 39.3 59.0 1.6			0 0	61	※※		
				全	f 78 105 14 39.4 53.0 7.1			1 0.5	198	※※ (B※※ A)	(B)	

テスト 3. 語感と語の好みについての調査

① テストの時期 1962年6月(第1回と第2回の間は約10日)

② テストの対象

第1回テスト 日本大学文理学部学生 87名(男51名, 女36名)
千葉大学教育学部学生 25名(男9名, 女16名)

計 112名(男60名, 女52名)

第2回テスト 日本大学文理学部学生 83名(男44名, 女39名)
千葉大学教育学部学生 23名(男8名, 女15名)

計 106名(男52名, 女54名)

社会人(コピーライター講習会の受講生)

144名(男105名, 女39名)

③ その他

甲テスト——語感調査

乙テスト——語の好みの調査

問題		問題文	種別	A	B	?	DK	T	有意水準	傾向	男差	女差	有意差	
甲 1	A B つ光沢がある	ア	どちらの方が、やさしい(むずかしい)ことと感じますか。	大 学 生	男	f	50	9	1	0	60	※※(A※※ \bar{A})	A	
					女	f	83.3	15.0	1.7	0	52	※※(A※※ \bar{A})	A	
					全	f	43	7	2	0	112	※※(A※※ \bar{A})	A	
					全	f	82.7	13.5	3.8	0	※※(A※※ \bar{A})	A		
	イ	どちらの方が、やわらかい物(かたくない物)の光りという感じがしますか。	大 学 生	男	f	48	10	1	1	60	※※(A※※ \bar{A})	A		
				女	f	80.0	16.7	1.7	1.7	52	※※(A※※ \bar{A})	A		
				全	f	40	10	2	0	112	※※(A※※ \bar{A})	A		
				全	f	76.9	19.2	3.8	0	※※(A※※ \bar{A})	A			
	ウ	どちらの方が、冷たい(あたたかくない)物の光りという感じがしますか。	大 学 生	男	f	88	20	3	1	60	※※(A※※ \bar{A})	A		
				女	f	78.6	17.9	2.7	0.9	52	※※(A※※ \bar{A})	A		
				全	f	11	48	1	0	112	※※(B※※ \bar{B})	B		
				全	f	18.3	80.0	1.7	0	※※(B※※ \bar{B})	B			
ウ	どちらの方が、冷たい(あたたかくない)物の光りという感じがしますか。	大 学 生	男	f	12	38	2	0	60	※※(B※※ \bar{B})	B			
			女	f	23.1	73.1	3.8	0	52	※※(B※※ \bar{B})	B			
			全	f	23	86	3	0	112	※※(B※※ \bar{B})	B			
			全	f	20.6	76.8	2.7	0	※※(B※※ \bar{B})	B				
ウ	どちらの方が、冷たい(あたたかくない)物の光りという感じがしますか。	大 学 生	男	f	10	87	6	2	105	※※(B※※ \bar{B})	B			
			女	f	9.5	82.9	5.7	1.9	39	※※(B※※ \bar{B})	B			
			全	f	1	34	4	0	144	※※(B※※ \bar{B})	B			
			全	f	2.6	87.2	10.3	0	※※(B※※ \bar{B})	B				
ウ	どちらの方が、冷たい(あたたかくない)物の光りという感じがしますか。	大 学 生	男	f	11	121	10	2	144	※※(B※※ \bar{B})	B			
			女	f	7.6	84.0	6.9	1.4	39	※※(B※※ \bar{B})	B			
			全	f	11	121	10	2	144	※※(B※※ \bar{B})	B			
			全	f	7.6	84.0	6.9	1.4	39	※※(B※※ \bar{B})	B			

問題	問題文	種別	A	B	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差	有意差	
	エ	どちらの方が、表面的な光り（内面からの光りでない）という感じがしますか。	男 f % 23 38.3	女 f % 32 53.3	3 5.0	2 3.3	60	***				
		大学生	男 f % 22 42.3	女 f % 29 55.8	1 1.9	0 0	52	***				
		生全	男 f % 45 40.1	女 f % 61 54.5	4 3.6	2 1.8	112	***				
甲 2	A B 直修	ア	男 f % 3 5.0	女 f % 55 91.7	1 1.7	1 1.7	60	*** (B***B̄)	B			
		大学生	男 f % 2 3.8	女 f % 50 96.2	0 0	0 0	52	*** (B***B̄)	B			
		生全	男 f % 5 4.5	女 f % 105 93.8	1 0.9	1 0.9	112	*** (B***B̄)	B			
	理 す イ る	ア	男 f % 5 8.3	女 f % 54 90.0	0 0	1 1.7	60	*** (B***B̄)	B			
		大学生	男 f % 9 17.3	女 f % 43 82.7	0 0	0 0	52	*** (B***B̄)	B			
		生全	男 f % 14 12.5	女 f % 97 86.6	0 0	1 0.9	112	*** (B***B̄)	B			
	ウ	ア	男 f % 2 3.3	女 f % 57 95.0	1 1.7	0 0	60	*** (B***B̄)	B			
		大学生	男 f % 3 5.8	女 f % 49 94.2	0 0	0 0	52	*** (B***B̄)	B			
		生全	男 f % 5 4.5	女 f % 106 94.6	1 0.9	0 0	112	*** (B***B̄)	B			
	エ	ア	ア	男 f % 57 95.0	女 f % 3 4.2	0 0	0 0	60	*** (A***Ā)	A		
			大学生	男 f % 49 94.2	女 f % 3 5.8	0 0	0 0	52	*** (A***Ā)	A		
			生全	男 f % 106 94.6	女 f % 6 5.4	0 0	0 0	112	*** (A***Ā)	A		
社会人全		男 f % 97 92.4	女 f % 5 4.8	2 1.9	1 1.0	105	*** (A***Ā)	A				
		女 f % 37 94.9	男 f % 1 2.6	1 2.6	0 0	39	*** (A***Ā)	A				
		全 f % 134 93.1	女 f % 6 4.2	3 2.1	1 0.7	144	*** (A***Ā)	A				
甲 3	ア	ア	男 f % 51 85.0	女 f % 8 13.3	0 0	1 1.7	60	*** (A***Ā)	A			
		大学生	男 f % 42 80.8	女 f % 8 15.4	2 3.8	0 0	52	*** (A***Ā)	A			
		生全	男 f % 93 83.0	女 f % 16 14.3	2 1.8	1 0.9	112	*** (A***Ā)	A			

問 題	問 題 文	種別	A	B	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差	有意差
A B 女性人向け の雑誌	イ どちらの方が、より若い年齢層をねらっている雑誌だという感じがしますか。	大男	f 60	0	0	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 51	1	0	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 111	1	0	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		
	ウ どちらの方が、内容がより高級そうな感じがしますか。	大男	f % 3	54	2	1	60	*** (B*** \bar{B})	B		
		学女	f % 9	39	2	2	52	*** (B*** \bar{B})	B		
		生全	f % 12	93	4	3	112	*** (B*** \bar{B})	B		
甲 4 A B 要要 求望	どちらの方が、より強い感じがしますか。	大男	f % 51	9	0	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 44	8	0	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 95	17	0	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		
		社男	f % 97	6	1	1	105	*** (A*** \bar{A})	A		
		会女	f % 29	9	1	0	39	*** (A*** \bar{A})	A		
		人全	f % 126	15	2	1	144	*** (A*** \bar{A})	A		
乙 1 A B エ礼 チ儀 ケ作 ット法	どちらが好きですか。	大男	f % 38	14	8	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 34	13	5	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 72	27	13	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		
		大男	f % 46	11	3	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 39	11	2	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 85	22	5	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		
乙 2 A B 守守 ろろ う交 交通 の規 ルール	ポスターのことばとしてどちらが好きですか。	大男	f % 46	11	3	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 39	11	2	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 85	22	5	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		
		大男	f % 48	9	3	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 45	6	1	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 86	5	1	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		
乙 3	どちらが好きですか。	大男	f % 48	9	3	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 45	6	1	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 86	5	1	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		
		大男	f % 48	9	3	0	60	*** (A*** \bar{A})	A		
		学女	f % 45	6	1	0	52	*** (A*** \bar{A})	A		
		生全	f % 86	5	1	0	112	*** (A*** \bar{A})	A		

問 題	問 題 文	種別	A	B	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差	有意差
A B おもちゃ売り場		全	f 93 83.0	15 13.4	4 3.6	0 2	112	有意水準 (AとBの差)	A		
		社 男	f 92 87.6	7 6.7	5 4.8	1 1.0	105	有意水準 (AとBの差)	A		
		会 女	f 36 92.3	1 2.6	2 5.1	0 0	39	有意水準 (AとBの差)	A		
		人 全	f 128 88.9	8 5.6	7 4.9	1 0.7	144	有意水準 (AとBの差)	A		
乙 4 A B 楽しい暮らしのショッピング	広告のことばとしてどちらが好きですか。	大 男	f 39 65.0	16 26.7	4 6.7	1 1.7	60	有意水準 (AとBの差)	A		
		学 女	f 35 67.3	14 26.9	3 5.8	0 0	52	有意水準 (AとBの差)	A		
		生 全	f 74 66.1	30 26.8	7 6.3	1 0.9	112	有意水準 (AとBの差)	A		
		社 男	f 37 35.2	60 57.1	8 7.6	0 0	105	有意水準 (BとAの差)	(B)		
		会 女	f 10 25.6	27 69.2	2 5.1	0 0	39	有意水準 (BとBの差)	B		
		人 全	f 47 32.6	87 60.4	10 6.9	0 0	144	有意水準 (BとBの差)	B		
乙 5 A B 車内の掃除機をいたしますからさば。	プラットホームのスピーカーのことばとして、どちらが好きですか。	大 男	f 21 35.0	38 63.3	1 1.7	0 0	60	有意水準 (BとBの差)	B		
		学 女	f 13 25.0	34 65.4	4 7.7	1 1.9	52	有意水準 (BとBの差)	B		
		生 全	f 34 30.4	72 64.3	5 4.5	1 0.9	112	有意水準 (BとBの差)	B		
		社 男	f 49 46.7	55 52.4	1 1.0	0 0	105	有意水準			
		会 女	f 12 30.8	25 64.1	2 5.1	0 0	39	有意水準 (BとAの差)	(B)		
		人 全	f 51 42.4	80 55.6	3 2.1	0 0	144	有意水準			
乙 6 A B 手紙筒をよむ	どちらが好きですか。	大 男	f 46 88.5	3 5.8	3 5.8	0 0	52	有意水準 (AとBの差)	A		
		学 女	f 49 90.7	1 1.9	4 7.4	0 0	54	有意水準 (AとBの差)	A		
		生 全	f 95 89.6	4 3.8	7 6.6	0 0	106	有意水準 (AとBの差)	A		
		社 男	f 94 89.5	7 6.7	4 3.8	0 0	105	有意水準 (AとBの差)	A		

問題	問題文	種別	A	B	?	DK	T	有意水準	傾向	男女差	有意差
		会女 人全	f % 37 94.9 f % 131 91.0	1 2.6 8 5.6	1 2.6 5 3.5	0 0 0 0	39 144	※※ (A※※ \bar{A}) ※※ (A※※ \bar{A})	A A		
乙 7	A B ゆりかごを買った	大 学 生 全	男 f % 49 94.2	1 1.9	2 3.8	0 0	52	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			女 f % 52 96.3	1 1.9	1 1.9	0 0	54	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			全 f % 101 95.3	2 1.9	3 2.8	0 0	106	※※ (A※※ \bar{A})	A		
		社 会 人 全	男 f % 98 93.3	4 3.8	2 1.9	1 1.0	105	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			女 f % 37 94.9	1 2.6	1 2.6	0 0	39	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			全 f % 135 93.8	5 3.5	3 2.1	1 0.7	144	※※ (A※※ \bar{A})	A		
乙 8	A B ひとりぼっちを愛する心	大 学 生 全	男 f % 46 88.5	6 11.5	0 0	0 0	52	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			女 f % 51 94.4	1 1.9	2 3.7	0 0	54	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			全 f % 97 91.5	7 6.6	2 1.9	0 0	106	※※ (A※※ \bar{A})	A		
		社 会 人 全	男 f % 89 84.8	10 9.5	5 4.8	1 1.0	105	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			女 f % 30 76.9	6 15.4	2 5.1	1 2.6	39	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			全 f % 119 82.6	16 11.1	7 4.9	2 1.4	144	※※ (A※※ \bar{A})	A		
乙 9	A B おとうさんとおかあさん	大 学 生 全	男 f % 37 71.2	11 21.2	3 5.8	1 1.9	52	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			女 f % 40 74.1	8 14.8	6 11.1	0 0	54	※※ (A※※ \bar{A})	A		
			全 f % 77 72.6	19 17.9	9 8.5	1 1.0	106	※※ (A※※ \bar{A})	A		
		社 会 人 全	男 f % 47 44.8	44 41.9	14 13.3	0 0	105	※※			※※
			女 f % 20 51.3	11 28.2	8 20.5	0 0	39	※			
			全 f % 67 46.5	55 38.2	22 15.3	0 0	144	※※			

テスト4. 語の選択とその要因の調査

- ① テストの時期1963年2月
- ② テストの対象東京女子大学文学部学生91名(男0名, 女91名)
武蔵大学経済学部学生70名(男70名, 女0名)

計161名(男70名, 女91名)

- 1 全く同じ食堂が二つ並んでいます。ただ店の看板の文句がちょっと違います。
あなたはA Bどちらの店にはいりたくになりますか。

出題文			A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差							
A 味と量の店	男	f	27	43	0	0	70	B≧B̄	B	※							
		%	38.6	61.4	0	0											
B 味とボリュームの店	女	f	17	69	5	0	91	*** (B***B̄)	B								
		%	18.7	75.8	5.5	0											
		全	f	44	112	5	161	*** (B***B̄)	B								
			%	27.3	69.6	3.1	0										
A 味と量の店				B 味とボリュームの店													
選択理由	①「ボリューム」は外来語だから「量」のほうがいい。				①「ボリューム」のほうが日常使い慣れている。												
	②このほうが子どもにもだれにもわかりやすいことばで感じがいい				②「ボリューム」といったほうが「量」というよりもいかにも豊富そうな実感が出ていい。												
	③「ボリューム」というと、量が豊富そうな実感がありすぎて、胃がもたれる感じがしていやだ。				③このほうが目なれた表現だ。												
	④このほうが目なれた表現だ。				④このほうが口調がいい。												
	⑤このほうが口調がいい。				⑤「味・量・店」という結びつきは単調だ。「ボリューム」という外来語をまじえると、変化があっている。												
	⑥「味」「店」という語との調和上、「量」のほうがいい。				⑥「量」というと牛や馬が莫大な量の飼料を食べるような感じだ。												
	⑦その他				⑦その他												
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	T	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	T
男	f	2	5	2	3	5	9	1	27	1	26	0	3	12	1	0	43
	%	7.4	18.5	7.4	11.1	18.5	33.3	3.7		2.3	60.5	0	7.0	27.9	2.3	0	
女	f	1	0	7	0	4	5	0	17	3	32	0	14	14	6	0	69
	%	5.9	0	41.2	0	23.5	29.4	0		4.3	46.4	0	20.3	20.3	8.7	0	
全	f	3	5	9	3	9	14	1	44	4	58	0	17	26	7	0	112
	%	6.8	11.4	20.5	6.8	20.5	31.8	2.3		3.6	51.8	0	15.2	23.2	6.2	0	

- 2 二つのデパートの、次のような宣伝文が並んでいます。あなたは二つのうちではどちらのデパートへ行きたいですか。

出 題 文			A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差									
A 楽しい暮らしのショッピング	男	f %	33 47.1	37 52.9	0	0	70												
	女	f %	46 50.5	38 41.8	7	0	91	※※											
B 楽しい暮らしのお買い物	全	f %	79 49.1	75 46.6	7	0	161	※※											
A 楽しい暮らしのショッピング					B 楽しい暮らしのお買い物														
選 択 の 理 由	①「買い物」というと家の近所の店へ買い物に行くような感じだ。デパートなどでの買い物は「ショッピング」と言ったほうがはっきりする。					①「買い物」のほうが、使いなれた、いいことばだ。													
	②「買い物」は平凡なことばになっている。宣伝文句としての迫力に乏しい。					②「ショッピング」は外来語だから、「買い物」のほうが感じがいい。													
	③「ショッピング」は目新しい新鮮なことばだ。					③「ショッピング」は新しさを求めているようで、好感が持てない。													
	④「ショッピング」のほうが、ぜいたくな物を買に行くような、高級な感じがする。					④「ショッピング」はだれにでもわかることばではないから、「買い物」のほうが感じがいい。													
	⑤「ショッピング」という外来語がまじると、単調でなく口調がいい。					⑤「お買い物」と「お」のついたほうが、客に対していい感じがいい。													
	⑥「ショッピング」のほうがなんとなく魅力がある。					⑥外来語「ショッピング」がまじると違和感が生じてまずい。													
	⑦その他					⑦「買い物」のほうがなんとなく感じがいい。													
⑧その他					⑧その他														
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	NA DK	T	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	T	
男	f %	6 18.2	10 30.3	4 12.1	1 3.0	7 21.2	4 12.1	0 0	1 3.0	33	7 18.9	2 5.4	6 16.2	3 8.1	3 8.1	5 13.5	8 21.6	3 8.1	37
女	f %	1 2.2	14 30.4	9 19.6	5 10.9	5 10.9	10 21.7	2 4.3	0	46	10 26.3	1 2.6	7 18.4	3 7.9	1 2.6	2 5.3	10 26.3	4 10.5	38
全	f %	7 8.9	24 30.4	13 16.5	6 7.6	12 15.2	14 17.7	2 2.5	1 1.3	79	17 22.7	3 4.0	13 17.3	6 8.0	4 5.3	7 9.3	18 24.0	7 9.3	75

- 3 あなたがデパートに勤めていて、いろいろな売り場の表示を出す責任を持っていると仮定してください。あなたは次の二つのうちでは、どちらのはり紙を出しますか。

出 題 文			A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差										
A 玩具売り場	男	f	8	62	0	0	70	*** (B***B)	B											
		%	11.4	88.6	0	0														
B おもちゃ売り場	女	f	8	83	0	0	91	*** (B***B)	B											
		%	8.8	91.2	0	0														
	全	f	16	145	0	0	161	*** (B***B)	B											
		%	9.9	90.1	0	0														
A 玩具売り場					B おもちゃ売り場															
選 択 の 理 由	①「おもちゃ」は俗語的で、品位がない。					①「玩具」では読めないお客もあるだろう。だれでも読める「おもちゃ」のほうがいい。														
	②「おもちゃ」は日常卑近の語で、公的な場面には「玩具」のほうがふさわしい。					②「売り場」という語との結びつきが「玩具」より「おもちゃ」のほうがしっくりする。														
	③「売り場」という語との結びつきが「おもちゃ」より「玩具」のほうがしっくりする。					③このほうが一般的習慣に合致した表現だ。														
	④このほうが一般的習慣に合致した表現だ。					④「おもちゃ」のほうが親しみのあるいいことばだ。														
	⑤「おもちゃ」というと「粗悪な製品」「安っぽい物」というような語感がある。					⑤「玩具」は生硬な感じの語だ。														
	⑥「おもちゃ」には「おもちゃにする」(もてあそぶ)という用法があり、これを連想するので「玩具」のほうがいい。					⑥「がんぐ」の「が」「ぐ」という二つの濁音が耳に不快だ。														
	⑦「玩具」のほうが「おもちゃ」よりも高級な品物売っている感じが出る。					⑦「おもちゃ」のほうが、子どもの物らしい、かわいらしさが出る。														
	⑧その他					⑧「おもちゃ」のほうが、いい品物売っている感じが出る。														
⑨その他					⑨その他															
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	DK	T	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	T
男	f	0	2	3	0	1	0	1	0	8	6	1	3	16	2	0	34	0	0	62
	%	0.25	0.37	0.5	0	12.5	0	12.5	0	12.5	9.7	1.6	4.8	25.8	3.2	0	54.8	0	0	
女	f	0	2	5	1	0	0	0	0	8	6	4	3	21	2	1	45	0	1	83
	%	0.25	0.62	0.5	12.5	0	0	0	0	0	7.2	4.8	3.6	25.3	2.4	1.2	54.2	0	1.2	
全	f	0	4	8	1	1	0	1	0	16	12	5	6	37	4	1	79	0	1	145
	%	0.25	0.50	0.6	6.3	6.3	0	6.3	0	6.3	8.3	3.4	4.1	25.5	2.8	0.7	54.5	0	0.7	

- 4 あなたが商店の主人だと仮定してください。休業の日にはり紙を出すとき、あなたは次の二つのうちではどちらのはり紙を出しますか。

出題文			A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差				
A	きょうは休業いたします。	男	f %	9 12.9	61 87.1	0 0	0 0	70	$\chi^2_{(1)}(B \neq \bar{B})$	B				
		女	f %	9 9.9	82 90.1	0 0	0 0	91	$\chi^2_{(1)}(B \neq \bar{B})$	B				
B	本日は休業いたします。	全	f %	18 11.2	143 88.8	0 0	0 0	161	$\chi^2_{(1)}(B \neq \bar{B})$	B				
A きょうは休業いたします。				B 本日は休業いたします。										
選択の理由	①一般にこの文句が使われている。				①一般にこの文句が使われている。									
	②このほうが、子どもにもだれにもすぐわかる。				②このほうがあらたまった感じがして、おおぜいの目にふれる文句としてふさわしい。									
	③このほうが四角ばらないことばで、お客に親しく話しかける気分が出る				③このほうがお客に対して、ていねいに言う気分が出る。									
	④「本日」というとよそよそしい感じがする。				④「休業」という、かたい感じの語とは、「きょう」より「本日」のほうが調和する。									
	⑤その他				⑤その他									
		①	②	③	④	⑤	T	①	②	③	④	⑤	DK	T
男	f %	0 0	0 0	8 88.9	1 11.1	0 0	9	8 13.1	14 23.0	15 24.6	24 39.3	0 0	0 0	61
女	f %	0 0	1 11.1	8 88.9	0 0	0 0	9	15 18.3	16 19.5	9 11.0	41 50.0	0 0	1 1.2	82
全	f %	0 0	1 5.6	16 88.8	1 5.6	0 0	18	23 16.1	30 21.0	24 16.8	65 45.5	0 0	1 0.7	143

5 あなたが鉄道関係に勤めていて、係員のことばの訓練をする立場にいと仮定してください。

あなたは次の二つのうちではどちらの言い方を係員にさせますか。

出題文			A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差
A 車内の掃除をいたします。	男	f	24	46	0	0	70	*** (B***B̄)	B	
		%	34.3	65.7	0	0				
B 車内の清掃をいたします。	女	f	27	62	2	0	91	*** (B***B̄)	B	
		%	29.7	68.1	2.2	0				
	全	f	51	108	2	0	161	*** (B***B̄)	B	
		%	31.7	67.1	1.2	0				

		A 車内の掃除をいたします							B 車内の清掃をいたします											
選 択 の 理 由		① こういうばあい、ふつう「そうじ」といっていると思う。このほうが耳なれた表現だ。							① こういうばあい、ふつう「せいそう」といっていると思う。このほうが耳なれた表現だ。											
		② 「そうじ」のほうが、子どもにもだれにもわかりやすいことばだ。そして俗っぽいことばでもない。							② 「そうじ」というと「いやな仕事」という連想がつきまとうので、「清掃」のほうがいい。											
		③ 「そうじ」のほうが、気やすい、堅くないことばだ。							③ 「清掃」のほうが清潔な雰囲気が感じられていい。											
		④ 「清掃」というといばっているようにきこえる。「そうじ」と言ったほうが乗客に対していい感じがする。							④ 「そうじ」の「じ」の音はにごった感じだ。「せいそう」の方が音がきれいだ。											
		⑤ 「清掃」は「東京都清掃局」でやっているような、大規模な組織的な清掃事業を連想させる。床をはいたりするのは「そうじ」のほうが適当だ。							⑤ 「清掃」のほうが改まったことばで公的な場面にふさわしい。											
		⑥ その他							⑥ 「清掃」のほうが「乗客」に対していい感じがいい。											
									⑦ 「そうじ」は家庭内での仕事について言う語だ。公的な場面での仕事は「清掃」だ。											
									⑧ 「車内」というかたい感じの語とは「そうじ」より「清掃」のほうが調和する。											
									⑨ その他											
		①	②	③	④	⑤	⑥	T	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	DK	T	
男	f	5	6	7	1	3	2	24	1	2	30	0	4	1	4	4	0	0	46	
	%	20.8	25.0	29.2	4.2	12.5	8.3		2.2	4.3	65.2	0	8.7	2.2	8.7	8.7	0	0		
女	f	4	12	8	0	3	0	27	6	4	29	6	10	1	0	3	2	1	62	
	%	14.8	44.4	29.6	0	11.1	0		9.7	6.5	46.8	9.7	16.1	1.6	0	4.8	3.2	1.6		
全	f	9	18	15	1	6	2	51	7	6	59	6	14	2	4	7	2	1	108	
	%	17.6	35.3	29.4	2.0	11.7	3.9		6.5	5.6	54.6	5.6	13.0	1.9	3.7	6.5	1.9	0.9		

テスト5. 語の使用意識についての調査

① テストの時期 1963年2月

② テストの対象 大学生 日本大学文理学部学生

77名(男44名, 女33名)

老人 老人ホーム浴風園在籍者

100名(男26名, 女74名)

	出題語	層別		A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差
A	1	A ピンポン	大学生	f 17 22.1	f 58 75.3	f 2 2.6	f 0 0	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B 卓球	老人	f 78 78.0	f 14 14.0	f 1 1.0	f 7 7.0	100	有意水準 (A _意 A _意 A _意)	A	
	2	A 婚礼	大学生	f 4 5.2	f 72 93.5	f 0 0	f 1 1.3	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B 結婚式	老人	f 39 39.0	f 54 54.0	f 4 4.0	f 3 3.0	100	有意水準 (A _意 A _意 A _意)	A	
	3	A 後家	大学生	f 6 7.8	f 71 92.2	f 0 0	f 0 0	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B 未亡人	老人	f 34 34.0	f 60 60.0	f 4 4.0	f 2 2.0	100	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	
	4	A 身代	大学生	f 0 0	f 76 98.7	f 0 0	f 1 1.3	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B 財産	老人	f 17 17.0	f 77 77.0	f 2 2.0	f 4 4.0	100	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	
	5	A 乗合(自動車)	大学生	f 0 0	f 77 100	f 0 0	f 0 0	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B バス	老人	f 11 11.0	f 80 80.0	f 3 3.0	f 6 6.0	100	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	
	6	A シャボン	大学生	f 3 3.9	f 74 96.1	f 0 0	f 0 0	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B せっけん	老人	f 8 8.0	f 86 86.0	f 3 3.0	f 3 3.0	100	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	
	7	A 百貨店	大学生	f 0 0	f 77 100	f 0 0	f 0 0	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B デパート	老人	f 5 5.0	f 89 89.0	f 3 3.0	f 3 3.0	100	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	
	8	A ベースボール	大学生	f 1 1.3	f 75 97.4	f 1 1.3	f 0 0	77	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	有意差
		B 野球	老人	f 5 5.0	f 92 92.0	f 1 1.0	f 2 2.0	100	有意水準 (B _意 B _意 B _意)	B	

	出 題 語	層別		A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差
9	A シャッポ	大学生	f %	1 1.3	76 98.7	0 0	0 0	77	有意 (B 有意 B̄)	B	
	B 帽子	老人	f %	4 4.0	94 94.0	2 2.0	0 0	100	有意 (B 有意 B̄)	B	
10	A 活動写真	大学生	f %	1 1.3	76 98.7	0 0	0 0	77	有意 (B 有意 B̄)	B	
	B 映画	老人	f %	2 2.0	93 93.0	3 3.0	2 2.0	100	有意 (B 有意 B̄)	B	
11	A いいなずけ	大学生	f %	34 44.2	39 50.6	4 5.2	0 0	77	有意		有意
	B フィアンセ	老人	f %	91 91.0	5 5.0	0 0	4 4.0	100	有意 (A 有意 Ā)	A	
12	A つりあい	大学生	f %	20 26.0	55 71.4	2 2.6	0 0	77	有意 (B 有意 B̄)	B	有意
	B バランス	老人	f %	75 75.0	22 22.0	1 1.0	2 2.0	100	有意 (A 有意 Ā)	A	
13	A おくりもの	大学生	f %	11 14.3	65 84.4	1 1.3	0 0	77	有意 (B 有意 B̄)	B	有意
	B プレゼント	老人	f %	74 74.0	23 23.0	3 3.0	0 0	100	有意 (A 有意 Ā)	A	
14	A 機会	大学生	f %	14 18.2	60 77.9	2 2.6	1 1.3	77	有意 (B 有意 B̄)	B	有意
	B チャンス	老人	f %	66 66.0	26 26.0	2 2.0	6 6.0	100	有意 (A 有意 Ā)	A	
15	A 速さ	大学生	f %	13 16.9	63 81.8	1 1.3	0 0	77	有意 (B 有意 B̄)	B	有意
	B スピード	老人	f %	48 48.0	48 48.0	3 3.0	1 1.0	100	有意		
16	A 均衡	大学生	f %	8 10.4	67 87.0	0 0	2 2.6	77	有意 (B 有意 B̄)	B	有意
	B バランス	老人	f %	25 25.0	62 62.0	1 1.0	12 12.0	100	有意 (B 有意 B̄)	B	
17	A 速度	大学生	f %	19 24.7	57 74.0	1 1.3	0 0	77	有意 (B 有意 B̄)	B	
	B スピード	老人	f %	32 32.0	65 65.0	2 2.0	1 1.0	100	有意 (B 有意 B̄)	B	
18	A せっぶんする	大学生	f %	9 11.7	66 85.7	2 2.6	0 0	77	有意 (B 有意 B̄)	B	
	B キスする	老人	f %	25 25.0	69 69.0	1 1.0	5 5.0	100	有意 (B 有意 B̄)	B	

	出 題 語	層別		A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差
19	A 台 所	大学生	f %	73 94.8	4 5.2	0 0	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B キ ッ チ ン	老 人	f %	93 93.0	5 5.0	0 0	2 2.0	100	※※(A※※ \bar{A})	A	
20	A 買 い 物	大学生	f %	69 89.6	8 10.4	0 0	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B シ ョ ッ ピ ン グ	老 人	f %	95 95.0	1 1.0	0 0	4 4.0	100	※※(A※※ \bar{A})	A	
21	A ホ ッ ク	大学生	f %	53 68.8	21 27.3	2 2.6	1 1.3	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B ス ナ ッ プ	老 人	f %	49 49.0	44 44.0	3 3.0	4 4.0	100	※※		
22	A い の ち	大学生	f %	62 80.5	15 19.5	0 0	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B 生 命	老 人	f %	51 51.0	44 44.0	3 3.0	2 2.0	100	※※		※※
23	A 去 年	大学生	f %	70 90.9	7 9.1	0 0	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B 昨 年	老 人	f %	50 50.0	41 41.0	5 5.0	4 4.0	100	※※(A※※ \bar{A})		※※
24	A じゃがいも	大学生	f %	73 94.8	4 5.2	0 0	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B ば れ い し ょ	老 人	f %	77 77.0	19 19.0	3 3.0	1 1.0	100	※※(A※※ \bar{A})	A	※
25	A あ ぶ な い	大学生	f %	67 87.0	9 11.7	1 1.3	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B 危 険 だ	老 人	f %	76 76.0	18 18.0	3 3.0	3 3.0	100	※※(A※※ \bar{A})	A	
26	A 疲 れ る	大学生	f %	75 97.4	2 2.6	0 0	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B 疲 労 す る	老 人	f %	79 79.0	16 16.0	3 3.0	2 2.0	100	※※(A※※ \bar{A})	A	
27	A ま ん 中	大学生	f %	71 92.0	4 5.2	2 2.6	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B 中 央	老 人	f %	81 81.0	16 16.0	3 3.0	0 0	100	※※(A※※ \bar{A})	A	
28	A ふ た ご	大学生	f %	66 85.7	10 13.0	1 1.3	0 0	77	※※(A※※ \bar{A})	A	
	B 双 生 児	老 人	f %	81 81.0	15 15.0	1 1.0	3 3.0	100	※※(A※※ \bar{A})	A	

	出 語 題	層別		A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向	有意差
29	A 掃 除 す る	大学生	f	74	3	0	0	77	*** (A*** \bar{A})	A	
	B 清 掃 す る	老 人	f	91	5	2	2	100	*** (A*** \bar{A})	A	
			%	96.1	3.9	0	0				
			%	91.0	5.0	2.0	2.0				
30	A す ぐ に	大学生	f	74	3	0	0	77	*** (A*** \bar{A})	A	
	B た だ ち に	老 人	f	85	11	1	3	100	*** (A*** \bar{A})	A	
			%	96.1	3.9	0	0				
			%	85.0	11.0	1.0	3.0				

テスト6. 外来語をめぐる類義語についての調査

① テストの時期	1963年2月	
② テストの対象	武蔵大学経済学部学生	75名(男75名, 女0名)
	相模女子大学国文学科学生	122名(男0名, 女122名)
計		197名(男75名, 女122名)

次の外来語と意味がいちばん近いとあなたが思う国語を一つずつ書いてください。
(もとの外国語の意味でなく、日本語としての意味を考えてください。)

(例. インスタント——即席)

	問 題 語	2人以上が書いた答え。 ()内はその人数 DKは無回答を示す
1	ス タ ー	俳優(97) 人気者(15) 星(15) 映画俳優(6) 人気俳優(5) 芸能人(5) 花形(2) 売れっ 子(2) 女優(2) DK(2)
2	P R	宣伝(171) 広告(6) DK(1)
3	レ ジ ャ ー	余暇(137) ひま(16) 休暇(15) 娯楽(6) 楽しみ(3) 休み(2) ひまな時間(2) DK (0)
4	コンプレックス	劣等感(145) ひがみ(4) 反抗(4) 抵抗 (2) 矛盾(2) ひけめを感じる(2) DK (3)
5	プロポーズする	求婚する(66) 結婚を申し込む(25) 申し込み (19) 求婚(18) 求愛する(8) 結婚申し込み (6) 結婚の申し込み(6) 結婚の申し込みをす る(4) 提案する(3) 求める(3) 申し込み (3) 申し込みをする(3) 求愛(2) 愛の申 し込み(2) 婚約を申し込む(2) 愛の告白(2) 結婚申し込みをする(2) DK(3)
6	ボ デ ィ ー	体(83) 身体(50) 腹(8) 肉体(7) 胴体 (6) 車体(6) 体格(4) DK(5)
7	化粧品コーナー	(化粧品)売場(102) (化粧品)部門(6) 化粧 品販売所(3) 店(3) 一角(2) 場所(2) 販売(2) 一隅(2) 置場(2) 化粧品販売部 (2) 販売部(2) 陳列所(2) 化粧品部(2) 角(2) DK(12)

8	フレッシュな感覚	新鮮 (180) 新しい (2) DK (2)
9	近代的なスタイル の女性	容姿 (78) 姿 (22) 恰好 (18) 型 (8) 感覚 (6) 服装 (5) 体つき (3) 姿勢 (3) 姿 体 (2) 身体つき (2) かっこ (2) 容貌 (2) DK (3)
10	彼はファイトがあ る	闘志 (85) 意欲 (10) 根性 (8) 元気 (7) 情熱 (7) いきごみ (6) 気力 (5) 勇気 (5) 熱意 (5) 精力 (4) やる気 (4) 活力 (3) 力 (3) 意気 (2) 活気 (2) がんばり (2) 馬力 (2) 意力 (2) DK (3)
11	アバンチュールを 楽しむ	冒険 (60) 休暇 (5) 情事 (2) 恋 (2) 娛 楽 (2) DK (95)
12	デラックスなムー ド	豪華 (154) 高級 (17) 最高級 (3) 豪勢 (3) ぜいたく (2) すばらしい (2) 大胆 (2) DK (3)
13	デラックスなムー ド	雰囲気 (166) 気分 (11) 感じ (5) 感覚 (3) DK (5)

テスト7. 同音類義語の調査

- ① テストの時期 1962年9月
- ② テストの対象 都立白鷗高校第3学年 48名(男23名, 女25名)
都立北高校第3学年 45名(男21名, 女24名)
都立城南高校第3学年 50名(男24名, 女26名)

計 143名(男68名, 女75名)

	出題語	問 題 文		A	B	A B	DK	T	有意水準	傾向
1	A 機械	ア ～的に処理する。	f	122	16	5	0	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	85.3	11.2	3.5	0			
	B 器械	イ ～体操。	f	8	131	4	0	143	*** (B*** \bar{B})	B
			%	5.6	91.6	2.8	0			
		ウ 工場の～にまきこまれて重傷を負う。	f	133	0	10	0	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	93.0	0	7.0	0			
	エ	農業の～化を進める。	f	122	8	13	0	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	85.3	5.6	9.1	0			
2	A 鑑賞	ア 音楽を～する。	f	137	3	3	0	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	95.8	2.1	2.1	0			
	B 観賞	イ 映画を～する。	f	29	89	25	0	143	*** (B*** \bar{B})	B
			%	20.3	62.2	17.5	0			
		ウ 美術を～する。	f	60	45	36	0	143	***	
			%	42.0	31.5	25.2	0			
	エ	庭園を～する。	f	13	98	32	0	143	*** (B*** \bar{B})	B
			%	9.1	68.5	22.4	0			
3	A 同士	ア ～をつのって義援金を集める。	f	14	119	10	0	143	*** (B*** \bar{B})	B
			%	9.8	83.2	7.0	0			
	B 同志	イ 味方～でにくみ合う。	f	101	35	7	0	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	70.6	24.5	4.9	0			
		ウ ～を裏切る。	f	26	83	34	0	143	*** (B*** $\bar{A}B$)	(B)
			%	18.2	58.0	23.8	0			
	エ	同じマークのカード～を組み合わせる。	f	111	21	10	0	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	77.6	14.7	7.0	0			
4	A 移動	ア 人事の～がある。	f	40	86	17	0	143	*** (B** \bar{B})	B
			%	28.0	60.1	11.9	0			
	B 異動	イ 都市に人口が～する。	f	128	14	1	0	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	89.5	9.8	0.7	0			
		ウ 4世紀のヨーロッパでは民族の大～があった。	f	127	7	8	1	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	88.8	4.9	5.6	0.7			
	エ	梅雨前線が西に～した。	f	126	8	8	1	143	*** (A*** \bar{A})	A
			%	88.1	5.6	5.6	0.7			
5	A 共同	ア 日米～宣言。	f	72	56	15	0	143	***	
			%	50.3	39.2	10.5	0			

出題語		問 題 文		A	B	A B	DK	T	有意水準	傾向
B 協同	イ	陸海空軍の～作戦。	f %	58 40,6	65 45,5	20 14,0	0 0	143	※※	
	ウ	農業～組合。	f %	17 11,9	107 74,8	19 13,3	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
	エ	小学校と中学校が～で利用する体育館。	f %	119 83,2	19 13,3	4 2,8	1 0,7	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
6	A 平行	互いに～な二直線。	f %	136 95,1	2 1,4	5 3,5	0 0	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
		労使双方ともゆずらず、交渉は～線をたどっている。	f %	60 42,0	71 49,7	12 8,4	0 0	143	※※	
	B 並行	鉄道に～して走る道路。	f %	32 22,4	87 60,8	24 16,8	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
		トラック競技に～してフイールド競技も行なう。	f %	7 4,9	131 91,6	4 2,8	1 0,7	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
7	A 不断	～の努力をはらう。	f %	118 82,5	13 9,1	12 8,4	0 0	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
		～から心がけておく。	f %	10 7,0	128 89,5	5 3,5	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
	B 普断 (普段)	～着。	f %	11 7,7	131 91,6	1 0,7	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
		～の注意が大切だ。	f %	28 19,6	60 42,0	55 38,5	0 0	143	※※	
8	A 最後	船の～を見とどける。	f %	52 36,4	66 46,2	25 17,5	0 0	143	※※	
		病床で書いたあの作品が～となった。	f %	103 72,0	32 22,4	8 5,6	0 0	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
	B 最期	つかまったら～死刑はまぬがれない。	f %	105 73,4	28 19,6	10 7,0	0 0	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
		悲惨な～をとげる。	f %	16 11,2	111 77,6	16 11,2	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
9	A 温和	～な気候。	f %	129 90,2	4 2,8	10 7,0	0 0	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
		～な人柄。	f %	19 13,3	100 69,9	24 16,8	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
	B 穏和	～な風土。	f %	107 74,8	13 9,1	23 16,1	0 0	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
		～な表現でさりげなく述べる。	f %	9 6,3	102 71,3	32 22,4	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B
10	A 修了	義務教育～者。	f %	124 86,7	5 3,5	14 9,8	0 0	143	※※ (A※※ \bar{A})	A
	B 終了	修学旅行も無事～した。	f %	4 2,8	134 93,7	5 3,5	0 0	143	※※ (B※※ \bar{B})	B

	出題語	問 題 文		A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向
		ウ 任務を～する。	f %	39 27.3	79 55.2	25 17.5	0 0	143 0	※※(B※※A)	(B)
		エ 講習会の最終日に～証書を渡す。	f %	118 82.5	13 9.1	12 8.4	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
11	A 競走	ア 自動車～で優勝した。	f %	97 67.8	21 14.7	25 17.5	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
		イ 外国との経済～に負けてしまう。	f %	0 0	140 97.9	3 2.1	0 0	143 0	※※(B※※ \bar{B})	B
	B 競争	ウ 障害物～に出場した。	f %	130 90.9	4 2.8	9 6.3	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
		エ 市長選挙は無～で松田氏が当選した。	f %	1 0.7	140 79.9	1 0.7	1 0.7	143 0.7	※※(B※※ \bar{B})	B
12	A 密漁	ア ～船を追跡する。	f %	139 97.2	2 1.4	2 1.4	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
		イ ～者を取り締まる。	f %	1 0.7	48 33.6	94 65.7	0 0	143 0	※※(AB※※ \bar{AB})	AB
	B 密猟	ウ あざらしの～。	f %	46 32.2	95 66.4	2 1.4	0 0	143 0	※※(B※※ \bar{B})	A
		エ ～の取り締まりを強化する。	f %	14 9.8	9 6.3	120 83.9	0 0	143 0	※※(AB※※ \bar{AB})	AB
13	A 好意	ア 先輩の～に甘える。	f %	52 36.3	58 40.6	33 23.1	0 0	143 0	※※(B※※ \bar{B})	B
		イ 御～を感謝します。	f %	26 18.2	88 61.5	29 20.3	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
	B 厚意	ウ ～的にとりはからう。	f %	92 64.3	31 21.7	20 14.0	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
		エ 令嬢に～を寄せる。	f %	135 94.4	4 2.8	4 2.8	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
14	A 半面	ア 便利な～維持費が高い欠点もある。	f %	15 10.5	123 86.0	5 3.5	0 0	143 0	※※(B※※ \bar{B})	B
		イ この見方も～の真理だ。	f %	84 58.7	38 26.6	20 14.0	1 0.7	143 0.7	※※(A※※ \bar{A})	A
	B 反面	ウ 世に知られざる～を描いた小説。	f %	56 39.2	57 39.9	29 20.3	1 0.7	143 0.7	※※	
		エ 顔の右～が日焼けした。	f %	140 97.9	1 0.7	2 1.4	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A
15	A 振動	ア ローカル線は列車の～がはげしい。	f %	78 54.5	49 34.3	16 11.2	0 0	143 0	※※(A※※B)	(A)
		イ 火山爆発の～が、30kmも伝わった。	f %	8 5.6	128 89.5	7 4.9	0 0	143 0	※※(B※※ \bar{B})	B
	B 震動	ウ 天井につってあるシャンデリアが左右に～している。	f %	128 89.5	6 4.2	9 6.3	0 0	143 0	※※(A※※ \bar{A})	A

出題語	問	題	文	A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向
	エ		速力計の針が小さきぎみに～する。	f %	65 45.5	47 32.9	31 21.7	0 0	143 ※※	
16	A 作成	ア	試作品を～する。	f %	50 35.0	70 49.0	23 16.1	0 0	143 ※※	
		イ	設計図を～する。	f %	58 40.6	76 53.1	9 6.3	0 0	143 ※※	
	B 作製	ウ	原案を～する。	f %	122 85.3	13 9.1	8 5.6	0 0	143 ※※ (A※※ \bar{A})	A
		エ	天体望遠鏡を～する。	f %	15 10.5	125 87.4	3 2.1	0 0	143 ※※ (B※※ \bar{B})	B
17	A 周知	ア	～を集める。	f %	25 17.5	101 70.6	16 11.2	1 0.7	143 ※※ (B※※ \bar{B})	B
		イ	～の事実だ。	f %	85 59.5	45 31.5	13 9.1	0 0	143 ※※ (A※※ \bar{A})	A
	B 衆知	ウ	～徹底させる必要がある。	f %	79 55.2	41 28.7	22 15.4	1 0.7	143 ※※ (A※※B)	(A)
		エ	掲示を出して、全員に～させる。	f %	67 46.9	62 43.4	13 9.1	1 0.7	143 ※※	
18	A 製作	ア	アトリエで～に余念のない鈴木画伯。	f %	57 39.9	79 55.2	7 4.9	0 0	143 ※※	
		イ	新型自動車の～を開始した。	f %	124 86.7	17 11.9	2 1.4	0 0	143 ※※ (A※※ \bar{A})	A
	B 制作	ウ	宣伝映画・記録映画の～をやる。	f %	56 39.2	71 49.7	16 11.2	0 0	143 ※※	
		エ	おもちゃのデザインと～をやっている。	f %	78 54.5	47 32.9	18 12.6	0 0	143 ※※ (A※※B)	(A)
19	A 保障	ア	身元を～する。	f %	10 7.0	131 91.6	2 1.4	0 0	143 ※※ (B※※ \bar{B})	B
		イ	社会～の行きとどいた政治。	f %	138 96.5	5 3.5	0 0	0 0	143 ※※ (A※※ \bar{A})	A
	B 保証	ウ	日本の安全を～する。	f %	91 63.6	34 23.8	18 12.6	0 0	143 ※※ (A※※ \bar{A})	A
		エ	自転車进行には、借料のほかに～金がある。	f %	26 18.2	109 76.2	8 5.6	0 0	143 ※※ (B※※ \bar{B})	B
20	A 人世	ア	～百般に通じる。	f %	63 44.1	62 43.4	18 12.6	0 0	143 ※※	
		イ	うでひとつで～をわたる。	f %	53 37.1	72 50.3	18 12.6	0 0	143 ※※	
	B 人生	ウ	～をはかなんで自殺する。	f %	25 17.5	103 72.0	15 10.5	0 0	143 ※※ (B※※ \bar{B})	B
		エ	～の機微にふれる。	f %	76 53.1	33 23.1	33 23.1	1 0.7	143 ※※ (A※※B) ※※ (A※※AB)	(A)

	出題語	問 題 文	A	B	AB	DK	T	有意水準	傾向
21	A 異状	ア からだの～に気づく。	f 66 % 46.1	59 41.3	17 11.9	1 0.7	143	※※	(B)
		イ ～なし。	f 42 % 29.4	65 45.5	35 24.5	1 0.7	143	※※ (B 並 A)	
	B 異常	ウ ～な高温が続く。	f 26 % 18.2	111 77.6	5 3.5	1 0.7	143	※※ (B 並 B̄)	B
		エ 精神に～をきたす。	f 58 % 40.6	63 44.1	19 13.3	3 2.1	143	※※	
22	A 実体	ア 選挙違反の～を調査する。	f 7 % 4.9	134 93.7	2 1.4	0 0	143	※※ (B 並 B̄)	B
		イ 社会福祉団体としての～を備えていない。	f 108 % 75.5	27 18.9	8 5.6	0 0	143	※※ (A 並 Ā)	A
	B 実態	ウ 名前だけで～のない政治だ。	f 114 % 79.7	17 11.9	12 8.4	0 0	143	※※ (A 並 Ā)	A
		エ 無医村の～をつかんでいない。	f 11 % 7.7	121 84.6	11 7.7	0 0	143	※※ (B 並 B̄)	B
23	A 解放	ア ～的な気分を味わう。	f 38 % 26.6	91 63.6	14 9.8	0 0	143	※※ (B 並 B̄)	B
		イ 勤務時間外は店員を完全に～してやる。	f 96 % 67.1	36 25.2	11 7.7	0 0	143	※※ (A 並 Ā)	A
	B 開放	ウ 被圧迫民族を～する。	f 123 % 86.0	11 7.7	8 5.6	1 0.7	143	※※ (A 並 Ā)	A
		エ 大学の植物園を一般に～する。	f 8 % 5.6	129 90.2	6 4.2	0 0	143	※※ (B 並 B̄)	B

	出題語	問 題 文	A	B	C	AB	AC	BC	ABC	DK	T	有意水準	傾向
24	A 追究	ア 真理を～する。	f 64 % 44.8	4 2.8	24 16.8	2 1.4	28 19.6	9 6.3	11 7.7	1 0.7	143	※※ (A 並 AC)	(A)
		イ 利潤を～する。	f 9 % 6.3	29 20.3	90 62.9	0 0	1 0.7	12 8.4	0 0	2 1.4	143	※※ (C 並 C̄)	C
	B 追及	ウ 責任を～する。	f 3 % 2.1	92 64.3	28 19.6	2 1.4	3 2.1	14 9.8	0 0	1 0.7	143	※※ (B 並 B̄)	B
		エ 犯人を～する。	f 6 % 4.2	59 41.4	62 43.4	0 0	0 0	14 9.8	1 0.7	1 0.7	143	※※ (B 並 BC)	(C) (B)
25	A 体制	ア 着々と幕府による支配～を固めた。	f 109 % 76.2	11 7.7	0 0	21 14.7	1 0.7	0 0	0 0	1 0.7	143	※※ (A 並 Ā)	A
		イ 避難民の受入れ～。	f 34 % 23.8	86 60.1	3 2.1	17 11.9	0 0	0 0	1 0.7	2 1.4	143	※※ (B 並 B̄)	B
	B 態勢	ウ 警戒～を解く。	f 48 % 33.6	64 44.8	2 1.4	23 16.1	1 0.7	3 2.1	0 0	2 1.4	143	※※ (A 並 AB)	(B) (A)
		エ 最終回の反撃も～をくつがえすまでには至らなかった	f 8 % 5.6	24 16.8	95 66.4	0 0	6 4.2	6 4.2	2 1.4	2 1.4	143	※※ (C 並 C̄)	C

週刊誌からの採集用例

この調査研究で、新たに用例を採集することは、大規模に行なうわけにはいかなかったが、週刊誌を資料とし、外来語をめぐる類義語を主として、以下のような小規模な採集用例だけを前後2回行なった。

週刊誌を資料として取り上げたのは、それらが、新しい社会事象の発生、社会各層の好みなどを敏感に反映していると思われ、したがって、各種辞書類に登録されていない新奇な用法などが現われる可能性が多いと予想されたからである。

採集の方法は、10組の類義語の一覧表を傍に、研究補助員またはアルバイトが週刊誌をすみからすみまで読んで、10組の語が現われるたびにしるしをつけていき、あとで前後の文章とともにカードにはりつけていった。広告・表紙・グラビアなども含めて、その週刊誌から目に入り得る限りのすべての文字刺激を採集の対象とした。第2回の採集に限り、1人が採集したあと、他のもう1人が読み直して採集もれを防ぐように努めた。

採集した資料・採集した語・採集結果の例数などを以下に示す。「単」はその語が単独で使われた場合、「複」は複合語の中で使われた場合を意味し、その実例を少しづつ「複合法の実例」の欄にあげた。

そ の 1

資料 週刊朝日・朝日ジャーナル・週刊文春・週刊現代・アサヒ芸能・女性自身・週刊平凡（以上の昭和36年7月刊行分の中の1冊ずつ 計7冊）
週刊女性（昭和36年7・8・9・10・11・12月、37年2・4・5・6・7・8月刊行分の中の1冊ずつ 計12冊）
週刊明星（昭和36年7・9・10・11・12、37年2・3・4・7・8月刊行分の中の1冊ずつ 計10冊） 総計29冊

		例数	単	複	複合法の実例
1	インスタント	77	21	56	インスタント歌手、インスタント結婚、インスタント性、インスタント食品、
	即席	15	3	12	即席離婚、即席漬け、即席押し売り
	即刻・即座・即時	8	8	0	
2	P R	27	9	18	P R時代、P Rする、P R誌
	宣伝	106	26	80	宣伝マン、宣伝する、宣伝くさい
	広告	65	22	43	広告芸術、広告取り、オリンピック広告
	広報	2	0	2	広報課、広報委員長

		例数	単	複	複 合 用 法 の 実 例
3	レ ジ ャ ー	108	64	44	レジャー消費, 完全レジャー, ごろ寝レジャー
	ひ ま	55	54	1	手間ひま
	余 暇	17	17	0	
4	リ ハ ー サ ル	20	15	5	カメラ・リハーサル, リハーサル準備, リハーサル中
	け い こ	77	38	39	舞台げいこ, 通しげいこ, けいこする
5	シ ョ ッ ピ ン グ	20	6	14	ショッピング・センター, ショッピングマナー, ショッピング通り
	買 い 物	82	65	17	買い物心理, 買い物上手, 買い物バッグ
6	エ チ ケ ッ ト	17	14	3	エチケットさろん, エチケット違反
	マ ナ ー	10	4	6	グランドマナー, 運転マナー
	礼 儀 作 法	19	12	7	無作法, 礼儀正しい
7 7'	チャ ー ミ ン グ	31	28	3	チャームリング競争, チャームリングポイント, チャームリングコーナー
	魅 力 的	23	23	0	
	魅 惑 的	7	7	0	
	チャ ー ム	29	12	17	チャームする, チャームスクール
	魅 力	328	316	12	魅力サロン, 魅力美
	魅 惑	17	16	1	魅惑する
8	シ ッ ク	26	24	2	シツクさ
	い き	14	14	0	
	粹	5	5	0	
9	エ レ ガ ン ト	22	18	4	エレガントクイズ, エレガントさ
	優 雅	12	11	1	莊重優雅
	上品・典雅・優美	9	8	1	上品さ
10	オ ー バ ー	25	16	9	オーバーする, オーバーナイター, オーバーワーク
	計	1,295	889	406	

そ の 2

資料 朝日ジャーナル・週刊朝日・サンデー毎日・週刊読売・週刊サンケイ・週刊現代・週刊新潮・週刊文春・アサヒ芸能・週刊実話・読売スポーツ（以上の昭和37年1月刊行分の中の各1冊ずつ） 計11冊

		例数	単	複	複 合 用 法 の 実 例
1	フィアンセ	1	1	0	
	婚約者	4	4	0	
2	幸 福	39	38	1	幸福感
	さいわい	11	7	4	幸いする、幸いにも
	しあわせ etc.	39	38	1	しあわせづくり
3	デパート	86	66	20	有名デパート、デパート内
	百貨店	25	18	7	有名百貨店、百貨店業
4	チャンス	74	72	2	買いチャンス、好チャンス
	機会	34	33	1	機会均等
	好機	3	3	0	
5	チャック	3	3	0	
	ファスナー	3	0	3	デルリンファスナー
6	ミルク	7	4	3	ミルクチョコレート、ミルク紅茶
	牛乳	11	10	1	牛乳屋
7	ベルト	6	4	2	ガーターベルト、チャンピオンベルト
	バンド	13	6	7	後バンド、背負バンド
8	プロポーズ	2	2	0	
9	スター	180	69	111	スターダム、スター生活、テレビスター、豪華スター陣
10	バック	34	6	28	カムバック、バックアップ、バックシート
	計	575	384	191	

国立国語研究所刊行書

国立国語研究所年報

1～15 (昭和24年度～昭和38年度)

国立国語研究所報告

- 1 八丈島の言語調査
- 2 言語生活の実態 (秀英出版刊)
 一白河市および付近の農村における一
 (¥300.00)
- 3 現代語の助詞・助動詞
 一用法と実例一
- 4 婦人雑誌の用語
 一現代語の語彙調査一
- 5 地域社会の言語生活 (秀英出版刊)
 一鶴岡における実態調査一
 (¥600.00)
- 6 少年と新聞
 一小学生・中学生の新聞への接近と理解一
- 7 入門期の言語能力
- 8 談話語の実態
- 9 読みの実験的研究
 一音読にあらわれた読みあやまりの分析一
- 10 低学年の読み書き能力
- 11 敬語と敬語意識
- 12 総合雑誌の用語 (前編)
 一現代語の語彙調査一
- 13 総合雑誌の用語 (後編)
 一現代語の語彙調査一
- 14 中学年の読み書き能力
- 15 明治初期の新聞の用語
- 16 日本方言の記述的研究 (明治書院刊)
 (¥900.00)
- 17 高学年の読み書き能力
- 18 話しことばの文型(1)
 一対話資料による研究一
- 19 総合雑誌の用字
- 20 同音語の研究
- 21 現代雑誌九十種の用語用字
 一総記および語彙表一
- 22 現代雑誌九十種の用語用字
 一漢字表一
- 23 話しことばの文型(2)
- 24 横組みの字形に関する研究
- 25 現代雑誌九十種の用語用字
 一分析一
- 26 小学生の言語能力の発達 (明治図書刊)
 (¥2,100.00)
- 27 共通語化の過程

国立国語研究所資料集

- 1 国語関係刊行書目(昭和17~24年)
- 2 国語彙調査
—現代新聞用語の一例—
- 3 送り仮名法資料集
- 4 明治以降国語関係刊行書目 (秀英出版刊) (¥300.00)
- 5 沖縄語辞典 (大蔵省印刷局刊) (¥2,500.00)
- 6 分類語彙表 (秀英出版刊) (¥900.00)

国立国語研究所論集

- 1 こ と ば の 研 究

国語年鑑

- (昭和 29 年 版) (秀英出版刊) (¥450.00)
- (昭和 30 年 版) (秀英出版刊) (¥600.00)
- (昭和 31 年 版) (秀英出版刊) (¥450.00)
- (昭和 32 年 版) (秀英出版刊) (¥480.00)
- (昭和 33 年 版) (秀英出版刊) (¥480.00)
- (昭和 34 年 版) (秀英出版刊) (¥500.00)
- (昭和 35 年 版) (秀英出版刊) (¥550.00)
- (昭和 36 年 版) (秀英出版刊) (¥800.00)
- (昭和 37 年 版) (秀英出版刊) (¥500.00)
- (昭和 38 年 版) (秀英出版刊) (¥950.00)
- (昭和 39 年 版) (秀英出版刊) (¥980.00)

-
- | | | |
|----------------|------------|-----------|
| 高 校 生 と 新 聞 | 国立国語研究所 共著 | (秀英出版刊) |
| | 日本新聞協会 | (¥280.00) |
| 青年とマスコミュニケーション | 日本新聞協会 共著 | (金沢書店刊) |
| | 国立国語研究所 | (¥280.00) |

昭和 40 年 3 月

国 立 国 語 研 究 所

東京都北区稲付西山町

電話東京(900) 3111(代表)

UDC 4 1 3 = 9 5 6

NDC 8 1 4 . 5

987

JAPANESE SYNONYMY AND ITS PROBLEMS

CONTENTS

Foreword

I General Outline of the Survey

II Main Problems

1 Various Stages of Synonymy

2 Meaning And Function in Synonymy

3 Preferential Synonymy

III Language Problems Connected with Synonymy

1 Problematic Basis of Synonymy

2 Synonymy Caused by Loan Words

3 Homonymic Synonyms

List of Homonymic Synonyms

IV Conclusion

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

INATUKE-NISIYAMA, KITA, TOKYO

1965